学　部　要　覧

令和６年度
（2024年度）



日本大学文理学部



日本大学文理学部は，「文」と「理」の融合を特色とした教育と研究を行っています。人文系・社会系・理学系の３系統18学科の複合学部のメリットを活かし，総合的・学際的な教育を基礎として，教養教育と専門教育を有機的に結びつける教育を実現しています。

この『学部要覧』は，本学部における授業科目履修の概要をはじめ学生生活全般にわたる重要な事項について解説したものです。入学時にのみ配布されるものですので，卒業するまで手元に置いて，十分に活用してください。

目　　次

日本大学の目的及び使命 …… 1
日本大学教育憲章 …… 1
教育研究上の目的 …… 2
卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー） …… 3
教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） …… 8
入学者受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） …… 15
日本大学の沿革 …… 20
文理学部のあゆみ …… 21
文理学部の目指す教育 …… 23
日本大学学則 …… 24
文理学部の基本的な考え …… 25
日本大学文理学部ダイバーシティ推進宣言 …… 26
日本大学文理学部ダイバーシティ推進ガイドライン …… 27

Ⅰ　履修要綱

授業科目履修の概要 …… 30
1　授業科目区分 …… 30
2　授業時間 …… 30
3　履修方法 …… 30
卒業に必要な最低単位数 …… 31
①　全学共通教育科目 …… 31
②　総合教育科目 …… 31
③　外国語教育科目 …… 31
④　基礎教育科目 …… 32
⑤　学科専門科目 …… 32
⑥　自由選択区分 …… 32
⑦　コース科目（教職コース・司書教諭コース・司書コース・学芸員コース・社会教育主事コース・日本語教育コース） …… 33
⑧　履修年次（配当年次） …… 33
⑨　履修の特例 …… 33
⑩　相互履修 …… 34
4　再履修に関する取り扱い …… 35
5　履修科目登録単位数の上限 …… 35
6　履修登録 …… 36
7　情報掲示板「COMITS2」 …… 37
8　シラバス（授業計画） …… 37
9　休暇期間中の集中型授業 …… 37
10　試験 …… 37
11　成績 …… 38
12　成績開示 …… 38
13　GPA …… 39
14　Canvas LMS（e-Learning システム） …… 39
共通カリキュラム …… 40
1　総合教育科目（全学科共通） …… 40

① 履修方法等 …… 40
② プロジェクト教育科目 …… 40
③ キャリア教育科目 …… 40
④ 国際教養科目（国際日本学／アカデミック・ライティング／日本語教育関連科目） …… 41
科目一覧表 …… 42
履修系統図 …… 43
2 外国語教育科目（全学科共通） …… 44
科目一覧表 …… 45
履修系統図 …… 46
英語 …… 47
中国語 …… 50
ドイツ語 …… 52
フランス語 …… 54
スペイン語 …… 56
韓国語／朝鮮語 …… 58
ロシア語 …… 60
日本語（留学生用必修科目） …… 62
英語，フランス語及びドイツ語検定試験の単位認定 …… 63
3 基礎教育科目（全学科共通） …… 64
科目一覧表 …… 64
履修系統図 …… 65
基礎教育科目（コンピュータ科目） …… 66
学科カリキュラム …… 68
1 哲学科 …… 68
2 史学科 …… 72
3 国文学科 …… 76
4 中国語中国文化学科 …… 80
5 英文学科 …… 84
6 ドイツ文学科 …… 88
7 社会学科 …… 92
8 社会福祉学科 …… 96
9 教育学科 …… 100
10 体育学科 …… 104
11 心理学科 …… 108
12 地理学科 …… 112
13 地球科学科 …… 116
14 数学科 …… 120
15 情報科学科 …… 124
16 物理学科 …… 128
17 生命科学科 …… 132
18 化学科 …… 136
コース科目 …… 140
教職コース …… 140
① 中学校・高等学校教諭免許状（全学科共通） …… 140
② 特別支援学校教諭免許状（教育学科） …… 160
司書教諭コース（全学科共通） …… 164
司書コース（全学科共通） …… 165

学芸員コース（全学科共通）…… 166
社会教育主事コース（全学科共通）…… 168
日本語教育コース（全学科共通）…… 170
コース科目履修系統図…… 172
文理学部で取得できるその他の資格・受験資格・任用資格 …… 178

Ⅱ　学園生活

教学関係 …… 182
1　学生証 …… 182
2　学籍簿・学生証記載事項の変更の届け出 …… 183
3　休学・復学 …… 183
4　退学 …… 183
5　転科 …… 183
6　各種証明書 …… 184
7　卒業見込証明書の発行条件 …… 184
8　教育職員免許状取得見込証明書の発行条件 …… 184
9　大学院入学試験 …… 185
10　休講 …… 185
11　自然災害等における休校措置 …… 185
12　掲示板 …… 185
学生生活関係 …… 186
1　通学定期券 …… 186
2　学割証の交付 …… 186
3　合宿・試合・発表会など …… 186
4　遺失物・拾得物 …… 186
5　案内や連絡の掲示 …… 186
6　下宿・アパート・アルバイトの紹介 …… 186
7　食堂・売店等の利用 …… 187
8　学生寮 …… 187
9　インターネットを利用する際の注意 …… 189
10　ソーシャルメディアをご利用の皆様へ …… 190
授業料・奨学金制度関係 …… 191
1　授業料等に関する相談 …… 191
2　奨学金制度 …… 191
①　日本大学の奨学金制度 …… 191
②　日本大学以外の公的奨学金制度 …… 192
保健と学生支援関係 …… 194
1　保健関係 …… 194
①　定期健康診断 …… 194
②　健康診断証明書の発行 …… 194
③　保健室の利用 …… 194
④　学生の傷害及び死亡事故等に関する給付金 …… 194
⑤　日本大学校友会準会員診療費助成制度 …… 194
⑥　医療機関 …… 194
2　学生支援室 …… 195
留学関係 …… 196

1　派遣交換留学 …… 196
2　認定留学 …… 196
3　短期海外語学研修 …… 196
留学中の学費について …… 196
就職・キャリア関係 …… 199
1　社会に出るための心構え …… 199
2　就職・進路に関する個別相談 …… 199
3　資料 …… 199
4　外国人留学生就職支援 …… 200
5　障がいのある方への就職支援 …… 200
6　就職行事 …… 200
7　就職サポートセンター（就職指導課）利用案内 …… 200
公務員試験に向けた準備 …… 201
教職支援関係 …… 202
1　教職に対する心構え …… 202
2　教職に関する個別相談 …… 202
3　教職支援行事 …… 202
4　教職センター利用案内 …… 202
各種施設 …… 203
1　図書館 …… 203
①　蔵書 …… 203
②　開館時間と休館日 …… 203
③　入退館手続き …… 203
④　図書の閲覧・貸出 …… 203
⑤　図書館の各種施設 …… 204
⑥　レファレンスサービス …… 204
⑦　館内での注意事項 …… 204
2　文理学部における自主的学習のための設備について …… 204
①　本館１階　ラーニングコモンズとアカデミックコモンズ …… 204
②　図書館棟　インフォメーション・スクウェアとラーニング・スクウェア …… 205
③　３号館　ラーニングホール …… 205
④　７号館　ラーニングホール …… 205
3　文理学部のコンピュータ施設 …… 205
①　学生用コンピュータシステムについて …… 205
②　アカウントとメールアドレスについて …… 206
③　インフォメーション・スクウェアの利用について …… 206
④　各学科のコンピュータシステムについて …… 206
⑤　問い合わせ先 …… 206
4　グローバル教育研究センター（GREC） …… 206
5　体育施設 …… 208
6　文理学部資料館 …… 208
7　厚生施設 …… 209
避難場所 …… 210
こんな時はここに …… 211

日本大学の目的及び使命

目的および使命

日本大学は　日本精神にもとづき
道統をたつとび　憲章にしたがい
自主創造の気風をやしない
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

日本大学は　広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

日本大学教育憲章

日本大学は，本学の「目的及び使命」を理解し，本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」，「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ，「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

■日本の特質を理解し伝える力

日本文化に基づく日本人の気質，感性及び価値観を身につけ，その特質を自ら発信することができる。

■多様な価値を受容し，自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し，地域社会，日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し，説明することができる。

■社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

教育理念「自主創造」

「自主創造」の３つの構成要素及びその能力

1　自ら学ぶ

■豊かな知識・教養に基づく高い倫理観

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

■世界の現状を理解し，説明する力

世界情勢を理解し，国際社会が直面している問題を説明することができる。

2　自ら考える

■論理的・批判的思考力

得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

■問題発見・解決力

事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。

3　自ら道をひらく

■挑戦力

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

■コミュニケーション力

他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる。

■リーダーシップ・協働力

集団の中で連携しながら，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

■省察力

謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。

教育研究上の目的

【文理学部】

文理学部は，人文学をはじめ社会科学や理学に関する幅広い学問領域をカバーし，「文と理」の横断，融合を目指した教育を基本として，各学科による個々の専門に応じた教育・研究を行う。そのために，

①学際的な専門知（Interdisciplinary Expertise）

②学びと教えの循環（“Peer to Peer” Learning）

③他者への想像力（Imagination for Others）

の３つの柱を組み合わせた教育・研究を通して，グローバル化した 21 世紀を生きぬき，自由でしなやかに社会をリードすることができる多様性とアイデンティティ（Diversity and Identities）を形成する。

これにより，専門的な知識や技術とともに，境界を超えた柔軟で学際的な思考と創造力，そして対等に開かれた学びのネットワークを通じて，既成概念を超えた新しい協働の場を作り，正解のない困難な課題に立ち向かうことのできる創造的かつ実践的な知の担い手としての人材を養成する。

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【文理学部（文学)】

日本大学文理学部（学士（文学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（文学））における能力を修得したものに，「学士（文学)」の学位を授与する。

［DP1］

国内外の文学・思想・歴史・多様な言語を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。

［DP2］

日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，文学・様々な言語を中心とする専門性に基づきながら，その多様性について説明することができる。

［DP3］

既存の知識にとらわれることなく，得られる情報を人文系諸学の諸概念や理論に基づいて批判的，論理的に考察し，その本質を理解しようと努めることができる。

［DP4］

資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，人文系諸学の研究を通して解決策を提案することができる。

［DP5］

人文系諸学の専門的知識を身に着け，強い意思をもって，人文学分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。

［DP6］

様々な言語を通じて他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と実りのある議論をすることができる。

［DP7］

人文系諸学の実践的なスキルを活用しながら，集団の中で他者と連携し，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

［DP8］

客観的に自己を見つめ，振り返りを通じて，様々な文化についての知識や多様性の理解を活かしながら自己の資質を高めることができる。

【文理学部（社会学)】

日本大学文理学部（学士（社会学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（社会学））における能力を修得したものに，「学士（社会学)」の学位を授与する。

［DP1］

幅広く豊かな知識と教養，そして社会学の枠組みや方法を基に，自己の倫理観や社会に対する責任感を高めることができる。

［DP2］

国際社会が直面している問題を理解し，日常生活から国際社会に至る現代社会の多層性と多様性について説明することができる。

［DP3］

社会事象や問題の性質に合わせデータや文献を収集し，それに即して現代社会の多層性・多様性を論理的・批判的に思考することができる。

［DP4］

社会学の枠組みや方法に即し社会事象や問題を観察・検討するのみならず，問題を発見・理解し，適切な解決策を提案

することができる。

［DP5］

社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，あきらめない気持ちで，社会問題の発見・解決や社会学の刷新に向かって果敢に挑戦することができる。

［DP6］

社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。

［DP7］

社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，対話や議論を積み重ねながらチームワークに必要なリーダーシップを発揮し，適正な形で協働者への支援を行うことができる。

［DP8］

社会学理論や実証を中心とする調査・研究を通じ，自身の行為・態度を自己反省的に捉え返す省察力と自己管理能力を発揮することができる。

【文理学部（社会福祉学）】

日本大学文理学部（学士（社会福祉学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（社会福祉学））における能力を修得したものに，「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

［DP1］

幅広く豊かな知識と教養を基に，人間や社会に対しての倫理観を高めることができる。

［DP2］

日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している社会福祉の問題を理解し，福祉社会の多様性について説明することができる。

［DP3］

得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

［DP4］

社会や身近な環境に存在する福祉課題を見抜き，職業人及び市民としての立場から，課題解決の方向を提案することができる。

［DP5］

どんなに困難な社会福祉の課題に関しても忍耐強く取り組み，社会福祉学の未来に向かって果敢に挑戦することができる。

［DP6］

他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，問題解決するための信頼・協働関係を構築することができる。

［DP7］

集団において他者と連携しながら，リーダーシップを発揮し，社会福祉の当事者や協働者の力を引き出し，支援することができる。

［DP8］

自らの実践や社会との関わりを常に振り返り，社会の変化に応じた新たな知識や技能を学び，自己の資質を高めることができる。

【文理学部（教育学）】

日本大学文理学部（学士（教育学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（教育学））における能力を修得したものに，「学士（教育学）」の学位を授与する。

［DP1］
幅広い教養と倫理感を持ち，学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的知識・技能をつなぎ，総合的に活用することができる。
［DP2］
古今東西の多様な文化や社会について豊かな想像力と理解力をもち，少数者を含めた他者への共感的な感覚や態度を身に付けている。
［DP3］
学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的・知識技能をつなぎ，総合的に活用する論理的・批判的思考力を身に付ける。
［DP4］
自然の摂理を解明するとともに，多くの対立や葛藤を抱えた人間・社会の複雑性を科学的に認識し，問題を見出すことができる。
［DP5］
自ら新しきを作り出す気概を持ち，行動できる。
［DP6］
言語や身体など，様々な媒体を通して他者の思いや考えを受けとめるとともに，自分の思いや考えを伝え，創造的な対話と議論を重ねることができる。
［DP7］
見出され問題に立ち向かい，的確な情報収集や分析をしながら多くの人々と協力し，解釈や解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。
［DP8］
普遍的な市民としての自覚をもち，その専門的知識の社会的な意味を省察的に考え，総合的な活動につなげることができる。

【文理学部（体育学)】

日本大学文理学部（学士（体育学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」·「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（体育学））における能力を修得したものに，「学士（体育学)」の学位を授与する。
［DP1］
体育学を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
［DP2］
日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。
［DP3］
得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
［DP4］
資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，体育学を通して解決策を提案することができる。
［DP5］
あきらめない気持ちで，体育学分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
［DP6］
他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
［DP7］
集団の中で他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
［DP8］
謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，体育学を活かしながら自己の資質を高めることができる。

【文理学部（心理学）】

日本大学文理学部（学士（心理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（心理学））における能力を修得したものに，「学士（心理学）」の学位を授与する。

［DP1］

心理学を中心とした，幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。

［DP2］

現代社会が直面している問題を理解し，その多様性について心理学を活かしながら説明することができる。

［DP3］

得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

［DP4］

資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，心理学を活かしながら解決策を提案することができる。

［DP5］

あきらめない気持ちで，心理学に解決が託された課題に向かって果敢に挑戦することができる。

［DP6］

他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。

［DP7］

集団の中で他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

［DP8］

謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，心理学を活かしながら自己の資質を高めることができる。

【文理学部（地理学）】

日本大学文理学部（学士（地理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（地理学））における能力を修得したものに，「学士（地理学）」の学位を授与する。

［DP1］

地理学に関する幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。

［DP2］

日本及び世界の情勢や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。

［DP3］

得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。

［DP4］

資料や事象を注意深く観察・検討して，自ら能動的に問題を発見し，地理学に基づく解決策を提案することができる。

［DP5］

あきらめない気持ちで，地理学分野が解決すべき課題に向かって果敢に挑戦することができる。

［DP6］

他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝えて，他者と議論することができる。

［DP7］

集団の中で他者と連携しつつリーダーシップを発揮し，協働者の力を引き出して，その活躍を支援することができる。

［DP8］

謙虚に自己を見つめ，振り返ることで，地理学を活用しながら自己の資質を高めることができる。

【文理学部（理学）】

日本大学文理学部（学士（理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，「自主創造」を

構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（理学））における能力を修得したものに，「学士（理学）」の学位を授与する。

［DP1］

社会人として必要な教養を身に着け，科学技術の進歩がもたらす倫理的問題を理解し，自らの役割を説明することができる。

［DP2］

現代社会における情報科学・自然科学の役割を理解し，国際社会が直面している問題点などを説明することができる。

［DP3］

物事を科学的根拠に基づいて客観的に捉え，批判的・論理的に考察し，既存の知識にとらわれることなく，物事の本質を捉えることができる。

［DP4］

日常生活における現象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に考察することにより科学的問題を発見し，解決策を提案することができる。

［DP5］

情報科学・自然科学の専門的知識を身に付け，あきらめない意思を持って，未解決問題に向かって果敢に取り組むことができる。

［DP6］

社会的・学問的背景の異なる他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解すると共に自分の考え方をわかりやすく伝え，他者と議論することができる。

［DP7］

学修活動のみならず日常生活においても他者と連携し，時には自ら進んでリーダーシップを発揮することで協働者の力を引き出すことができる。

［DP8］

他者の評価を謙虚に受け止め，自分の学修生活がもたらす意義を追求し，科学分野の知識や経験を活かしながら自己の資質を高めることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【文理学部（文学)】

日本大学文理学部（学士（文学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］

初年次教育，総合教育及び各学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学・様々な文化圏の言語・文学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］

総合教育，外国語教育及び各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，人文学を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，様々な情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。

［CP4］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，様々な文化圏における言語・文学・思想・歴史の知識を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，強い気持ちで，人文学を中心としたさまざまな問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，様々な文化圏における言語を通じて他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。

［CP7］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，様々な文化圏における文化についての知識や多様性への理解を活かしながら協働者の活躍を支援する能力を育成する。

［CP8］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，客観的に自己を見つめ，振り返ることにより，様々な文化圏における言語・文学・思想・歴史の知識を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

【文理学部（社会学)】

日本大学文理学部（学士（社会学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多

元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］

初年次教育，総合教育，外国語教育，人文・社会・自然各学科の専門基礎教育をバランスよく履修し，人文科学，社会科学，自然科学に関する幅広い知識・教養を学ぶなかで，自然科学と異なる問題意識から出発してきた社会科学において独自の方法論的特徴を持つ社会学の枠組みや方法から，自己の倫理観のみならず社会に対する責任観を身につける。

［CP2］

総合教育，外国語教育，初年次教育，そして社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，日本及び世界のグローバルな歴史・文化を踏まえつつ，国際社会が直面している問題を理解し，日常生活から国際社会に至る現代社会の多層性と多様性を社会学の枠組みや方法を活かし説明する能力を育成する。

［CP3］

社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，社会事象や問題の性質に合わせ，データや文献を収集するための方法を選択し，収集されたデータや文献と適切に向き合うための作法を身につけるとともに，講義や実習での対話や討論を経て，現代社会の多層性・多様性について論理的・批判的に思考するリテラシーを育成する。

［CP4］

社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，社会学の枠組みや方法に即して社会事象や問題を観察・検討するのみならず，自らが能動的に動くことで新たな問題やその構造を発見・理解し，適切な解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］

社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，個人又はグループで社会学的研究計画を構想し，輪読・実査を行うという，理論と実証を架橋する一連の協同作業の中で，何事にも全力で取り組み，諦めずに社会問題の発見・解決や社会学の刷新に立ち向かう挑戦力を養う。

［CP6］

社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，個人又はグループで社会学的研究計画を構想し，輪読や実査を行うという，理論と実証を架橋する一連の協同作業の中で，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。

［CP7］

社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，個人又はグループで社会学的研究計画を構想し，輪読や実査を行うという，理論と実証を架橋する一連の協同作業の中で，対話と議論を積み重ねながらチームワークに必要なリーダーシップを習得し，適正な形で協働者を支援していくための能力を育成する。

［CP8］

社会学科専門科目（入門科目・基本科目・応用科目・完成科目）の段階的修得を通じ，社会問題の発見と解決に向けた実践的な調査研究を経て，自身の行為・態度を自己反省的に捉え返す省察力と自己管理能力を養う。

【文理学部（社会福祉学）】

日本大学文理学部（学士（社会福祉学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］

初年次教育，基礎教育，総合教育及び学科専門基礎教育を通じて，人文科学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］

総合教育，外国語教育及び学科専門基礎教育を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している社会福祉の問題を理解し，その多様性について，社会福祉学の視点を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］

学科専門基礎教育及び専門発展教育を通じて，社会や社会福祉に関する情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。

［CP4］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，社会福祉の関連資料やその実践を注意深く考察・検討して，自ら能動的に問題を発見し，社会福祉学の視点を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，社会福祉学を中心としたさまざまな問題に忍耐強く取り組み，果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解・尊重し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。

［CP7］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，当事者や協働者の力を引き出し，社会福祉学の視点を活かしながら支援することができる能力を育成する。

［CP8］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，社会福祉学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

【文理学部（教育学）】

日本大学文理学部（学士（教育学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（卒業論文）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］

主に初年次教育，基礎教育，総合教育及び人文各学科専門基礎教育を通じて，人文科学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］

主に総合教育，外国語教育及び人文各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，人文学を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］

主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP3 群］を通じて，様々な情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。

［CP4］
主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP4 群］を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，人文学を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。
［CP5］
主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP5 群］を通じて，あきらめない気持ちで，人文学を中心とした様々な問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。
［CP6］
主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP6 群］を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］
主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP7 群］を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を人文学を活かしながら支援することができる能力を育成する。
［CP8］
主に学科専門必修科目や学科専門科目［DP8 群］を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，人文学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

【文理学部（体育学)】

日本大学文理学部（学士（体育学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。
「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。
また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。
［CP1］
初年次教育，基礎教育，総合教育及び人文各学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。
［CP2］
総合教育，外国語教育及び人文各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，体育学を活かしながら説明する能力を育成する。
［CP3］
各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，様々な情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。
［CP4］
各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，体育学を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。
［CP5］
各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちで，体育学を中心とした様々な問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。
［CP6］
各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。
［CP7］
各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，

協働者の力を引き出し，その活躍を体育学を活かしながら支援することができる能力を育成する。

［CP8］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，体育学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

【文理学部（心理学）】

日本大学文理学部（学士（心理学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（ゼミナール，卒業論文等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］

初年次教育・総合教育及び心理学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］

総合教育，外国語教育及び心理学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，現代社会が直面している問題を理解し，その多様性について，心理学を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］

心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，様々な情報を公平に入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。

［CP4］

心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自らの能動的に問題を発見し，心理学を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］

心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちで，心理学を中心とした様々な課題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］

心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。

［CP7］

心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を心理学を活かしながら支援することができる能力を育成する。

［CP8］

心理学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，心理学を活かしながら自己の資質を高めることができる能力を育成する。

【文理学部（地理学）】

日本大学文理学部（学士（地理学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（課題研究，卒業研究等）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］

初年次教育・総合教育及び学科専門基礎教育を通じて，人文科学，社会科学，自然科学に関する知識・教養を学ぶことで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］

総合教育，外国語教育及び学科専門教育を通じて，グローバルな視点を養い，日本及び世界の情勢や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，地理学を活かしながら説明する能力を育成する。

［CP3］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，有用な情報を入手し，その情報を基に論理的・批判的に思考するとともに，それを的確に表現する能力を育成する。

［CP4］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，資料や事象を注意深く観察・検討して，自ら能動的に問題を発見し，地理学に基づく解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちを養い，地理学分野が解決すべき課題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝えて，他者と議論できる能力を育成する。

［CP7］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しつつ自らリーダーシップを発揮し，協働者の力を引出して，その活躍を地理学に基づいて支援できる能力を育成する。

［CP8］

学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることで，地理学を活用しながら自己の資質を高める能力を育成する。

【文理学部（理学）】

日本大学文理学部（学士（理学））では，日本大学教育憲章（以下，「憲章」という）を基に，専門分野を加味した卒業認定に関する方針に沿って学問分野別の教育課程を編成し実施する。

「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成するために，総合教育，外国語教育，初年次教育，専門教育等の授業科目を各能力に即して体系化するとともに，講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

また，学修成果の評価は，専門的な知識・技能及び態度を修得する授業科目に関しては，授業形態や授業手法に即した多元的な評価方法により，各授業科目のシラバスに明示される学習到達目標の達成度について判定し，「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の８つの能力（汎用的能力）への達成度に関しては，卒業の達成を測るための授業科目（卒業テーマ研究，数学研究，情報科学研究，特別研究，化学特別実験）の修得状況や到達度と学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。

［CP1］

初年次教育，総合教育及び各学科専門基礎教育を通じて，人文学，社会科学，自然科学・情報科学に関する知識・教養を学ぶなかで倫理観を高める能力を育成する。

［CP2］

総合教育，外国語教育及び各学科専門科目を通じて，グローバルな視点を持ち，日本及び世界の歴史や，科学技術が抱える問題，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について，自然科学・情報科学の知識や経験を活かしな

がら説明する能力を育成する。

［CP3］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，様々な情報を公平に入手し，その情報を科学的根拠に基づいて客観的に捉え，論理的・批判的に思考し，表現する能力を育成する。

［CP4］

各学科の専門科目を通じて，日常生活における現象や資料から能動的に科学的問題を発見し，自然科学・情報科学分野の知識や経験を活かしながら解決策を提案できる能力を育成する。

［CP5］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，あきらめない気持ちで，自然科学・情報科学を中心とした様々な問題に果敢に挑戦する姿勢と能力を育成する。

［CP6］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを明晰に伝え，他者と議論することができる能力を育成する。

［CP7］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，集団の中で他者と連携しながら，自らリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，自然科学・情報科学の知識や経験を活かしつつ，その活躍を支援することができる能力を育成する。

［CP8］

各学科専門基礎教育や専門発展教育を通じて，謙虚に自己を見つめ，振り返ることにより，自然科学・情報科学の知識や経験を活かしながら，他者からの批評を謙虚に受け止め，自己の資質を高めることができる能力を育成する。

入学者受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

(文理学部)

日本大学は,「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。

この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに,「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に生かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。

このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。
3　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
5　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

(哲学科)

哲学科は，思想全般にわたる知識と論理的思考能力と対話力に基づいて，現代社会の諸問題に果敢に取り組む人材の養成を目指している。

この理念のもと，哲学科は,「真・善・美・聖」という基本価値に関心を持ち，現代社会の文化と思想の向上を目指す，意欲的な学生を望んでいる。

このような学生を受け入れるために，哲学科は多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　高等学校で履修する国語，地理歴史，公民，数学，外国語などについて，その基礎的な内容を十分に理解して，高等学校卒業相当の知識を身に付けている。
2　西洋・東洋の思想に旺盛な好奇心を抱き，それを積極的に学んで現代社会に活かそうという意欲がある。
3　他者との対話を通して，自らの考えを吟味し，深めようという態度を有している。

(史学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，歴史の知識・教養，歴史的視点・思考法を身に付け，より正確な歴史像の把握に努め，それらを積極的に活かして現代社会の諸問題の考察と解決に寄与しようとする学生を迎え入れる。

(国文学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，日本語・日本文学に深い関心を持ち，体系的で専門的な知識の習得に自主的に取り組み，思考力，文章力，表現力を伸ばし，創造性とコミュニケーション能力を発揮して，社会に貢献しようという学生を迎え入れる。

(中国語中国文化学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，古代から現代にいたる中国の社会や文化に関する知識を身に付け，中国語を習得して，国際理解・国際交流に貢献しようとする学生を受け入れる。このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　中国語圏をはじめとする世界の多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，異文化を理解しようとする積極性がある。

3　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
5　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

(英文学科)

英文学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを達成するために，入学時に基礎的な英語の文法的知識・読解力・コミュニケーション能力等を有しているとともに，入学後は論理的・批判的思考能力と問題発見・解決力の獲得・定着に取り組みながら，高度な英語運用能力を身に付け，英語圏文学及び英語学の専門知識に裏打ちされた多様な価値観や豊かな教養を備えることによって，国内外の各分野で活躍しようという学生を迎え入れる。

(ドイツ文学科)

日本大学は，「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。

この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。

このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　ドイツ語圏の文学・語学・文化に関心を抱き，高度なドイツ語能力を身に付けた上で，ドイツ語圏文化の諸相を広く深く学ぶことを目指す学生。
3　様々な文化における人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
5　日本語とドイツ語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

(社会学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，社会学の理論と方法を深く学び身に付け，現実社会を調査・分析し考察する力を高めることで，他者と協力しながら錯綜する現代社会の諸課題の解決に寄与し，自由でしなやかな社会の構想をリードしようとする，意欲ある学生を迎え入れる。

また，受験生は，地歴公民（特に現代史や時事問題），数学（統計学に関わる分野），国語（論証）に関する能力を高めておくことが望ましい。

(社会福祉学科)

1　大学において専門的に学ぶために，高等学校までの各教科の基礎が身に付いている人物を求める。
2　様々な社会問題や格差に対する鋭い問題意識，人権意識を持ち，よりよい社会のありようを探求する意欲を持つ人物を求める。
3　社会福祉問題に強い関心があり，福祉社会をめぐる様々な課題を他者と協力して解決しようとする意欲や主体性がある人物を求める。
4　クラブ活動やボランティア活動に積極的に取り組み，他者とコミュニケーションをとり，協調的・建設的に共同作業に取り組もうとする人物を求める。

(教育学科)

日本大学は，「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。

この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と

「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。

このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。
3　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
5　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

(体育学科)

体育・スポーツと健康に対する強い関心と基礎的な知識・技能を兼ね備え，在学中にスポーツ活動を課外活動として行い，本学科で学修した高度な科学的知識及び実践知を活かして，体育・スポーツと健康に関わる専門職（特に中学校・高等学校の保健体育教員あるいは小学校の教員※）に就く意思が明確な者を求めています。

1　学校教員：保健体育・スポーツ教育
2　社会体育・スポーツ指導者：ジュニア選手の発掘・育成，地域スポーツ
3　エリートスポーツ選手の指導者：競技力向上を目指した優れた選手の育成・強化
4　健康スポーツ指導者：一般成人・高齢者に対する健康スポーツの普及

※小学校教職課程については，本学部の協定校において所定の単位の修得が必要。

(心理学科)

日本大学は，「自主創造」をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。

この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。

心理学科においては，日本大学及び文理学部の方針を受け，さらに心理学科で勉学を受けるにふさわしい学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　幅広く豊かな知識と教養を身に付ける知的好奇心がある。
2　現代社会が直面している多様な問題に関心がある。
3　得られる情報を客観的に理解し，論理的に考えることができる。
4　問題を注意深く観察し，解決しようとする意欲がある。
5　あきらめない気持ちで，課題に果敢に挑戦することができる。
6　他者と議論できるコミュニケーション能力がある。
7　集団の中で他者と協力することができる。
8　謙虚に自己を振り返り，自己の資質を高めようとする意欲がある。

(地理学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，世界や日本の地域的な諸課題の解決と，地域社会の持続的発展に貢献することを目指す意欲的な学生を迎え入れる。

前提として次のことを求める。

1　フィールドワークに関心を持ち，現象を地理的空間に展開しようと発想することができる。
2　世界や日本の地域的な諸問題について筋道を立てて考えるとともに，人々と議論し，協働して学んで得られた結果を説明する能力を身に付けていること。

3　自然と人間・社会との関係に興味を抱き関連性を説明できる。
4　地域社会の持続的発展に寄与し貢献する目的意識と意欲があること。
5　高等学校の教育課程で修得した自然地理，人文地理や地理情報の知識・技能を身に付けている。また，地図や統計などの地理空間情報を GIS で表示する能力を身に付けている。

(地球科学科)

気象学，水圏科学，地球化学，地質学，火山学，地球物理学などの地球科学的な知識と技術に基づき，自然災害問題や地球環境問題の具体的な課題に対処できる基礎的能力と倫理観を持った人材や，幅広い地球科学的教養を身に付け社会の様々な領域で活躍できる人材を養成するため，地球に強い関心を持ち，勉学への意欲を持って科学的な基礎知識を身に付け，その知識を応用できる資質を持った学生を受け入れる。

(数学科)

日本大学は，「自主創造」の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉に寄与する人材の養成を目的としている。

この理念のもと，文理学部は，人文系・社会系・理学系にわたる各学科において専門知の基礎を学ぶとともに，「文」と「理」を架橋した深い教養とそれらを複合的に活かす実践力を身に付け，現代社会に貢献する人材の養成を目指している。こうした本学部の目的をよく理解し，自己と社会を変え，世界的な課題の解決に取り組む，強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。

数学科では，日本大学の理念と文理学部の目指している人材養成の目的のもと，ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて，次のようにアドミッション・ポリシーを定める。

1　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。
3　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
5　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。
6　抽象数学の学習から論理力を，応用数学の学習から社会に役立つ数学の運用力をそれぞれ習得し，それらの知識・技能を活かして人類と社会に幅広く貢献しようという志を持っている。

(情報科学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，情報科学に対する強い関心を抱き，情報科学及び情報技術の基礎をプログラミングや数理を含む多様な面から習得し，情報社会の発展に寄与することに強い意欲と情熱のある学生を望んでいる。

このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　情報技術やそれを支える数理に対して強い関心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　新しい技術に対して関心を持ち，情報技術の変化に敏感に反応しようとする積極性がある。
3　情報技術が社会に与える影響について考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会に対し情報技術を用いて実践的に働きかけていく意欲がある。
5　情報技術と数理を学ぶために必要とされる基礎的な学力を持っている。

(物理学科)

物理学科では，文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，現代の先端科学技術の発展に寄与できる基礎的な学力と専門的な知識を習得し，未来の科学技術及び産業界の発展に貢献しようとする学生を望んでいる。

このような条件に合致する学生を受け入れるために多様な選抜方法を実施しているが，その前提として入学者には次のことを求める。

1　旺盛な知的好奇心を持ち，既存の考えに縛られない創造性がある。
2　多様な文化や社会に対して強い関心を抱き，違いを乗り越えていく積極性がある。

3　自然や人間・社会の複雑な働きについて考察し，問いを発することができる。
4　問題の解決に向けて，社会や世界に実践的に働きかけていく意欲がある。
5　日本語を中心とする基礎的なコミュニケーション能力を持っている。

(生命科学科)

文理学部のアドミッション・ポリシーのもと，生命科学の専門的知識や技術を習得するとともに，めざましく発展しつつある現代の先端技術に対処するために，それらを活かして社会に幅広く貢献しようという意欲を燃やす学生を迎えいれる。高等学校等で得られた基礎的な知的能力を学力試験により評価して入学者を選抜するだけでなく，高等学校での成績，学習意欲や適性等を多面的・総合的に評価する選抜を行い，国内外から幅広く迎える。

(化学科)

化学は，合成繊維，プラスチック，医薬品，半導体など，現代社会に欠かすことの出来ない様々な物質を創りだす，夢の多い学問である。また，資源やエネルギー源の枯渇，食料不足，人口問題，環境汚染など，今後人類が直面する諸問題の解決には，化学が大きな役割を果たすと期待されている。化学に対するこのような期待に応えるために，化学科では広い視野に立って将来の化学及び科学技術の発展に貢献できる人材の養成に努めている。そこで，化学科では文理学部のアドミッション・ポリシーに加えて，以下に示す項目に対して１つ以上該当する学生を国内外から幅広く迎える。

1　化学に強い関心があり，より深く学びたいという意欲を持つ人
2　化学実験が好きで，未知の事象に対する旺盛な好奇心を持つ人
3　化学に関する知識と技術を習得し，様々な分野での活躍を目指す人
4　教育に熱意を持ち，将来，中・高等学校の理科教員になりたいと考えている人

日本大学の沿革



学祖　山田顕義

日本大学は，明治 22（1889）年 10 月 4 日に創立された日本法律学校を前身としています。日本法律学校は，我が国固有の法律と新法の考究を基本とし，欧米の法理をも進んで導入して日本独自の法理論の確立を第一の目的としました。学祖・山田顕義が，時の司法大臣として，我が国の社会事情と世界の趨勢を考慮して教育の目標とした「日本人としての主体性の認識と広く世界的視野に立った人材の育成」は，今なお脈々と受け継がれています。

山田顕義は，吉田松陰門下の逸材で明治維新の功労者の一人としてその名を知られ，明治 11（1878，顕義 36 歳）年から 24（1891）年まで，参議又は大臣の地位にあって国政に参画，特に我が国の司法制度の確立，刑法・民法等の基礎的大法典の編纂に尽力し，我が国の近代化のために偉大な功績を残しました。

日本法律学校は，明治 36（1903）年，専門学校令公布により，校名を私立日本大学と改称，大正 9（1920）年には大学令による大学として認可を受け，現在の名称である日本大学となりました。戦後，教育基本法の公布，学校教育法及び私立学校法の制定によって，昭和 24（1949）年 4 月に新学制による大学に移行，その後，学部の新設や独立，学部名の改称など組織の改編・充実がはかられ，今日に至っています。

日本大学の教育は，草創期から「世界的視野」を念頭に，時代を先取りする先見性と進取性をその伝統としています。学則には，「日本精神にもとづき，道統をたつとび，憲章にしたがい，自主創造の気風をやしない，文化の進展をはかり，世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする」と掲げられています。さらに，広く知識を世界に求めて，深遠な学術を研究し，心身ともに健全な文化人を育成することを使命としています。

現在では，人文・社会・自然科学の全領域にわたり，法，文理，経済，商，芸術，国際関係，危機管理，スポーツ科，理工，生産工，工，医，歯，松戸歯，生物資源科，薬学部の計 16 学部 86 学科，通信教育部 4 学部，短期大学部 5 学科 1 専攻，さらに，大学院 19 研究科に加えて多数の研究機関を擁する，我が国最大の総合大学として発展を続けています。

日本大学は，更なる飛躍と発展を期するため，教授陣容の強化とともに教育施設の充実をはかっています。教育・研究の内容においても，カリキュラムの改訂を随時行い，流動する情報化社会に速やかに対応，個人の能力開発に重点を置いた本大学独自のアカデミズムの樹立を目指しています。

文理学部のあゆみ

明治 22（1889）年 10 月，日本大学は日本法律学校として創立され，明治 34（1901）年 10 月，高等師範科（のち高等師範部）が設立されました。文理学部の一部の学科はこの高等師範科を基礎としており，他の文系学科の多くは，後に設置された法文学部内に開設されました。新制大学への移行に伴い，法文学部は法学部と文学部に分かれ，昭和 33（1958）年に，その文学部に理系の学科等を加えて文理学部としてスタートしました。以下，略年表を記します。

明治 36 年 8 月　校則改正に伴い高等師範科を高等師範部と改称
明治 43 年 6 月　高等師範部師範研究科設置
大正 6 年 4 月　専門部宗教科設置
大正 9 年 4 月　大学令による大学設立認可，学部に法文学部（法律・政治・宗教・社会の各学科）商学部（商学科）。専門部に法律・政治・宗教・社会・商の各科。高等師範部に修身法制経済・国語漢文の各科
大正 13 年 4 月　法文学部に文学科（哲学・倫理学・教育学・心理学・国文学・漢文学の各専攻）を設置
法文学部美学科（10 年 1 月設置）を文学科文学芸術専攻と改称
大正 13 年 12 月　専門部文科（哲学・倫理教育学・心理学・国文学・漢文学・文学芸術の各専攻）を設置
大正 15 年 1 月　文学科文学芸術専攻を外国文学芸術専攻と改称
大正 15 年 4 月　高等師範部に地理歴史科，英語科設置
昭和 2 年 4 月　専門部文科の国文・漢文各専攻を国学・漢学各専攻に改称
法文学部文学科の倫理・教育各専攻を併せ倫理学教育学専攻に改称
昭和 2 年 5 月　文学科外国文学芸術専攻を英文学専攻と芸術学専攻に分かつ
昭和 4 年 4 月　法文学部文学科に史学専攻設置
昭和 5 年 2 月　高等師範部各科に専修科を設置
昭和 9 年 4 月　高等師範部修身法制経済科を高等師範部修身公民科と改称
昭和 12 年 12 月　現在の文理学部の敷地（当時，東京市世田谷区上北沢一丁目）に予科文科世田谷校舎（現在の文理学部 1 号館）が落成，移転
昭和 13 年 4 月　日本大学世田谷予科を日本大学第一高等学院と改称
昭和 14 年 4 月　第一高等学院の校名を日本大学予科と改称
工学部予科を予科理科として世田谷校舎に移転
昭和 19 年 4 月　戦時非常措置により文科系専門部を廃止決定
昭和 22 年 2 月　昭和 19 年以来廃止されていた専門部（法律・政経・宗教・社会・商・経済の各科），高等師範部（公民・国語・地理・歴史・英語の各科）を復活
昭和 24 年 4 月　新学制による大学（第 1 部）設置，専門部・高等師範部募集停止，世田谷教養部設置
文学部（第 1 部）＝宗教学科・社会学科・哲学科・倫理学科・教育学科・心理学科・国文学科・英文学科・史学科
新学制による大学（第 2 部）設置
文学部（第 2 部）＝宗教学科・社会学科・国文学科・英文学科・史学科・人文地理学科
昭和 25 年 2 月　日本大学世田谷高等学校設置（定時制）
昭和 26 年 4 月　新学制による大学院設置
文学研究科＝心理学専攻・国文学専攻・英文学専攻・史学専攻（各修士課程）
昭和 28 年 3 月　大学院文学研究科心理学専攻，東洋史学専攻（各博士課程）設置
昭和 29 年 3 月　大学院文学研究科社会学専攻，人文地理学専攻（修士課程）設置
昭和 30 年 3 月　大学院文学研究科哲学専攻（修士課程）設置
昭和 31 年 3 月　専門部各科，高等師範部各科廃止
昭和 31 年 12 月　日本大学人文科学研究所設置（38 年 4 月，日本大学文理学部人文科学研究所と改称）
昭和 33 年 1 月　文学部に理系の学科を設置し文理学部と改称
文理学部学科組織

第１部
哲学科（哲学・宗教学・倫理学各専攻）・史学科・国文学科・中国文学科・英文学科・社会学科・教育学科（教育学・体育学各専攻）・心理学科・地理学科・数学科・物理学科
第２部
哲学科・史学科・国文学科・英文学科・社会学科・地理学科

昭和 33 年 3 月　文学専攻科設置
昭和 34 年 1 月　独文学科設置
昭和 34 年 2 月　世田谷高等学校（全日制）設置
昭和 36 年 3 月　大学院文学研究科に教育学専攻（修士課程），哲学専攻，国文学専攻，英文学専攻，教育学専攻（各博士課程）設置
応用地学科，応用物理学科設置
昭和 36 年 4 月　世田谷高等学校を日本大学櫻丘高等学校と校名変更
昭和 37 年 3 月　応用数学科，化学科設置
教育学科の教育学専攻，体育学専攻をそれぞれ独立の学科とし教育学科，体育学科とする
昭和 38 年 3 月　大学院文学研究科に日本史専攻，社会学専攻（各博士課程）設置
大学院工学研究科の名称を理工学研究科と改称し，地理学専攻，数学専攻，物理学専攻（各修士・博士課程）設置
昭和 38 年 4 月　日本大学文理学部自然科学研究所設置
昭和 39 年 3 月　大学院文学研究科に独文学専攻（修士課程・博士課程）設置
昭和 40 年 4 月　大学院文学研究科教育学専攻に体育学コース設置
昭和 48 年 3 月　大学院文学研究科中国学専攻（修士課程）設置
昭和 50 年 3 月　大学院文学研究科中国学専攻（博士課程）設置
昭和 51 年 4 月　大学院文学研究科修士課程及び博士課程を大学院文学研究科博士課程と改称し，前期課程（旧修士課程）・後期課程（旧博士課程）とする
昭和 51 年 11 月　文理学部第２部廃止
昭和 52 年 2 月　文学専攻科廃止
昭和 58 年 4 月　文理学部情報科学研究所設置
平成 3 年 12 月　文理学部創設 90 周年記念式典挙行
平成 8 年 4 月　文理学部応用地学科を地球システム科学科に学科名称変更
平成 9 年 12 月　大学院総合基礎科学研究科（修士課程）設置
地球情報数理科学専攻・相関理化学専攻
平成 11 年 12 月　大学院総合基礎科学研究科博士後期課程設置
地球情報数理科学専攻・相関理化学専攻
平成 12 年 4 月　大学院総合基礎科学研究科博士後期課程開設に伴い，修士課程を博士前期課程とする
平成 13 年 4 月　文理学部中国文学科を中国語中国文化学科，応用数学科を情報システム解析学科に学科名称変更
平成 13 年 11 月　文理学部創設 100 周年記念式典挙行
平成 14 年 4 月　文理学部独文学科をドイツ文学科に学科名称変更
大学院文学研究科独文学専攻（博士前期課程，博士後期課程）をドイツ文学専攻に専攻名称変更
平成 16 年 4 月　文理学部物理生命システム科学科を設置し，応用物理学科は学生募集停止
大学院文学研究科東洋史学専攻（博士後期課程）を外国史専攻に専攻名称変更
平成 22 年 6 月　文理学部応用物理学科廃止
平成 25 年 4 月　文理学部社会福祉学科を設置
文理学部情報システム解析学科を情報科学科に学科名称変更
平成 28 年 4 月　文理学部地球システム科学科を地球科学科に学科名称変更
文理学部物理生命システム科学科を生命科学科に学科名称変更

文理学部の目指す教育

日本大学の教育の理念「自主創造」のもと，文理学部では「文」と「理」の融合を特色とした教育と研究を行っています。とりわけ，総合的・学際的な教育を基礎として，教養教育と専門教育を有機的に結びつける教育を目指します。

文理学部の教育目標は，グローバル化した21世紀を生き抜き，国内外で専門的知識を活かし，自由でしなやかに社会をリードしていく多様性を持ち，意欲的で個性的な学生を養成することにあります。新たな「知」の再構築が求められている現代社会で，ゆるぎない信念と未来への希望をもって「質の高い教育」と「きめ細かな学修支援」を実現します。

文理学部の教育方針には，次の三つが挙げられます。

1　大学教育の「質」の保証
2　少人数教育による学生の個性を活かした指導
3　実社会で専門的知識を活かせる人材の養成

平成29年4月に「日本大学教育憲章」が施行されました。これをもとに，文理学部の学生が目指す人間像が明確化され，知識だけではなく，8つの汎用的能力を身に付けることが求められています。そのため，令和2年度からの現行カリキュラムでは，日本大学教育憲章に基づいて改定された「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー／DP)」，「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー／CP)」と各科目の整合性・関係性を検証し，どの学科のどの学生でも無理なく8つの汎用的能力を身に付けることができるような実質的，かつ，体系的な教育課程を実現しています。

文理学部の教育内容の特色は以下のとおりです。

⑴　総合教育科目は，基礎的・基本的な総合教育科目からなる総合Ⅰ群と，学際的・時事的な総合教育科目からなる総合Ⅱ群に加え，教員や学生による公募制科目群（プロジェクト教育科目），英語による授業（国際日本学），国際社会で通用するための人材養成のために新規に設置された「アカデミック・ライティング」などを含む総合Ⅲ群からなり，文理学部ならではの多彩な科目群を構成しています。

⑵　外国語教育科目は英語において「習熟度別クラス授業」を行い，きめ細やかな学習指導によって，学習の向上を図ります。英語以外にも，ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・韓国語／朝鮮語・ロシア語と幅広く開講されていることも文理学部の特徴です。これら言語の履修効果を高めるために，パソコンの活用，ネイティブ教員の充実に加え，各種語学検定試験による単位認定制度，海外語学研修も実施されます。さらに，国際社会の多様性を考慮し，同一言語による単位修得のほか，二言語修得も可能としています。

⑶　基礎教育科目の「情報リテラシー」においては，インターネットやメールの使い方，コンプライアンス，情報検索技術，著作権や知的財産権の基礎などの学習リテラシーの修得を，健康・スポーツ教育科目では，知識と実践をとおして，心身の健康と体力・運動技能の向上を目指します。

⑷　学科専門科目は各学科の専任教員によるゼミ・演習・卒論指導などを通じた少人数教育によるきめ細かな指導によって，学生の個性を引き出す教育を行います。学科が専門科目で身に着く「知識」と「能力」の視点から常にカリキュラムを管理し，改善に努める体制を整えています。

⑸　全学共通教育科目である「自主創造の基礎」は学科毎に開講されるものを受講することとなりますが，「ワールドカフェ」など日本大学ならではのスケールメリットを活かした貴重な学習機会が提供されています。

⑹　卒業後を見据えた資格の取得などに関わるコース科目群としては「教職」「司書教諭」「司書」「学芸員」「社会教育主事」「日本語教育」各コースがあります。これらコースの他，各学科で資格認定を受けている資格（社会調査士，GIS学施士，測量士補，社会福祉士，公認心理師など）もあり，社会で活躍するプロフェッショナルな職業人の養成を目指します。

以上のような特色ある教育内容の充実によって，文理学部は，学生のみなさんの学習への興味・関心を喚起しながら，自主的な学習への取り組みを支援する教育体制作りに努力しています。

学則は，あなたが卒業するまでの学校生活で必要な修学上の規則が定められています。

以下からアクセスし，必ず確認してください。

https://chs.nihon-u.ac.jp/about/information/regulations/

文理学部の基本的な考え

日本大学文理学部は基本的人権を重んじ，
学内における差別やいじめ，ハラスメントに断固として対処します

私たちの社会には，残念ながら，まだまだ多くの差別やいじめ，ハラスメント[1]が存在します。それらの行為はまぎれもなく人権侵害であり，決して許されるものではありません。しかし，根絶できないのは，その行為が人権侵害にあたるという自覚がない，差別やいじめであるという認識すらないままに放置されている事例が多いからです。

日本大学文理学部は，人文科学，社会科学，理学の 18 学科を組み合わせた高等教育機関です。大学は，教員・職員・学生といった立場の違いに加えて，年齢，性別，性的指向，障がいや病歴，出身，宗教，国籍，民族，人種など，さまざまな異なる属性をもった人たちが集まり，学び合う場所です。同時にそこでは評価や選抜が行われ，競争原理が働いています。そもそも学校とは差別やいじめ，ハラスメントが発生しやすい環境でもあるのです。

だからこそ，あえて強く主張します。日本大学文理学部は基本的人権を重んじ，差別やいじめ，ハラスメントに断固として対処します。人権侵害を絶対に認めません。

日本国憲法第 11 条には，「基本的人権」について以下のように規定されています。「国民は，すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は，侵すことのできない永久の権利として，現在及び将来の国民に与へられる」。また，第 14 条には「すべて国民は，法の下に平等であって，人種，信条，性別，社会的身分又は門地により，政治的，経済的又は社会的関係において，差別されない」と規定されています。第 97 条には「基本的人権」の背景について，「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」であり，「現在及び将来の国民に対し，侵すことのできない永久の権利として信託された」と書かれています。

具体的に「基本的人権」には，幸福を追求する権利や法の下の平等という包括的な基本権がまず根底にあり，その上に精神や身体の自由，居住・移転の自由，移動や国籍離脱の自由，職業選択の自由，財産の権利，平和的生存権などがふくまれています。少なくとも，この考え方は国民であると否とにかかわらず，人間に対して広く世界的な普遍性を有しています。

加害者にも「基本的人権」があり，それは尊重されるべきものです。しかし，それは「公共の福祉」という観点から，ある人の権利の行使が他の人の権利を侵害しないことが前提となります。心の自由は保障されますが，言論や表現の自由の名のもとに，差別発言やそれに類する言動を公にすることは許されるものではないのです。一息おいて相手の立場になって考える。お互いの「基本的人権」を尊重し，多様性を認めながら，共に生きる社会の実現を目指していきましょう。この考えを無視した行為が見出された時は，学部として必要に応じた処置を行うことを宣言します。

---

[1] ハラスメントには，セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント，アカデミック・ハラスメントなどさまざまなものがあります。なかでもモラル・ハラスメントが最近では注目されています。モラル・ハラスメントとは，相手の非や失敗を叱責する際に，感情の制御ができないまま相手を追いつめ，人格を否定するかのような言動を取ることを指します。教育機関である以上，注意や叱責，説諭の場面が多くあるがゆえに，自覚のないままにモラル・ハラスメントに陥ることがあります。教職員も学生も指導的立場についたときはとりわけ注意してください。

日本大学文理学部ダイバーシティ推進宣言

日本大学文理学部は、「自主創造」を教育理念とする日本大学において、グローバル化した 21 世紀に、自由でしなやかに社会をリードすることができる多様性とアイデンティティ（Diversity and Identities）を形成することをめざしています。

本学部は学生・生徒、専任・非専任の教職員等からなる構成員がダイバーシティ&エクイティ&インクルージョン（Diversity and Equity and Inclusion）を推進するために、それぞれがお互いの人権を尊重しつつ、学業、教育、研究、業務、社会活動等に従事できる環境の実現のためにこの宣言を定めます。

誰もが自身と異なる多様な価値観や在り方を相互に尊重し合い、全員参加で共生社会の形成に向けて多様性とアイデンティティを活かしてイノベーションを行い、社会貢献を果たすため、本学部は以下の取り組みを行ってダイバーシティ推進を図っていきます。

【キャンパスづくり】構成員一人ひとりが性別・性的指向・性自認・性表現、年齢、障害、病歴、家庭環境、国籍、言語・エスニシティ、宗教・信条等によって差別を受けることなく、共に学び、共に働くことができるキャンパスをつくります。

【組織づくり】様々な背景を持つ構成員が協働しながら、多様な人々が等しく参画できるように、参加者の多様性と、価値観を尊重し合える組織づくりを進めます。

【支援体制整備・理解促進】配慮を必要とする構成員に対する支援体制を整備するとともに、ダイバーシティ推進に関する理解促進に取り組みます。

【社会発信・人材育成】ダイバーシティ推進の重要性を社会に発信していくとともに、それを担う人材の育成を通して、社会に貢献します。

日本大学文理学部ダイバーシティ推進ガイドライン

1. ダイバーシティ推進の目的と方向について

日本大学文理学部（以下、本学部）は、「自主創造」を教育理念とする日本大学において、グローバル化した 21 世紀を通して、自由でしなやかに社会をリードすることができる多様性とアイデンティティ（Diversity and Identities）を形成することを「教育研究上の目的」に掲げています。そのため本学部ではダイバーシティ推進宣言を定め、学生・教職員等からなる構成員により、キャンパスづくり、組織づくり、支援体制整備・理解促進、社会発信・人材育成等を進めます。

本ガイドラインは、本学部においてダイバーシティ推進を図るための方向を示すものであり、構成員全員でダイバーシティ推進に取り組んでいく指針として作成されました。

※なお、付属櫻丘高等学校のダイバーシティ推進のためのガイドラインについては、別に定めます。

2. ダイバーシティ推進の取り組みについて

（1）男女共同参画

本学部は、全ての構成員が性別・年齢にかかわらず能力を発揮して大学の諸活動に参画できる男女共同参画に取り組んでいます。性別による固定的な役割分担や役割意識をなくし、今後さらに中枢的・指導的ポストへの女性の積極的登用を進めるとともに、若手女性研究者支援や部門／学科ごとの教職員のジェンダーバランスの適正化を進めていきます。ジェンダード・イノベーションについて啓発し、人材の育成や教育、研究、社会活動等の充実を図ります。また、性差別・性暴力・セクシャルハラスメントを許さず、加害者にも被害者にもなることのないように啓発を進めます。

（2）性的マイノリティ

本学部は LGBTQ 等の性的マイノリティの当事者が多数在籍していることを認識し、性的マイノリティに対する差別を許しません。また当事者のニーズについて共通認識をもち、充分な支援体制を構築するよう各部門等で連携して対応を進めていきます。今般、本学部では教職員の親睦団体「ひさご会」の慶弔規程を同性パートナーにも適用するようにしました。今後も SOGI（Sexual Orientation and Gender Identity、性的指向・性自認）にかかわらず、全ての構成員が尊重されるキャンパスを目指して、授業や研修等による啓発を進め制度化を推進していきます。

（3）留学生／国外にルーツのある構成員

本学部には様々な国や地域からの留学生や国外にルーツを持つ構成員が多数在籍しています。本学部は構成員がそれぞれの文化的背景に誇りを持って過ごせる環境を整え、多様性を活かして教育、研究、社会活動等にさらに活躍できるキャンパスの実現をめざします。本学部には教育研究環境の国際化に寄与し、多文化共生を推進することを目的とする「日本大学文理学部グローバル教育研究センター」（通称「GREC」）が設置されており、さらに外国語による交流を進めるとともに、明瞭なわかりやすい日本語の使用に努める等、グローバル社会で活躍する人材の育成に努めます。本学部はまた、ヘイトスピーチを許しません。

（4）障害者

本学部は障害者の権利を尊重します。すべての教職員が「日本大学文理学部障がい学生支援ガイドライン」等に基づき、障害者の修学支援に積極的に取り組み、学生支援室では配慮が必要な学生からの申請を受け、合理的配慮を行っています。また、障害のある教職員もともに生き生きと働ける職場環境の創出に努力しています。キャンパス内でのスロープやだれでもトイレの整備をはじめとするバリアフリーを推進してきましたが、今後もさらに進めます。本学部ではこれまでも障害理解を図ってきましたが、さらなる理解啓発に取り組みます。

（5）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

本学部は仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）がとれる教職員の勤務環境整備に取り組んでいます。教職員の勤務状況や業務遂行上の課題を検討し、業務効率化や DX（Digital Transformation）を進めて長時間労働の是正に取り組んできました。今後、男女の教職員が仕事と育児、介護等ケアワークの両立を無理なく行い、さらに充実した生活を送ることのできる体制を整えていきます。また、学生の学習と生活課題の把握を通じて、学習環境が厳しい学生への支援をさらに充実させます。

（6）氏名権の尊重

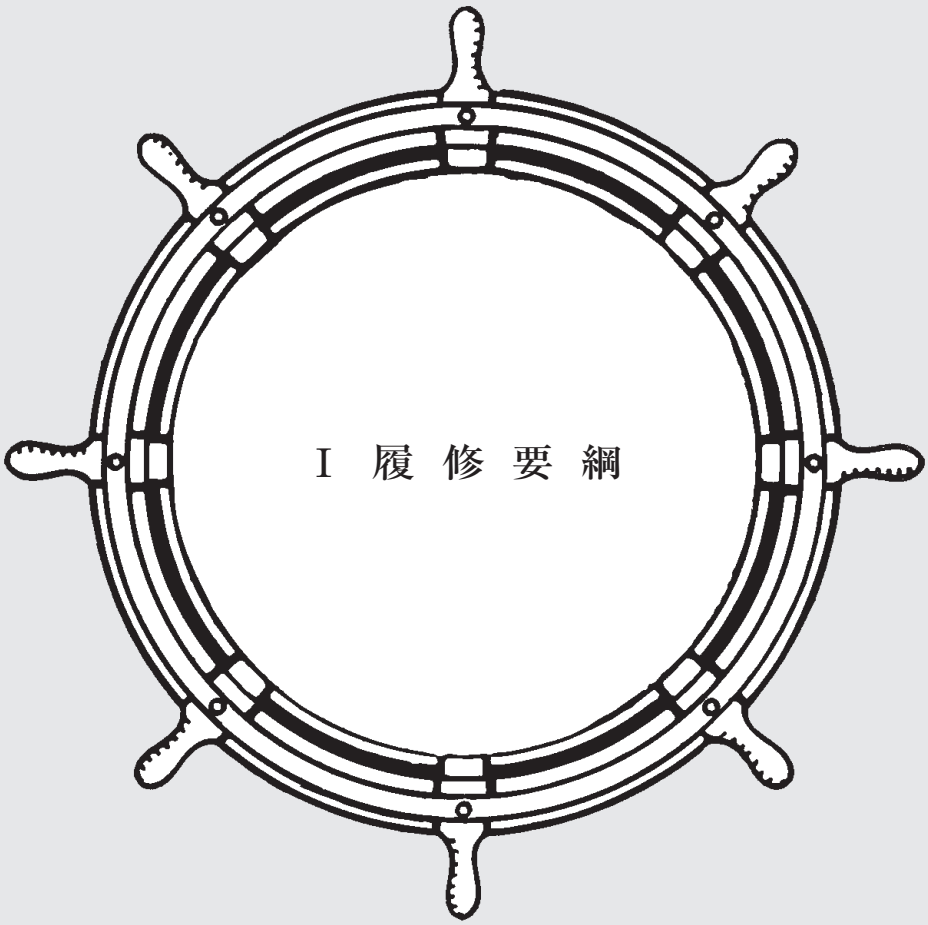
本学部は氏名権の尊重に努めます。名前は個人のアイデンティティを表現するものであり、適切な名前でキャンパスライフを送ることは、構成員の人権保障の基本となります。本学部では従来から教職員・学生の通称使用を可能としてきましたが、さらに外国籍学生等の名前表記の適正化を進めます。

3. ダイバーシティ推進の今後について

ダイバーシティ推進に取り組んでいくためには、全構成員の理解と協働が欠かせません。学部一体となってダイバーシティ推進に取り組んでいきます。そのためには、学部の現状を踏まえた啓発活動に重点的に取り組みます。授業や SD 研修・FD 研修等による理解促進や、図書館の特設コーナー等による情報発信によって、さらなる共通理解を図り、望ましい共生の支援体制の構築を進めます。差別を許さず、悪質な案件には厳正な対応を取るとともに、マイクロアグレッション（＊）のないキャンパスづくりに努めます。

本ガイドラインを参照しながら、構成員一人ひとりがダイバーシティ推進に取り組んでいくために、今後も本ガイドラインは定期的に見直しを図ります。

※1　マイクロアグレッション：本人に意図のない差別的な言動や行動のこと



Ⅰ 履 修 要 綱

授業科目履修の概要

文理学部における履修方法，卒業に必要な最低単位数及び授業科目等は，次のとおりです。
各事項に注意して履修計画を立ててください。

1　授業科目区分

文理学部で開講する授業科目は，6 つの科目区分のいずれかに設置されています。

科目区分		科目区分の概要
全学共通教育科目		「自主創造型パーソン」を育成するために必要な「自主」性を涵養し，「創造」性への導入を目指した全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」を全学部において1年次に展開しています。日本大学の学生一人ひとりが「自主性」と「創造性」に根ざした「将来目標を設定する意識付け」「学ぶ目的の意識付け」をできるよう設置しています。「自主創造の基礎」は1年次の必修となります。
総合教育科目	総合Ⅰ群 総合Ⅱ群 総合Ⅲ群	時代の変化にとらわれず，本学の学生が広く修得すべき「基礎的・基本的な総合教育科目」（総合Ⅰ群）と「学術的・時事的な総合教育科目」（総合Ⅱ群）の他，学生の多様なニーズに対応し，教員や学生が自由に設定できる公募制科目群（プロジェクト教育科目），本学部の豊富な人材リソースを活用し，卒業後のスキルアップを目指すキャリア教育科目群，国際社会で活躍する人材養成のための国際教養科目群（総合Ⅲ群）が開講されています。国際教養科目群は「国際日本学」，「アカデミック・ライティング」，「日本語教育関連科目」から構成されています。
外国語教育科目		英語，ドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，韓国語／朝鮮語，ロシア語によって構成されています。英語科目のうち，「英語1～8」は，習熟度別クラス授業を行っています。基礎レベルから高度な能力の養成や実践的な技能習得のための科目まで幅広く設置されています。また，外国人留学生用に日本語がレベル別に開講されています。
基礎教育科目	健康・スポーツ教育科目	講義科目である「健康・スポーツ教育論」は，オムニバス形式で異なる分野の教員による多角的な視点から健康・体育・スポーツに関する講義を行います。実技科目である「健康・スポーツ教育実習」はフィットネス，レクリエーションスポーツ，トレーニング，ボールゲーム，アウトドアに類する科目が設置されています。
	コンピュータ科目	情報化社会に対応する知識及び基本ソフトウェアの実践的な技能を修得するための科目群によって構成されています。科目群の中に示されている「情報リテラシー」は，大学での学修に求められるICT活用の基本的能力を養うことを目的とし1年次の必修科目となります。
学科専門科目		学科専門科目は，各学科の専門的な科目によって構成されています。
コース科目		各種資格取得に結びつく「教職」「司書教諭」「司書」「学芸員」「社会教育主事」「日本語教育」の6コースから構成されています。

2　授業時間

授業時間（1 コマ 90 分）は次のとおりです。

	1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限	6時限
学　部	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:10～ 13:00	13:00～ 14:30	14:40～ 16:10	16:20～ 17:50	18:00～ 19:30

3　履修方法

文理学部を卒業するためには，原則として，本学部に設置してある授業科目を履修し，所属学科が定める各種条件を満たし，卒業に必要な単位数以上を修得することが必要です。入学年度の「学部要覧」に従い，卒業に必要な単位数を必ず確認してください。また，科目によって履修条件が定められている場合があるので授業科目の選択に当たっては，シラバス（授業計画）及び授業時間割表を参照してください。卒業条件の詳細については，所属学科の「学科カリキュラム」（68 ～ 139 ページ）及びガイダンスで配布される履修に関する注意事項等を確認してください。

卒業に必要な最低単位数

科目区分 / 学科	全学共通教育科目	総合教育科目	外国語教育科目	基礎教育科目	学科専門科目			自由選択区分	卒業に必要な単位数
					必修	選択	計		
哲学科	2	16	8	5	28	42	70	23	124
史学科	2	16	8	5	12	54	66	27	124
国文学科	2	16	8	5	30	30	60	33	124
中国語中国文化学科	2	16	18	5	10	48	58	25	124
英文学科	2	16	16	5	48	14	62	23	124
ドイツ文学科	2	16	16	5	22	38	60	25	124
社会学科	2	16	8	5	18	52	70	23	124
社会福祉学科	2	16	8	5	32	31	63	30	124
※社会福祉士国家試験受験資格を取得する場合	2	16	8	5	32	58	90	3	124
教育学科	2	16	8	5	30	26	56	37	124
体育学科	2	16	8	5	16	52	68	25	124
心理学科	2	16	8	5	32	34	66	27	124
地理学科	2	16	8	5	38	36	74	19	124
地球科学科　地球環境学総合プログラム	2	16	8	5	24	49	73	20	124
地球科学科　地球環境学プログラム	2	16	8	5	24	53	77	16	124
数学科	2	16	8	5	30	35	65	28	124
情報科学科	2	16	8	5	20	58	78	15	124
物理学科	2	16	8	5	66	12	78	15	124
生命科学科	2	16	8	5	57	20	77	16	124
化学科	2	16	8	5	52	24	76	17	124

①　全学共通教育科目

「自主創造の基礎」（2 単位）を修得しなければなりません。1 年次の必修科目です。履修については，**所属している学科で開講している「自主創造の基礎」を履修してください**。他学科の「自主創造の基礎」を履修することはできません。「日本を考える」（2 単位）は文理学部では開講いたしません。履修を希望する場合は，教務課へお問い合わせください。

②　総合教育科目

卒業に必要な単位として，総合教育科目から 16 単位以上を修得しなければなりません。ただし，その中には人文系 2 単位，社会系 2 単位，理学系 2 単位をそれぞれ含む必要があります。また，16 単位を超えて修得した単位数のうち 24 単位（合計 40 単位）までは「自由選択区分」に算入することができます。（※ 40 単位より多く単位を修得しても，卒業に必要な単位として算入できません。）

総合教育科目は原則，半期開講の科目です（日本語教育実習のみ通年開講）。したがって，前学期・後学期に開講されている科目を自分の関心や目的に合わせて履修することができます。抽選対象科目も多いので，履修に当たってはシラバスを参照の上，無理のない履修計画を立ててください。

③　外国語教育科目

中国語中国文化学科においては「中国語 1 ～ 14」（14 単位），英文学科においては「英語 1 ～ 12」（12 単位），ドイツ文学科においては「ドイツ語 1 ～ 12」（12 単位）を必修外国語として修得し，選択外国語として必修外国語以外のいずれか 1 言語の中から 4 単位以上を修得しなければなりません。

その他の学科においては，定められた開講科目の中からいずれか 1 言語若しくは 2 言語（各言語 4 単位以上）8 単位以上を修得しなければなりません。

④　基礎教育科目

■健康・スポーツ教育科目

「健康・スポーツ教育**論**」（2 単位）及び「健康・スポーツ教育**実習 1**」（1 単位），合計 3 単位を修得しなければなりません。

■コンピュータ科目

「情報リテラシー」（2 単位）を修得しなければなりません。

⑤　学科専門科目

各学科に定められた履修方法に基づき，所定の単位数以上を修得しなければなりません。

所属学科の「学科カリキュラム」（68 ～ 139 ページ）を参照してください。

■卒業論文・卒業研究等

卒業論文・卒業研究等は，必修科目としている学科と選択科目（選択必修科目を含む）としている学科に大別され，科目名称も学科によって異なります。詳細は，各学科のページを参照し，ガイダンスで配布されている履修に関する注意事項等を熟読してください。

卒業論文は，指導教員の指導のもと論文を完成し，卒業論文口述試験に合格しなければなりません。**学科によっては，卒業論文・卒業研究等に着手するために 2・3 年次終了までの修得単位・科目等に制限・条件等を設けている場合がありますので，注意してください。**

⑥　自由選択区分

上記①～⑤の科目区分で修得しなければならない最低の単位数とは別に，自由選択区分として各学科の履修指導により修得しなければならない単位数があります。**自由選択区分とは，全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，所属の学科専門科目それぞれで卒業に必要な単位数を超えた科目及び他の学科の専門科目，各コースの履修届を教務課に提出し，許可を得て履修したコース科目 (一部の科目を除く) を修得した単位を算入するものです。**

総合教育科目は，自由選択区分として 24 単位，卒業に必要な 16 単位と併せて，合計 40 単位までしか卒業に必要な単位に含むことができません。

なお，自由選択区分に当たる科目が別に設置されているわけではありませんので注意してください。自由選択区分に当たる科目の必要単位数については，所属学科の「学科カリキュラム」（68 ～ 139 ページ）を参照してください。

〈例〉 詳細は『学部要覧』の所属学科の「学科カリキュラム」（68 ～ 139 ページ）を参照してください。

	全学共通教育科目	総合教育科目	外国語教育科目	基礎教育科目		学科専門科目	自由選択区分	合計
				健康・スポーツ教育科目	コンピュータ科目			
卒業に必要な単位数	2	16	8	3	2	70	23	124
	この各科目区分で，卒業に必要な単位数を超えた単位を修得した場合は，自由選択区分に算入する。 ただし，自由選択区分に算入することができる総合教育科目は 24 単位を上限とする。							
修得単位数	2	38	10	3	2	72		127
修得した単位のうち，自由選択区分に算入する単位数	0	22	2	0	0	2		
	2	16	8	3	2	70	26	127

⑦　コース科目（教職コース・司書教諭コース・司書コース・学芸員コース・社会教育主事コース・日本語教育コース）

各学科共通で履修することができる科目です。ただし，コース科目を履修するために，選考試験や様々な条件がありますので，該当する「コース科目」（140 ～ 177 ページ）を参照してください。

【コース科目の取扱】

各コースの履修届を教務課，教職センター（教職コース）又はグローバル教育研究センター（日本語教育コース）に提出し，許可を得て履修したコース科目（各教科教育法Ⅰ～Ⅳ，教育実習事前・事後指導，教育実習Ⅰ・Ⅱ，教職実践演習（中・高）を除く）を修得した場合，卒業に必要な単位数（31 ページ）の所属学科の自由選択区分を修得したものとみなすことができます。

各コースの履修届を教務課，教職センター（教職コース）又はグローバル教育研究センター（日本語教育コース）に提出し，許可をされたコース科目（各教科教育法Ⅰ～Ⅳ，教育実習事前・事後指導，教育実習Ⅰ・Ⅱ，教職実践演習（中・高）を除く）は，全て GPA の算出対象科目になります。GPA の詳細については，「13　GPA」（39 ページ）を参照してください。

⑧　履修年次（配当年次）

授業科目には全て履修年次（配当年次）が定められていますので，必ずその指定に従ってください。

当該年次が履修年次（配当年次）に達していない科目を履修することはできません。なお，仮に試験を受けて合格しても単位は修得できませんので，注意してください。

⑨　履修の特例

次の⑴～⑷に該当する授業科目は，必ずその指示に従って履修してください。

また，該当する科目については，本学部要覧，授業時間割，シラバス（授業計画），配布物等を参照してください。

⑴　クラス指定の科目

外国語教育科目の一部や基礎教育科目など，受講クラスを指定している科目があります。これは，その授業科目の形態・方法及び学習効果の向上などに配慮するものですので，必ず当該クラスの時間帯で履修してください。

科目区分		配当年次	科目名	備考
外国語教育		1	英語1～4	
		2	英語5～8	
			中国語	一部の科目
			ドイツ語	一部の科目
基礎教育	健康・スポーツ教育	1	健康・スポーツ教育論	学科指定
		1	健康・スポーツ教育実習1	体育学科：クラス指定 体育学科以外：種目選択
	コンピュータ	1	情報リテラシー	

※上記のほか，必要に応じてクラス指定する科目があるので，授業時間割等で確認すること。

授業時間割の科目名の欄に『科目名（○○組）』等と記載してありますので，確認して受講すること。

（授業時間割参照⇒⇒⇒）

総合教育科目（例）

	1時限　9:00～10:30						2時限　10:40～12:10					
	履修期	学年	コード	科目名	教員名	教室	履修期	学年	コード	科目名	教員名	教室
	前学期	1	01111	法学（1・10・20・30組）	AA	421	前学期	1	01121	法学（5・15・25・35組）	AA	421
	後学期	1	01112	憲法（1・10・20・30組）	BB	421	後学期	1	01122	憲法（5・15・25・35組）	BB	421
	前学期	1	01113	哲学1	CC	3301	前学期	1	01123	哲学1	CC	3301
	後学期	1	01114	哲学2	CC	3301	後学期	1	01124	哲学2	CC	3301
	前学期	1	01115	倫理学1	EE	3302	前学期	1	01125	記号と文化1	FF	431
	後学期	1	01116	倫理学2	EE	3302	後学期	1	01126	記号と文化2	FF	431
	前学期						前学期					
	後学期						後学期					

⑵ **定員制の授業科目**

コンピュータ科目は，PC 設置教室を使用するため授業ごとに定員を設けてあります。

履修の受け付けについては，ガイダンス時に説明します。

その他の科目でも，受講希望者数が教室の座席数を超えた場合に履修人数を制限することがあります。このような場合は，第 1 ～ 2 回目の授業時に科目担当教員の判断（判断基準例は以下の①～⑤）により，受講者数の制限（抽選）を行います。

〈優先して受講を認める判断基準例〉

① シラバス（授業計画）の履修条件に該当する学生。

② クラス指定，学生番号指定の科目は，それに該当する学生。

③ 配当年次に該当する学生。

④ 資格取得（教職コース等）に係る科目は，それに該当する学生。

⑤ その他，当該科目を履修しなければならない条件等に該当する学生。

履修制限の結果，受講希望の科目を履修できなくなった学生は，他の科目を履修するなどの方策をとってください。

⑶ **履修条件，先修条件がある科目**

開講科目のうち，一部の科目で履修条件や先修条件が設定されています。

学科専門科目は，所属学科の「学科カリキュラム」（68 ～ 139 ページ）を参照してください。それ以外の科目は，シラバス（授業計画）やガイダンス時に配布される履修に関する資料等で確認してください。

⑷ **コース科目の履修について**

文理学部で開講している「教職コース」・「司書教諭コース」・「司書コース」・「学芸員コース」・「社会教育主事コース」・「日本語教育コース」の科目を履修登録するためには，事前に各コース履修届を各学期の始めに教務課，教職センター（教職コース）又はグローバル教育研究センター（日本語教育コース）に提出し，許可を得なければなりません。

⑩ **相互履修**

日本大学学則第 37 条第 2 項の規定に基づき，文理学部と他学部の間で授業科目を履修できる制度です。文理学部学生が他学部の授業科目を履修する場合，次の⑴～⑽を熟読の上，履修手続きをしてください。

⑴ 履修できる学生は，2 年生～ 4 年生。
ただし，文理学部の履修状況が著しく悪い者は許可しない場合があります。

⑵ 履修できる単位数は，1 年間 12 単位までとします。
ただし，卒業までに合計 30 単位を超えることができません。

⑶ 相互履修で修得した単位は，当該年度の単位として扱われ，自由選択区分に算入します。

⑷ 相互履修で修得した単位は，卒業に必要な単位として扱われます。

⑸ 相互履修科目の時間割は，4 月上旬に教務課窓口で閲覧できます。

⑹ 履修する際は，文理学部の時間割，通学時間（移動時間）を十分考慮してください。

⑺ 履修登録は，受入れ学部の教務課窓口で行います。

⑻ 相互履修科目の休講，試験（追試験，再試験を含む）の実施等は，受入れ学部の指示によりますので，必ず当該学部の教務課の指示に従ってください。

⑼ 相互履修開講科目は，毎年度異なります。

⑽ 上記のほか，相互履修科目の履修に関わる一切の事項は，受入れ学部の規定に準じて実施されますので，必ずその指示に従ってください。

4　再履修に関する取り扱い

再履修については，次のとおり取り扱います。

前学期に履修した科目と同一名称科目を，同一年度の後学期に履修することはできません。

ただし，学科専門科目において，学科が教育効果を高めるために必要と判断し，かつ，学科により履修者数がコントロールできる場合に限り，例外措置を認めることがあります。

5　履修科目登録単位数の上限

文理学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために，年間で履修登録できる単位数の上限を定めています。

履修登録できる科目の合計単位数は，年間 40 単位を上限とします。

〈注意〉履修登録できる科目の合計単位数です。修得した合計単位数ではありません。

ただし，次の科目については，40 単位の上限に含みません。

① 外国語教育科目

授業時間割表の科目名に（逆）と表記のある「中国語 1（逆)」「中国語 3（逆)」「中国語 5（逆)」「中国語 7（逆)」「中国語 9（逆)」「中国語 11（逆)」「中国語 13（逆)」の再履修科目

② 不定期に開講する授業（休暇中に行われる集中授業等）

③ 海外語学研修，海外文化交流

④ コース科目

以下のコース科目について，コース履修届を提出し，許可を得た者が履修可能です。

⑴ 司書教諭コース科目

「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」

⑵ 司書コース科目

「図書館情報学概論」「図書館制度・経営論」「図書館情報技術論」「図書館サービス概論」「図書館情報資源概論」「図書館基礎特論」「情報資源組織論」「情報サービス論」「情報サービス演習 1・2」「情報資源組織演習 1・2」「図書館情報資源特論」「図書館サービス特論」

⑶ 学芸員コース科目

「博物館概論」「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館資料論」「博物館資料保存論 1・2」「博物館情報・メディア論」「博物館実習 1 ～ 4」

⑷ 社会教育主事コース科目

「社会教育演習 1・2」「社会教育課題研究 1・2」「生涯学習支援論 1・2」「社会教育実習」

⑸ 教職コース科目（各学科共通）（大学が独自に設定する科目以外）

「現代教職論」「教育方法・ICT 活用論」「教育原論」「発達と学習」「特別支援教育概論」「教育課程論」「教育相談」「教育制度論」「教育の社会学」「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」「道徳教育の理論と方法」「生徒指導・進路指導論」「教科教育法Ⅰ～Ⅳ」「教育実習事前・事後指導」「教育実習Ⅰ・Ⅱ」「教職実践演習（中・高)」

⑹ 教職コース科目（学科専門科目）

「化学概論 1・2」「経済学概論」「自然地理学概論」「自然地理学詳論」「書の鑑賞」「書道（漢字)」「書道（かな)」「書道（創作)」「書道（篆刻)」「書道史」「書法 1・2」「書論」「情報と職業」「人文地理学概論」「人文地理学詳論」「政治学概論」「生物学概論 1・2」「地学概論 1・2」「地誌学」「地理学概論」「地理学詳論」「物理学概論 1・2」「文章表現法」「法学通論」「理科実験（化学)」「理科実験（生物)」「理科実験（地学)」「理科実験（物理)」その他各学科免許状に係る他学科専門科目

⑺　教職コース履修上の他学科等が開講するコース科目（学科専門科目）・他学科聴講科目

所属学科の取得希望免許状に必要な他学科等が開講するコース科目（学科専門科目），また他学科の免許状取得を目指す場合の他学科聴講による他学科教科専門科目については，以下の条件を満たす場合，履修科目登録単位数の年間40単位には含まれません。

【条件】

1年次
教職コース及び取得希望免許状の登録のため教職コース履修届を提出し，教職コース1年次配当の「現代教職論」又は「教育方法・ICT活用論（教育学科学生は教授学習論）」を履修していること。
2年次以降
教職コース及び取得希望免許状の登録のため教職コース履修届を提出し，「現代教職論」「教育方法・ICT活用論（教育学科学生は教授学習論）」を修得していること。

⑻　教職コース科目（大学が独自に設定する科目）

教育学科以外の学科

「社会教育論」「教育と福祉」「教育法規論」「教職特別講義」

教育学科

「社会教育論」「教育と福祉」「障害児教育論（中学社会，高校公民のみ）」「教育法規論」「教職特別講義」

⑤　その他，所属学科が必要と認めたもの

所属学科の「学科カリキュラム」（68 ～ 139 ページ）を参照してください。

【特別措置】

①　編入学者・転部（学部間）者・転科者・転籍者については，初年度においては年間で上限10単位まで加算を認めます。

②　以下の成績により単位を修得した者は，上限単位数を超えて履修科目を登録することができます。

⑴　1年次前学期に16単位以上修得し，GPAが2.5以上の場合，1年次後学期において，4単位の加算を認めます。

⑵　前年度に20単位以上修得し，前年度のGPAが3.0以上の場合，年間で8単位の加算を認めます。

⑶　前年度に20単位以上修得し，前年度のGPAが2.5以上の場合，年間で6単位の加算を認めます。

⑷　前年度に20単位以上修得し，前年度のGPAが2.0以上の場合，年間で4単位の加算を認めます。

③　交換派遣留学生・認定留学生は，帰国後の直近の年度に限り上限20単位（留学期間が半期の場合は上限10単位）まで加算を認めます。

④　**前年度に履修し**，再履修となった科目については，年間で上限10単位まで加算を認めます。

※上記条件を2つ以上満たした場合，加算する単位数の多い条件のみ特別措置として適用します。

6　履修登録

履修登録は，当該年度の履修科目の単位を修得するために最も重要な手続きです。履修登録が未登録の場合，授業に出席し，試験に合格しても単位は認められません。細心の注意を払い，定められた期間内に行ってください。

文理学部では，前学期・後学期に分けて履修登録を行います。登録はインターネットを利用した登録システムCHIPSで行います。本学部要覧をはじめ，ガイダンス時に配布される資料や説明をよく理解し，履修登録を行ってください。

なお，『履修中止』という制度を設けています。別途指定した期間内にその手続きを行ってください。

重要

『履修中止』について

履修登録が完了した授業科目で，やむを得ない事由により，当該科目の履修をやめる場合は，所定の期間内に手続きをして許可を得る必要があります。

この手続きを行わずに，試験等を受けなかった場合，不合格科目（D又はE評価）として扱われ，GPAの算定基礎に算入されるので，注意してください。

詳細は，「GPA」（39 ページ）を参照してください。

7　情報掲示板「COMITS2」

時間割や休講・補講，履修登録に関する授業情報をはじめ，学生生活や就職活動等，4 年間の学生生活に不可欠な情報を配信しています。定期的にログインし，各種お知らせや情報を確認してください。利用方法については，「ヘルプ」からユーザーズマニュアルを参照してください。

なお，メール通知設定機能を利用すると，登録したメールアドレスにお知らせ内容が通知されますので，必ず設定をしてください。

8　シラバス（授業計画）

シラバスは，各授業科目の「授業テーマ」「授業のねらい・到達目標」「授業計画」及び「成績評価の方法及び基準」などを記載しています。

閲覧方法は，パソコン等を利用して文理学部ポータルサイトなどから日本大学文理学部シラバスのサイトにアクセスしてください。

9　休暇期間中の集中型授業

科目の性質上，週 1 回で半期又は通年で実施するよりも，集中的に授業を行うことで，その学習効果が上がるものがあります。現在，集中型授業は，夏季休暇期間中，年末年始休暇期間中及び冬季休暇期間中等に実施しています。

ただし，科目によってはこの期間以外に実施する場合がありますので，授業時間割，シラバス等で確認してください（履修登録など，他の科目と手続きが若干異なる場合がありますので，注意してください）。詳細は情報掲示板「COMITS2」や Canvas LMS で確認してください。

なお，年度によって開講しない場合があります。

10　試験

試験の種類については，**試験**，**追試験**があります。

① 授業内試験

授業期間内に行う試験です。試験の方法については，「試験」「レポート」「毎授業の小テスト」等，科目担当教員や授業形態によって異なります。

試験の実施方法については，授業時に科目担当教員から説明を受けてください。またシラバス（授業計画）を参照してください。

② 追試験

病気，その他やむを得ない理由により，定期試験を欠席した場合に実施します。欠席した試験日の翌日から 1 週間以内に，担当教員の許可を得た上で，欠席した理由を証明できる書類※1 と所定用紙（教務課備付）を教務課窓口へ提出してください。この手続きを怠ると受験することができなくなりますので，十分注意してください。

なお，追試験は，所定の手続きを完了しても実施しない場合があります。

※　病院の診断書，治癒証明書や公共交通機関の遅延証明書や事故証明書等公的な書類。

③ 定期試験

定期試験期間に実施する試験です。

重要

試験に当たっての注意事項

1　不正行為とは試験中の次の行為をいう。
- ①　替え玉受験又は身代わり受験
- ②　答案用紙交換行為
- ③　氏名不正記入受験
- ④　複数人が関わる不正行為を主導した場合
- ⑤　カンニングペーパーを使用する行為
- ⑥　机等にあらかじめ書き込みを行う行為
- ⑦　参照を許可されていない教科書，携帯電話等の電子機器等を使用する又は貸借する行為
- ⑧　他人の答案を書き写す行為
- ⑨　答案を持ち出す行為
- ⑩　他人と相談して解答する行為
- ⑪　他人の答案や論文等を盗用する行為
- ⑫　その他，試験監督の指示・注意に従わない行為　等

2　不正行為を行った者は，日本大学学則第 77 条に定める懲戒に付す。

3　2 の処分を受けた者は，その懲戒の種類にかかわらず，当該学期中の履修科目の全てを無効とする。

4　2 の処分を受けた者は，学内に掲示される。

11 成績

授業科目の学業成績は，日本大学学則第 36 条により以下のように判定，表記されます。

① 学業成績の判定

S（100 ～ 90 点），A（89 ～ 80 点），B（79 ～ 70 点），C（69 ～ 60 点），D（59 点以下），E（履修したが成績を示さなかったもの）をもって表記します。

S，A，B，C を合格，D，E を不合格とし，合格した授業科目については，所定の単位数が与えられます。

② 成績評価を係数化する場合は，S，A，B，C 及び D をそれぞれ 4，3，2，1 及び 0 に換算します。

係数化の計算式等は，次項のとおりです。

③ 成績の確認

履修した科目の成績は，CHIPS 上で確認できます。閲覧開始時期等は，情報掲示板「COMITS2」等でお知らせします。

④ 履修成績通知書の送付

本学部では，保証人宛てに修学状況等の報告を目的として，年に 2 回（前学期，後学期各 1 回），履修成績通知書を送付しています。

⑴ 対象者…全学年

⑵ 内容…前年度までに履修した科目全ての評価（S，A，B，C，D），GPA 及び修得単位数

⑶ 送付時期…前学期：毎年 6 月　　送付対象学年　当年度入学者を除く全学年

後学期：毎年 11 月　送付対象学年　全学年

12 成績開示

成績開示時期は，以下のとおりです。CHIPS 上で確認できます。

対象科目	開示時期
前学期（集中授業含む）科目	後学期授業開始1週間前
後学期（集中授業含む）及び通年科目	4年生　2月中旬　　在学生　3月10日頃

13 GPA

GPA は，Grade Point Average の略称で，取得した成績評価に基づいて，係数化された数値を示します。

重要

1　導入の目的

厳格な成績評価，綿密な履修指導による卒業生の質の保証等のために GPA 制度を導入する。

2　成績評価基準

		素　点	評価	係数	内　　容	成績表示
判定	合　格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの	S
		89～80点	A	3	優れた成績を示したもの	A
		79～70点	B	2	妥当と認められたもの	B
		69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したもの	C
	不合格	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの	－
				0	履修登録をしたが成績を示さなかったもの	－
無判定		－	E			
		－	P	－	履修登録後，所定の中止手続きを取ったもの	－
		－	N	－	修得単位として認定になったもの	N

※成績評価は成績表の素点から導き出されますが，履修登録したものの成績を示さなかった場合は，成績表には素点は記載されず，成績評価は E となり，該当する係数は 0 となります。

※成績証明書では合格した科目の成績（S，A，B 及び C）及び認定科目（N）のみ表示します。

3　計算式（算出方法）

① 授業科目担当教員から提出された成績表の素点から評価を導き出し，その評価に該当する係数に各授業科目の単位数を掛けたものがポイント数となり，ポイント数の総計を総履修単位数（D，E の単位数も含める）で除したものが GPA となる。GPA は小数点以下第 3 位を四捨五入し，小数点以下第 2 位までを有効とする。

なお，P（履修中止），N（認定科目）は GPA に算入しない。

【計算式】

$$\frac{(4\times S\text{の修得単位数})+(3\times A\text{の修得単位数})+(2\times B\text{の修得単位数})+(1\times C\text{の修得単位数})}{\text{総履修単位数（D，Eの単位数も含める）}}$$

② GPA 算出の対象科目は，履修した全ての授業科目（「教科教育法Ⅰ～Ⅳ，教育実習事前・事後指導，教育実習Ⅰ・Ⅱ，教職実践演習（中・高）」は除く）とする。

③ GPA は，当該年度の学期（学期の GPA）及び年間（年間の GPA）並びに入学時からの累積（累積の GPA）とする。

④ 通年科目は，学期の GPA 算出の際には後学期の GPA に算入する。

⑤ 授業科目を再履修した場合，累積の GPA 算出の際には最後の履修による成績及び単位数のみを算入するものとし，以前の成績及び単位数は算入しない。

4　履修中止

履修登録の変更・取消し期限以降に履修を中止するときは，学部等の定める手続きによる許可を得て行う。

5　不正行為

定期試験において不正行為を行った場合は，処分を受けた条件に基づき，評価「E」，係数「0」として取り扱う。

6　成績証明書

成績証明書には，原則として累積の GPA を記載する。

14 Canvas LMS（e-Learning システム）

文理学部では令和 6 年から全学共通ラーニング・マネジメントシステムとして，Canvas LMS を運用しています。このシステムは世界でもっとも利用されているもので，インターネット経由で，コンピュータ・スマートフォン・タブレットからいつでもどこからでもアクセスできます。

文理学部の様々な授業で Canvas LMS を利用した授業が実施されており，1 年次必修科目の情報リテラシー授業内で利用方法の説明が行われます。

Canvas LMS には教員からの連絡，授業資料入手，アンケート，テスト，課題提出や掲示板など，様々な学修サポート機能があります。

また，Canvas LMS を利用した教室外授業のメディア授業が開講されており，全ての学修を教室外で実施するフルオンデマンド型授業，教室授業とメディア授業併用のハイブリッド型授業があります。

利用について不明な点は，図書館 1 階インフォメーション・スクウェアの PC アドバイザーまでお尋ねください。

共通カリキュラム

1　総合教育科目（全学科共通）

文理学部における教養教育の中心が総合教育科目です。このカリキュラムは，加速度的に進展する社会の情報化，国際化，流動化に対応しながら，21 世紀の新たな高等教育を構築することを目指しています。

自分の個性や志向で，自主・自立能力や幅広い見識や専門的な技能を身に付け，さらに新しい「知」の創造へ進むことができるよう，授業体系に配慮しています。総合教育科目は，文字どおり「総合」的な知識を身に付けるためのカリキュラムです。

履修年次に制限がある科目もありますので，注意してください。

なお，総合教育科目は，「基礎的・基本的な総合教育科目」であるⅠ群，「学際的・時事的な総合教育科目」であるⅡ群及びプロジェクト教育科目やキャリア教育科目，国際教養科目からなるⅢ群の 3 つに区分されています。

①　履修方法等

科目一覧表にある「総合Ⅰ群」と「総合Ⅱ群」を合わせた科目のなかから人文系，社会系，理学系をそれぞれ 2 単位以上修得し，「総合Ⅰ群」，「総合Ⅱ群」，「総合Ⅲ群」の科目のなかから**合計で 16 単位以上**を修得しなければなりません。卒業に必要な単位数 16 単位を超えて修得した単位数については，**24 単位を上限に「自由選択区分」に算入することができます**。

なお，**卒業に必要な単位数 16 単位と自由選択区分に算入ができる 24 単位を超えて修得した単位数は，卒業に必要な単位数としては算入できません**。（※総合教育科目で 40 単位より多く単位を修得しても，卒業に必要な単位数としては算入できません。）その他，詳細は「授業科目履修の概要」及び各学科専門科目記載ページを参照してください。

総合教育科目は半期開講科目です。したがって，前学期・後学期に開講されている科目を自分の関心や目的に合わせて履修することができます。

②　プロジェクト教育科目

「プロジェクト教育科目」とは，既存の科目などでは学習できない多様な教育内容に関して，教員，文理学部生が自由に企画できる科目です。学生が企画する場合には，開講科目名，担当者（了承を得ていること），20 名以上の受講者名簿（正規に在籍する学生）などを教務課に提出してください。毎年 9 ～ 10 月頃に公募します。

履修の際は「総合研究 1」から履修登録をしてください。なお，「プロジェクト教育科目」（総合研究 1 ～ 8）は，成績表等には総合研究 1，総合研究 2…総合研究 8 として記載されます。

③　キャリア教育科目

「キャリアデザイン」という言葉を知っていますか。進路選択は 3 年生になってからと考えている方も多いかもしれません。しかし，キャリアとは，進学，就職という結果ではなく，人が生涯にわたって辿る軌跡の全てを指します。現在の社会を取り巻く環境は大きな変化の中にあり，価値観も人により全く異なります。

だからこそ，一人ひとりが，暮らし方，学び方，働き方をめぐる社会の仕組みや変化をしっかりと理解し，考え，行動できる力，すなわち自らのキャリアをデザインする力を身に付けていくことが必要となります。

文理学部では総合Ⅲ群にキャリア教育科目を設置しています。「キャリアデザイン」は，対象として企業志望者・教員志望者・公務員志望者に分かれており，職業のあり方や将来の展望について考えることができます。「キャリア・ストレスマネジメント」は，現在から将来にかけてのキャリアの中で想定される様々なストレスについて学び，今後に備えてマネジメントの力を養成することを目指します。「インターンシップ」では，大学での学びと職業の現場での実践的な学びをつなげてキャリアをより現実的に展望します。

自らの興味に応じてこれらを段階的に受講し，就職サポートセンターや教職センターが主催する就職支援行事につなげて参加していくことで，入学時から卒業に向けてスムーズな進路選択と対策ができるようになります。

④　国際教養科目

「国際教養科目」の科目群は，多様化する国際社会にふさわしい知識とスキルを獲得することを目的に設置されています。「国際日本学」「アカデミック・ライティング」「日本語教育関連科目」の３つのカテゴリーがあります。

●国際日本学

⑴　日本研究と国際研究

「日本研究と国際研究」の科目群は，**英語で日本の歴史，社会，文化や地理などについて学ぶ科目**です。

この科目群は，近年増加する海外提携校からの留学生や，留学を考えている学生をはじめ，国際人として日本とアジアの文化と伝統を正しく理解した上でそれを他国の人たちに伝える力を養うことを目的としています。

⑵　国際日本学研究

「国際日本学入門１」「国際日本学入門２」は，**留学生と日本語母語話者の学生が参加し，日本学をテーマに日本語で討議を行う科目**です。討議を通じ，異なる背景を持つ者が相互に理解を深めながら，国際的な感覚を養うことを目的とします。

●アカデミック・ライティング

「アカデミック・ライティング（日本語／英語）1」「アカデミック・ライティング（日本語／英語）2」は，**日本語又は英語で学術的な文書を書くためのスキルを習得するための科目**です。人文系・社会系・理学系の枠を超え，基礎的な学術的文章を書くスキルの習得を目指します。

●日本語教育関連科目

日本語教育関連科目として「日本語教育学入門」「日本語教育のための文法」「教材・教具論」「日本語教育実習」の４科目を設置しており，**日本語を第一言語（母語）としない人に日本語を教えるための基礎的知識やスキルを学ぶ**ことができます。

１年次から履修できます。日本語を第一言語とする学生も，そうでない学生も履修できます。

なお，170 ページ「日本語教育コース（全学科共通）」では，上記日本語教育関連科目をコース必修科目としており，指定された各学科専門科目や教職コース科目から 26 単位以上を修得することで，日本語教育についての基礎的知識とスキルを獲得したことを証明する，日本語教育コースの「修了証書」が交付されます。

■科目一覧表

（〇の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次		1 年	2 年	3 年	4 年	卒業に必要な単位数		卒業単位に算入できる単位数の上限
人文系	総合Ⅰ群	哲学② 論理学② 倫理学② 美学② 宗教学② 歴史学② 考古学② 文学② 言語学② 民俗学②				2単位	16単位	40単位
	総合Ⅱ群	「生きる」ことの哲学② 異文化間コミュニケーション論② 日本の歴史・社会・文化② 欧米の歴史・社会・文化② アジアの歴史・社会・文化② イスラム圏の歴史・社会・文化② 現代思想論② 美術史② 演劇論② 映像文化論② 身体表現論② 音楽文化論② 言語学から見た世界②						
社会系	総合Ⅰ群	法学② 憲法② 社会学② 社会福祉学② 政治学② 経済学② 地理学② 教育学② 心理学② 身体科学②				2単位		
	総合Ⅱ群	デジタル産業革命と社会の変容② 国民国家とグローバル資本主義② 戦後日本の政治② 経済発展と人口変動② 日常生活の中の経済学② 公と私の社会科学② 多文化共生社会を生きる② 少子化・高齢化社会を生きる② 市民社会と法② 労働と労働者の権利② 現代ビジネスと企業の社会的責任② 国際法② 国際情勢② 国際経済論② メディア論② ジェンダー論② スポーツ文化論②						
理学系	総合Ⅰ群	数学② 物理学② 化学② 生命科学② 地球科学② 宇宙科学② 統計学② 情報科学② 科学史②				2単位		
	総合Ⅱ群	人類の進化② データと対話するための統計学② 身のまわりの生命現象② 環境と生命のつながり② ゲノム改変と私たちの生活② 日本の自然と災害② 地球環境の変動と生命史② 身体の健康② 心の健康② 数学を楽しむ② 宇宙を理解する② 原子の世界② 現代社会を支える化学② 現代社会を支える科学技術② 情報とコミュニケーション② 情報と社会② 情報と数理②						
プロジェクト教育科目	総合Ⅲ群	総合研究1② 総合研究2② 総合研究3② 総合研究4② 総合研究5② 総合研究6② 総合研究7② 総合研究8②						
キャリア教育科目		キャリア・ストレスマネジメント② キャリアデザイン②	インターンシップ②					
国際教養科目 国際日本学		（日本研究と国際研究） History of Japan 1② History of Japan 2② Japanese Society 1② Japanese Society 2② Japanese Literature 1② Japanese Literature 2② Japanese Culture 1② Japanese Culture 2② Environmental Geography of Japan 1② Environmental Geography of Japan 2② Japan in the World 1② Japan in the World 2② （国際日本学研究） 国際日本学入門1② 国際日本学入門2②						
国際教養科目 アカデミック・ライティング		アカデミック・ライティング（日本語）1② アカデミック・ライティング（日本語）2② アカデミック・ライティング（英語）1② アカデミック・ライティング（英語）2②						
国際教養科目 日本語教育関連項目		日本語教育学入門② 日本語教育のための文法② 教材・教具論②	日本語教育実習③					

(1) 卒業に必要な単位として，科目一覧表を参考に人文系・社会系・理学系からそれぞれ2単位以上を含めて，合計16単位以上を修得してください。

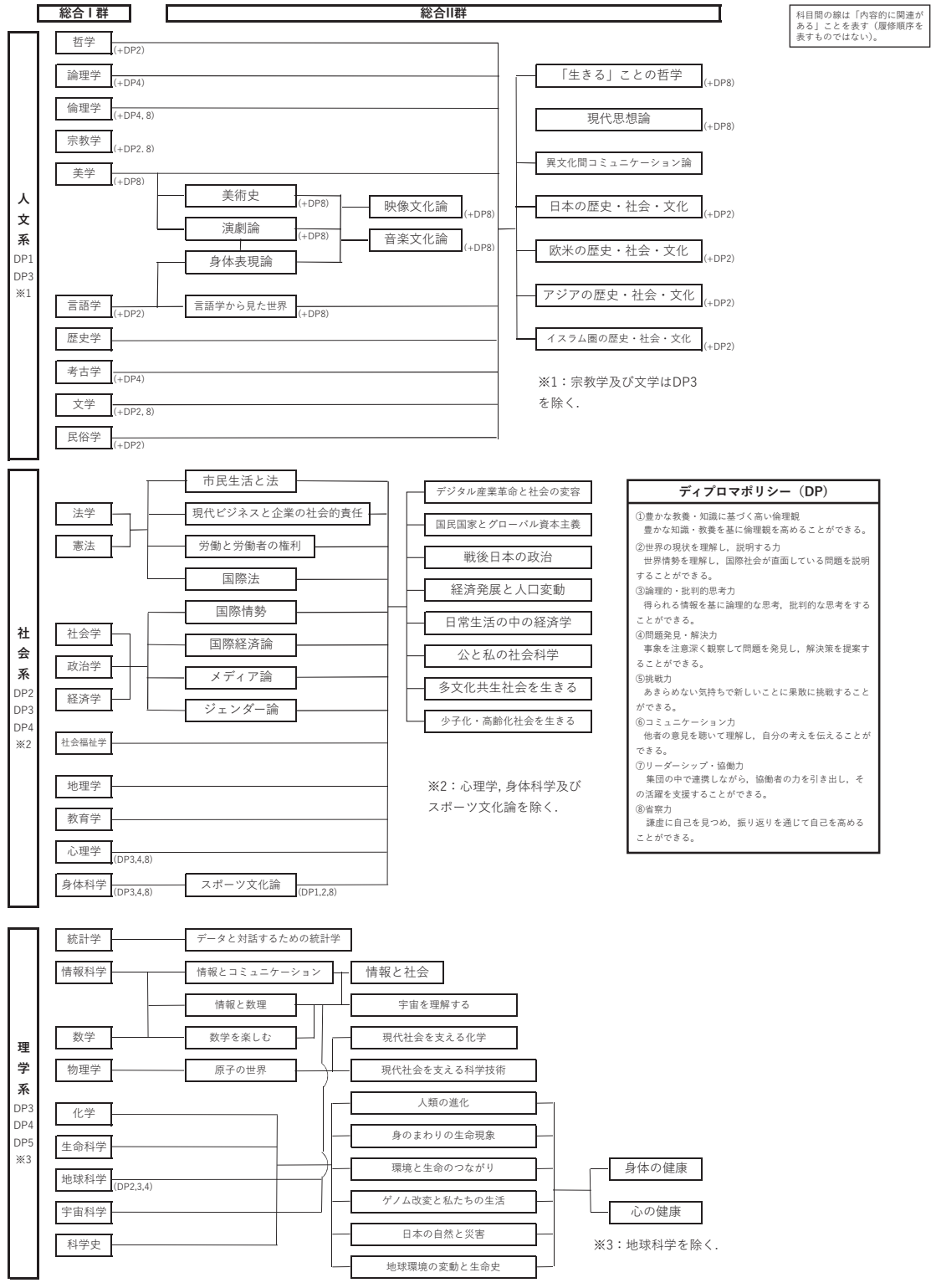
(2) 卒業に必要な単位数（124単位）に算入できる単位数の上限は，(1)の16単位を含めて合計40単位までです。

(3) プロジェクト教育科目は，「総合研究1」から順に履修してください。

(4) 日本語教育関連科目は「日本語教育コース」を構成する科目群となります。日本語教育コースの履修については，170ページ「コース科目」の「日本語教育コース（全学科共通）」を参照してください。

(5) 科目一覧表に記載の科目は，年度により開講しない場合があります。

■履修系統図


総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
科目間の線は「内容的に関連がある」ことを表す（履修順序を表すものではない）。
人文系
DP1
DP3
※1
哲学 (+DP2)
論理学 (+DP4)
倫理学 (+DP4, 8)
宗教学 (+DP2. 8)
美学 (+DP8)
美術史 (+DP8)
演劇論 (+DP8)
身体表現論
映像文化論 (+DP8)
音楽文化論 (+DP8)
言語学 (+DP2)
言語学から見た世界 (+DP8)
歴史学
考古学 (+DP4)
文学 (+DP2, 8)
民俗学 (+DP2)
「生きる」ことの哲学 (+DP8)
現代思想論 (+DP8)
異文化間コミュニケーション論
日本の歴史・社会・文化 (+DP2)
欧米の歴史・社会・文化 (+DP2)
アジアの歴史・社会・文化 (+DP2)
イスラム圏の歴史・社会・文化 (+DP2)
※1：宗教学及び文学はDP3を除く.
社会系
DP2
DP3
DP4
※2
法学
憲法
社会学
政治学
経済学
社会福祉学
地理学
教育学
心理学 (DP3,4,8)
身体科学 (DP3,4,8)
市民生活と法
現代ビジネスと企業の社会的責任
労働と労働者の権利
国際法
国際情勢
国際経済論
メディア論
ジェンダー論
スポーツ文化論 (DP1,2,8)
デジタル産業革命と社会の変容
国民国家とグローバル資本主義
戦後日本の政治
経済発展と人口変動
日常生活の中の経済学
公と私の社会科学
多文化共生社会を生きる
少子化・高齢化社会を生きる
※2：心理学, 身体科学及びスポーツ文化論を除く.
ディプロマポリシー（DP）
①豊かな教養・知識に基づく高い倫理観
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
②世界の現状を理解し，説明する力
世界情勢を理解し，国際社会が直面している問題を説明することができる。
③論理的・批判的思考力
得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
④問題発見・解決力
事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。
⑤挑戦力
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
⑥コミュニケーション力
他者の意見を聴いて理解し，自分の考えを伝えることができる。
⑦リーダーシップ・協働力
集団の中で連携しながら，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
⑧省察力
謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて自己を高めることができる。
理学系
DP3
DP4
DP5
※3
統計学
情報科学
数学
物理学
化学
生命科学
地球科学 (DP2,3,4)
宇宙科学
科学史
データと対話するための統計学
情報とコミュニケーション
情報と数理
数学を楽しむ
原子の世界
情報と社会
宇宙を理解する
現代社会を支える化学
現代社会を支える科学技術
人類の進化
身のまわりの生命現象
環境と生命のつながり
ゲノム改変と私たちの生活
日本の自然と災害
地球環境の変動と生命史
身体の健康
心の健康
※3：地球科学を除く.
総合Ⅲ群 DP1
プロジェクト教育科目
総合教育1～8
キャリア教育科目
キャリア・ストレスマネジメント
キャリアデザイン
インターンシップ
国際教養科目
日本研究と国際研究
History of Japan 1,2
Japanese Society 1,2
Japanese Literature 1,2
Japanese Culture 1,2
Environmental Geography of Japan 1,2
Japan in the World 1,2
国際日本学入門 1,2
アカデミック・ライティング
アカデミック・ライティング（日本語）1,2
アカデミック・ライティング（英語）1, 2
日本語教育関連科目
日本語教育学入門
日本語教育のための文法
教材・教具論
日本語教育実習

2　外国語教育科目（全学科共通）

文理学部の外国語教育科目は，英語，中国語，ドイツ語，フランス語，スペイン語，韓国語／朝鮮語，ロシア語，日本語（外国人留学生のみ）によって構成され，基礎レベルから，高度な能力の養成や実践的な技能習得のための科目まで幅広く開講されています。

それぞれの言語ごとに，科目の概要，授業内容・到達目標，履修方法，検定試験等について記載してありますので，履修計画の際，熟読してください。

外国語教育科目は，卒業要件に必要な区分です。
学科によって履修単位又は履修条件が異なりますので，下表を参考にしてください。

■哲，史，国文，社会，社会福祉，教育，体育，心理，地理，地球科，数，情報科，物理，生命科，化学科

【一言語のみ選択する場合】

学科	科目	卒業に必要な単位
哲，史，国文，社会，社会福祉，教育，体育，心理，地理，地球科，数，情報科，物理，生命科，化学科	英語：英語1～8 ドイツ語：45ページ「卒業に必要な外国語教育科目」に記載のあるドイツ語科目 フランス語：45ページ「卒業に必要な外国語教育科目」に記載のあるフランス語科目 中国語：中国語1～8 スペイン語：スペイン語1～8 韓国語／朝鮮語：韓国語／朝鮮語1～8 ロシア語：ロシア語1～8	8

【二言語を選択する場合】

学科	科目	卒業に必要な単位
哲，史，国文，社会，社会福祉，教育，体育，心理，地理，地球科，数，情報科，物理，生命科，化学科	英語：英語1～4 ドイツ語：ドイツ語1～4，ドイツ語9，10＊ ドイツ語コミュニケーション1・2 フランス語：フランス語1～4，フランス語コミュニカティフ1・2 中国語：中国語1～4 スペイン語：スペイン語1～4 韓国語／朝鮮語：韓国語／朝鮮語1～4 ロシア語：ロシア語1～4	左記から二言語 各4 合計8

◎卒業に必要な外国語として一言語のみを選択する場合は，同一言語で 8 単位，二言語を選択する場合は，それぞれの言語で 4 単位ずつ修得すること。
◎二言語選択の場合は，配当年次が「1 年」又は「1 ～ 4 年」の科目（ただし，英語については英語 1 ～ 4 のみ）を上記 4 単位に含める。
◎＊「ドイツ語 9, 10」はドイツ文学科開講科目だが，他学科の学生もドイツ語技能検定試験対策科目として受講できる。
◎各言語の履修方法は，それぞれの言語のページを参照すること。

■中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科

学科	必修外国語		選択外国語	
	科目	卒業に必要な単位	科目	卒業に必要な単位
中国語中国文化学科	中国語1～14	14	必修外国語以外の言語	4
英文学科	英語1～12	12		
ドイツ文学科	ドイツ語1～12			

◎選択外国語は同一言語を 4 単位修得すること。

◆外国語教育科目には，クラス指定されている科目があります。授業時間割で確認してください。
なお，クラス指定がある場合は，必ず指定されたクラスで履修してください。

【外国人留学生は，以下により履修すること】

■哲，史，国文，社会，社会福祉，教育，体育，心理，地理，地球科，数，情報科，物理，生命科，化学科

学科	科目	卒業に必要な単位
哲，史，国文，社会，社会福祉，教育，体育，心理，地理，地球科，数，情報科，物理，生命科，化学科	日本語1～8 ※日本語初級1～8	8

※「日本語初級 1 ～ 8」は，教務課から指定された学生のみ履修できます。

■中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科

学科	必修外国語		選択外国語	
	科目	卒業に必要な単位	科目	卒業に必要な単位
中国語中国文化学科	中国語1～14	14	日本語1～8 ※日本語初級1～8	4
英文学科	英語1～12	12		
ドイツ文学科	ドイツ語1～12			

※「日本語初級 1 ～ 8」は，教務課から指定された学生のみ履修できます。

◆外国語教育科目には，クラス指定されている科目があります。授業時間割で確認してください。
なお，クラス指定がある場合は，必ず指定されたクラスで履修してください。

■科目一覧表

（〇の中の数字は単位数）

科目区分 ＼ 配当年次		1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数
卒業に必要な外国語教育科目	英語（英文学科を除く）	英語1① 英語2① 英語3① 英語4①	英語5① 英語6① 英語7① 英語8①			8単位
	ドイツ語（ドイツ文学科を除く）	ドイツ語1① ドイツ語2① ドイツ語コミュニケーション1①	ドイツ語3① ドイツ語4① ドイツ語コミュニケーション2①	ドイツ語9①＊ ドイツ語10①＊		
			ドイツ語5① ドイツ語6① ドイツ語コミュニケーション3① ドイツ語講読1① ドイツ語講読2①	ドイツ語7① ドイツ語8① ドイツ語コミュニケーション4① ドイツ語講読3① ドイツ語講読4①		
	フランス語	フランス語1① フランス語2① フランス語3① フランス語4① フランス語コミュニカティフ1① フランス語コミュニカティフ2①				
			フランス語5① フランス語6① フランス語7① フランス語8① フランス語コミュニカティフ3① フランス語コミュニカティフ4①			
				フランス語コミュニカティフ5① フランス語コミュニカティフ6① 時事フランス語1① 時事フランス語2①		
	中国語（中国語中国文化学科を除く）	中国語1① 中国語2① 中国語3① 中国語4①	中国語5① 中国語6① 中国語7① 中国語8①			
	スペイン語	スペイン語1① スペイン語2① スペイン語3① スペイン語4①	スペイン語5① スペイン語6① スペイン語7① スペイン語8①			
	韓国語／朝鮮語	韓国語／朝鮮語1① 韓国語／朝鮮語2① 韓国語／朝鮮語3① 韓国語／朝鮮語4①	韓国語／朝鮮語5① 韓国語／朝鮮語6① 韓国語／朝鮮語7① 韓国語／朝鮮語8①			
	ロシア語	ロシア語1① ロシア語2① ロシア語3① ロシア語4①	ロシア語5① ロシア語6① ロシア語7① ロシア語8①			
	日本語（外国人留学生用）	日本語初級1① 日本語初級2① 日本語初級3① 日本語初級4① 日本語1① 日本語2① 日本語3① 日本語4①	日本語初級5① 日本語初級6① 日本語初級7① 日本語初級8① 日本語5① 日本語6① 日本語7① 日本語8①			
その他（自由選択区分に充当される科目）	英語	実用英語検定1① 実用英語検定2① TOEIC1① TOEIC2① メディア・インターネット英語①	TOEFL1① TOEFL2① TOEIC3① TOEIC4① オーラル英語1①	英文ライティング1① IELTS1① IELTS2① オーラル英語2①	英文ライティング2① 観光英語①	
			ビジネス英語① オーラル英語3①	通訳英語① オーラル英語4①	英文翻訳法①	
	日本語（外国人留学生用）		ビジネス日本語1① ビジネス日本語2①			
	海外語学研修		海外語学研修②			
		海外文化交流②				
	検定試験による単位認定	検定英語1⑥	検定英語2④	検定英語3②		
		ドイツ語検定1⑥ ドイツ語検定2④ ドイツ語検定3② ドイツ語検定4② ドイツ語検定5② ドイツ語検定6④				
		フランス語検定1⑥ フランス語検定2④ フランス語検定3② フランス語検定4② フランス語検定5② フランス語検定6④				

(1) 中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科の履修方法は，当該学科のページを参照すること。

(2) 全学科（中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科を除く）とも，同一言語を8単位以上又は二言語をそれぞれ4単位以上修得すること。
二言語を選択する場合，卒業に必要な外国語教育科目として選択できるのは，1年次から配当されている科目に限る。ただし，「英語1～4以外の英語科目」「ビジネス日本語1，2」「海外語学研修」「海外文化交流」「検定試験による単位認定科目」は，卒業に必要な単位に含めることができない。

(3) 中国語中国文化学科，ドイツ文学科以外の学生で，卒業に必要な外国語教育科目として英語を選択した学生は，必ず「英語1～4」を履修すること。
なお，英語のみを選択する場合は，さらに「英語5～8」を履修すること。
卒業に必要な外国語教育科目以外の英語科目を修得した場合は，自由選択区分に充当される。

(4) ＊「ドイツ語9，10」はドイツ文学科開講科目だが，他学科の学生もドイツ語技能検定試験対策科目として受講できる。

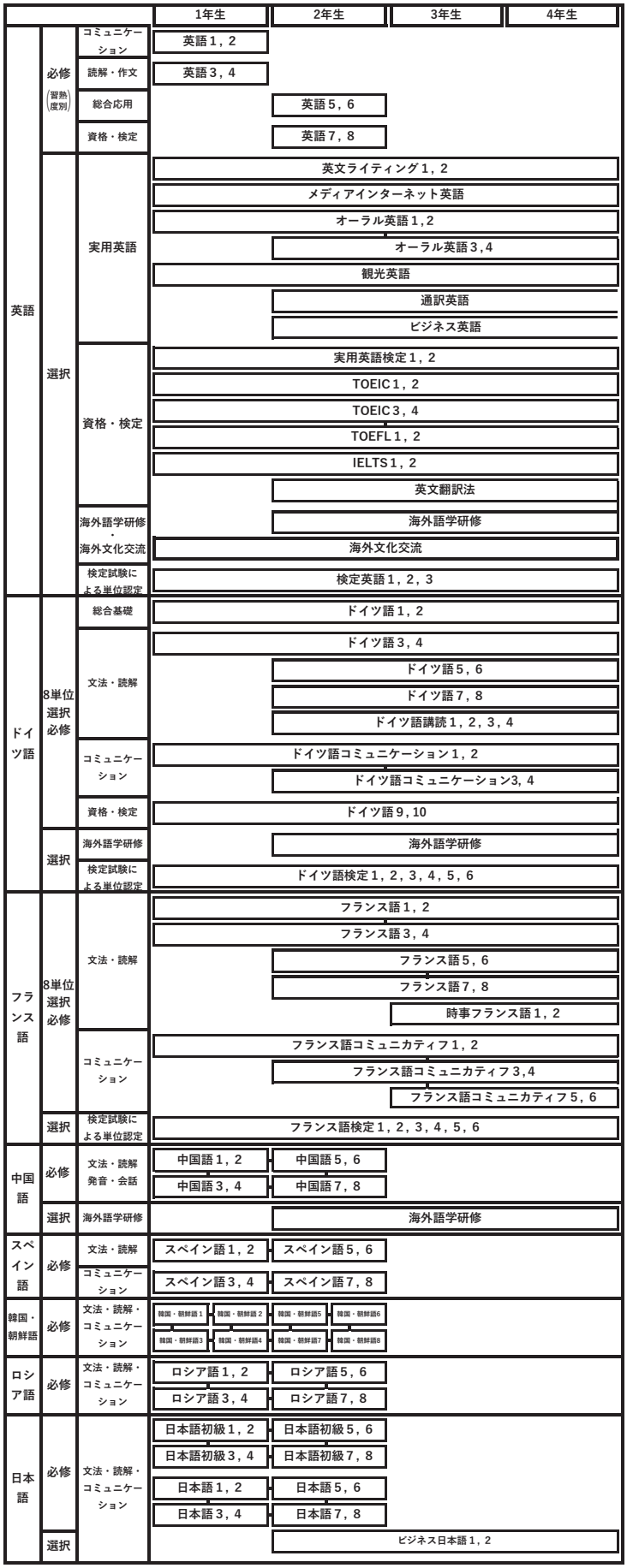
(5) 中国語中国文化学科，ドイツ文学科の学生で，卒業に必要な選択外国語として英語を選択した学生は，必ず「英語1～4」を履修すること。

(6) 外国人留学生は，原則として「日本語1～8」（8単位）を修得すること（「日本語初級1～8」は，指定された学生のみ受講できる）。
（ただし，中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科の外国人留学生は，選択外国語で日本語を4単位以上修得すること）。

(7) 日本大学本部主催のサマースクール等に参加・修了した場合は，「海外文化交流」（2単位）が認定される。

(8) 卒業に必要な単位数以上の外国語教育科目を修得した場合は，自由選択区分に充当される。

■履修系統図



教育目標

英語
「英語1～8」は高等学校までに培った英語力をもとに，語彙力，文法力及び4技能（読む・聞く・話す・書く）のスキルを拡充するとともに，実際に英語を使用することでコミュニケーションの場で使える応用力を身に付けることを目標とする。また，各人の目的に応じた「選択科目」の履修により，特定の領域に特化した英語力を習得する。「海外語学研修」及び「海外文化交流」では，現地の生活により，英語力だけでなく英語圏の人々の理解を深める。

ドイツ語
EU（欧州連合）が発足してからドイツ語は政治的にも，経済的にもより重要な言語になったと言ってよい。大学で初めて出会うドイツ語を基礎から学習し，習得する意義は非常に大きいと言える。読み，書き，話し，聞くための基礎能力を身に付け，中上級を目指す。さらにドイツ文化についても理解を深める。

フランス語
大学ではじめてフランス語を学ぶ学習者が，英語以外の外国語を学ぶ意義を理解し，基礎的なコミュニケーション能力を養って，中上級への足固めを行う。同時にフランス語圏文化に親しむきっかけをつかむことができる。

中国語
中国語未習者を対象に，中国語圏の漢字やその発音記号から学び，語彙力・文法力・コミュニケーション能力を習得する。さらに，中上級に向けた応用力の習得を目指す。また，海外語学研修では，現地での語学授業や生活を体験することにより，中国語圏の文化・社会に対する理解を深める。

スペイン語
スペイン語を話す国々（スペイン・中南米諸国）の文化を理解しながら，「聞く・話す・書く・読む」の幅広い能力を身に付けることを目標とする。旅行などで使える程度の実践的な会話力と，基本的な文法力を養成する。

韓国・朝鮮語
韓国語・朝鮮語は日本語と語順が同じなので学びやすい言葉である。文字・発音の基礎から始めて中級程度のコミュニケーション能力を養い，隣国の人々のライフスタイルや物事の考え方を理解することを目指す。

ロシア語
ロシア語は，西欧語と異なるキリル文字と呼ばれる独自の表記体系を持つので，まずはキリル文字のアルファベットから始め，日常会話など基本的なコミュニケーション能力を身に付ける。基礎的な文法，語彙を学びながら簡単なロシア語会話を理解，実践できることを目指す。

日本語
日本語の表現，学術文章作成，効果的なプレゼンテーション能力などを身に付ける。いずれの日本語の科目も高度な日本語力を身に付け，専門分野の知識を日本語で理解，応用できることを目指す。
※日本語を母語としない留学生対象。

※「必修」「8単位選択必修」は卒業に必要な外国語教育科目として1言語を選択する場合に適用する。2言語を選択する場合は，1年次開講科目4単位を「必修」とする。

【英　語】

■科目概要

モノ，ヒト，情報が世界中を行き交う今日，世界を舞台に活躍できる人材育成を目指して，語学力習得を支援しています。1 年生に開講する「英語 1，2」は，ネイティブ・スピーカーの教員及び一部のクラスでは日本人教員が担当します。経験豊かな教員が学修を助けてくれます。

文法や語彙の知識は，高等学校までの段階である程度習得できていますが，コミュニケーションの場は，その運用能力と理解力を高めるでしょう。また，相手の意図を正確に聞き取る能力を向上させることにより，外国人とのコミュニケーションに自信が持てるように指導します。

TOEIC®，TOEFL® や実用英語技能検定（英検）など，自分の語学力を客観的に確かめ，さらなるステップアップを目指すための機会があり，これをサポートする講座が開講されています。

＊「英語 1 ～ 8」は，英語習熟度別クラス分けテストを受験しなければ受講することができません（48 ページ「履修方法」を参照してください）。

■授業内容・到達目標

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1	英語1，2 【習熟度別クラス編成】	ネイティブ・スピーカーの教員（一部のクラスでは日本人教員）が担当します。聞く・話すという，音声言語としてのコミュニケーション能力を培うことを目標としています。英語によく耳を傾け，おおよその内容を理解できるようになること，自分が相手に伝えようとすることを英語で即座に表現できること，そうしたコミュニケーション能力を高めていくことがこの授業の狙いです。
1	英語3，4 【習熟度別クラス編成】	英語によるコミュニケーションの方法は，スピーキングとリスニングという音声によるものだけではありません。英語で書かれたものを読むこと（リーディング）そして英語で書くこと（ライティング）によるコミュニケーションも重要な方法の一つです。この科目ではリーディング・ライティングを通して自分の持っている語彙や文法的知識を確認しながら，読み，考え，そして英語で書くという英語コミュニケーション能力を高めることを目標とします。
2	英語5，6 【習熟度別クラス編成】	1年次の「英語1～4」では，英語によるコミュニケーションの方法を学びましたが，「英語5・6」では，将来，学科専門科目を学ぶに当たって必要な英語（English for Specific Purposes: ESP）を学びます。学科専門領域にかかわる概論的な文章を読んだり，学んだことについて，口頭で発表したりレポートを書いたりするなどし，自らの所属する学科の学問分野について得た知識を伝える英語力を身に付けることを目標とします。
2	英語7，8 【習熟度別クラス編成】	TOEIC®，実用英語技能検定，TOEFL®，その他，各種英語資格試験の対策を行います。検定試験の出題形式には特徴があるので，それぞれの出題形式や出題傾向に慣れ，十分な対策を練ることが重要です。検定試験を受験することは，留学や就職に役立つだけでなく，自分の英語力を客観的に確認するよい機会にもなります。
1～4	英文ライティング1，2	四技能のうち，英語による文章表現技能を補う必要があると自己診断した学生たちのために開講されます。外国の友人とのコミュニケーションは，今やe-mail等でやりとりするのが一般的です。やさしい英語で様々な表現を学習し，自己の気持ちを適切に表現できるようになることを狙いとしています。
1～4	メディア・インターネット英語	社会的・時代的な要請に応えるために，コンピュータ教室を有効に活用して，時事的な英語に馴染んでもらうことを目標とします。放送及び新聞など，ジャーナリズム界で用いられる英語に習熟し，世界中から発信される膨大な英語の情報を通して国際的視野を広げるのに役立つ科目です。また，ネットサーフィンをしながら，そうした情報に接しているうちに，自然と英語力が付くことも狙いとしています。
1～4	オーラル英語1，2	ネイティブ・スピーカーの教員が担当し，英語によるコミュニケーション能力を養います。リスニングやスピーキングを通して，自分の発音の矯正や語彙力増強を行い，より自然な英語で自分自身を表現できるようにすることを目標とします。繰り返し練習し，できるだけ多くの英語を聞いたり話したりすることによって，より積極的に，自信をもって英語でコミュニケーションを図れるようにすることを狙いとしています。
2～4	オーラル英語3，4	「オーラル英語1，2」同様，ネイティブ・スピーカーの教員が担当します。「オーラル英語1，2」よりも上級者向けの科目です。リスニングやスピーキングを通して，語彙力や表現力をさらに向上させ，より自然な英語で自分の考えや思いをきちんと表現できるようにすることを目標とします。反復練習と，できる限り多くの英語に接してそれを自分の体の一部とすることによって，よりいっそう積極的，かつ，自信をもって英語でコミュニケーションを図れるようにすることを狙いとしています。

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1～4	観光英語	海外旅行に必要な英語表現を学び，積極的にコミュニケーションを図る技能を育成します。
2～4	通訳英語	英語を日本語に，日本語を英語に，正しく的確に通訳するために必要な基礎的な力を付け，その運用ができるようにします。
2～4	ビジネス英語	ビジネス・レター（メール，ファックス），契約書，ビジネス交渉など商取引特有の表現，さらには国際経済を中心とした時事問題などを英語で学ぶことによって，ビジネスの世界において使える英語力の習得を目標とします。

英語検定試験の受験を目指す学生のために，下表の科目が開講されています。

英語に関する検定試験は数多くありますが，それぞれ出題形式や難易度が異なりますので，自己診断及び目的にしたがって，開講科目のうちどの科目を履修するか選択してください。

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1～4	実用英語検定1，2	実用英語技能検定試験　2級以上
1～4	TOEIC1，2	TOEIC® Listening & Reading Test　600点
1～4	TOEIC3，4	TOEIC® Listening & Reading Test　750点
1～4	TOEFL1，2	TOEFL®中級クラス（英検準1級程度） ※留学希望者は受講を勧めます。
1～4	IELTS1，2	IELTS中級クラス（英検準1級程度） ※留学希望者は受講を勧めます。
2～4	英文翻訳法	JTA公認翻訳専門職資格試験 高度な実務能力が要求される「翻訳検定」の基礎を学びます。

■履修方法

① 英語の各科目は，原則として，前学期，後学期の同一教員による同一時限の科目を履修してください。
また，「英語１～８」は，習熟度別クラス分けをしていますので，必ず指定されたクラスで履修してください。

② 前学期科目が不合格になった場合でも，後学期科目は引き続き履修することができます。

③ 当該年度不合格になった科目は，翌年度に開講される同一科目を履修することができます。

④ 卒業に必要な外国語として，**英語のみ**を選択した場合は，「英語１～８」を必ず履修してください。
英語と他の言語の二言語を選択した場合は，「英語１～４」を必ず履修してください。
また，中国語中国文化学科及びドイツ文学科の学生は，選択外国語を「英語」で選択した場合は，「英語１～４」を必ず履修してください。

⑤ 「英語１～８」を初めて受講する場合は，必ず英語習熟度別クラス分けテストを受験してください。「英語１～４」の英語習熟度別クラス分けテストは４月のガイダンス中に，「英語５～８」の英語習熟度別クラス分けテストは１年次後学期末に行われます。受験していない場合，原則として「英語１～８」を受講することができません。

⑥ 「英語１～８」（E 評価を受けた学生を含む）は，原則，所属学科対象に指定されたクラスでの「英語１～８」を履修することになります。

⑦ **英文学科の学生**は，「英語１～12」（英文学科用）を必ず履修してください。

⑧ **英文学科の学生**は，「英語１(再)～８(再)」及び英文学科以外に割り当てられた「英語１～８」は履修できません。

⑨ **英文学科以外の学生**は，原則として「英語９～12」は履修できません。

⑩ **英文学科以外**の，「英語１～８」の再履修者（D 評価を受けた学生）は，「英語１」の再履修者であれば「英語１(再)」のような，再履修者用の科目を履修してください。再履修者以外は，「英語１(再)～８(再)」は履修できません。

■その他

◎クラスごとの受講者数の制限について

「英語 1 ～ 12」を除く外国語教育科目は，受講者数に一定の制限を設けています。履修を希望する学生は，必ず 1 回目の授業に出席して，科目担当教員の指示にしたがってください。履修希望者が多数の場合は，小テストや抽選によって履修者を決定します。

また，受講者数に制限がある科目で，追加登録が可能な科目は，授業第 1 週目終了時までに情報掲示板「COMITS2」等で発表しますので，各自で確認してください。希望する科目が追加登録できる場合は，2 週目の授業に出席して，科目担当教員の許可を得た上で，履修登録を行ってください。

【中国語】

■科目概要

国連をはじめ，多くの国際機関の公用語，そして世界でいちばん多くの人が話している言葉，それが中国語です。そのおおもとである中国・台湾の発展とともに，中国語の重要性はますます高まっています。文理学部では，初めて中国語を学ぶ人を対象とした初級の授業から，高度な中国語会話・読解・作文能力を養成する授業まで，幅広く学習することができます。

以下の説明は，**中国語中国文化学科以外の学生**のための説明です。中国語中国文化学科の学生は，『学科ガイド』を読んでください。

■授業内容・到達目標

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1〜4	中国語1，2	中国語を初めて学ぶ，初級レベルの文法・読解中心の科目です。文法の基礎を固め，中国語を正しく読み取る力を養成します。
1〜4	中国語3，4	中国語を初めて学ぶ，初級レベルの発音・会話中心の科目です。ネイティブ・スピーカーによる授業で，正しくきれいな発音の習得につとめ，聞く力と話す力を養成します。
2〜4	中国語5，6	中級レベルの文法・読解中心の科目です。読解力向上のため，文法学習に重点を置きます。
2〜4	中国語7，8	中級レベルの発音・会話中心の科目です。ネイティブ・スピーカーによる授業で，中国語の発音と表現力向上のため，聞き取り・会話練習に重点を置きます。

■履修方法

卒業に必要な外国語として「中国語のみ」を選択した場合は「中国語 1 〜 8」を全て，「中国語と他の言語」の二言語を選択した場合は「中国語 1 〜 4」を必ず履修してください。

中国語は，同一科目名称の授業が多く開講されています。中国語 1 〜 8 は，必ず**同一教員で同一曜日・時限の前学期・後学期をセット**で履修登録をしなければなりません。

ただし，単位が修得できず再履修をする場合などは，同一教員でなくてもかまいません。

科目名	履修期	履修方法（条件）		再履修の方法
中国語1	前学期（初年度）			当該年度の次年度の前学期に履修可
中国語2	後学期（初年度）	「1」が修得済であること		当該年度の次年度の後学期に履修可
中国語3	前学期（初年度）			当該年度の次年度の前学期に履修可
中国語4	後学期（初年度）	「3」が修得済であること		当該年度の次年度の後学期に履修可
中国語5	前学期（次年度）	「1」「2」が修得済であること		当該年度の次年度の前学期に履修可
中国語6	後学期（次年度）		「5」が修得済であること	当該年度の次年度の後学期に履修可
中国語7	前学期（次年度）	「3」「4」が修得済であること		当該年度の次年度の前学期に履修可
中国語8	後学期（次年度）		「7」が修得済であること	当該年度の次年度の後学期に履修可

■その他，検定試験等

◎受講者制限

中国語クラスは学習効率を考え，定員制をとっています。授業第 1 週，第 2 週の授業に必ず出席し，申し込みをしてください。詳細は以下のとおりです。

1 クラスの定員は 30 名です。オーバーした場合は抽選をし，はずれた学生は人数に余裕があるクラスに回ってもらいます。

各クラスの人数は 7 号館 1 階中国語中国文化学科掲示板を見てください。それぞれのクラスの受講生は第 2 週に確定します。

◎各種検定試験

近年，各外国語で様々な検定試験が行われています。中国語でも，中検（中国語検定試験），実用中検（実用中国語技能検定試験），TECC（中国語コミュニケーション能力検定）等，日本側が実施するものや，HSK（漢語水平考試），C-TEST（実用漢語水平認定考試），BCT（商務漢語考試），YCT（中小学生漢語考試）等，中国側が主催するものがあります。それぞれの試験の実施目的や出題方針が異なるので，自分で調べたり，先生方の意見を聞いたりした上，自分の現段階での中国語能力を知るための目安として受験するとよいでしょう。

※記載されている全ての内容は改訂される場合があるので，毎年ガイダンス時の掲示等に注意すること。

【ドイツ語】

■科目概要

ドイツ語人口は現在約１億４千万人です。これは世界の６千～１万と言われる数の言語の中で十指に入る大言語ということになります。また話し手の数だけではなく，その歴史的，文化的蓄積や影響力は，広く世界の認めるところでもあります。

美しいロマンチック街道やメルヘン街道を旅する日のために，あるいはシューベルトの「野ばら」やベートーベンの「第九」を原語で歌ってみたい，などというモチベーションももちろん大歓迎です。でもそればかりではなく，将来の仕事でのプラス・アルファとしても，ぜひ一度ドイツ語の門をくぐってみてください。きっといつかどこかで役立つ場面が訪れるはずです。

以下の説明は，ドイツ文学科以外の学生のための説明です。ドイツ文学科の学生は，「学科ガイダンス資料」を読んでください。

■授業内容・到達目標

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1～4	ドイツ語1，2	基礎的・日常的内容をドイツ語で読み，自分でも簡単なドイツ語を書く能力の養成を目指します。
1～4	ドイツ語3，4	「ドイツ語1，2」「ドイツ語コミュニケーション1，2」「ドイツ語9，10」の基礎となる文法の習得を目標とします。接続法・関係代名詞などを除いた最低限のドイツ語文法基礎知識の速習（前学期）と応用・練習（後学期）を内容とします。
2～4	ドイツ語5，6	ドイツでホームステイするときなどに必要な日常的ドイツ語文の理解と，簡単な手紙を書く作文力の養成を目指します。
2～4	ドイツ語7，8	「ドイツ語5，6」「ドイツ語コミュニケーション3，4」「ドイツ語9，10」「ドイツ語購読1～4」の基礎となる文法の習得を目指します。「ドイツ語3，4」の内容を定着させると共に，接続法・関係代名詞などを含むドイツ語文法基礎全般の習得と応用・練習を内容とします。
1～4	ドイツ語コミュニケーション1，2	ドイツでホームステイをしたり，ドイツを旅行したりする人のための基礎的会話能力の養成と，ドイツについての基本的な地域情報を学びます。
2～4	ドイツ語コミュニケーション3，4	受け身なだけでなく，自分の気持ちをドイツ語で伝えるコミュニケーション能力の養成を目指します。
1～4	ドイツ語9，10	ドイツ語技能検定試験（独検）4級と3級合格のための応用・練習型授業です。
2～4	ドイツ語講読1～4	専門的な文章を読むためのドイツ語「精読」トレーニングです。

■履修方法

卒業に必要な外国語として「ドイツ語のみ」を選択した場合は上記の全ての科目から８単位を，「ドイツ語と他の言語」の二言語を選択した場合は，配当年次が「１～４」となっている科目から４単位を必ず履修してください。

同じ科目名で「1，2」「3，4」とあるものは（「ドイツ語講読 1，2」「ドイツ語講読 3，4」を除いて）連続して履修することが望ましい科目です。

科目名	履修期	履修方法（条件）	再履修の方法
※ドイツ語1	前学期	「1」「2」の組合せで履修することが望ましい	次年度に履修可
※ドイツ語2	後学期		次年度に履修可
※ドイツ語3	前学期	「3」「4」の組合せで履修することが望ましい	次年度に履修可
※ドイツ語4	後学期		次年度に履修可

※印の科目名は，ドイツ語，ドイツ語コミュニケーション，ドイツ語講読及びドイツ語9，10

■その他，検定試験等

◎自分の学習目標に応じた履修を心掛けましょう。

ドイツ語に限らず，外国語に関して「読む・聞く・話す・書く」という４つの技能を短時間で身に付けることはなかなか難しいと思います。そこで，『目標』をはっきりさせることが大切になります。

次に４通りの例をあげますので，これを参考に自分の学習目標を立ててください。

配当年次	学習目標			
	「読む」ことに重点をおきたい	「読む」＋ドイツ語技能検定試験を受験したい	ドイツ語の基礎を「総合的」に学びたい	基礎的な「読み書き」と「コミュニケーション」の能力をつけたい
1	ドイツ語1，2 ＋ ドイツ語3，4	（ドイツ語1，2 又は ドイツ語3，4） ＋ ドイツ語9	（ドイツ語1，2 ＋ ドイツ語3，4） 又は （ドイツ語1，2 ＋ ドイツ語コミュニケーション1，2）	ドイツ語1，2 ＋ ドイツ語コミュニケーション1，2
2	ドイツ語5，6 ＋ （ドイツ語講読1，2 又は ドイツ語講読3，4） ドイツ語7，8 ＋ （ドイツ語講読1，2 又は ドイツ語講読3，4）	（ドイツ語5，6 又は ドイツ語7，8） ＋ ドイツ語10	（ドイツ語5，6 ＋ ドイツ語7，8） 又は （ドイツ語5，6 ＋ ドイツ語コミュニケーション3，4）	ドイツ語5，6 ＋ ドイツ語コミュニケーション3，4

◎ドイツ語技能検定試験（独検）と「ドイツ語９，10」

英検などと並んで，ドイツ語にも「独検」という検定制度があります。最上級者向きの「１級」から初心者向きの「5級」までの６段階に分かれており，毎年６月（２級～５級）と12月（全級）の２回実施されます。

ドイツ語９，10はこのうち「４級」と「３級」の合格を目指すもので，後学期開講のドイツ語９は，４級合格のための基礎固め，前学期開講のドイツ語10は，３級合格のための応用・練習を通し，傾向と対策を学ぶことが目標ですので，履修に際しては春又は秋の「独検」受験に向けて，計画的に勉強するようにしてください。

それぞれの級に要求される能力は次のとおりです。

級	要求される能力
5級	初歩的なドイツ語を理解し，日常生活でよく使われる簡単な表現や文が運用できる。（大学や語学研修等で30時間程度の学習者）
4級	基礎的なドイツ語を理解し，初歩的な文法規則を使って日常生活に必要な表現や文が運用できる。（大学や語学研修等で60時間程度の学習者）
3級	ドイツ語の初級文法全般にわたる知識を前提に，簡単な会話や文章が理解できる。（大学や語学研修等で120時間程度の学習者）
2級	ドイツ語の文法や語彙についての十分な知識を前提に，日常生活に必要な会話や社会生活で出会う文章が理解できる。（大学や語学研修等で180時間程度の学習者）
準1級	ドイツ語圏の国々における生活に対応できる標準的なドイツ語を十分に身に付けている。（大学や語学研修等で数年以上の学習者）
1級	標準的なドイツ語を不自由なく使え，専門的なテーマに関して書かれた文章を理解し，それについて口頭で意見を述べることができる。（数年以上にわたって恒常的にドイツ語に接し，十分な運用能力を有する者）

【フランス語】

■科目概要

フランス語は現在フランス本国はもとより，ヨーロッパでは EU の主要言語の一つとして，またスイス，ベルギーにおける公用語として，南北アメリカ及び南太平洋地域ではカナダ，仏領ギアナ，タヒチ，ニューカレドニアの公用語として，さらに北アフリカ，西アフリカのほとんどの国々における公用語として使われる国際語です。

ファッションや美術の世界では標準語といってもよい言葉です。もちろん料理やワインの分野でも，さらにはスポーツの世界でもフランス語は幅を利かせています（オリンピックの会場アナウンスでは必ず使われています）。そして，学術の世界でも重要な地位を占めています（特に，思想，歴史の方法論の分野でここ 30 年ほどの間に主流となったもののほとんどはフランス生まれ）。理科系の分野でも，パスツール研究所，ポワンカレ研究所をはじめ重要な成果をあげた研究所がフランスで運営されています。さらに，経済や産業の世界でも，日本と関わりの深い世界的大企業がフランス語を主な言語として活動していますし，日本企業もフランスやフランス語圏での活動を広げています。

■授業内容・到達目標

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1〜4	フランス語1，2	フランス語総合入門。発音から基本的なコミュニケーションまで学びます。
1〜4	フランス語3，4	フランス語の仕組み（文法）の入門。基本的な文法知識を学びます。
2〜4	フランス語5，6	フランス語の読み書きの中級編。やさしいテキストを読めるようにします。仏検3級を目標としています。
2〜4	フランス語7，8	フランス語文法の中級編。フランス語の仕組みをより深く理解し，フランス語5，6とあわせて仏検3級をとることを目標とします。
1〜4	フランス語コミュニカティフ1，2	ネイティブ教員によるフランス語会話の入門。基本的な日常会話をフランス人に直接学びます。
2〜4	フランス語コミュニカティフ3，4（隔年開講）	ネイティブ教員によるフランス語会話の中級編。口頭表現の幅を広げ，フランスで日常生活が送ることができるようにします。
3・4	フランス語コミュニカティフ5，6（隔年開講）	ネイティブ教員によるフランス語会話の上級編。会話力に磨きをかけ，留学などの準備にもなります。
3・4	時事フランス語1，2（隔年開講）	フランス語の読み書きの上級編。新聞，雑誌などの記事を中心としたフランス語が理解できるようにします。

■履修方法

卒業に必要な外国語として「フランス語のみ」を選択した場合は，上記の全ての科目から 8 単位，「フランス語と他の言語」の二言語を選択した場合は，配当年次が「1 〜 4」となっている科目から 4 単位を必ず履修してください。

同じ科目名で「1，2」と「3，4」のあるものは連続して取ることが望ましい科目です。必ず**同一教員で同一曜日・時限の前学期・後学期をセット**で履修登録をしなければなりません。

ただし，単位が修得できず再履修をする場合は，同一教員でなくてもかまいません。

■その他，検定試験等

◎以下に履修例を挙げますので，これを参考に，学習目標を立ててください。

配当年次	学習目標			
	「読む」ことを中心に卒業単位を修得する	読むことだけでなく，会話も学んで卒業単位を修得する	オールラウンドなフランス語能力を身につける	1，2年で学んだフランス語をさらに磨きたい
1	(前学期) フランス語1＋フランス語3 (後学期) フランス語2＋フランス語4	(前学期) フランス語1又は3　＋ フランス語コミュニカティフ1 (後学期) フランス語2又は4　＋ フランス語コミュニカティフ2	(前学期) フランス語1　＋ フランス語3　＋ フランス語コミュニカティフ1 (後学期) フランス語2　＋ フランス語4　＋ フランス語コミュニカティフ2	
2	(前学期) フランス語5＋フランス語7 (後学期) フランス語6＋フランス語8	(前学期) フランス語5又は7　＋ フランス語コミュニカティフ3 (後学期) フランス語6又は8　＋ フランス語コミュニカティフ4	(前学期) フランス語5　＋ フランス語7　＋ フランス語コミュニカティフ3 (後学期) フランス語6　＋ フランス語8　＋ フランス語コミュニカティフ4	
3 又は 4				(前学期) 時事フランス語1　又は フランス語コミュニカティフ5 (後学期) 時事フランス語2　又は フランス語コミュニカティフ6

◎仏検（文部科学省後援実用フランス語能力検定試験）

英語に英検があるように，フランス語にも仏検があります。また，英語の TOEFL® や TOEIC® にあたる DELF, DALF といったフランス政府が行う検定試験もあります。特に仏検は文部科学省後援を受けていた資格試験としてすでに 30 年以上の実績を持ち広く知られた検定試験です。仏検は 5 級から 1 級までの 7 つの級（準 2 級，準 1 級があります）に分かれて毎年 2 回（1 級と準 1 級はそれぞれ秋と春の 1 回）行われ，合格者が試験の約 2 か月後に発表されます。各級の程度の目安としては，以下の表のとおりです。

また，3 級くらいまでなら本学部の授業だけで十分狙えます。この 3 級というのはフランスに行って一人でも生活ができる目安ともいえますので，3 級があればフランス留学の基礎にすることが可能です。

級	要求される能力
5級	大学1年の前学期までの学習内容程度。中学生，高校生の受験も可。
4級	大学で1年間フランス語を学習したもの。
3級	大学で2年間フランス語を学習したもの。
準2級	大学で第1外国語としてフランス語を2年間以上学習したもの。
2級	大学のフランス語専門課程卒業程度。
準1級	フランス語専門課程の大学院程度。
1級	専門的な分野でフランス語を仕事に利用できる程度。

【スペイン語】

■科目概要

¿Cómoestá?（コモ・エスタ）「ごきげんいかが？」

スペイン語は陽気で明るいラテン系の言葉です。気楽に !Hola!（オーラ！）とあいさつを交わせば，だれでも（アミーゴ）「友達」です。あなたも一緒にスペイン語の世界へ ¡Vamos!（バーモス）「さあ，行きましょう」。

スペイン語は英語や中国語と並ぶ国際語です。その生まれ故郷であるスペインをはじめ，ラテンアメリカを中心に 20 以上の国や地域で，4 億人近い人々が話しています。“英語の国”アメリカ合衆国でも，スペイン語人口は数千万人に達しています。英語の発音に挫折して「私は外国語が苦手」と思い込んでいるあなた。スペイン語を勉強してみませんか？

日本語の中の身近なスペイン語：パン（pan）キャラメル（caramelo），車の名前など。

■授業内容・到達目標

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1	スペイン語1，2	全くの初心者対象の入門コース。アルファベット，発音の仕方から基礎文法の理解。簡単な文章が読め，また，同時に挨拶や日常会話ができるようになる事を目標とする。
1	スペイン語3，4	スペイン語1，2で学んだ事の復習をしながらスペイン人とゆっくり楽しく会話練習を行う。スペイン語諸国に一人で放り出されても数日は生きていける会話力を身に付ける。
2	スペイン語5，6	スペイン語1～4で習った事を復習しながら不規則動詞，スペイン語独特の表現や過去形，未来形にも触れ，読解力を深め簡単な文章が書ける事を目標とする。検定試験準備も行う。
2	スペイン語7，8	スペイン語1～6で習った内容をより深くしながら日常会話を中心にネイティブスピーカーとの会話練習を行う。過去，未来の事も語れるように会話力の幅を広げる。

■履修方法

卒業に必要な外国語として「スペイン語のみ」を選択した場合は「スペイン語 1 ～ 8」を全て，「スペイン語と他の言語」の二言語を選択した場合は「スペイン語 1 ～ 4」を必ず履修してください。

スペイン語に限らず語学は「話す事，聞く事，読む事，書く事」が必要です。そのためには 1 年次，2 年次と連続して以下の①の方法で履修するようお薦めします。しかし，時間割などの都合で取れない方のために②・③の履修例を挙げます。

配当年次	学習目標		
	①「読み書きなどの文法の基礎」と「会話能力」を総合的に学ぶ	②「読み書きなどの文法の基礎」を重点的に学ぶ	③「会話能力」のみを重点的に学ぶ
1	スペイン語1，2 ＋ スペイン語3，4	スペイン語1，2	スペイン語3，4
2	スペイン語5，6 ＋ スペイン語7，8	スペイン語5，6	スペイン語7，8

■検定試験等

◎「スペイン語技能検定（西検）」と「Diplomas de Español como Lengua Extranjera（DELE)」について「西検」という日本で実施されている試験と，スペイン政府が行っている DELE（英語の TOEFL にあたるもの）という世界共通の試験があります。

「西検」：年 2 回，春と秋に行われ 1 級～ 6 級のレベルに分かれている。

級	要求される能力
6級	基礎的な短い文章の読み書きができ，直説法現在修了程度。
5級	平易な文章の読み書きができ，初級（直説法）修了程度。
4級	簡単な日常会話ができ，文法を一通り修了程度。
3級	新聞などが理解でき，一般ガイドに不自由しない程度。
2級	ラジオ，テレビが理解でき，一般通訳が出来る程度。
1級	会議通訳，文学翻訳，専門ガイドができる程度。

「DELE」：年 2 回，春と秋に行われ 3 レベルに分かれている。

レベル	要求される能力
INICIAL	一通り学習している人なら狙うことができる。
BASICO	かなりの実力が必要。日常生活に不自由しない程度の力を必要とする。
SUPERIOR	よほどの実力がないと難しい。ネイティブスピーカー並みの力が必要。

【韓国語／朝鮮語】

■科目概要

科目名でこの言語の選択を迷う学生がいるかも知れませんが，韓国語と朝鮮語は同じ言語です。もちろん，大韓民国（韓国）の標準語はソウル方言，朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の標準語は平壌方言となり，正確な比較ではありませんが大阪弁と名古屋弁ぐらいの違いはあります。授業では韓国の標準語（ソウル方言）を中心に講義しますが，必要に応じて平壌方言との違いについても触れる予定です。

韓国語／朝鮮語は，主に朝鮮半島で生活する人々約 7000 万人（韓国 5000 万人，北朝鮮 2000 万人）により使われている言葉で，言語としては英語や中国語のようにメジャーではありません。しかし，地理的に最も日本に近い韓国で使われている言語であるということからだけでも，必ずやどこかで役立つ場面が訪れるはずです。

■授業内容・到達目標

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1	韓国語／朝鮮語1，2	韓国語／朝鮮語固有の文字であるハングルの読み書きができるようにする。 ハングル文字を正確に発音し書けるように徹底的に練習し，順次簡単な単語・文書，挨拶などが自由に読み書きできるように指導する。さらには正確なヒアリングができるように練習する。
1	韓国語／朝鮮語3，4	韓国語／朝鮮語の読み書きと基礎文法の習得を通じて，韓国語の理解と表現において，ある程度の応用ができるようにする。 学習した正確な読み書きを基本にして，韓国語の基礎的な文法や文型を学んでいく。基本的な日常会話や読解・作文ができるよう練習する。特に，韓国語を楽しく学んでいくことができるように指導する。
2	韓国語／朝鮮語5，6	初級の韓国語／朝鮮語の学習の基礎の上に，より多様でレベルの高い会話力・作文力の定着を目指す。同時に韓国の文化・歴史などを紹介しながら多角的に学習を深めていく。
2	韓国語／朝鮮語7，8	韓国語を読む，聞く，書く，話すという4つの力をバランスよく付けることを目標にし，ペアワークを中心に進めていく。文法や語彙練習・聞き取りについてもほとんど毎回宿題を出し，毎週の課題として日記を書いてくることを要求する。授業時間は注意力を集中して理解に努め，積極的に授業に参加し，与えられた宿題・課題は責任を持ってこなすこと。

■履修方法

卒業に必要な外国語として「韓国語／朝鮮語のみ」を選択した場合は「韓国語／朝鮮語 1 ～ 8」を全て，「韓国語／朝鮮語と他の言語」の二言語を選択した場合は「韓国語／朝鮮語 1 ～ 4」を必ず履修してください。

ここで重要なことは，「韓国語／朝鮮語 1 ～ 4」の履修の順序です。前学期の韓国語／朝鮮語 1 と 3，後学期の韓国語／朝鮮語 2 と 4 は 2 時限連続の授業を必ずセットで受講する必要があります。なぜかというと，韓国語／朝鮮語 1 と 3（又は 2 と 4）はセット（同じ授業が 90 分＋ 90 分＝ 180 分，休憩 10 分をはさんで連続で行われる）になっており，1 だけあるいは 2 だけ（3 だけあるいは 4 だけ）を受講しての単位取得は不可能だからです。これは，韓国語／朝鮮語が皆さんにとって初めて接する外国語であり，授業手順として文字など基本的な事項から勉強していかなければどうにもならないという事情によるものです。この点に十分注意して受講希望者は時間割を作成してください。

「韓国語／朝鮮語 5 ～ 8」については，この制約が少し緩くなりますが，履修形態について疑問のある学生は授業担当者によく相談してください。

科目名	履修期	履修方法（条件）
韓国語／朝鮮語1	前学期（初年度）	同日の2時限続きで履修すること
韓国語／朝鮮語3	前学期（初年度）	
韓国語／朝鮮語2	後学期（初年度）	同日の2時限続きで履修すること
韓国語／朝鮮語4	後学期（初年度）	
韓国語／朝鮮語5	前学期（次年度）	同日の2時限続きで履修すること
韓国語／朝鮮語7	前学期（次年度）	
韓国語／朝鮮語6	後学期（次年度）	同日の2時限続きで履修すること
韓国語／朝鮮語8	後学期（次年度）	

【ロシア語】

■科目概要

ロシア語は，世界でもっとも大きな国であるロシア連邦の公用語です。ロシア連邦は 100 以上もの民族からなり，ロシア人はそのうちの約 80 パーセントあまりを占めていますが，ロシア以外でもロシア語は，とりわけ，ソ連崩壊後に独立した中央アジアの国々（多くの民族が駆けぬけ，興亡を繰り返したシルクロードの国々）では，あいかわらず族際語（民族間交流言語）としての地位を保持しており，世界全体では約 2 億 6000 万の人々によって話されています。以上のことからも，ユーラシアの要（かなめ）に位置するロシアとロシア語の世界史的意義は容易に理解されますし，日本の隣国であることを考えると，ロシアとロシア語の重要性は自明です。

ロシアは，とりわけ 19 世紀後半以後，世界的レベルの文化を世界に送り出すようになりました。ロシア文学は二葉亭四迷による日本語の共通文章語の形式にも大きな影響を与えておりますし，ロシア音楽，ロシア・バレエをはじめとするロシア芸術のすばらしさ，あるいは宇宙開発におけるロシアの先駆性等も周知のとおりです。ソ連崩壊後，ロシアでは社会的混乱が続きましたが，ようやく安定化の軌道にのり，世界政治においても発言力を発揮しつつあります。カスピ海・シベリアの石油開発，「シルクロード鉄道」の構想等により中央アジアの国々も日本にとって空間的に身近な存在となってきました。現在，ロシアは世界最大のエネルギー安定供給国たることを自負しております。世界を通してロシアを考え，ロシアを通して世界を考えることも「ものの見方」を深めるために大切なことです。

ロシア語は文字がラテン文字と異なることもあって初心者には少々とっつきにくいところもありますが，学習の工夫しだいでは英語よりもやさしい言語です。半期のみを聴講する人は，ロシア文字とロシア語発音，ロシア語固有名詞（ロシア人の名前，国，都市，地域，川，平原等々の名称）をロシア語で知るだけでも大きな意義があると思われます。

■授業内容・到達目標

配当年次	科目名	授業内容・到達目標
1	ロシア語1	ロシア語アルファベットの習得，発音，基本文法（一部），ロシア語固有名詞，簡単な文の習得。
1	ロシア語2	ロシア語1に引き続き基本文法を習得，簡単な挨拶の表現。
1	ロシア語3	ロシア語アルファベットの習得，発音，基本文法（一部），ロシア語固有名詞，簡単な文の習得。ただし，ロシア語1とは別のテキストを使用。
1	ロシア語4	ロシア語3に引き続き基本文法を習得，簡単な挨拶の表現。
2	ロシア語5	やり残した基本文法を早急に仕上げ，上級文法に取り組む。簡単なテキストの読解にも取り組む。（ロシア語1・2又はロシア語3・4を履修していること）
2	ロシア語6	ロシア語5に引き続き上級文法に取り組みながら，新聞，雑誌，専門書など様々なジャンルのテキストの読解に取り組む。
2	ロシア語7	やり残した基本文法を早急に仕上げ，上級文法に取り組む。簡単なテキストの読解にも取り組む。（ロシア語1・2又はロシア語3・4を履修していること）（ロシア語5とは別テキストを使用）
2	ロシア語8	ロシア語7に引き続き上級文法に取り組みながら，新聞，雑誌，専門書など様々なジャンルのテキストの読解に取り組む。

■履修方法

卒業に必要な外国語として「ロシア語のみ」を選択した場合は「ロシア語１～８」を全て，「ロシア語と他の言語」の二言語を選択した場合は，「ロシア語１～４」を必ず履修してください。

ロシア語は英語と同じインド－ヨーロッパ語族に属しながらもそれとは構造を異にするところがあり，初めて学ぶ人がとまどいを覚える時があります。そこで一挙に読み・書き・話す能力をマスターしようとせずに，一歩一歩着実に取り組んでください。

まず大事なことは，ロシア文字とその音価を確実に習得することです。このハードルを越えることによって他のヨーロッパ語学習と同じスタートラインに立つことになり，ロシア語習得の展望が開けます。１・３，２・４，は理想的には同時に聴講することが望ましいのですが，それが不可能な場合には，１・３の片方のみを聴講して，５・７ついで６・８に進むことも可能です。

また，ロシア語を卒業に必要な外国語としない場合は，１・２，３・４の階段を修了していなくても，それをクリアしたのと同程度の学習経験と実力があれば，次の５・７から受講することも可能です。いきなり６・８から受講する場合も同様です。

■検定試験等

この種のものとしては，英検が有名ですが，ロシア語の場合には日本政府認定の能力検定試験の制度はありません（経済産業省によるロシア語通訳検定試験制度はあります）。

ただし，ロシア連邦教育省認定ロシア語検定試験が日本対外文化協会（ロシア語検定試験実行委員会　連絡先 03-3353-6980）によって実施されています。

検定レベルは入門，基礎，第１，第２，第３，第４レベルの６段階が対象で，合格者には該当レベルの能力証明認定書が授与されます。私立のロシア語学院でも独自にロシア語能力検定試験を行っています。

【日本語（留学生用必修科目）】

日本語科目は**留学生のみが履修できます。**

①「日本語 1 ～ 8」「日本語初級 1 ～ 8」

留学生の必修科目です。1・2 年次配当科目として開講されています。

■履修方法

「日本語初級 1 ～ 8」…**教務課から履修指示があった学生のみ対象**。

「日本語 1 ～ 8」…日本語初級の履修指示がなかった学生が対象。

■中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科以外の留学生

「日本語 1 ～ 8」の 8 単位を履修してください。

※「日本語初級 1 ～ 8」は，教務課から指定された学生のみ履修できます。

■中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科の留学生

中国語中国文化学科，英文学科，ドイツ文学科の留学生については，日本語の科目を下表のとおり履修してください。

<table>
<tr><th rowspan="2">学科</th><th colspan="2">必修外国語</th><th colspan="2">選択外国語</th></tr>
<tr><th>科目</th><th>卒業に必要な単位</th><th>科目</th><th>卒業に必要な単位</th></tr>
<tr><td>中国語中国文化学科</td><td>中国語1～14</td><td>14</td><td rowspan="3">日本語 1～8
※日本語初級 1～8</td><td rowspan="3">4</td></tr>
<tr><td>英文学科</td><td>英語1～12</td><td rowspan="2">12</td></tr>
<tr><td>ドイツ文学科</td><td>ドイツ語1～12</td></tr>
</table>

※「日本語初級 1 ～ 8」は，教務課から指定された学生のみ履修できます。

②「ビジネス日本語 1・2」

留学生の選択科目です。

就職活動等，社会生活を営む上で役に立つビジネス場面での日本語を学ぶ選択科目です。

■履修条件

履修には「日本語 1 ～ 8」から所定の単位を修得済みであることが必要です。

・中国語中国文化学科・英文学科・ドイツ文学科の留学生

「日本語 1 ～ 8」から 4 科目 4 単位を修得済みであること。（1 年次で 4 単位修得すれば 2 年次から履修可。）

・中国語中国文化学科・英文学科・ドイツ文学科以外の学科の留学生

「日本語 1 ～ 8」の 8 単位を修得済みであること。（3 年次より履修可。）

【英語，フランス語及びドイツ語検定試験の単位認定】

在学期間中に，英語，フランス語及びドイツ語検定試験の結果が所定のレベルに達したものは，下表に基づき単位認定されます。認定には，所定の申請手続きが必要になります。

●認定される外国語科目，その単位数及び点数

外国語科目	試験の種類	レベル		認定科目名	認定単位数	認定
英語	実用英語技能検定 (S-Interview含む)	レベル1	1級	「検定英語1」	6単位	N
	TOEIC® Listening & Reading		860点以上			
	TOEIC® Speaking & Writing		合計　310点以上			
	TOEFL iBT®		88点以上			
	TOEFL ITP®		570点以上			
	IELTS		6.5点以上			
	実用英語技能検定 (S-CBT，S-Interview含む)	レベル2	準1級	「検定英語2」	4単位	N
	TOEIC® Listening & Reading		750点～855点			
	TOEIC® Speaking & Writing		合計 280点～300点			
	TOEFL iBT®		68点～87点			
	TOEFL ITP®		520点～567点			
	IELTS		5.5点～6.0点			
	実用英語技能検定・ TOEIC®・TOEFL®・IELTS	認定後レベル2からレベル1の 基準に達した場合		「検定英語3」	2単位	N
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	レベル1	2級	「フランス語検定1」	6単位	N
		レベル2	準2級・3級	「フランス語検定2」	4単位	N
		レベル3	4級	「フランス語検定3」	2単位	N
		レベル3認定後からレベル2の 基準に達した場合		「フランス語検定4」	2単位	N
		レベル2認定後からレベル1の 基準に達した場合		「フランス語検定5」	2単位	N
		レベル3認定後からレベル1の 基準に達した場合		「フランス語検定6」	4単位	N
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	レベル1	2級	「ドイツ語検定1」	6単位	N
		レベル2	3級	「ドイツ語検定2」	4単位	N
		レベル3	4級	「ドイツ語検定3」	2単位	N
		レベル3認定後からレベル2の 基準に達した場合		「ドイツ語検定4」	2単位	N
		レベル2認定後からレベル1の 基準に達した場合		「ドイツ語検定5」	2単位	N
		レベル3認定後からレベル1の 基準に達した場合		「ドイツ語検定6」	4単位	N

(1)　TOEIC®に関しては，TOEIC® Listening & Reading，TOEIC® Speaking & Writing各公開テスト及び文理学部主催の団体特別受験制度TOEIC® Listening & Reading-IP（Institutional Program），TOEIC® Speaking & Writing-IPテストによるスコアが上記単位認定の対象となります。

(2)　TOEFL®に関しては，TOEFL®-iBT（Internet-based Test）及び本部・文理学部主催の団体向けプログラムTOEFL®-ITP（Institutional Testing Program）によるスコアが上記単位認定の対象となります。

(3)　英語・フランス語・ドイツ語とも最大6単位まで認定可能です。

(4)　入学後の受験で，受験日より2年以内の申請のみ有効です。

(5)　上記単位認定となった場合でも，卒業に必要な必修外国語教育科目としては適用されません。ただし，英文学科学生の場合は選択外国語の単位として，中国語中国文化学科，ドイツ文学科の学生で選択外国語として英語以外の言語を選択した場合は，必修外国語教育科目の単位として認められます。

(6)　認定を希望する場合は，申請手続きが必要になります。申請手続方法，申請期間はCOMITS2でお知らせします。

3　基礎教育科目（全学科共通）

健康・スポーツ教育科目

■科目一覧表

（〇の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次	1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数
必　修	健康・スポーツ教育論② 健康・スポーツ教育実習1①				3単位
選　択		健康・スポーツ教育実習2① 健康・スポーツ教育実習3①	健康・スポーツ教育実習4① 健康・スポーツ教育実習5①		

（注）履修方法等は，「授業科目履修の概要」及び各学科のページを参照してください。

コンピュータ科目

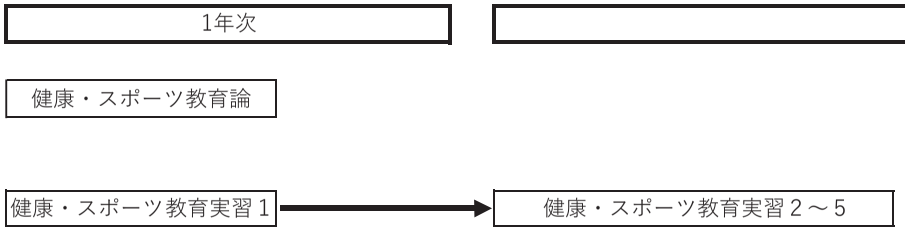
■科目一覧表

（〇の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次	1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数
必　修	情報リテラシー②				2単位
選　択	アカデミックICT基礎② データ処理基礎② 情報倫理・情報セキュリティ② プレゼンテーション法② アルゴリズムとプログラミング基礎② アルゴリズムとプログラミング応用② ビッグデータサイエンス②				
		ICT機器活用法② ネットワーク設計基礎（含演習）③ ネットワーク設計活用② ネットワーク設計応用② 情報セキュリティ基盤構築基礎② 情報セキュリティ基盤構築応用② 次世代情報基盤構築基礎② 次世代情報基盤構築応用② Windowsサーバー管理の基礎（含演習）③ サーバーの仮想化環境の構築（含演習）③			

■履修系統図

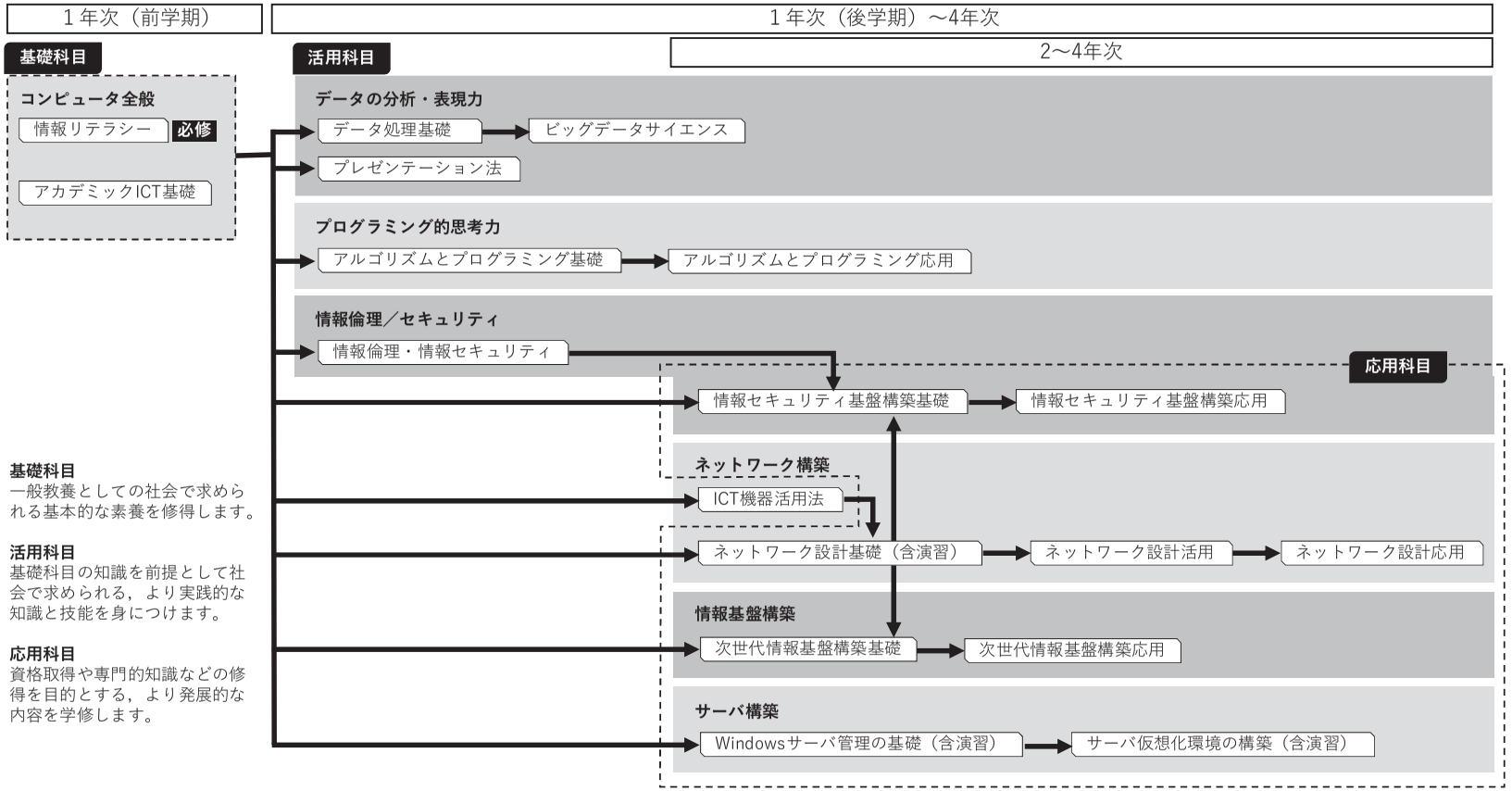
健康・スポーツ教育科目



健康・スポーツ教育論
心身の健康の保持増進を図るため，現代社会におけるスポーツと健康・体力との関係を科学的に学び，生涯にわたってスポーツの価値や意義を理解し，自主的に健康・体力の保持増進ができる能力を養成することを目的とします。

健康・スポーツ教育実習
スポーツや身体運動の実践を通して，体力・運動技能の向上を目指すだけではなく，身体感覚や身体知を獲得するとともに，自己表現能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とします。また，自らの生活習慣に応じたスポーツライフの形成ができるようにすることを目的とします。

コンピュータ科目



基礎科目
一般教養としての社会で求められる基本的な素養を修得します。

活用科目
基礎科目の知識を前提として社会で求められる，より実践的な知識と技能を身につけます。

応用科目
資格取得や専門的知識などの修得を目的とする，より発展的な内容を学修します。

基礎教育科目（コンピュータ科目）

今日，コンピュータを用いた情報環境は目覚しい発展を遂げています。またコンピュータを全世界規模で互いに接続した，いわゆるインターネットの発展には目を見張るものがあります。そして，このインターネットを媒体とした全世界規模での様々な情報の流通は，政治，経済，文化の動向や科学の発展に大きく寄与しています。コンピュータ及びインターネットは，大学においても，教育・研究に利用されることはもちろん，マルチメディア情報の伝送手段として，あるいは日常のコミュニケーションの手段として，急速にその重要度を増しています。

このような時代の要請を受けて，本学部においても以下のような科目を設置しています。

■授業内容・到達目標

	配当年次	科目名	授業内容・到達目標
必　修（初年次教育科目）	1	情報リテラシー	本学部のコンピュータ環境を利用するための基本的な技能，マナーをはじめ，コンピュータの基礎，情報倫理とセキュリティ，文書編集，データ分析，プログラミングなど，情報化社会全般にわたる知識と技術を学修します。
選　択	1〜4	アカデミックICT基礎	コンピュータの基本と情報の加工の基礎について学びます。ファイルやフォルダの操作からワープロソフト，表計算などについて全般にわたる基礎的な知識と技術を学修します。
	1〜4	データ処理基礎	学科専門科目の学修に必要なデータ処理について，講義・演習を行います。統計処理の基礎からアンケート集計，各種データ分析，グラフ編集，マクロ処理，シミュレーション等を学修します。
	1〜4	情報倫理・情報セキュリティ	現代社会で必要なコンピュータやネットワークに関するセキュリティ基礎知識について，講義・演習を行います。最新のセキュリティ事例を踏まえ対策や予防法を検討し，デジタル社会において加害者にも被害者にもならないように素養を身に付けます。
	1〜4	プレゼンテーション法	コンピュータや各種デジタル機器を活用した効果的なプレゼンテーションやグループワークの方法について学修します。ユニバーサルデザインやアクセシビリティに考慮したプレゼンテーションを目指します。
	1〜4	アルゴリズムとプログラミング基礎	プログラミング未経験者を対象に初歩的なビジュアルプログラミング，テキストコーディング，ロボットプログラミングの基礎を通して，物事を筋道立てて考えるアルゴリズムの基礎を学修します。
	1〜4	アルゴリズムとプログラミング応用	プログラミング入門レベルの学生を対象とし，初歩的なアプリケーションの作成を通して，繰り返し処理，条件分岐などのアルゴリズムに対する理解を深めることを目標に学修します。
	1〜4	ビッグデータサイエンス	ビッグデータ時代におけるデータの収集方法及び管理方法から始め，実践的な分析作業を通して，AIや機械学習などのより発展的な技術に対する理解を狙いとして学修します。
	2〜4	ICT機器活用法	現在のSociety5.0社会において，分野を問わず共通に求められる情報通信技術（ICT）に関する基礎的な知識と理論について学修し，今後ICTを活用するために必要な力を得ることを目標とします。
	2〜4	ネットワーク設計基礎（含演習）	学校や小規模企業などの情報通信ネットワーク設計に必要な知識について学修するとともに実際にネットワークを構築する演習を行います。
	2〜4	ネットワーク設計活用	ネットワーク設計基礎での知識を拡張し，ネットワークスイッチや無線LANの活用に必要な知識について学修します。ネットワークの冗長化やセキュリティ強化などの中規模ネットワークの設計に必要な知識を得ることを目標とします。
	2〜4	ネットワーク設計応用	活用の進むクラウドや移動体通信ネットワークの現状について学修するとともに，実際にクラウド等を利用したネットワーク等の情報基盤を構築することにより，これからの情報基盤設計や管理運用について必要な知識を得ることを目標とします。
	2〜4	情報セキュリティ基盤構築基礎	インターネットなどネットワークを活用するために必要なセキュリティ技術について基本的な知識と対策方法について学修します。 セキュリティの基本である機密性・完全性・可用性を中心に，今後のネットワークや情報通信機器を安全に利用するために必要な知識を得ることを目標とします。
	2〜4	情報セキュリティ基盤構築応用	ネットワークを含むクラウドサービスを安全に活用するために必要となる知識と理論について学修します。クラウドサービスの仕組みやセキュリティについて現状と今後の対応に必要な知識を得ることを目標とします。

	配当年次	科目名	授業内容・到達目標
選　択	2〜4	次世代情報基盤構築基礎	次世代のネットワーク通信技術であるIPv6について取り扱います。 IPv6の基礎からセキュリティまでを含む，今後主流となるIPv6ネットワークを構築に必要な知識について学修します。
	2〜4	次世代情報基盤構築応用	発展著しいクラウドサービス活用に必要な知識について学修します。 クラウド環境の構築やIoT、およびクラウドサービス上の機械学習を利用した画像認識や音声処理など、次世代情報基盤構築について必要な知識を得ることを目標とします。
	2〜4	Windowsサーバー管理の基礎（含演習）	マイクロソフトWindowsサーバーの基本操作と管理方法について，基礎的な知識と技術を学修します。またサーバーを正しく利用し，運用を続けるための保守について，必要な知識と方法を学修します。
	2〜4	サーバーの仮想化環境の構築（含演習）	マイクロソフトWindowsサーバーをはじめとしたサーバーの仮想化環境の構築と管理について，基礎的な知識と技術を学修します。また仮想化したサーバーを正しく利用し，効果的に運用を続けるための方法について，必要な知識と方法を学修します。

■履修方法

初年次教育科目である「情報リテラシー」は 1 年生の必修科目です。

その他コンピュータ科目は選択科目です。ただし，学科によっては履修を推奨若しくは必須としている科目もありますので，ガイダンス等で指示を受けてください。

■文理学部 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）

文理学部では，令和 4 年度から文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を目指し，モデルカリキュラムに対応した授業を展開しています。

1　対象

令和 4 年度以降に入学した全学部生

2　モデルカリキュラムとの対応

モデルカリキュラム	実施科目
1　社会におけるデータ・AI利活用	情報リテラシー ビッグデータサイエンス
2　データリテラシー	情報リテラシー データ処理基礎
3　データ・AI利活用における留意事項	情報リテラシー データ処理基礎

3　修了要件

以下の科目をすべて修得する必要があります。

科　目　名	単位数	配当年次
情報リテラシー	2	1
データ処理基礎	2	1~4
ビッグデータサイエンス	2	1~4

※このプログラムに関する手続きは不要です。上記科目を履修登録してください。

「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」について

大学等の正規の課程であって，学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め，かつ，数理・データサイエンス・AI を適切に理解し，それを活用する基礎的な能力を育成することを目的として，数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定及び選定して奨励することにより，数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な能力の向上を図る機会の拡大に資することを目的としているものです。

学科カリキュラム

哲学科

■教育研究上の目的

哲学・倫理学・美学・宗教学の理論と方法を学ぶことを通じて，人間の価値と文化的実践に関わる総合的・体系的研究を行う。特に，古今の哲学者の著作や資料を厳密に読み解くことを基本としながら，思想全般にわたる幅広い知識を身に付けて，鋭い思考力と複眼的なものの見方を養う。それによって，多様化する現代社会の中で自ら問題を発見し，分析して解決することができる人材を養成する。

■教育理念・目標

哲学科は，思想全般にわたる幅広い知識を習得し，鋭い思考力と複眼的なものの見方を養うことによって，多様化する現代社会の中で自ら問題を発見し，分析して解決することができる人材を養成する。

この教育理念を実現するために，哲学科には，哲学・倫理学・美学・宗教学の 4 分野のもとで，学生が各々の関心に応じて効果的に学習できるカリキュラムが用意されている。具体的には，学生は，哲学では知識と存在に関する問題を，倫理学では人間の行為の規範を，美学では美と芸術の本質を，そして宗教学では人間と聖なるものとの関わりを探究することになる。

1 年次では，思考法，学習法に関する基礎的訓練を行う科目（自主創造の基礎，学問の扉，クリティカル・シンキング）や，4 分野の基本的な知識を習得する科目（各概論，講究）が配置される。2 年次以降に各々の関心に従って学習を進める基礎的能力を育成するのが，1 年次の目標である。

1，2 年次にまたがり，テキストを厳密に読む最初の訓練を行う（各基礎講読［A 群］）。また，思想の歴史に関する知識，記号論理，各種古典語に関する授業も設けられている（［B 群］）。2 ～ 4 年次にかけては，演習科目（［C 群］）が配置される。これは，テキストの厳密な読解と討論を経て，思想の十全な理解と批判的思考力を得るための科目群である。また，教員の専門に特化した講義（特殊講義他［D 群］）を通して，専門性の高い新しい研究の成果も学ぶ。

なお，各課題研究は「ゼミ」と呼ばれ，2 ～ 4 年次にかけて選択科目として配置される。ひとりの教員につきその専門分野を最長 3 年間にわたり学ぶ共同研究の場である。ゼミは，学生の希望をもとに選考を実施して履修が認められる科目である。

4 年次の目標は，哲学科で学んだ成果を卒業論文にまとめることである。初めての学術論文作成に向けて，学生個々に指導担当教員がつき，きめ細かな指導がなされる。

■カリキュラムの特徴

哲学・倫理学・美学・宗教学の各分野の科目が並列的に配置されている。学生は，2 年次以降「ゼミ」を履修するなどして個別分野を重点的に学ぶこともできるし，分野をまたがった学習を進めることもできる（ただし，卒業論文は個別分野のいずれかに位置づけられる）。学生各々の多様な関心に応えうるようつくられたカリキュラムである。

卒業論文の作成を目指し，1 年次より計画的な学習に取り組んでほしい。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 70 単位
　必修科目 28 単位，選択科目 A 群から 4 単位，B 群から 16 単位，C 群から 6 単位，D 群から 16 単位
自由選択区分…… 23 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，哲学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

■履修計画上の注意

※哲学・倫理学・美学・宗教学各演習の履修条件：同一分野の概論・講究を修得していること。ただし，演習を履修できる科目数は，半期で 3 科目まで，通年で 6 科目までとする。
※哲学・倫理学・美学・宗教学各課題研究の履修条件：同一分野の概論・講究を修得し，かつ，選考により許可されること。ただし，同一学期中に複数の課題研究を履修することはできない。
※卒業論文 1・2 の履修条件：卒業に必要な単位を 90 単位以上修得済みであること。（したがって，3 年次終了時でこの条件を満たしていないと，4 年間で卒業することができない。十分に注意すること。）

■履修科目登録単位数の上限

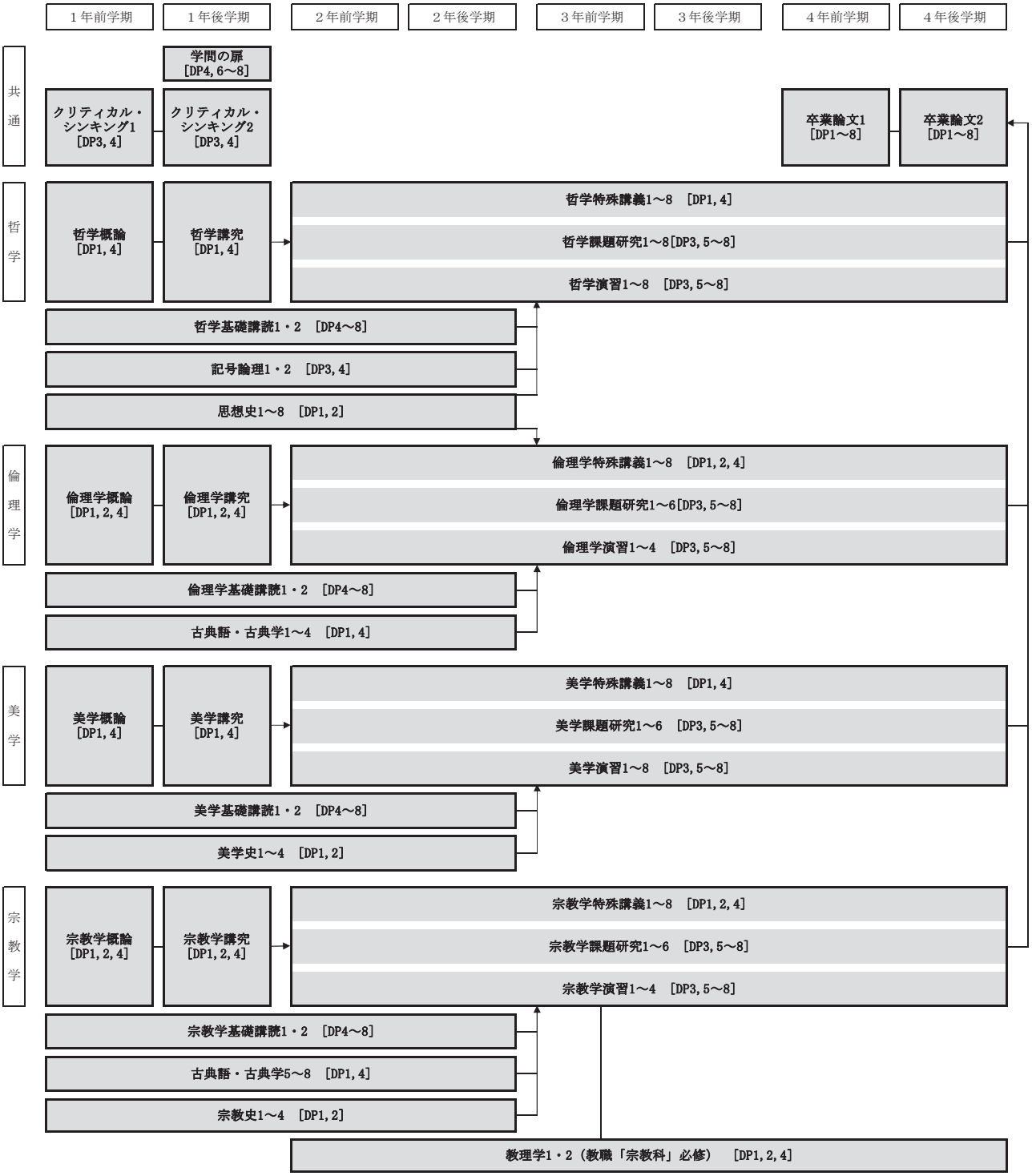
本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

■学科専門科目等一覧表

（〇の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="2">全学共通教育科目</td><td></td><td>自主創造の基礎②</td><td colspan="3"></td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="6">学科専門科目</td><td colspan="2">必修</td><td>学問の扉②
クリティカルシンキング1①
クリティカルシンキング2①
哲学概論②　哲学講究②
倫理学概論②　倫理学講究②
美学概論②　美学講究②
宗教学概論②　宗教学講究②</td><td></td><td></td><td>卒業論文1④
卒業論文2④</td><td>28単位</td></tr>
<tr><td rowspan="5">選択必修</td><td>A群</td><td colspan="3">哲学基礎講読1①
哲学基礎講読2①
倫理学基礎講読1①
倫理学基礎講読2①
美学基礎講読1①
美学基礎講読2①
宗教学基礎講読1①
宗教学基礎講読2①</td><td></td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>B群</td><td colspan="3">思想史1②　思想史2②　思想史3②　思想史4②
思想史5②　思想史6②　思想史7②　思想史8②
美学史1②　美学史2②　美学史3②　美学史4②
宗教史1②　宗教史2②　宗教史3②　宗教史4②
記号論理1②　記号論理2②
古典語・古典学1①　古典語・古典学2①
古典語・古典学3①　古典語・古典学4①
古典語・古典学5①　古典語・古典学6①
古典語・古典学7①　古典語・古典学8①</td><td></td><td>16単位</td></tr>
<tr><td>C群</td><td></td><td colspan="3">哲学演習1①　哲学演習2①　哲学演習3①　哲学演習4①
哲学演習5①　哲学演習6①　哲学演習7①　哲学演習8①
倫理学演習1①　倫理学演習2①　倫理学演習3①　倫理学演習4①
美学演習1①　美学演習2①　美学演習3①　美学演習4①
美学演習5①　美学演習6①　美学演習7①　美学演習8①
宗教学演習1①　宗教学演習2①　宗教学演習3①　宗教学演習4①
哲学課題研究1①　哲学課題研究2①　哲学課題研究3①　哲学課題研究4①
哲学課題研究5①　哲学課題研究6①　哲学課題研究7①　哲学課題研究8①
倫理学課題研究1①　倫理学課題研究2①　倫理学課題研究3①　倫理学課題研究4①　倫理学課題研究5①　倫理学課題研究6①
美学課題研究1①　美学課題研究2①　美学課題研究3①　美学課題研究4①　美学課題研究5①　美学課題研究6①
宗教学課題研究1①　宗教学課題研究2①　宗教学課題研究3①　宗教学課題研究4①　宗教学課題研究5①　宗教学課題研究6①</td><td>6単位</td></tr>
<tr><td>D群</td><td></td><td colspan="3">哲学特殊講義1②　哲学特殊講義2②　哲学特殊講義3②　哲学特殊講義4②
哲学特殊講義5②　哲学特殊講義6②　哲学特殊講義7②　哲学特殊講義8②
倫理学特殊講義1②　倫理学特殊講義2②　倫理学特殊講義3②　倫理学特殊講義4②
倫理学特殊講義5②　倫理学特殊講義6②　倫理学特殊講義7②　倫理学特殊講義8②
美学特殊講義1②　美学特殊講義2②　美学特殊講義3②　美学特殊講義4②
美学特殊講義5②　美学特殊講義6②　美学特殊講義7②　美学特殊講義8②
宗教学特殊講義1②　宗教学特殊講義2②　宗教学特殊講義3②　宗教学特殊講義4②
宗教学特殊講義5②　宗教学特殊講義6②　宗教学特殊講義7②　宗教学特殊講義8②
教理学1②　教理学2②</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td></td></tr>
</table>

■学科専門科目等　履修系統図



※哲学科ディプロマ・ポリシー（DP）

DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
真・善・美・聖という基本価値の探究を通じて，人間と社会の倫理的な課題を理解し，自らの役割を説明することができる。	思想・芸術・宗教の観点から，世界の現状をその歴史的背景とともに理解し，説明することができる。	自他の主張や論証を論理的・批判的に考察して，既存の見解にとらわれずに物事の本質に迫ることができる。	文献や資料の解釈を通じて，あるいは，現代の思想的状況を注意深く考察することによって，哲学的問題を発見し，その解決を図ることができる。	真・善・美・聖という基本価値に深い関心を寄せ，あきらめない意思をもって，人類の思想的課題に取り組むことができる。	価値観の異なる相手であっても他者として尊重しながら，互いの間で合理的な議論を推進していくことができる。	学修活動のみならず，日常生活においてもリーダーシップを発揮して，協働者の力を引き出すことができる。	他者の評価を謙虚に受け止めて，自分の学修活動を反省し，改善していくことができる。

○１年次に配置された，哲学を学ぶための知識と技能を身につける「学問の扉」，論理的思考力を培う「クリティカル・シンキング」，４分野の基礎的知識を習得する「概論」と「講究」，そして４年次に配置された，４年間の集大成というべき「卒業論文」のみが【必修】です。

○哲学科では，哲学・倫理学・美学・宗教学の４分野によって，カリキュラムが構成されています。「概論」「講究」→「特殊講義」は講義形式，「基礎講読」→「課題研究」・「演習」は演習形式です。どの分野を中心に選択するかは自由です。複数の分野に及んで科目を選択することも可能です。

○４分野の基本文献の読解力を養う「基礎講読」，４分野の通史的な全体の流れを理解する「思想史」・「美学史」・「宗教史」，命題論理と述語論理について学ぶ「記号論理」，関連分野の古典テキストを原語で講読するための文法力と基礎知識を習得する「古典語・古典学」（ギリシア語・ラテン語・サンスクリット語・パーリ語）は，原則的に１・２年次で自由に選択することができます。

○４分野の「特殊講義」・「課題研究」・「演習」は，「概論」「講究」や「基礎講読」の内容をより細分化し専門的に発展させたもので，２〜４年次に，それぞれの関心に応じて自由に選択することができます。ただし，「課題研究」（ゼミ）の履修には教員による選考がありますし，「課題研究」・「演習」・「卒業論文」の履修には単位修得に関する一定の条件があります。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

史学科

■教育研究上の目的

現代社会の様々な問題を解決するためには，過去の経緯を踏まえることが必要である。ゼミナール制を基本とした充実した教育環境のもとで，歴史及びその研究法を習得し，歴史的視点と，より正確な歴史像把握の方法を身に付け，豊かな現代社会の構築に寄与する人材を養成する。

■教育理念・目標

日本史・東洋史・西洋史・考古学・文化財学の中から卒業論文のテーマとする分野を中心に，関連分野にも目配りをしつつ，研究を深めていく。そのためには歴史的視点や，より正確な歴史像把握の方法を身につけることが重要であり，歴史についての高度な学問的研究能力の習得を目指す。

■カリキュラムの特徴

研究方法の基本を身に付けるため，2 年次における基礎実習の修得を，3 年次からのゼミナール履修の条件として義務付けている。3 年次と 4 年次には同一教員のゼミナールを連続履修する。この 2 年間のゼミナールの目標は，さらに高度な研究能力を身に付けるための，卒業論文作成である。また 1 年次の史学概論，学問の扉そして卒業論文は全員必修とするが，その他の科目は，自分の研究したい分野を中心に，関連分野の授業を組み合わせて柔軟に選択できる。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 66 単位
必修科目 12 単位，選択必修科目 A 群から 4 単位，B 群から 8 単位，C 群から 16 単位，D 群から 2 単位，
E 群から 4 単位，F 群から 8 単位，選択・その他から 12 単位
自由選択区分…… 27 単位
全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，史学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部の科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

■履修計画上の注意

区分	科目等	必要単位	設置年次	
E群	日本史研究実習1・2	4単位	2〜4年次	「自主創造の基礎」（必修科目）を修得していること。
	東洋史研究実習1・2			
	西洋史研究実習1・2			
	考古学研究実習1・2			
	日本史料研究1〜4			
	古文書・古記録学1〜4			
	東洋史料文献研究1〜4			
	西洋史料文献研究1〜4			
	考古学方法論1〜4			
	＊いずれかの研究実習を，必ず1科目以上選択し履修すること。			
F群	日本史ゼミナール1〜4	8単位	3・4年次	日本史基礎実習（D群設置科目）を1単位以上修得していること。
	東洋史ゼミナール1〜4			東洋史基礎実習（D群設置科目）を1単位以上修得していること。
	西洋史ゼミナール1〜4			西洋史基礎実習（D群設置科目）を1単位以上修得していること。
	考古学ゼミナール1〜4			日本史基礎実習又は考古学基礎実習（D群設置科目）を1単位以上修得していること。
	文化財ゼミナール1〜4			日本史基礎実習（D群設置科目）を1単位以上修得していること。
	＊日本史，東洋史，西洋史，考古学及び文化財学から1分野を選択し，必ず1〜4の順に同一教員のゼミナールを履修すること。また，「■3年次における履修制限」を満たしていないとゼミナールを履修することができない。			

※履修登録の際には，GPA にも配慮すること。

※ 4 年次には，後学期に「卒業論文」の履修登録を必ず行うこと。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■ 3 年次における履修制限

2 年次終了時点で，次の項目のうち，全ての項目を満たしていない学生は，3 年次前学期において史学科の 3 年次配当科目（ゼミナール）を履修できません。

○卒業に必要な単位数を 50 単位以上修得している。

○「自主創造の基礎」を修得している。

○いずれかの基礎実習（D 群設置科目）を 1 単位以上修得している。

＊上記条件は，3 年次転籍・編入した学生には適用されません。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 〜 36 ページ）を参照してください。

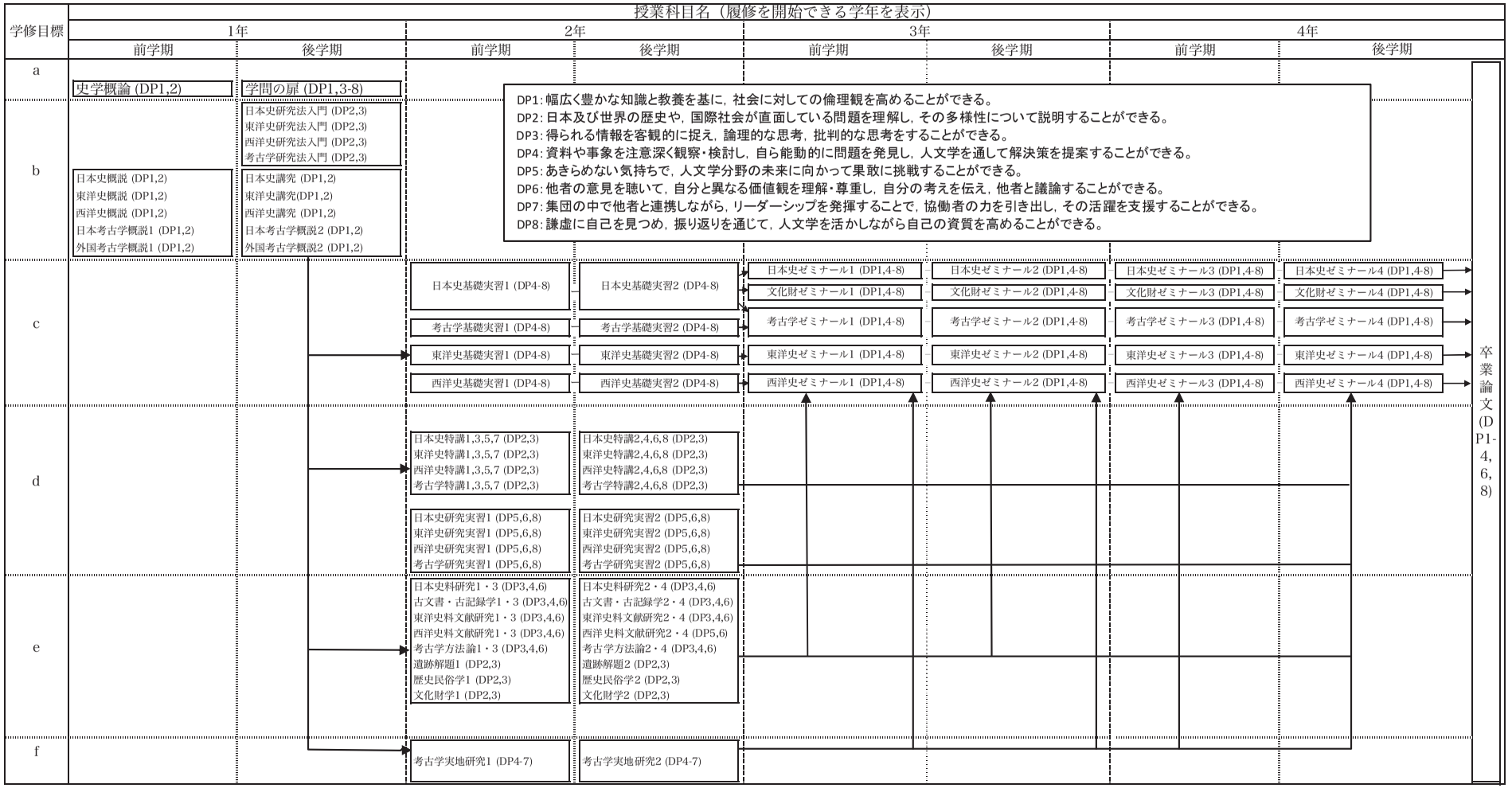
なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（74 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（〇の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次		1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数	
全学共通教育科目		自主創造の基礎②				2単位	
総合教育科目	総合Ⅰ群 総合Ⅱ群 総合Ⅲ群	42ページ参照				16単位	
外国語教育科目		44ページ参照				8単位	
基礎教育科目	健康･スポーツ教育科目	64ページ参照				3単位	
	コンピュータ科目	64ページ参照				2単位	
学科専門科目	必修	史学概論② 学問の扉②			卒業論文⑧＊	12単位	66単位
	選択必修 A群	日本史研究法入門② 東洋史研究法入門② 西洋史研究法入門② 考古学研究法入門②				4単位	
	選択必修 B群	日本史概説② 日本史講究② 東洋史概説② 東洋史講究② 西洋史概説② 西洋史講究② 日本考古学概説1② 日本考古学概説2② 外国考古学概説1② 外国考古学概説2②				8単位	
	選択必修 C群		日本史特講1② 日本史特講2② 日本史特講3② 日本史特講4② 日本史特講5② 日本史特講6② 日本史特講7② 日本史特講8②	東洋史特講1② 東洋史特講2② 東洋史特講3② 東洋史特講4② 東洋史特講5② 東洋史特講6② 東洋史特講7② 東洋史特講8②	西洋史特講1② 西洋史特講2② 西洋史特講3② 西洋史特講4② 西洋史特講5② 西洋史特講6② 西洋史特講7② 西洋史特講8②	考古学特講1② 考古学特講2② 考古学特講3② 考古学特講4② 考古学特講5② 考古学特講6② 考古学特講7② 考古学特講8②	16単位	
	選択必修 D群		日本史基礎実習1① 日本史基礎実習2① 東洋史基礎実習1① 東洋史基礎実習2① 西洋史基礎実習1① 西洋史基礎実習2① 考古学基礎実習1① 考古学基礎実習2①			2単位	
	選択必修 E群		日本史研究実習1① 日本史研究実習2① 東洋史研究実習1① 東洋史研究実習2① 西洋史研究実習1① 西洋史研究実習2① 考古学研究実習1① 考古学研究実習2①	日本史料研究1② 日本史料研究2② 日本史料研究3② 日本史料研究4② 古文書・古記録学1② 古文書・古記録学2② 古文書・古記録学3② 古文書・古記録学4②	東洋史料文献研究1② 東洋史料文献研究2② 東洋史料文献研究3② 東洋史料文献研究4② 西洋史料文献研究1② 西洋史料文献研究2② 西洋史料文献研究3② 西洋史料文献研究4②	考古学方法論1② 考古学方法論2② 考古学方法論3② 考古学方法論4②	4単位	
	選択必修 F群			日本史ゼミナール1② 日本史ゼミナール2② 東洋史ゼミナール1② 東洋史ゼミナール2② 西洋史ゼミナール1② 西洋史ゼミナール2② 考古学ゼミナール1② 考古学ゼミナール2② 文化財ゼミナール1② 文化財ゼミナール2②	日本史ゼミナール3② 日本史ゼミナール4② 東洋史ゼミナール3② 東洋史ゼミナール4② 西洋史ゼミナール3② 西洋史ゼミナール4② 考古学ゼミナール3② 考古学ゼミナール4② 文化財ゼミナール3② 文化財ゼミナール4②	8単位	
	選択		遺跡解題1② 遺跡解題2② 考古学実地研究1② 考古学実地研究2②	歴史民俗学1② 歴史民俗学2② 文化財学1② 文化財学2②		12単位	
	その他		「必修」以外の上記の全ての科目※				
コース科目		140ページ以下の◆印科目を参照					

※学科専門科目のうち，A～F群の各必要単位数を超えて修得した単位数及び「選択」内から修得した単位数が「その他」の単位数に含まれる。
アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。
※C群，E群については，年度により開講されない科目もある。



学修目標		
a	歴史学の基本を学ぶ	歴史学は過去の人々が行ってきたことを研究する学問ですが，高校での歴史の勉強と大学で学ぶ歴史学とでは，その方法が異なります。大学で歴史学を研究するに当たって必要な思考法と技法を基本から学びます。
b	歴史学研究の多様性を学ぶ	歴史学研究が扱う地域や時代，研究素材はきわめて多様です。日本史研究と外国史研究とではその扱う言語や史料が異なり，文献史学とモノ資料を扱う考古学や文化財学との間にも方法論的違いがあります。そのような歴史学研究が持つ多様性を学び，理解します。
c	論文執筆の技術と コミュニケーション能力を身につける	歴史学は人文科学の一分野であり，過去のできごとを証拠と論理によって証明する学問です。そこでは，立証とその内容を他者に伝えるコミュニケーションの技法の習得が不可欠です。史学科での学びの最終的な成果である卒業論文の作成に直結する科目群となります。
d	さらに専門的な歴史学を学ぶとともに， 専門分野を越境する	歴史学の各専門分野における最先端の研究成果を吸収するとともに，自らの専門分野以外の歴史についても学び，専門領域の思考法を転換させる方法を身につけます。
e	歴史学研究法を実践的に習得する	歴史学の各領域に独自の史資料や言語の読解力を養うとともに，史資料から情報を抽出する方法を実践的に習得します。
f	考古学調査の方法を身につける	歴史を究明する史資料を得るための調査のなかで，特に野外調査を必要とする研究を実践します。野外の調査の計画から，準備，調査技術の伝達，調査成果の記録化技術，出土品の整理方法，次回の調査の課題など，調査に必要なスキルと経験を積み，調査能力の向上をはかります。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

国文学科

■教育研究上の目的

日本語学・日本文学の各分野における多角的で総合的な研究に基づく教育のもと，中学校・高等学校等の国語科・書道科教員をはじめとして，日本語・日本文学・日本文化に関する深い知識と，それらを駆使した優れた思考力・対話力・文章力を持った，社会的に有為な人材を養成する。

■教育理念・目標

国文学科で学ぶ学生は，『万葉集』や『源氏物語』等の古典から，夏目漱石・谷崎潤一郎らの近代文学，そして現代の文学とともに，日本語の構造やその動態と歴史，さらに文字や書，書物の文化まで，日本の言葉をめぐる表現や思考について幅広く学び，理解を深めていくことができるようになる。

また，カリキュラムにしたがって，言葉と文化に関する深い知識とそれらを駆使した思考力・文章力を身に付けることにより，中学校・高等学校等の国語科・書道科教員をはじめ，言葉についての洞察と実践力を持った有為な人材として社会に貢献するための基本的な能力を獲得することができる。

■カリキュラムの特徴

専門科目は，日本文学・日本語学の 2 つの領域から成り立っている。これを柱に学生は自らの興味や関心によって学修する内容を選択できる。

1　導入科目：1 年次では専門科目を学ぶ上での基礎的な知識と方法を，「自主創造の基礎」「学問の扉」「日本文学入門」「日本語学入門」といった導入科目における学びを通じて身に付ける。

2　実践と実技：2 年次以降，「基礎演習」「特殊研究ゼミナール」等，少人数の演習科目を必ず受講し，問題発見と考察の方法について実践的に学修する。また，「批評研究」「現代日本語学の方法」等の科目で研究方法を学ぶことと並行して，「フィールドワーク」「文献資料研究」「応用研究」等で，研究のための実技的能力を身に付ける。

3　高度な専門性と学際性：日本語や日本文学の歴史を学ぶ一方，上代から近現代までの文学の時代別講義や，「文献日本語学講義」「現代日本語学講義」等を通じて，より専門的な思考や知識を学修することができる。さらに「神話・伝承研究」「詩歌研究」「物語研究」「芸能文化研究」「児童文学研究」「出版文化研究」「文字文化研究」「創作方法論（実習含む）」等を通じて，より高度な専門性と学際性をも学修することができる。

4　資格取得：教職コース科目と併せて定められた国文学科の専門科目を履修することによって，中学校・高等学校の国語科，高等学校の書道科の教員 1 種免許の取得が可能である。また，他のコース科目と学科専門科目を組み合わせることによって，学芸員，司書教諭，司書等の資格も取得できる。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目……2 単位
総合教育科目……16 単位
外国語教育科目……8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 ……5 単位
学科専門科目……60 単位
自由選択区分……33 単位

全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，国文学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

※学科専門科目（78 ページ「学科専門科目一覧表」参照）

卒業に必要な単位 60 単位のうち，以下の必修科目・選択科目（各群）の単位数を修得すること。

＞必修科目…30 単位　＞選択科目…A 群から 12 単位，B 群から 8 単位を含め合計 30 単位

以下の「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

○３年次における履修制限

文理学部において２年間修学した学生で，修得した総単位数のうち卒業に必要な単位数が 50 単位に満たない学生は，３年次に必修科目の「特殊研究ゼミナール」を履修できません。

この履修制限は，３年次配当科目の履修を制限するものであって，50 単位に満たない場合でも３年次進級は認められます。

また，３年次前学期終了時点で 50 単位に達すれば，後学期からの「特殊研究ゼミナール２」の履修は認められます。ただし前学期の「特殊研究ゼミナール１」の履修が３～４年次にはできなくなるため，４年間での卒業はできなくなります。

なお，この履修制限は，他学部・他大学等から編入した学生には適用されません。交換留学生等，外国の大学に留学した学生が帰国した場合は，別途検討しますので，教務課に問い合わせてください。

○教職科目「文章表現法」の履修について（148 ページ「コース科目」の「国文学科【国語】」参照）

「文章表現法」では，国語の免許状を取得する学生（「国語科用」）と，それ以外の教科の免許状を取得する学生（「他教科用」）とに分け，授業時間の指定を行います。時間割表で詳細を確認の上，受講してください。

国語の免許状を取得する学生で，時間割等の都合上，「他教科用」の受講しかできない学生に限り，その履修を認めます。

なお，教員免許状を取得する予定のない学生でも「文章表現法」は履修できます。その場合は「国語科用」「他教科用」のどちらを選んでも構いません。高度な文章表現能力は必要不可欠なスキルですので，履修を強く推奨します。

○「日本語教育関連科目」の履修について（41 ページ「④国際教養科目」の「日本語教育関連科目」及び 170 ページ「コース科目」の「日本語教育コース（全学科共通）」参照）

総合教育科目の中に「日本語教育関連科目」という科目群があります。１年次から履修可能です。日本語を第一言語（母語）としない人に日本語を教えるための基礎的な知識やスキルを学んでいきます。

学修内容も，日本語学・日本文学と密接な関係にありますので，日本語教育学の基礎を修得することで，自らの専門性をより高めていくことができます。また多様性や国際性についての理解を深めていくこともできます。文章表現法と同様に，履修を強く推奨します。

なお，さらに学びを深めたい場合は，170 ページ「コース科目」の「日本語教育コース（全学科共通）」科目を履修条件に従い 26 単位以上修得することで，日本語教育についての基礎的知識とスキルを獲得したことを証明する，日本語教育コースの「修了証書」が授与されます。

○履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35～36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（78 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="3">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td></td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td></td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="11">学科専門科目</td><td rowspan="2">必修</td><td></td><td>学問の扉②
日本文学入門1②
日本文学入門2②
日本語学入門1②
日本語学入門2②</td><td>基礎演習1②
基礎演習2②</td><td>特殊研究ゼミナール1②
特殊研究ゼミナール2②</td><td>特殊研究ゼミナール3②
特殊研究ゼミナール4②</td><td rowspan="2">30単位</td><td rowspan="11">60単位</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>卒業論文1④＊
卒業論文2④＊</td></tr>
<tr><td rowspan="5">選択必修</td><td rowspan="3">A群</td><td></td><td>上代文学史②
近代文学史②</td><td>中古文学史②
現代文学史②</td><td>中世文学史②</td><td>近世文学史②</td><td rowspan="3">12単位</td><td rowspan="5">30単位</td></tr>
<tr><td></td><td>日本語史1②
日本語音声学②</td><td>日本語史2②</td><td>日本語文法論②</td><td>日本語文法史②</td></tr>
<tr><td></td><td>漢文学1②</td><td>漢文学2②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">B群</td><td></td><td>上代文学講義②
近代文学講義②</td><td>中古文学講義②
現代文学講義②</td><td>中世文学講義②</td><td>近世文学講義②</td><td rowspan="2">8単位</td></tr>
<tr><td></td><td>現代日本語学講義1②</td><td>現代日本語学講義2②</td><td>文献日本語学講義②</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">選択</td><td></td><td>神話・伝承研究②
出版文化研究②
批評研究②
フィールドワーク1③
応用研究2②</td><td>詩歌研究②
書物文化研究②
創作方法論（実習含む）③
フィールドワーク2③
応用研究3②</td><td>物語研究②
文献資料研究②
書学②
フィールドワーク3③
応用研究4②</td><td>芸能文化研究②
児童文学研究②
文字文化研究②
応用研究1②
応用研究5②</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>現代日本語学の方法1②</td><td>現代日本語学の方法2②</td><td>文献日本語学の方法②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td></td></tr>
</table>

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。

■学科専門科目等　履修系統図

選択必修科目・選択科目の学年配置は，推奨する履修年次を示したものである。配当年次については「学科専門科目一覧表」(78ページ)を参照。

必　修　選択必修A群　選択必修B群　選　択

	1年	2年	3年	4年
共通科目	自主創造の基礎 学問の扉 (DP1・3～8)	基礎演習1　基礎演習2 (DP3～8)	特殊研究ゼミナール1 特殊研究ゼミナール2 (DP1～8)	特殊研究ゼミナール3 特殊研究ゼミナール4 (DP1～8)
				卒業論文1　卒業論文2 (DP1～8)
		漢文学1　漢文学2 (DP2)		
		芸能文化研究 出版文化研究 書物文化研究 文献資料研究 児童文学研究 批評研究 文字文化研究 (DP2～5・8) 神話・伝承研究　詩歌研究　物語研究　書学 (DP3～5・8) 創作方法論(実習含む) (DP2～6・8) フィールドワーク1　フィールドワーク2　フィールドワーク3 (DP2～7) 応用研究1　応用研究2　応用研究3　応用研究4　応用研究5 (DP3～8)		
日本文学	日本文学入門1 日本文学入門2 (DP1～3・8)	上代文学史　中古文学史　中世文学史　近世文学史 (DP1) 近代文学史　現代文学史 (DP1・2)		
		上代文学講義　中古文学講義　中世文学講義　近世文学講義 (DP1) 近代文学講義　現代文学講義 (DP1・2)		
日本語学	日本語学入門1 日本語学入門2 (DP1～3・8)	日本語史1　日本語史2　日本語文法史 (DP1・2) 日本語音声学　日本語文法論 (DP3)		
		文献日本語学講義 (DP1)　　現代日本語学講義1　現代日本語学講義2 (DP1・2)		
		現代日本語学の方法1　現代日本語学の方法2 文献日本語学の方法 (DP2～5)		

DP1：日本文学・日本語学を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
DP2：日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，日本文学・日本語学を中心とする専門性に基づきながら，その多様性について説明することができる。
DP3：得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
DP4：資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，日本文学・日本語学研究を通して解決策を提案することができる。
DP5：あきらめない気持ちで，日本文学・日本語学，ひいては人文学分野の未来に向かって果敢に挑戦することができる。
DP6：日本文学・日本語学研究の実践的なスキルを活用しながら，集団の中で他者と連携し，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
DP7：日本文学・日本語学研究の実践的なスキルを活用しながら，他者の意見を聴き，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。
DP8：日本文学・日本語学研究の専門性に基づきながら，謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，自己の資質を高めることができる。

コース科目の履修系統図は，172ページ以下を参照

中国語中国文化学科

■教育研究上の目的

本学科では，「読む・書く・話す・聞く」など全ての面で実用にたえる中国語の教育を行う。さらに，長い歴史と広い領域にわたる多様な中国文化を理解し，東アジアを主とする国際社会で活躍できる人材を育成する。

■教育理念・目標

本学科では，悠久の歴史と広大な地域を持つ中国及び東アジアの言語・文化・社会等の諸方面にわたって，総合的な教育・研究を行う。

中国語教育を行う上で，「読む・書く・話す・聞く」など全ての面で実用にたえる中国語力を，基礎から着実に身に付けることのできるカリキュラムが組まれている。現地で語学力のブラッシュアップを図る海外語学研修も用意されている。また，今日不可欠とされる情報処理技術についても，コンピュータ実習において，中国及び東アジアの諸文化圏で必要とされる技術を習得する。

中国語の運用能力を基礎とし，自らの関心に従って，様々な角度から中国及び東アジアの諸文化圏の人々の営みを学んでいく。基礎知識から，語学・文学・社会の専門的テーマに至るまで，各分野の専門教員から指導を受けつつ，自主的に研究を進めることにより，中国及び東アジアに関する深く，幅広い理解を得ることができる。

本学科は，これらの中国語の運用能力と中国及び東アジアに精通した人材や，次世代に向けた教育・研究を担う人材を養成している。

学年ごとの学習到達目標

1 年次：「中国語 1 ～ 8」（必修）で中国語の基礎を学ぶ。同時に，導入科目である「自主創造の基礎」（必修）「学問の扉」（必修）及び「中国学入門 1 ～ 4」（必修）により，中国の語学・文学・社会などに関する基礎的な知識を身に付ける。

2 年次：「中国語 9 ～ 14」（必修）で総合的な中国語力を付ける。同時に，具体的なスキルに特化した「中国語リーディング 1・2」「中国語ライティング 1・2」「中国語スピーキング 1・2」「中国語リスニング 1・2」（選択必修）を履修することで，より実践的な中国語力の習得を目指す。また，語学・文学・社会など，多様な専門科目を通じて，中国及び東アジアについて幅広く学習する。

3 年次：「研究ゼミ 1・2」（選択必修）では，少人数のゼミ形式で，専任教員の指導のもと，自らの関心に基づいた専門的な研究を行う。ゼミを履修しない学生は「中国学特別研究 1・2」（選択必修）を履修し，指定された課題研究を行う。中国語については，1・2 年次の学習を踏まえて，「中国語リーディング 3・4」「中国語ライティング 3・4」「中国語スピーキング 3・4」「中国語リスニング 3・4」「上級中国語 1 ～ 4」（選択必修）を履修することで，より高度な中国語力を身に付ける。学科専門科目では，3・4 年次に開講されている「中国語学演習 1 ～ 4」「中国古典文学演習 1 ～ 4」「中国現代文学演習 1 ～ 4」「中国社会文化演習 1 ～ 4」（選択必修）により，中国文化に関する専門的な学習を深める。

4 年次：「卒業ゼミ 1・2」（選択必修）では，4 年間の学習の集大成となる卒業論文の執筆に取り組む。ゼミを履修しない学生は「卒業特別研究 1・2」（選択必修）を履修し，4 年間の学習を踏まえて，指定された課題研究を行う。中国語やその他の学科専門科目についても，1 ～ 3 年次に積み上げてきた学習を踏まえて，より高度な知識とさらなる分析力や思考力を習得する。

■カリキュラムの特徴

本学科では，中国及び東アジアに関する語学・文学・社会などについて，古代から現代にいたる人々の営みを広い視野で見渡し，様々な角度から学ぶ。

1 年次には，導入科目の「自主創造の基礎」及び「学問の扉」において学科専門科目を受講する上での必要な学習スキルを身に付ける。必修科目「中国学入門 1 ～ 4」では中国及び東アジアに関する基礎的な知識を身に付ける。2 年次以後，学科専門科目によって中国及び東アジアに関する各分野について幅広い知識を身に付け，3・4 年次には少人数の演習形式の科目を加えることでさらに専門的な知識をより深く学ぶ。

中国語については，1 年次に必修科目で基礎を固め，2 年次には必修科目でさらに総合的な運用能力を高めると共に，選択科目で 4 つのスキルに即した実践力を身に付ける。3・4 年次で引き続き選択必修科目を履修することで，きめ細かな指導により高度な中国語力を養成する。

さらに，現地での学習として，台湾での 3 週間の語学研修や，中国・台湾各地の名門大学での半年間あるいは 1 年間の校費留学制度（選考による）も用意されている。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2単位
総合教育科目…… 16単位
外国語教育科目…… 18単位
　＞必修外国語（中国語 1 ～ 14）
　＞選択外国語（必修外国語以外のいずれか 1 言語の中から 4 単位以上）
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5単位
学科専門科目…… 58単位
　＞必修科目 10 単位
　＞選択科目のうち A 群から 2 単位，B 群から 3 単位，C 群又は D 群から 4 単位，
　　E 群から 2 単位又は F 群から 8 単位を含め合計 48 単位以上
自由選択区分…… 25単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，中国語中国文化学科の学科専門科目などで
　卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

以下の「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

① 「中国語 1 ～ 8」の単位を 6 単位以上修得後でないと，「中国語 9 ～ 14」は履修できない。
② 「中国語リーディング 3・4」，「中国語ライティング 3・4」，「中国語スピーキング 3・4」，「中国語リスニング 3・4」，「上級中国語 1 ～ 4」は，「中国語リーディング 1・2」，「中国語ライティング 1・2」，「中国語スピーキング 1・2」，「中国語リスニング 1・2」から 2 単位以上修得後でないと履修できない。
③ 研究ゼミは，原則として「自主創造の基礎」「学問の扉」「中国語 1 ～ 14」「中国学入門 1 ～ 4」を修得済みであることが履修条件となる。
④ 卒業ゼミは，原則として研究ゼミと同じ教員のゼミに所属する。他の教員のゼミへの移動及び 3 年次に研究ゼミに所属していなかった者の履修については，受け入れ教員の許可を必要とする。

※選択外国語については，中国語以外の 1 言語の中から 4 単位以上を修得すること。ただし，英語を選択した場合は「英語 1 ～ 4」を選択しなければならない。また，外国人留学生については「日本語 1 ～ 8」（「日本語初級 1 ～ 8」）の中から 4 単位以上を修得すること。

＊学科専門科目のうち，必修科目及び選択必修科目は以下のとおりである。

区分	科目等	単位	設置年次	条件等
必修	学問の扉 中国学入門1～4	10単位	1年次	
A群	中国語リーディング1・2 中国語ライティング1・2 中国語スピーキング1・2 中国語リスニング1・2	2単位	2年次	
B群	中国語リーディング3・4 中国語ライティング3・4 中国語スピーキング3・4 中国語リスニング3・4 上級中国語1～4 中国語学演習1～4 中国古典文学演習1～4 中国現代文学演習1～4 中国社会文化演習1～4	3単位	3年次	
C群	中国学特別研究1・2	4単位	3年次	C群又はD群から一方を選択
D群	研究ゼミ1・2	4単位	3年次	
E群	卒業特別研究1・2	2単位	4年次	E群又はF群から一方を選択
F群	卒業ゼミ1・2	8単位	4年次	

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（82 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

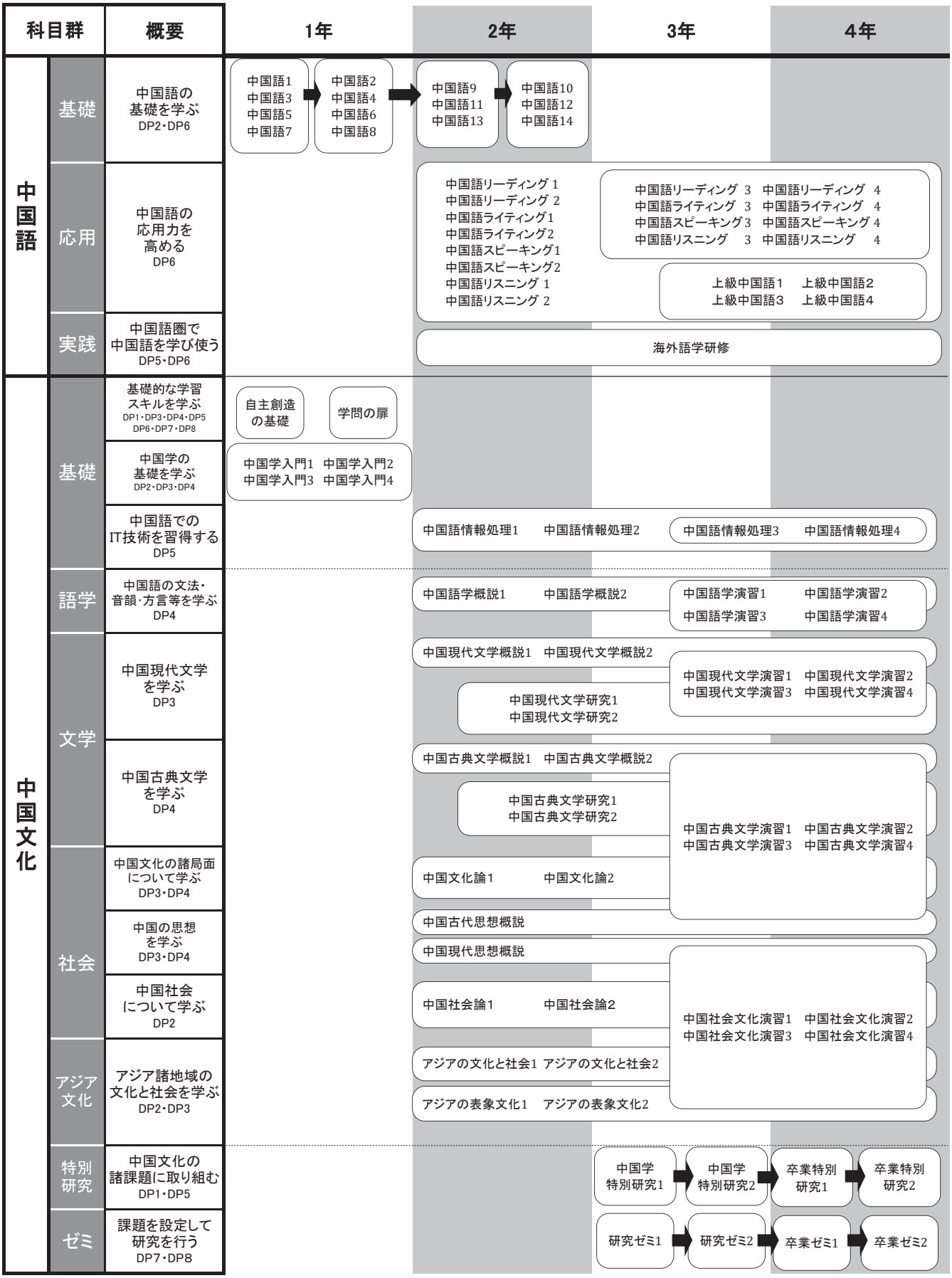
■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次			1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数	
全学共通教育科目			自主創造の基礎②				2単位	
総合教育科目	総合Ⅰ群 総合Ⅱ群 総合Ⅲ群		42ページ参照				16単位	
外国語教育科目	必修外国語		中国語1①　中国語2① 中国語3①　中国語4① 中国語5①　中国語6① 中国語7①　中国語8①	中国語9①　中国語10① 中国語11①　中国語12① 中国語13①　中国語14①			14単位	
	選択外国語		44ページ参照				4単位	
基礎教育科目	健康･スポーツ教育科目		64ページ参照				3単位	
	コンピュータ科目		64ページ参照				2単位	
学科専門科目	必修		学問の扉② 中国学入門1② 中国学入門2② 中国学入門3② 中国学入門4②				10単位	58単位
	選択必修	A群		中国語リーディング1① 中国語ライティング1① 中国語スピーキング1①＊ 中国語リスニング1①＊	中国語リーディング2① 中国語ライティング2① 中国語スピーキング2①＊ 中国語リスニング2①＊		2単位	
		B群			中国語リーディング3① 中国語ライティング3① 中国語スピーキング3①＊ 中国語リスニング3①＊ 上級中国語1① 上級中国語3① 中国語学演習1① 中国語学演習3① 中国現代文学演習1① 中国現代文学演習3① 中国古典文学演習1① 中国古典文学演習3① 中国社会文化演習1① 中国社会文化演習3①	中国語リーディング4① 中国語ライティング4① 中国語スピーキング4①＊ 中国語リスニング4①＊ 上級中国語2① 上級中国語4① 中国語学演習2① 中国語学演習4① 中国現代文学演習2① 中国現代文学演習4① 中国古典文学演習2① 中国古典文学演習4① 中国社会文化演習2① 中国社会文化演習4①	3単位	
		C群			中国学特別研究1②＊ 中国学特別研究2②＊		4単位	
		D群			研究ゼミ1②＊ 研究ゼミ2②＊		4単位	
		E群				卒業特別研究1①＊ 卒業特別研究2①＊	2単位	
		F群				卒業ゼミ1④＊ 卒業ゼミ2④＊	8単位	
	選択			中国語学概説1② 中国現代文学概説1② 中国現代文学研究1② 中国古典文学概説1② 中国古典文学研究1② 中国現代思想概説② 中国社会論1② 中国古代思想概説② 中国文化論1② アジアの文化と社会1② アジアの表象文化1② 中国語情報処理1①＊	中国語学概説2② 中国現代文学概説2② 中国現代文学研究2② 中国古典文学概説2② 中国古典文学研究2② 中国社会論2② 中国文化論2② アジアの文化と社会2② アジアの表象文化2② 中国語情報処理2①＊		
					中国語情報処理3①＊ 中国語情報処理4①＊			
コース科目			140ページ以下の◆印科目を参照					

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。

■学科専門科目等　履修系統図



コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

英文学科

■教育研究上の目的

高度な英語運用能力と英語文学及び英語学の知識に基づく豊かな教養を備え，国際社会の場をはじめ各方面で活躍できる能力を持つ人材を養成する。具体的には，コミュニケーション中心の科目群の学修を通して社会に十分通用する英語運用能力を身に付けさせ，英語圏の文学・文化・言語の専門知識に裏打ちされた多様な価値観を持つ，個性豊かな人材を養成する。

■教育理念・目標

教育理念

確固たる英語力を基盤とした高度なコミュニケーション能力，幅広い知識と深い教養に裏打ちされた人間性，そして時代の流れに柔軟に対応できる鋭敏な感覚を備えた，世界を舞台に活躍できる人材を育成する。

英語という言語を共通項として，英語圏の言語・文学・文化・思想の研究を通して，人間という存在について深く探究し，異文化に対する柔軟な認識と理解，日本人としてのアイデンティティの確立を目指す。

目標

第 1 の目標として，英語運用能力の基礎を固め，読む・聞く・書く・話す力を向上させ，自分の考えを英語で表現できるコミュニケーション能力を習得する。

第 2 の目標として，英語の構造と機能を理解し，「ことば」としての英語について意識を深める。

第 3 の目標として，詩・劇・小説・エッセイ等の英語圏の文学作品を読み，文化，思想，想像力の様式を理解する。

■カリキュラムの特徴

上記教育目標を達成するため，実践的な英語力習得の科目，英語の歴史的変遷，英語の構造とその機能，現代英語の実相の理解等の英語学系の科目，そして，英語圏の文学作品，文学史，文化研究等の文学系の科目を設置している。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 16 単位
　必修外国語（英語 1 ～ 12）
　選択外国語（英語以外のいずれか 1 言語の中から 4 単位以上）
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 62 単位
　必修科目 48 単位
　選択科目のうち A 群から 4 単位，B 群から 6 単位，C 群から 4 単位を含め合計 14 単位以上
自由選択区分…… 23 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，英文学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次の「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

区分	科目等	単位	設置年次	条件等
必修	卒業論文	8単位	4年次	3年次終了時点で修得した卒業に必要な単位数が80単位以上であること。

※選択外国語については，英語以外の 1 言語の中から 4 単位以上を修得すること。ただし，外国人留学生については「日本語 1 ～ 8」（「日本語初級 1 ～ 8」）の中から 4 単位以上を修得すること。
※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

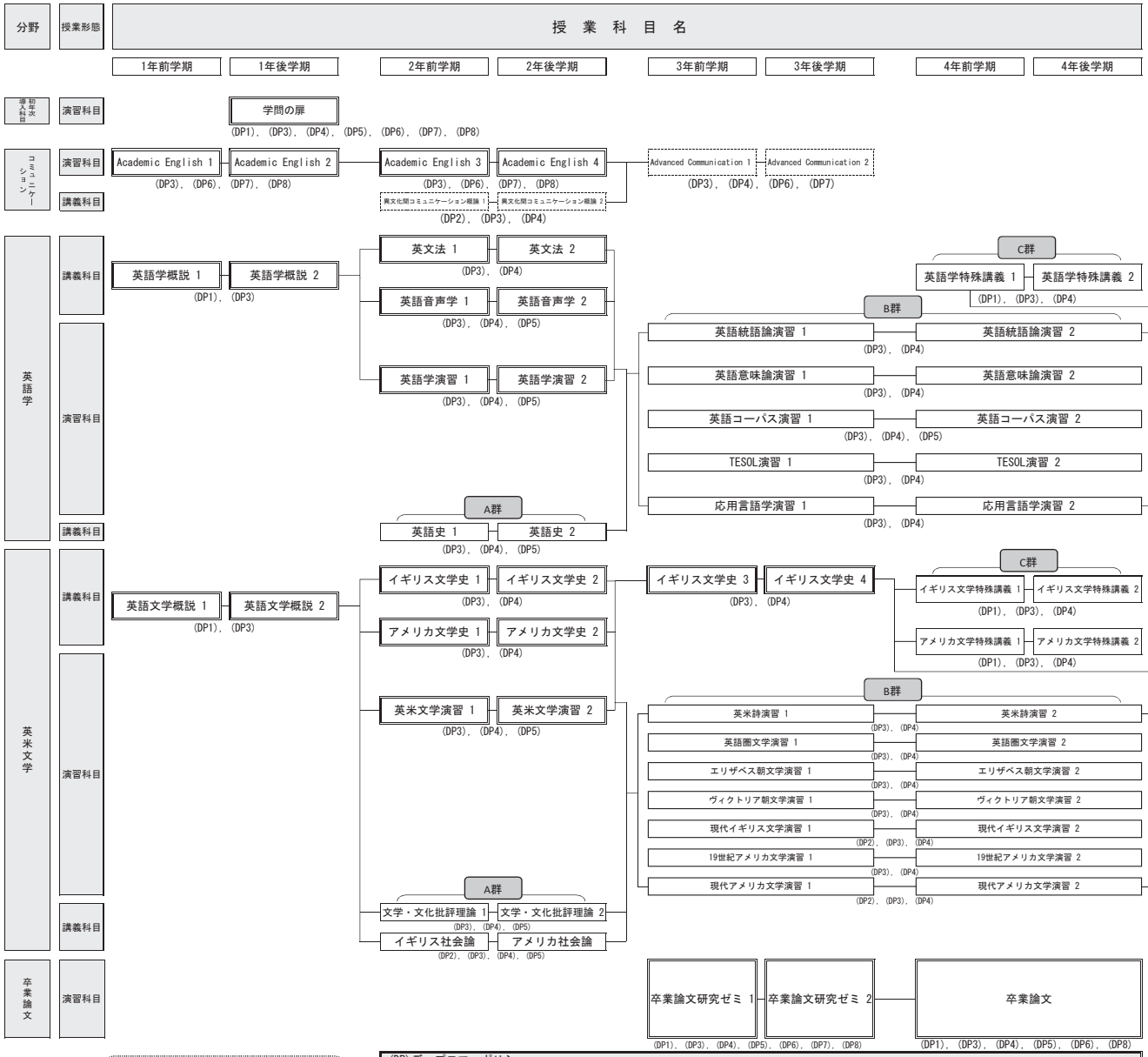
■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th colspan="3">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="3">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">2単位</td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td colspan="3">16単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="2">必修外国語</td><td>英語1①
英語2①
英語3①
英語4①
英語9①
英語10①</td><td>英語5①
英語6①
英語7①
英語8①</td><td>英語11①
英語12①</td><td></td><td colspan="3">12単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択外国語</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td colspan="3">4単位</td></tr>
<tr><td>基礎教育科目</td><td colspan="2">健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="3">3単位</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="3">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="8">学科専門科目</td><td rowspan="5">必修</td><td>初年次導入科目</td><td>学問の扉②</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="5">48単位</td><td rowspan="8">14単位</td><td rowspan="8">62単位</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション</td><td>Academic English1①
Academic English2①</td><td>Academic English3①
Academic English4①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>英語学</td><td>英語学概説1②
英語学概説2②</td><td>英文法1②
英文法2②
英語音声学1②
英語音声学2②
英語学演習1①
英語学演習2①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>英米文学</td><td>英語文学概説1②
英語文学概説2②</td><td>イギリス文学史1②
イギリス文学史2②
アメリカ文学史1②
アメリカ文学史2②
英米文学演習1①
英米文学演習2①</td><td>イギリス文学史3②
イギリス文学史4②</td><td></td></tr>
<tr><td>卒業論文</td><td></td><td></td><td>卒業論文研究ゼミ1①
卒業論文研究ゼミ2①</td><td>卒業論文⑧</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択必修</td><td>A群</td><td></td><td colspan="3">英語史1②
英語史2②
文学・文化批評理論1②
文学・文化批評理論2②
イギリス社会論②
アメリカ社会論②</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td>B群</td><td></td><td></td><td>英米詩演習1①
英米詩演習2①
英語圏文学演習1①
英語圏文学演習2①
エリザベス朝文学演習1①
エリザベス朝文学演習2①
ヴィクトリア朝文学演習1①
ヴィクトリア朝文学演習2①
現代イギリス文学演習1①
現代イギリス文学演習2①
19世紀アメリカ文学演習1①
19世紀アメリカ文学演習2①</td><td>現代アメリカ文学演習1①
現代アメリカ文学演習2①
英語統語論演習1①
英語統語論演習2①
英語意味論演習1①
英語意味論演習2①
英語コーパス演習1①
英語コーパス演習2①
TESOL演習1①
TESOL演習2①
応用言語学演習1①
応用言語学演習2①</td><td>6単位</td></tr>
<tr><td>C群</td><td></td><td></td><td></td><td>イギリス文学特殊講義1②
イギリス文学特殊講義2②
アメリカ文学特殊講義1②
アメリカ文学特殊講義2②
英語学特殊講義1②
英語学特殊講義2②</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択</td><td></td><td>異文化間コミュニケーション概論1②
異文化間コミュニケーション概論2②</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td><td>Advanced Communication1①
Advanced Communication2①</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

■学科専門科目等　履修系統図

英文学科 科目履修系統図



＊ 必修科目　選択必修科目　選択科目

(DP)ディプロマ・ポリシー
文理学部は，日本大学学則第1条に掲げた「自主創造」を基本理念とし，実社会で活躍する人材の育成を目指します。このため，人文系・社会系・理学系の学問を幅広く学び，困難に立ち向かうリベラルアーツ（教養）を身につけるとともに，学科ごとの専門的知識・技術を修得し，教養と知識・技能をともに生かしながら新たな地平を切り開く総合的実践力の獲得を教育目標とします。英文学科では，日本大学の基本理念と文理学部の教育目標を踏まえて，次のようにディプロマ・ポリシーを定めます。

(DP1)豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
英語学・英語圏文学を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，学問的倫理観及び社会的倫理観を高めることができる。

(DP2)世界の現状を理解し，説明する力
日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。

(DP3)論理的・批判的思考力
英語学・英語圏文学を，既存の知識にとらわれることなく，語学的根拠や文学理論に基づいて批判的，論理的に考察し，その本質を理解しようと努めることができる。

(DP4)問題発見・解決力
英語学・英語圏文学を通時的及び共時的視点から注意深く考察することでさまざまな問題を発見し，その解決策を提案できる。

(DP5)挑戦力
英語学・英語圏文学などの専門的知識を身に着け，あきらめない意思をもって，未解決問題に取り組むことができる。

(DP6)コミュニケーション力
他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と議論することができる。

(DP7)リーダーシップ，協働力
集団の中で他者と連携しながらリーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

(DP8)省察力
客観的に自己を見つめ，振り返ることで，英語学・英語圏文学の知識を活かしながら自己の資質を高めることができる。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

ドイツ文学科

■教育研究上の目的

1959（昭和 34）年の学科創設以来の研究と教育の蓄積を活かし，ドイツ語力を基盤にしたドイツ，オーストリア，スイスなどのドイツ語圏の文学・言語学・文化についての専門的な指導を行い，また，実用ドイツ語力を身に付けられるようドイツ語ネイティヴ教員による授業を多数開講するほか，ドイツ語技能検定試験や海外語学研修も単位認定をする形で受験・参加を奨励し，国際的な広い視野と豊かな感性並びに柔軟な判断力を備えた有為な人材を養成する。

■教育理念・目標

教育理念

学際的な教養と専門的知識の獲得を通して，多角的な視野のもとに，自ら学び，省察する力を身につけ，国際社会に通用する実践力と，自国文化と異文化を深く理解し，ともに涵養する創造的な人材を育む教育を目指す。

学年ごとの学習到達目標

1 年次では，初習外国語であるドイツ語の基礎とドイツ語圏の文学・語学・文化についての入門的な知識を学ぶ（入門科目）。2 年次では，1 年次に学んだ基礎的な知識の定着と拡充を図り，専門的な学習に必要なドイツ語力と各専門分野の基礎を習得する（基礎演習科目・講義科目）。専門教育課程に当たる 3・4 年次では，ドイツ語運用能力に磨きをかけるとともに，専門的な知識の拡充を目指し（各専門分野の演習と講義科目・ゼミナール形式の卒業（予備）研究），4 年次の卒業課題に向けて，学生各自が課題を探求する上で必要な情報収集能力，自己表現能力，文章構成能力を鍛練し，これまで積み上げてきた知識を総括する力を養う（卒業論文又は卒業研究）。

■カリキュラムの特徴

ドイツ文学科では専門カリキュラムが文学・語学・文化の 3 分野から成り立ち，ドイツ語とドイツ語圏の文化事情に関する授業で構成され，語学力と各専門分野の幅広い知識の習得に重点が置かれている。

1 年次では，導入教育として各専門分野についての入門科目（3 科目）が配置されている。ドイツ語の必修科目（週 4 科目）の内，1 科目はネイテイヴ・スピーカーによるコミュニケーションの授業，2 科目はクラス担任が担当する。このクラス担任制は 2 年次の基礎演習科目にも適用され，2 年間にわたり，初習外国語を学ぶ学生へのきめ細かな学習支援体制となっている。さらに 1・2 年次の導入教育から，3 年次以降の専門教育課程への円滑な移行と進展を図るために，3 年次からのゼミナール形式の授業（少人数制）において，ゼミナール担当教員による卒業課題（4 年次）に向けた 2 年間にわたる指導が行われる。勉学意欲の強い学生に向けて，2 年次にプレインテンシヴ・コース，3・4 年次に少人数によるインテンシヴ・コースを設け，いっそうの能力開発を目指す。

コミュニケーション能力の向上と異文化理解を実践的に促進するために，隔年ミュンヘンとベルリンを研修地として，夏期休暇期間（4 週間）を活用して，海外語学研修（2 年次から 4 年次対象）も実施されている。参加者は現地語学研修機関の専門教員（ネイティヴ・スピーカー）による語学の授業と文化プログラムを通して，歴史・社会・芸術・文化などのドイツ一般事情について学ぶ。

また，ドイツ語技能検定試験の受験対策講座（1 年次から 2 年次）を設置し，第三者機関の資格取得を奨励している。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目
　必修外国語（ドイツ語 1 ～ 12）12 単位／選択外国語（ドイツ語以外のいずれか 1 言語の中から 4 単位以上）…… 16 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 60 単位
　＞必修科目 22 単位
　＞選択科目のうち A 群又は B 群 4 単位，C 群又は D 群 4 単位，E 群又は F 群 4 単位，
　　G 群と H 群あわせて 6 単位又は K 群 6 単位，選択Ⅰ群 8 単位，選択Ⅱ群 6 単位，
　　選択Ⅲ群 3 単位，選択Ⅳ群 3 単位を含め合計 38 単位以上
自由選択区分…… 25 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，ドイツ文学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次の「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

※選択外国語については，英語以外の 1 言語の中から 4 単位以上を修得すること。ただし，英語を選択した場合は「英語 1 ～ 4」を選択しなければならない。また，外国人留学生については「日本語 1 ～ 8」（「日本語初級 1 ～ 8」）の中から 4 単位以上を修得すること。

区分	科目等	単位	設置年次	条件等	
A群	ドイツ文学史講義1・2	4単位	2年次	A群又はB群の一方を選択すること。	
B群	ドイツ文学史講義3・4				
C群	ドイツ語学講義1・2	4単位	2年次	C群又はD群の一方を選択すること。	
D群	ドイツ語学講義3・4				
E群	ドイツ文化講義1・2	4単位	2年次	E群又はF群の一方を選択すること。	
F群	ドイツ文化講義3・4				
G群	卒業予備研究1・2	4単位	3年次	G群とH群は併せて修得すること。	（G群＋H群）又はK群のいずれか一方を選択すること。
H群	卒業研究1・2	2単位	4年次		
K群	卒業論文	6単位	4年次		
選択Ⅰ群	（講義科目）	8単位	3・4年次	必修科目，A群～ F群，H，K群の選択科目を除く ※3年次にG群を修得し，4年次にK群を修得した場合，G群で修得した単位は，選択科目（講義科目）の単位として扱う。	
選択Ⅱ群		6単位			
選択Ⅲ群	（演習科目）	3単位	3・4年次	必修科目，A群～ K群の選択科目を除く。	
選択Ⅳ群		3単位			

※G 群（卒業予備研究）は 4 年生で K 群（卒業論文）を選択し修得した者のみ，選択Ⅰ群又は選択Ⅱ群に算入される。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

1　4 年次の前学期修了時点の成績で卒業延期が確定した場合，当該年度の卒業科目（卒業論文及び卒業研究 2）は履修中であっても単位は認定されない。

2　学年制：3 年次に 3・4 年次配当科目の演習科目及び「卒業予備研究 1・2」を履修するための条件は，

① 1 年生科目：ドイツ文学科の「ドイツ語 1 ～ 8」の全てを修得していること。

② 2 年生科目：「ドイツ語 11・12」，「ドイツ語基礎演習 1 ～ 4」，「ドイツ語表現演習 1・2」の 8 科目の中から 4 単位以上を修得していること。

3　学年制：4 年次に「卒業論文」及び「卒業研究 1・2」を履修するための条件は，

① 修得単位数の合計が 80 単位以上であること（ただし，教職専門科目の単位数はこの 80 単位には含まれない）。

② 学科専門科目を 26 単位以上修得していること。

③ 1 年生科目：ドイツ文学科の「ドイツ語 1 ～ 8」，「ドイツ文学入門 1・2」，「ドイツ語学入門 1・2」，「自主創造の基礎」，「学問の扉」の全ての科目を修得していること。

④ 2 年生科目：「ドイツ語 11・12」，「ドイツ語基礎演習 1 ～ 4」，「ドイツ語表現演習 1・2」の 8 科目の中から 4 単位以上を修得していること。

⑤ 3 年生科目：「卒業予備研究 1・2」を修得していること。（ただし，「卒業研究 1・2」選択者のみ。）

⑥ その他：外国語教育科目（選択外国語）4 単位，健康・スポーツ教育科目（講義 2 単位・実技 1 単位）のうち，外国語教育科目（選択外国語）と健康・スポーツ教育科目（実技）で合計 5 単位若しくは外国語教育科目（選択外国語）と健康・スポーツ教育科目（講義）で合計 6 単位を修得していること。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（90 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

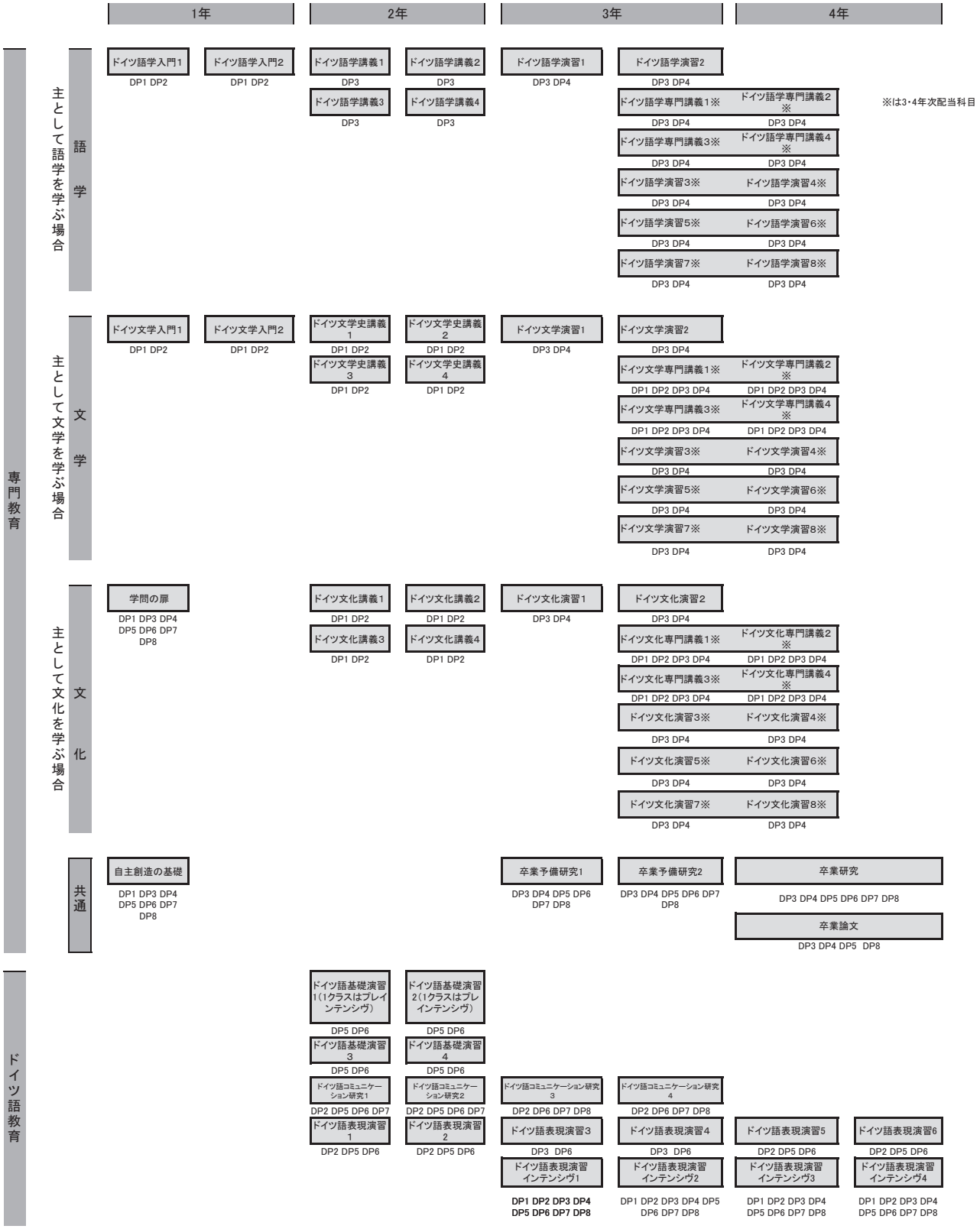
■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>卒業に必要な単位数</th><th></th></tr>
<tr><td colspan="2">全学共通教育科目</td><td></td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td>2単位</td><td></td></tr>
<tr><td>総合教育科目</td><td>総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td></td><td colspan="4">42ページ参照</td><td>16単位</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語教育科目</td><td>必修外国語</td><td></td><td>ドイツ語1①　ドイツ語6①
ドイツ語2①　ドイツ語7①
ドイツ語3①　ドイツ語8①
ドイツ語4①　ドイツ語9①
ドイツ語5①</td><td>ドイツ語10①
ドイツ語11①
ドイツ語12①</td><td></td><td></td><td>12単位</td><td></td></tr>
<tr><td>選択外国語</td><td></td><td colspan="4">44ページ参照</td><td>4単位</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td></td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>3単位</td><td></td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td></td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>2単位</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="12">学科専門科目</td><td colspan="2">必修</td><td></td><td>ドイツ文学入門1②★＊
ドイツ文学入門2②★＊
ドイツ語学入門1②★＊
ドイツ語学入門2②★＊
学問の扉②★</td><td>ドイツ語基礎演習1①
(1クラスはプレインテンシヴ)
ドイツ語基礎演習2①
(1クラスはプレインテンシヴ)
ドイツ語基礎演習3①
ドイツ語基礎演習4①
ドイツ語表現演習1①
ドイツ語表現演習2①</td><td>ドイツ文学演習1①
ドイツ文学演習2①
ドイツ語学演習1①
ドイツ語学演習2①
ドイツ文化演習1①
ドイツ文化演習2①</td><td></td><td>22単位</td><td rowspan="12">60単位</td></tr>
<tr><td rowspan="11">選択必修</td><td>A群</td><td></td><td>ドイツ文学史講義1②
ドイツ文学史講義2②</td><td></td><td></td><td rowspan="2">A群又はB群から4単位</td><td></td></tr>
<tr><td>B群</td><td></td><td>ドイツ文学史講義3②
ドイツ文学史講義4②</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>C群</td><td></td><td>ドイツ語学講義1②
ドイツ語学講義2②</td><td></td><td></td><td rowspan="2">C群又はD群から4単位</td><td></td></tr>
<tr><td>D群</td><td></td><td>ドイツ語学講義3②
ドイツ語学講義4②</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>E群</td><td></td><td>ドイツ文化講義1②
ドイツ文化講義2②</td><td></td><td></td><td rowspan="2">E群又はF群から4単位</td><td></td></tr>
<tr><td>F群</td><td></td><td>ドイツ文化講義3②
ドイツ文化講義4②</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>G群</td><td></td><td></td><td>卒業予備研究1②
卒業予備研究2②</td><td></td><td rowspan="3">6単位</td><td></td></tr>
<tr><td>H群</td><td></td><td></td><td></td><td>卒業研究1①　卒業研究2①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>K群</td><td></td><td></td><td></td><td>卒業論文⑥</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>選択Ⅰ群</td><td></td><td></td><td>ドイツ文学専門講義1②　ドイツ文学専門講義3②
ドイツ語学専門講義1②　ドイツ語学専門講義3②
ドイツ文化専門講義1②　ドイツ文化専門講義3②</td><td></td><td>8単位</td><td></td></tr>
<tr><td>選択Ⅱ群</td><td></td><td></td><td>ドイツ語コミュニケーション研究3②＊</td><td></td><td rowspan="2">6単位</td><td></td></tr>
<tr><td>選択Ⅲ群</td><td></td><td></td><td>ドイツ文学専門講義2②　ドイツ文学専門講義4②
ドイツ語学専門講義2②　ドイツ語学専門講義4②
ドイツ文化専門講義2②　ドイツ文化専門講義4②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>選択Ⅳ群</td><td></td><td></td><td>ドイツ語コミュニケーション研究4②＊</td><td></td><td rowspan="2">3単位</td><td></td></tr>
<tr><td>選択</td><td></td><td></td><td>ドイツ文学演習3①　ドイツ文学演習5①　ドイツ文学演習7①
ドイツ語学演習3①　ドイツ語学演習5①　ドイツ語学演習7①
ドイツ文化演習3①　ドイツ文化演習5①　ドイツ文化演習7①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ドイツ語表現演習3①
ドイツ語表現演習インテンシヴ1①</td><td>ドイツ語表現演習5①
ドイツ語表現演習インテンシヴ3①</td><td rowspan="2">3単位</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ドイツ文学演習4①　ドイツ文学演習6①　ドイツ文学演習8①
ドイツ語学演習4①　ドイツ語学演習6①　ドイツ語学演習8①
ドイツ文化演習4①　ドイツ文化演習6①　ドイツ文化演習8①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ドイツ語表現演習4①
ドイツ語表現演習インテンシヴ2①</td><td>ドイツ語表現演習6①
ドイツ語表現演習インテンシヴ4①</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2">選択</td><td></td><td>ドイツ語コミュニケーション研究1②＊
ドイツ語コミュニケーション研究2②＊</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td></td><td></td></tr>
</table>

★導入科目
アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。
上記科目のうち，以下の区分けがある。
Ⅰ群：ドイツ文学専門講義1・3，ドイツ語学専門講義1・3，ドイツ文化専門講義1・3，ドイツ語コミュニケーション研究3
Ⅱ群：ドイツ文学専門講義2・4，ドイツ語学専門講義2・4，ドイツ文化専門講義2・4，ドイツ語コミュニケーション研究4
Ⅲ群：ドイツ文学演習3・5・7，ドイツ語学演習3・5・7，ドイツ文化演習3・5・7，ドイツ語表現演習3・5，ドイツ語表現演習インテンシヴ1・3
Ⅳ群：ドイツ文学演習4・6・8，ドイツ語学演習4・6・8，ドイツ文化演習4・6・8，ドイツ語表現演習4・6，ドイツ語表現演習インテンシヴ2・4

■学科専門科目等　履修系統図



(DP)ディプロマ・ポリシー：　文理学部は，日本大学学則第1条に掲げた「自主創造」を基本理念とし，実社会で活躍する人材の育成を目指します。このため，人文系・社会系・理学系の学問を幅広く学び，困難に立ち向かうリベラルアーツ（教養）を身につけるとともに，学科ごとの専門的知識・技術を修得し，教養と知識・技能をともに生かしながら新たな地平を切り開く総合的実践力の獲得を教育目標とします。ドイツ文学科では，日本大学の基本理念と文理学部の教育目標を踏まえて，次のようにディプロマ・ポリシーを定めます。
(DP1)豊かな知識・教養に基づく高い倫理観：ドイツ語運用能力、ドイツ語圏の言語文化，さらにそこから見えるヨーロッパ文化を中心とした幅広く豊かな知識と教養を基に，社会に対しての倫理観を高めることができる。
(DP2)世界の現状を理解し，説明する力：ドイツ語圏，ヨーロッパ及び世界の歴史や，国際社会が直面している問題を理解し，その多様性について説明することができる。
(DP3)論理的・批判的思考力：　得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。
(DP4)問題発見・解決力：　資料や事象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に問題を発見し，ドイツ語圏文化に関する知見を通して解決策を提案することができる。
(DP5)挑戦力：ドイツ語圏を手掛かりに言語と文化の多様性を理解し、あきらめない気持ちで未来に向かって果敢に挑戦することができる。
(DP6)コミュニケーション力：　外国語（ドイツ語）や日本語で他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，自分の考えを伝え，他者と実りのある議論をすることができる。
(DP7)リーダーシップ，協働力：　集団のなかで他者と連携しながら，リーダーシップを発揮することで，協働者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。
(DP8)省察力：　謙虚に自己を見つめ，振り返りを通じて，ドイツ語運用能力や、ドイツ文化をはじめヨーロッパ文化についての知識や多様性への理解を活かしながら自己の資質を高めることができる。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

社会学科

■教育研究上の目的

1920（大正 9）年の学科創設以来，「文と理」の横断・融合を目指す文理学部の中で，自然科学と異なる問題意識から出発した社会科学において独自の特徴を有する社会学の強みを活かし，理論と実証と実践のいずれをも重視する学風を築き上げてきた。このような伝統のもとで，グローバル化する現代社会における問題や課題を見いだし，その解決に力を発揮することで，自由でしなやかな社会の構想を具体化する人材の養成を目指す。具体的には，①社会学の理論・学説と方法を深く学び身に付け，②社会学的な思考力や想像力を培い，③現実社会を的確に調査・分析し考察する力を高め，④企画立案と課題解決のための力を養成する。

■教育理念・目標

教育理念：

社会学科では，人と人，人と社会，社会と社会の関わりが複雑化，多様化していく，錯綜する現代社会の姿を的確に捉えるための柔軟な知性と感性を養うことを目指している。

目標：

4 年間の学びを通じ，「基礎となる理論を理解し，調査をはじめとする研究法を習得して現状を分析し，それらを踏まえて企画立案ができる，新たな時代を切り拓く構想力と企画力に富んだ人材」を養成することが目標である。

■カリキュラムの特徴

このカリキュラムは，学習を進めるにつれて段階的に社会学が修得できるよう組み立てられている。

まず 1 年次に，社会学の学習・研究を進めていくために必要となる社会学や社会調査の基礎や，その研究法を身に付け（入門科目），2 年次以降には，社会学や隣接領域の基本的な理論と方法の習得（基本科目）を経て，個々の関心に沿って履修可能な応用科目へと進んでいく。応用科目は，理論・学説科目群，文化・情報メディア科目群，実証・応用科目群の三つの専門領域を中心に多彩な科目が設置されており，現代の社会現象に幅広く対応する専門的な視点を養っていく。

さらに，大学での学びの仕上げとして，3 年次以降では，少人数のゼミナールや実践性を意識した完成科目を設置している。

加えて，社会調査の専門技術の習得と「社会調査士」の資格取得を目標とする「社会調査士コース」を設置していることも特徴である。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 70 単位

卒業に必要な 70 単位のうち，以下の必修科目・選択科目（各群）の単位数を修得すること（【参考】参照）。

＞必修科目　入門科目の 14 単位，基本科目の 4 単位の計 18 単位

＞選択科目　基本科目から 12 単位，応用科目から 28 単位，完成科目から 12 単位を含んで 52 単位以上

自由選択区分…… 23 単位

全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，社会学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

【参考】学科専門科目の 70 単位内訳

計	必修					選択				
	計	入門	基本	応用	完成	計	入門	基本	応用	完成
70	18	14	4	−	−	52	−	12	28	12

■履修計画上の注意

＊基本科目

＞基本科目は，必修 4 単位，選択 12 単位以上修得すること。

＊応用科目

＞応用科目は，選択 28 単位以上修得すること。

＊完成科目

＞完成科目は，次の⑴～⑶の方法の中から，1 つの方法を選択し，合計 12 単位以上を修得すること。

⑴ A 群の中から 4 科目 8 単位，B 群の中から 2 科目 4 単位の計 12 単位

⑵ A 群の中から 2 科目 4 単位，B 群の中から 2 科目 4 単位並びに C 群の 4 科目 4 単位の計 12 単位

⑶ C 群 4 科目 4 単位と卒業論文 8 単位の計 12 単位

＊その他

＞「社会調査士コース」を選択する場合は，指定された科目を履修し，単位を修得すること。

＞「学問の扉」は学科専門の入門科目（選択）であり，1 年次の履修を推奨する。

※詳細は，各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■ 3 年次における履修制限

2 年次終了時点で，卒業に必要な 124 単位のうち，修得した単位が 50 単位に満たない学生は，3 年次前学期において社会学科の 3 年次配当科目を履修できません。ただし，3 年次前学期終了時点で 50 単位を満たした場合，後学期からの 3 年次配当科目の履修は認められます。

※他学部・他大学から編入した学生には適用されません。また，留学した学生が帰国した場合は，別途検討しますので，学科事務室に問い合わせてください。

※この原則は，3 年次配当科目の履修を制限するものであって，50 単位に満たない場合でも 3 年次進級は認められます。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

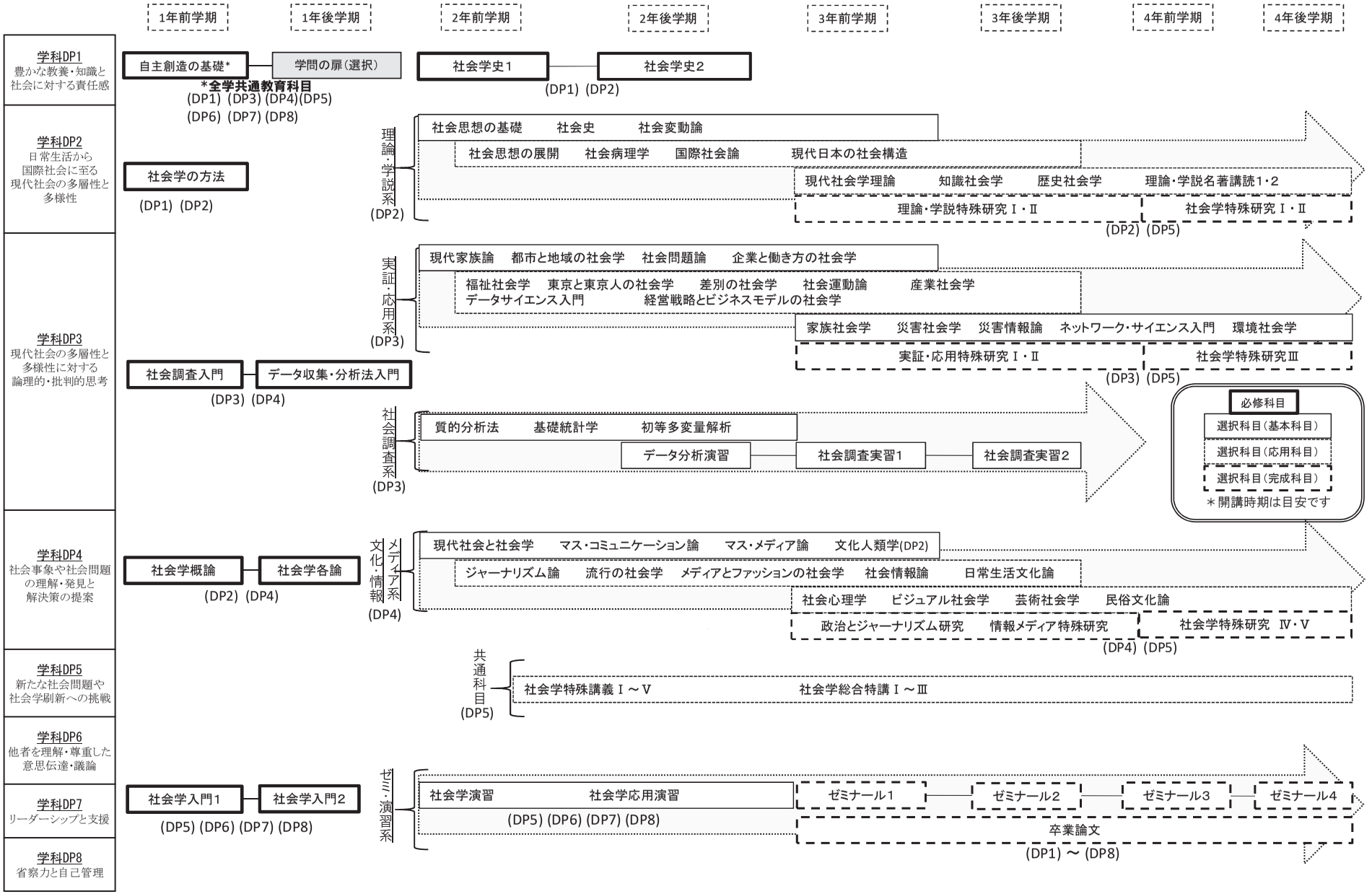
なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（94 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="3">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="19">学科専門科目</td><td rowspan="2">入門科目</td><td>必修</td><td>社会学概論②　社会学各論②
社会学入門1②　社会学入門2②
社会学の方法②　社会調査入門②
データ収集・分析法入門②</td><td></td><td></td><td></td><td>14単位</td><td rowspan="2">70単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td>学問の扉②</td><td></td><td></td><td></td><td>14単位</td></tr>
<tr><td rowspan="7">基本科目</td><td>必修</td><td></td><td>社会学史1②　社会学史2②</td><td></td><td></td><td>4単位</td><td rowspan="6">12単位</td></tr>
<tr><td rowspan="6">選択</td><td>理論・学説</td><td></td><td colspan="2">社会思想の基礎②
社会変動論②
社会史②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>メディア文化情報</td><td></td><td>現代社会と社会学②
マス・メディア論②</td><td>マス・コミュニケーション論②
文化人類学②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>実証・応用</td><td></td><td>現代家族論②
社会問題論②</td><td>都市と地域の社会学②
企業と働き方の社会学②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>調査</td><td></td><td>基礎統計学②
初等多変量解析②
質的分析法②</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>共通</td><td></td><td>社会学演習①
社会学応用演習①</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="12">応用科目</td><td rowspan="12">選択</td><td>理論・学説科目群</td><td></td><td>社会思想の展開②
国際社会論②</td><td>社会病理学②
現代日本の社会構造②</td><td></td><td rowspan="12">28単位</td><td rowspan="12">70単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">メディア文化・情報科目群</td><td rowspan="2"></td><td></td><td>現代社会学理論②
歴史社会学②
理論・学説名著講読2②</td><td>知識社会学②
理論・学説名著講読1②</td></tr>
<tr><td>社会情報論②
流行の社会学②
日常生活文化論②</td><td>ジャーナリズム論②
メディアとファッションの社会学②</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">実証・応用科目群</td><td rowspan="2"></td><td></td><td>ビジュアル社会学②
民俗文化論②</td><td>芸術社会学②
社会心理学②</td></tr>
<tr><td>産業社会学②
東京と東京人の社会学②
福祉社会学②
データサイエンス入門②</td><td>経営戦略とビジネスモデルの社会学②
社会運動論②
差別の社会学②</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">社会調査科目群</td><td rowspan="2"></td><td></td><td>災害社会学②
家族社会学②
ネットワーク・サイエンス入門②</td><td>災害情報論②
環境社会学②</td></tr>
<tr><td>データ分析演習②＊</td><td>社会調査実習1②＊
社会調査実習2②＊</td><td></td></tr>
<tr><td>共通科目群</td><td></td><td colspan="3">社会学特殊講義Ⅰ②　社会学特殊講義Ⅱ②　社会学特殊講義Ⅲ②　社会学特殊講義Ⅳ②
社会学特殊講義Ⅴ②　社会学総合特講Ⅰ②　社会学総合特講Ⅱ②　社会学総合特講Ⅲ②</td></tr>
<tr><td rowspan="4">完成科目</td><td rowspan="4">選択</td><td>A群</td><td></td><td></td><td>理論・学説特殊研究Ⅰ②
理論・学説特殊研究Ⅱ②
政治とジャーナリズム研究②
情報メディア特殊研究②
実証・応用特殊研究Ⅰ②
実証・応用特殊研究Ⅱ②</td><td></td><td rowspan="4">12単位</td></tr>
<tr><td>B群</td><td></td><td></td><td>社会学特殊研究Ⅰ②
社会学特殊研究Ⅱ②
社会学特殊研究Ⅲ②
社会学特殊研究Ⅳ②
社会学特殊研究Ⅴ②</td></tr>
<tr><td>C群</td><td></td><td></td><td>ゼミナール1①
ゼミナール2①</td><td>ゼミナール3①
ゼミナール4①</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>卒業論文⑧</td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td></td></tr>
</table>

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。



コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

社会福祉学科

■教育研究上の目的

社会福祉のあり方は，社会の変化や人々の価値観の多様化，その時々の経済情勢などに対応することが求められる。また，社会福祉の主体は，行政機関，非営利団体，地域の組織や住民，社会的企業など多岐にわたる。こうした社会の状況を踏まえつつ，社会福祉学の理念や制度，社会福祉の実践（ソーシャルワーク）を融合した教育研究を実現することで，変化・多様化するニーズに柔軟に対応し，様々な主体との協働によって，人々が幸せに生活することができる福祉社会の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。このため，多彩な福祉専門領域の教育研究を通じて，社会福祉の理論や相談援助に関する価値・知識・技術を体系的に学ぶとともに，それぞれの学生のキャリア形成も見据えつつ，社会問題の解決を目指した多様な分野の理論や実践に触れることで，高い専門性，豊かな人間性と福祉マインド，地域における協働を通じた社会問題の解決に取り組む実践力を育む。

■教育理念・目標

社会福祉の専門的な価値・知識・技術と豊かな人間性と福祉マインドを持ち，複雑化する生活課題・社会問題の解決に社会の様々な分野で取り組み，人々が幸せに生活することのできる福祉社会の創造に貢献できる実践力を有する人材の養成を目指す。

■カリキュラムの特徴

社会福祉学科の科目群は，社会福祉士資格取得に関連する「共通科目群」，「社会福祉基礎科目群」，「ソーシャルワークコース科目群」と興味関心に応じた幅広い学びを深めるための「福祉専門・教養研究科目群」を領域としつつ，福祉行政系，産業福祉系，社会福祉士やスクールソーシャルワークの資格取得のための実習系科目群によって，希望する進路の方向性に応じた学びを支援する形態をとっている。

また，4 年間にわたって，社会福祉に関する専門的な科目の学習と，フィールドに関わる実践的な学習，社会福祉ゼミナールなどの主体的・統合的な学習を循環しながら，知識，技術，実践力，思考力を総合的に開発していく。1 年次は，社会福祉の導入科目を学びつつ，「福祉社会実践基礎講義」によるフィールドに関する学び，専門科目を選択的に学習することにより，幅広い分野の福祉実践を知り，進路の方向性を考える。また，「自主創造の基礎」では，情報の収集，論理的・批判的な思考力，コミュニケーション能力，他者と協働した生産力など，アカデミックスキルの基礎を習得する。

2 年次には，福祉行政，産業福祉，ソーシャルワークなど希望する進路の方向性に応じた科目群が開講される。これらの区分は固定的なものではなく，柔軟な履修が可能である。

3 年次以降は，ソーシャルワーク実習，産業福祉インターンシップなど実践的な学習と，自身の研究テーマを深めるゼミナールが開始され，4 年次の卒業論文によって 4 年間の学修成果を統合・結実させる。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 63 単位
　Ⅰ　必修科目　　32 単位
　　共通科目群　18 単位
　　統合学習　　12 単位
　Ⅱ　選択科目　　31 単位
自由選択区分…… 30 単位

全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，社会福祉学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次ページ「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

① 社会福祉士国家試験受験資格取得について

ア 社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は，指定科目を全て履修しなければならない。社会福祉学科開講科目のうち，＊の科目

イ 「ソーシャルワーク実習 1」「ソーシャルワーク実習 2」を履修していなければならない。

ウ 卒業単位を満たしていなければならない（卒業要件を満たす）。

② 再履修について

「ソーシャルワーク実習指導 1 ～ 3」「ソーシャルワーク実習 1」「ソーシャルワーク実習 2」「スクールソーシャルワーク実習指導」「スクールソーシャルワーク実習」は再履修できない。

③ ソーシャルワーク実習の履修について

特定の科目を履修済みであることなど，学科が定める要件を満たす必要がある。

④ スクールソーシャルワークコースについて

ア スクールソーシャルワーク資格取得を志望する者は，指定科目全てを履修しなければならない。

社会福祉学科開講科目のうち，社会福祉士国家試験受験資格認定指定科目（上記参照）並びにスクールソーシャルワーク科目群全ての科目

イ 次の 2 つの要件を満たすこと。（次の科目の履修は，3 年次以降とする。）

要件 1：①「現代教職論」＋「教育の社会学」又は②「現代教職論」＋「教育制度論」のうちどれか 1 つ

要件 2：③「発達と学習」＋「特別支援教育概論」，④「生徒指導・進路指導論」又は⑤「教育相談」のうちどれか 1 つ

⑤ 履修モデルについて

ア 履修モデルは，キャリアの志向に応じたモデルとして参考に示したものであり，各モデルに位置づけられている科目を自由にまたいで履修してよい。

例えば，福祉系公務員を志望する者は，福祉行政系科目群を履修することが考えられるが，その他のモデルに位置づけられている科目も自由に履修することができる。

イ 社会福祉士国家試験受験資格取得を希望する者は，履修モデル①（ソーシャルワークコースモデル）に位置づけられる科目を履修しなければならない。

ウ スクールソーシャルワーク資格取得を希望する者は，履修モデル①（ソーシャルワークコースモデル）に位置づけられる科目並びに履修モデル②（スクールソーシャルワークコースモデル）を履修しなければならない。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5 履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（98 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

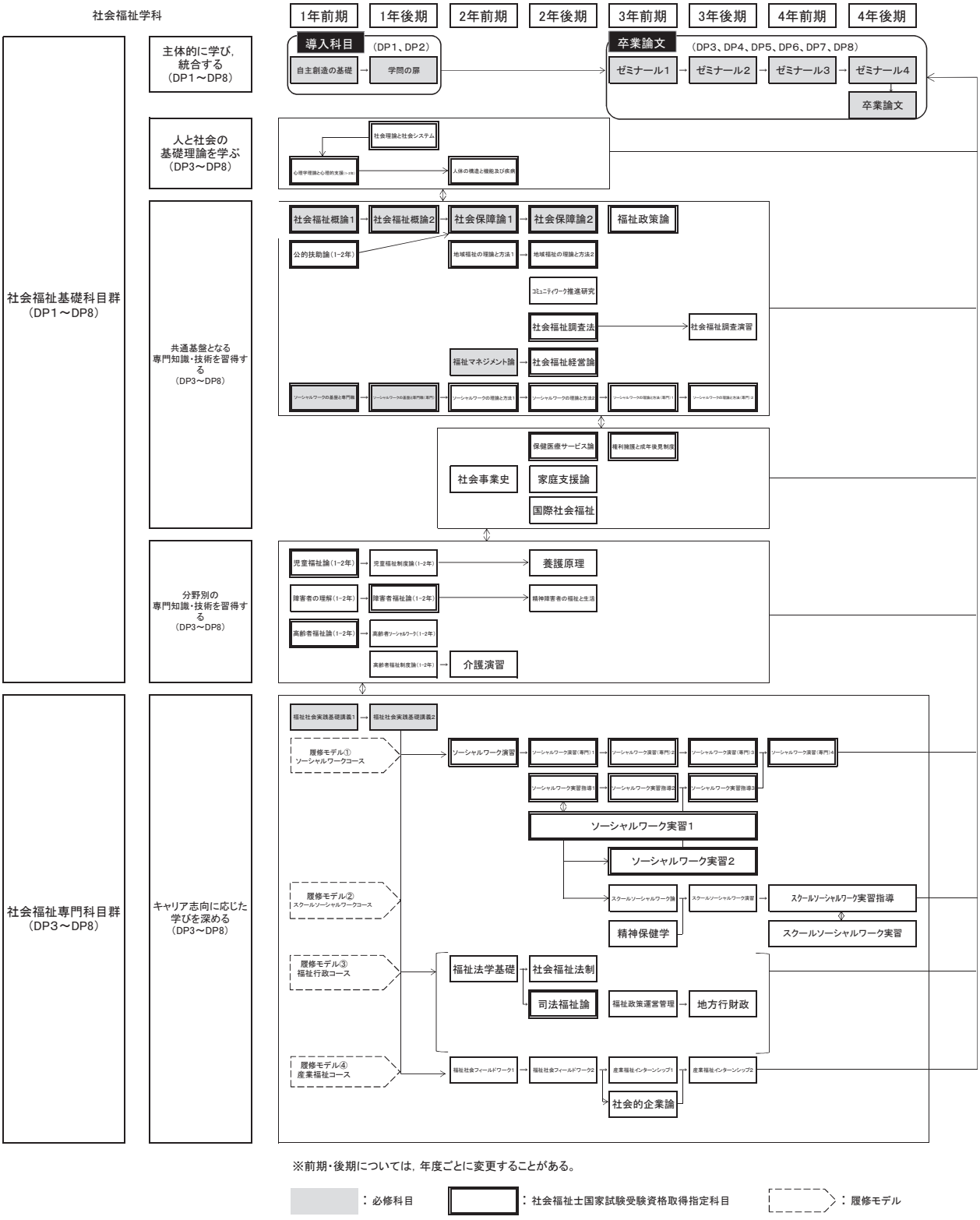
<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="3">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康・スポーツ教育科目</td><td></td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td></td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="11">学科専門科目</td><td rowspan="2">必修</td><td>共通科目群</td><td>＊★ソーシャルワークの基盤と専門職②
＊★ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）②
＊★社会福祉概論1②
＊★社会福祉概論2②
学問の扉②
★福祉社会実践基礎講義1②
★福祉社会実践基礎講義2②</td><td>福祉マネジメント論②
＊社会保障論1②
＊社会保障論2②</td><td></td><td></td><td rowspan="2">32単位</td><td rowspan="11">63単位</td></tr>
<tr><td>統合学習</td><td></td><td></td><td>ゼミナール1①
ゼミナール2①</td><td>ゼミナール3①
ゼミナール4①
卒業論文⑧</td></tr>
<tr><td rowspan="9">選択</td><td rowspan="3">社会福祉基礎科目</td><td>＊★社会理論と社会システム②</td><td>＊地域福祉の理論と方法1②
＊地域福祉の理論と方法2②</td><td></td><td></td><td rowspan="8">31単位</td></tr>
<tr><td>＊児童福祉論②
＊障害者福祉論②</td><td>＊高齢者福祉論②
＊公的扶助論②</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">ソーシャルワークコース科目群</td><td></td><td>＊心理学理論と心理的支援②</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>＊人体の構造と機能及び疾病②
＊社会福祉調査法②
＊保健医療サービス論②
＊社会福祉経営論②

＊ソーシャルワークの理論と方法1②
＊ソーシャルワークの理論と方法2②</td><td>＊権利擁護と成年後見制度②
＊福祉政策論②

＊ソーシャルワークの理論と方法（専門）1②
＊ソーシャルワークの理論と方法（専門）2②</td><td></td></tr>
<tr><td>＊ソーシャルワーク演習①
＊ソーシャルワーク演習（専門）1①
＊ソーシャルワーク実習指導1①</td><td>＊ソーシャルワーク演習（専門）2①
＊ソーシャルワーク演習（専門）3①
＊ソーシャルワーク実習指導2①
＊ソーシャルワーク実習指導3①</td><td>＊ソーシャルワーク演習（専門）4①</td></tr>
<tr><td>＊ソーシャルワーク実習1⑥
＊ソーシャルワーク実習2②</td><td></td></tr>
<tr><td>スクールソーシャルワーク科目群</td><td colspan="2"></td><td>スクールソーシャルワーク論②
スクールソーシャルワーク演習①
精神保健学②</td><td>スクールソーシャルワーク実習指導②
スクールソーシャルワーク実習②</td></tr>
<tr><td>産業福祉系科目群</td><td></td><td>福祉社会フィールドワーク1①
福祉社会フィールドワーク2①</td><td>産業福祉インターンシップ1①
産業福祉インターンシップ2①
社会的企業論②</td><td></td></tr>
<tr><td>福祉行政系科目群</td><td></td><td>福祉法学基礎②
社会福祉法制②
＊司法福祉論②</td><td>福祉政策運営管理②
地方行財政②</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">福祉専門研究／福祉教養科目群</td><td>児童福祉制度論②
障害者の理解②</td><td>高齢者ソーシャルワーク②
高齢者福祉制度論②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>介護演習①
養護原理②
コミュニティワーク推進研究②
家庭支援論②
精神障害者の福祉と生活②
社会事業史②
国際社会福祉②</td><td>社会福祉調査演習①</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td></td></tr>
</table>

★導入科目
社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は，＊の科目を全て履修しなければならない。
アンダーラインを付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれない。

■学科専門科目等　履修系統図



※前期・後期については，年度ごとに変更することがある。

：必修科目　：社会福祉士国家試験受験資格取得指定科目　：履修モデル

（DP）ディプロマポリシー

日本大学文理学部（学士（社会福祉学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力に基づく本学部（学士（社会福祉学））における能力を修得したものに，「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。

（DP1） 幅広く豊かな知識と教養を基に，人間や社会に対しての倫理観を高めることができる。	（DP2） 日本及び世界の歴史や，国際社会が直面している社会福祉の問題を理解し，福祉社会の多様性について説明することができる。	（DP3） 得られる情報を客観的に捉え，論理的な思考，批判的な思考をすることができる。	（DP4） 社会や身近な環境に存在する福祉課題を見抜き，職業人及び市民としての立場から，課題解決の方向を提案することができる。
（DP5） どんなに困難な社会福祉の課題に関しても忍耐強く取り組み，社会福祉学の未来に向かって果敢に挑戦することができる。	（DP6） 他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重し，問題解決するための信頼・協働関係を構築することができる。	（DP7） 集団において他者と連携しながら，リーダーシップを発揮し，社会福祉の当事者や協働者の力を引き出し，支援することができる。	（DP8） 自らの実践や社会との関わりを常に振り返り，社会の変化に応じた新たな知識や技能を学び，自己の資質を高めることができる。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

教育学科

■教育研究上の目的

教育については，原理的，かつ，総合的に学習することにより，教職をはじめとする多様な分野において活躍し得る人材を養成する。研究については，教育に関する幅広い視野と問題意識をもつ多くの教員を擁し，各分野における最前線の研究活動を通じて，その成果を学生に還元する。

■教育理念・目標

人間が文化的生活を送り，社会を形成していく上で重要な役割を果たす「教育」は，重要であるからこそ難しく面白いものです。教育学は，哲学・歴史・社会学・心理学をはじめとする諸学問を「教育」という面から捉え，行政・学校・幼児教育・生涯学習・メディア教育など，様々な研究分野を探求する学問です。教育学科は，教育について原理的かつ総合的に学習することにより，教職をはじめ多様な分野において活躍しうる人材の養成をめざしています。教育に関する幅広い視野と問題関心を持つ多くの教員を擁し，研究と教育に力を注いでいます。教育学科の多彩な教授陣による多様なカリキュラムは，皆さんの成長に寄与します。

本学科では，多様なカリキュラムから自分のニーズに合った授業を選択して学ぶことができます。教員を目指す学生にとって，社会科・公民科のほか，他学科聴講により地理歴史，国語，英語，保健体育，数学など複数科目の免許状を取得できるのが本学科の強みです。このほか，社会教育主事コースなど異なるコースの資格取得を目指すことも可能です。もちろん，一般企業や公務員への就職を希望する人も多く，その就職率も毎年良好です。教員一同，皆さんの成長を応援し，全力でサポートしています。

■カリキュラムの特徴

本学科では，講義系科目で専門的な知識を幅広く習得しながら，演習系科目で特定のテーマについて深く掘り下げて学んでいきます。

講義系科目には，必修科目を含む「教育学の中核となる分野」を中心に，「学校教育に関する分野」，「発達と人間形成に関する分野」，「教育と社会・メディアに関する分野」，「教育と国際理解に関する分野」，「社会教育及び生涯学習に関する分野」，「特別支援教育に関する分野」があります。以上の分野を横断してテーマ設定される「特殊課題を探求する分野」もあります。

演習系科目には，「教育学演習」や「卒業論文」などがあり，講義系科目で学んだ内容を踏まえて，自ら探求したい研究テーマを設定し，アクティブに学びます。

1 年次は，教育学の土台となる基礎知識及びアカデミック・スキルズをしっかりと身に付けます。2 年次以降は，講義・演習・体験活動など多様な形態で教育学を学び，広い視野を育みます。4 年次には，探求したい研究テーマを設定して卒業論文に取り組みます。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 56 単位
自由選択区分…… 37 単位

全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，教育学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次ページ「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

●学科専門科目

卒業に必要な 56 単位のうち，以下の必修科目・選択科目の単位数を修得すること。

＞必修科目……30 単位

※ただし，「卒業論文」は，3 年次終了時で総単位数 90 単位以上修得していなければ，履修はできないので注意すること。

＞選択科目……26 単位

＊教育学演習（2 ～ 3 年次）

＞ 2 年次の「教育学演習 1・2」では，希望申し込みをし，人数調整をした後，授業に入る。決定後の移動は認めない。

＞ 3 年次の「教育学演習 3・4」では，希望申し込みをし，人数調整をした後，授業に入る。決定後の移動は認めない。

＞期日までに申し込みをしない場合，履修を認めない。

＞シラバスの内容をよく確認し，4 年次の卒業論文を視野に入れた選択をすること。

＊卒業論文（4 年次）

＞ 3 年次に指導教員希望調査を実施する。

＞ 4 年次は，指導教員とスケジュールを相談しながら進める。

●年次別標準修得単位数

3 年次終了時で総単位数 90 単位以上修得していないと，4 年次で卒業論文の履修を許可しない。したがって，4 年間で卒業することができない。十分に注意すること。

年次別標準修得単位数	1年次終了時	2年次終了時	3年次終了時
	30単位以上	60単位以上	90単位以上

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，科において，学科専門科目等一覧表（102 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

なお，教育学科においては，以下の条件を満たす場合，次の科目については，履修登録上限単位数である年間 40 単位には含まれません。

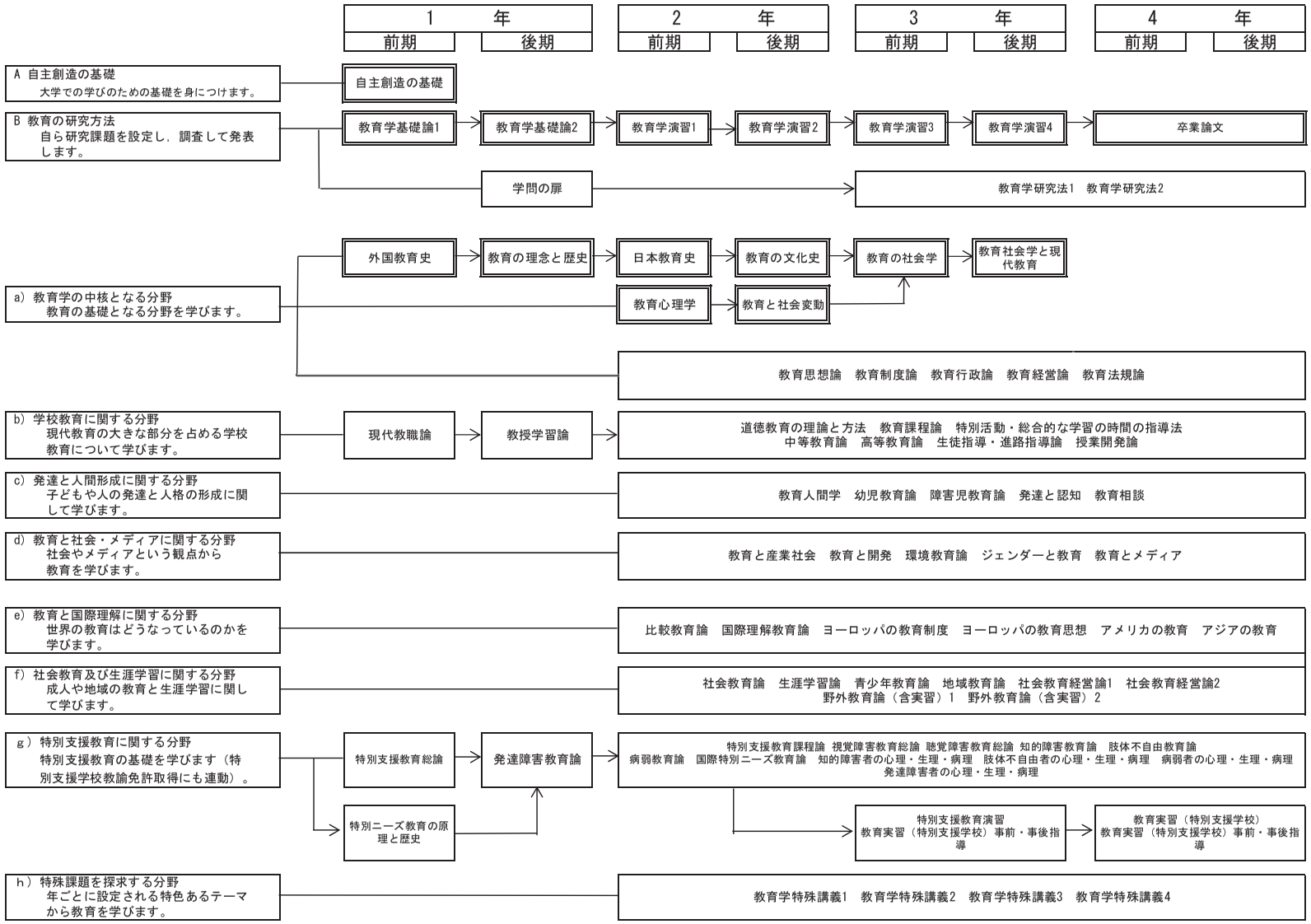
条件	1年次	教職コースを登録しており，「教授学習論」「現代教職論」のうち1科目以上を履修していること。
	2年次	教職コースを登録しており，かつ「教授学習論」「現代教職論」の双方を修得済みであること。
「教育の基礎的理解に関する科目等」の学科専門科目のうち必修でないもの（丸カッコ内は「教育の基礎的理解に関する科目等」の相当科目）		「現代教職論」（現代教職論），「教授学習論」（教育の方法・技術論），「生徒指導・進路指導論」（生徒指導・進路指導論），「教育制度論」（教育制度論），「道徳教育の理論と方法」（道徳教育の理論と方法），「教育相談」（教育相談），「特別活動・総合的な学習の時間の指導法」（特別活動・総合的な学習の時間の指導法），「教育課程論」（教育課程論）
「大学が独自に設定する科目」の学科専門科目（丸カッコ内は「大学が独自に設定する科目」の相当科目）		「社会教育論」（社会教育論），「障害児教育論（中学社会，高校公民のみ）」，「教育法規論」（教育法規論）

■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="4">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="4">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合教育科目</td><td colspan="3">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td colspan="3">健康・スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="11">学科専門科目</td><td rowspan="3">必修</td><td rowspan="2">教育学の中核となる分野（教育学（教育基礎学））</td><td></td><td>教育学基礎論1②
教育学基礎論2②
外国教育史②
教育の理念と歴史②</td><td>日本教育史②
教育の文化史②
教育心理学②
教育と社会変動②</td><td>教育の社会学②
教育社会学と現代教育②</td><td></td><td rowspan="2">24単位</td><td rowspan="10">56単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育の研究方法</td><td></td><td>教育学演習1①＊
教育学演習2①＊</td><td>教育学演習3①＊
教育学演習4①＊</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td><td>卒業論文⑥＊</td><td>6単位</td></tr>
<tr><td rowspan="8">選択</td><td colspan="2">学問の扉②</td><td colspan="2">教育学研究法1②＊
教育学研究法2②＊</td><td></td><td rowspan="8">26単位</td></tr>
<tr><td>教育学の中核となる分野</td><td></td><td>教育思想論②
教育経営論②</td><td>教育制度論②★
教育法規論②★</td><td>教育行政論②</td></tr>
<tr><td>学校教育に関する分野</td><td>現代教職論②★
教授学習論②★</td><td>道徳教育の理論と方法②★
中等教育論②
授業開発論②</td><td>教育課程論②★
高等教育論②</td><td>特別活動・総合的な学習の時間の指導法②★
生徒指導・進路指導論②★</td></tr>
<tr><td>発達と人間形成に関する分野</td><td rowspan="4"></td><td>教育人間学②
発達と認知②</td><td>幼児教育論②
教育相談②★</td><td>障害児教育論②</td></tr>
<tr><td>教育と社会・メディアに関する分野</td><td>教育と産業社会②
ジェンダーと教育②</td><td>教育と開発②
教育とメディア②</td><td>環境教育論②</td></tr>
<tr><td>教育と国際理解に関する分野</td><td>比較教育論②
ヨーロッパの教育制度②</td><td>国際理解教育論②
アメリカの教育②</td><td>ヨーロッパの教育思想②
アジアの教育②</td></tr>
<tr><td>社会教育及び生涯学習に関する分野</td><td>社会教育論②★
地域教育論②
野外教育論（含実習）1②</td><td>生涯学習論②
社会教育経営論1②
野外教育論（含実習）2②</td><td>青少年教育論②
社会教育経営論2②</td></tr>
<tr><td>特別支援教育に関する分野</td><td>特別支援教育総論②
特別ニーズ教育の原理と歴史②
発達障害教育論②</td><td>特別支援教育課程論②
知的障害教育論②
国際特別ニーズ教育論②
病弱者の心理・生理・病理②</td><td>視覚障害教育総論①
肢体不自由教育論②
知的障害者の心理・生理・病理②
発達障害者の心理・生理・病理②</td><td>聴覚障害教育総論①
病弱教育論②
肢体不自由者の心理・生理・病理②</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">特別支援教育演習①
教育実習（特別支援学校）事前・事後指導①※3・4年次</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2"></td><td>教育実習（特別支援学校）②</td></tr>
<tr><td>特殊課題を探求する分野</td><td></td><td>教育学特殊講義1②
教育学特殊講義3②</td><td>教育学特殊講義2②
教育学特殊講義4②</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td></td></tr>
</table>

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。
アンダーラインと★を付した科目は，履修条件を満たすと，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。（詳細は，101ページを参照してください。）



（文理学部DP） 文理学部は，日本大学の学則第1条に掲げた「自主創造」を基本理念とし，実社会で活躍する人材の育成を目指します。このため人文系・社会系・理学系の学問を幅広く学び，困難に立ち向かうリベラルアーツ（教養）を身につけるとともに，学科ごとの専門的知識・技術をともに生かしながら新たな地平を切り開く総合的実践力の獲得を教育目標とします。	［DP1］ 幅広い教養と倫理感を持ち，学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的知識・技能をつなぎ，総合的に活用することができる。 ［DP5］ 自ら新しきを作り出す気概を持ち，行動できる。	［DP2］ 古今東西の多様な文化や社会について豊かな想像力と理解力をもち，少数者を含めた他者への共感的な感覚や態度を身に付けている。 ［DP6］ 言語や身体など，様々な媒体を通して他者の思いや考えを受けとめるとともに，自分の思いや考えを伝え，創造的な対話と議論を重ねることができる。	［DP3］ 学科の学位プログラムに基づいて習得した専門的・知識技能をつなぎ，総合的に活用する論理的・批判的思考力を身に付ける。 ［DP7］ 見出された問題に立ち向かい，的確な情報収集や分析をしながら多くの人々と協力し，解釈や解決に向けてリーダーシップを発揮することができる。	［DP4］ 自然の摂理を解明するとともに，多くの対立や葛藤を抱えた人間・社会の複雑性を科学的に認識し，問題を見出すことができる。 ［DP8］ 普遍的な市民としての自覚をもち，その専門的知識の社会的な意味を省察的に考え，総合的な活動につなげることができる。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

履修要項
系統図

体育学科

■教育研究上の目的

体育・スポーツ・健康を取り巻く様々な学問領域における最先端の研究成果を活かしながら，優れた運動技能と高度な科学的知識・技術及び実践力を備えた，活力あふれる人間性豊かな専門家を養成する。

■教育理念・目標

中学校・高等学校（一部小学校）の教員やスポーツ関連機関の指導者（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者など），あるいは体育・スポーツ科学や健康科学の研究者（大学院）を目指す学生に対応できるよう，総合大学の特色を活かした教育プログラムを提示し，実社会に求められている実践力やリーダーシップを有した人材を社会に送り出すことを目標としている。

■カリキュラムの特徴

＊１年次の導入科目である「体育学概論」から２年次「体育学基礎演習１・２」，３年次「各種演習又は各種スポーツ方法論」及び「ゼミナール」，４年次「卒業論文」又は「卒業研究１・２」まで体系的に構成している。

＊実技科目では，特に「できるようになる」だけでなく，「できるための仕組み」について深く洞察することを通じて，「できるようにする」ための知識・技術を指導する。また，講義科目では，教職や社会体育指導者のライセンスに関わる種々の基礎理論をはじめ，トレーニング，コーチング，スポーツマネジメント，傷害の予防・処置等に関する理論について専門的な指導を行う。さらに演習科目では，各専門領域に応じた研究法に基づいた実験や調査等を通じ，専門的知識及び技術を習得するための指導を行う。

＊インターンシップ制度を導入し，就労体験をすることで，実践力を養う。

＊教職に関わる科目において，新たなコンセプトのもとで教員養成に着手している。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修科目 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 68 単位
　必修科目 16 単位，選択科目 A 群から 1 単位，B 群から 1 単位，C 群から 2 単位，D 群から 1 単位，
　E 群から 4 単位，F 群から 4 単位又は G 群から 8 単位を含んで
自由選択区分…… 25 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，体育学科の学科専門科目などで卒業基準単
　位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

　次の「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

A 群（1 単位）：A 群の科目のうち，1 科目 1 単位以上履修すること。
B 群（1 単位）：B 群の科目のうち，1 科目 1 単位以上履修すること。
C 群（2 単位）：C 群の科目のうち，2 科目 2 単位以上履修すること。
D 群（1 単位）：D 群の科目のうち，1 科目 1 単位以上履修すること。
E 群（4 単位）：E 群の科目のうち，すでに A 群，B 群，C 群で修得した同一種目の科目を 2 種目以上，つまり 2 科目 4 単位以上履修すること。
F 群（4 単位）：3 年次終了までに 74 単位以上修得していること。
G 群（8 単位）：3 年次終了までに 90 単位以上修得していること。
※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■履修科目登録単位数の上限

　本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

　なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（106 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

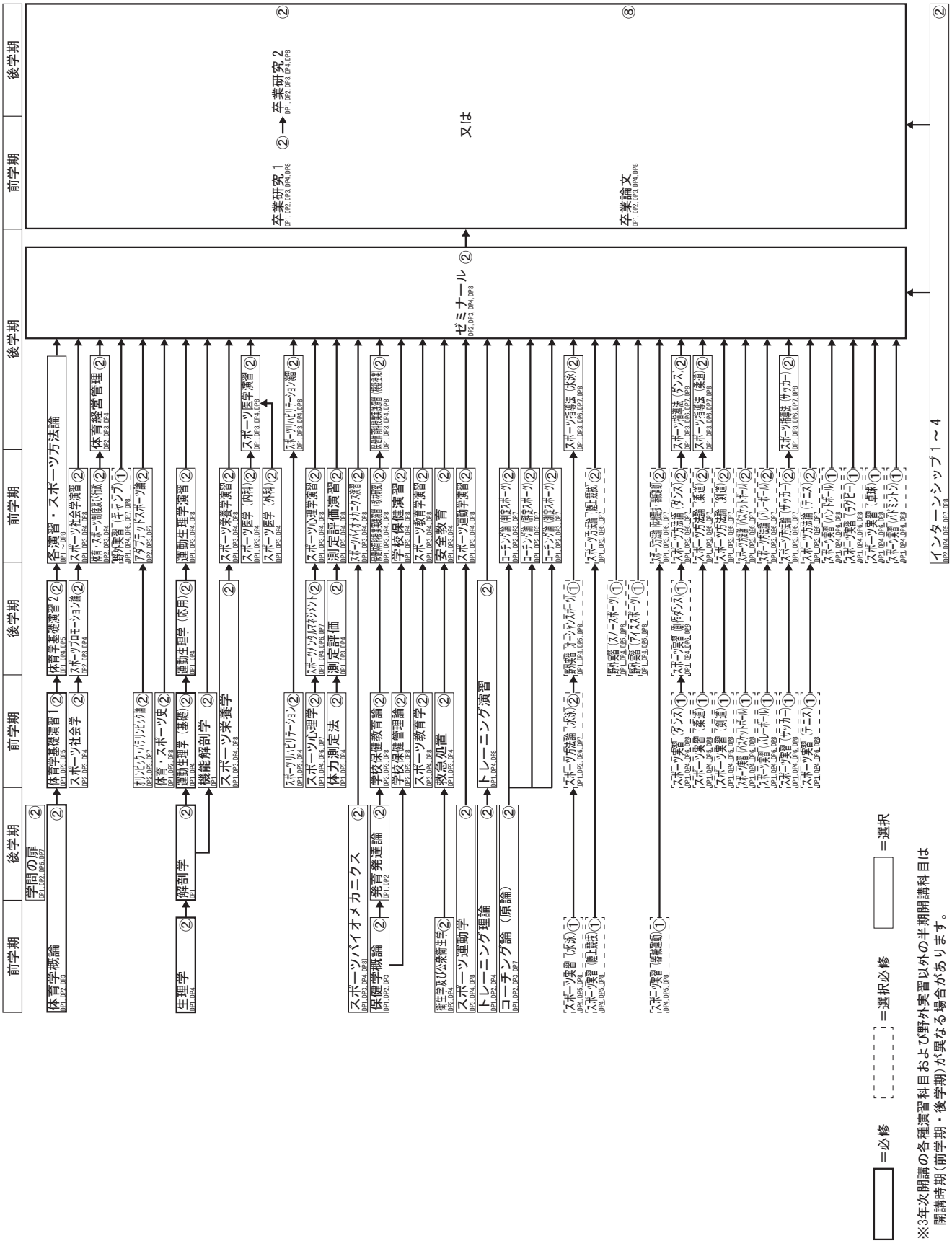
（○の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次			1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数	
全学共通教育科目			自主創造の基礎②				2単位	
総合教育科目	総合Ⅰ群 総合Ⅱ群 総合Ⅲ群		42ページ参照				16単位	
外国語教育科目			44ページ参照				8単位	
基礎教育科目	健康･スポーツ教育科目		64ページ参照				3単位	
	コンピュータ科目		64ページ参照				2単位	
学科専門科目	入門科目	必修	体育学概論②＊ 解剖学②＊ 生理学②＊	体育学基礎演習1②＊ 体育学基礎演習2②＊ 運動生理学（基礎）②＊ 運動生理学（応用）②＊	ゼミナール②＊		16単位	68単位
	基本科目	A群	スポーツ実習（各①）＊ （水泳＊，器械運動＊，陸上競技＊）				1単位	
		B群		スポーツ実習（各①）＊ （剣道＊，柔道＊，ダンス＊，創作ダンス＊）			1単位	
		C群		スポーツ実習（各①）＊ （バスケットボール＊，バレーボール＊，サッカー＊，テニス＊）	スポーツ実習（各①） （ラグビー，ハンドボール，卓球，バドミントン）		2単位	
		D群		野外実習（各①）＊ （アイススポーツ＊，スノースポーツ＊，オーシャンスポーツ＊）	野外実習（キャンプ）①＊		1単位	
		E群		スポーツ方法論（水泳）②＊	スポーツ方法論（各②）＊ （体操競技・器械運動＊，陸上競技＊，バスケットボール＊，バレーボール＊，サッカー＊，テニス＊，剣道＊，柔道＊，ダンス＊）		4単位	
		F群				卒業研究1②＊ 卒業研究2②＊	（注）	
		G群				卒業論文⑧＊		
	選択		保健学概論②＊ 発育発達論②＊ 衛生学及び公衆衛生学②＊ スポーツ運動学②＊ トレーニング理論②＊ スポーツバイオメカニクス②＊ コーチング論（原論）②＊ 学問の扉②	スポーツ社会学②＊ スポーツプロモーション論②＊ 体力測定法② 測定評価② スポーツ心理学②＊ スポーツメンタルマネジメント②＊ スポーツリハビリテーション② 学校保健管理論②＊ 学校保健教育論②＊ スポーツ栄養学②＊ 体育・スポーツ史② 救急処置②＊ トレーニング演習②＊ スポーツ教育学② オリンピック・パラリンピック論② 機能解剖学②	体育・スポーツ制度及び行政②＊ 体育経営管理②＊ スポーツ医学（内科）②＊ スポーツ医学（外科）②＊ 安全教育②＊ スポーツ指導法（サッカー）② スポーツ指導法（柔道）② スポーツ指導法（ダンス）② スポーツ指導法（水泳）② スポーツ社会学演習② 運動生理学演習② スポーツ心理学演習② 測定評価演習② スポーツバイオメカニクス演習② スポーツ運動学演習② スポーツリハビリテーション演習②＊ スポーツ栄養学演習② スポーツ教育学演習② スポーツ医学演習② 学校保健演習② 保健体育科授業実践演習(教材研究)② 保健体育科授業実践演習(模擬授業)② コーチング論（判定スポーツ）② コーチング論（評定スポーツ）② コーチング論（測定スポーツ）② アダプテッドスポーツ論② インターンシップ1－4（各②）＊			
コース科目			140ページ以下の◆印科目を参照					

（注）F群とG群はいずれかを選択

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。

■学科専門科目等　履修系統図



※3年次開講の各種演習科目および野外実習以外の半期開講科目は開講時期（前学期・後学期）が異なる場合があります。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

心理学科

■教育研究上の目的

基礎と応用の両領域で，バランスのとれた心理学の知識を身に付け，社会貢献ができる人材育成を目標にしている。また，公認心理師コースにおいては，医療・福祉・教育・司法・産業等の領域で心理学的な専門的支援を担う公認心理師として活躍できる人材を養成することを目標にしている。そのために，「人間のこころ」を科学的に理解する心理学的知識や方法を習得し，実社会に応用できる力を身に付け，自身で能動的に考え，行動する能力を育成する。そして，「社会の中で役に立つ心理学」を実践する人材を養成する。

■教育理念・目標

心理学の基礎領域の学習を重視するとともに，公認心理師の国家資格取得を目指す公認心理師コースにおいては卒業後，国家試験に合格した後に専門家として活躍するための知識や技術の習得を目指す。心理学における基礎的な知識や学問の方法，思考方法を習得した上で，応用領域も系統的に学習できるよう構造的に教育を行う。また，自主的に研究が行える人材を育成するために必要な教育環境を提供する。これら教育理念達成のために，講義形式の授業のほかに，少人数クラスで体験的に学習するための演習，実験実習形式の授業を実施する。1 年次及び 2 年次には，心理学の基礎や方法論及び心理学全般にわたる知識を学ぶ。3 年次以降は自らの興味関心ある分野を定め，特定領域の心理学を専門的に学ぶ。3 年次より各教員のゼミに所属して一層専門性を高めるとともに，自ら研究テーマを設定し実証的な心理学研究を行うことを目標とする。

■カリキュラムの特徴

心理学科では，幅広い心理学の分野に対応し，段階的に実践的に学べるカリキュラムを用意している。1 年次には，心理学を構成する諸領域の基礎知識や基本的な方法論を身に付け，2 年次には，心理学の研究法・測定法を学ぶとともに，心理学全般の知識を習得する。3 年次には，ゼミを選択し，それぞれの領域の専門的な知識・技能について学び，4 年次にはゼミや卒業論文に取り組み，研究テーマを決めて探求する。また，心理学科では講義科目のほかに，体験的に心理学を学習するために，少人数クラス編成による演習，実験実習形式の授業を行っている。特に，実験実習授業については授業時間を通常より長い 1.5 コマ（135 分）に設定し，より多くの内容を実践的に学べるように配慮している。

なお，公認心理師コースでは通常のカリキュラムに加えて公認心理師の受験資格を得るために必要な科目が開講されており，2，3 年次には心理支援に関する演習形式の授業，4 年次には学外施設における実習形式の授業なども実施される。

■公認心理師コース

公認心理師は，医療・福祉・教育・司法・産業等の領域で心理学的な専門的支援を担う役割が期待されている，心理職の国家資格である。心理学科に在籍している学生は，卒業に必要な学科専門科目の中の所定の科目と，公認心理師コース科目の全てを修得し卒業した後，公認心理師養成に対応した大学院を修了する又は一定の条件を備えた施設等で実務経験を積むことで受験資格を得ることができる。公認心理師コースは，1 年次終了時の成績等により許可を得て，2 年次から履修可能となる。

なお，公認心理師コース科目は，卒業に必要な単位数に含むことができない（ただし，心理演習 B は卒業単位に含むことができる）。また，年間に履修登録できる科目の単位数の上限に公認心理師コース科目は含まれない。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目……　2 単位
総合教育科目……16 単位
外国語教育科目……　8 単位
基礎教育科目……　5 単位
学科専門科目……66 単位
自由選択区分……27 単位

全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，心理学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

＊学科専門科目

卒業に必要な単位 66 単位のうち，以下の必修科目・選択科目（各群）の単位数を修得すること。

＞必修科目　32 単位

＞選択必修科目　A 群から 18 単位以上，B 群から 14 単位以上，C 群から 1 単位，D 群から 1 単位を含め 34 単位以上

ただし，公認心理師コース科目は卒業に必要な単位数には含まない（心理演習 B は除く）。

■履修計画上の注意

＞ 2 年次終了時の取得単位数が 50 単位に満たない学生は，3 年次以降の科目を履修することができない。ただし，3 年次前学期終了時点で 50 単位に達すれば，後学期から，実験・実習科目を除き 3 年次配当科目を履修することができる。

＞ 3 年次終了時の取得単位数が 90 単位に満たない学生及び 3 年次終了時に学科専門科目のうち 1・2 年次必修科目の取得単位数が 20 単位に満たない学生は，4 年次の科目を履修することができない。

＞公認心理師コースは，1 年次終了時の成績等により 2 年次から履修可能となるが，公認心理師コースを修了するために必要な科目は 1 年次から開講される。公認心理師コースでは，学年ごとに履修を推奨される科目が決められている点にも注意してほしい。

※ガイダンスで配布される履修に関する資料等をあわせて参照すること。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（110 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（〇の中の数字は単位数）

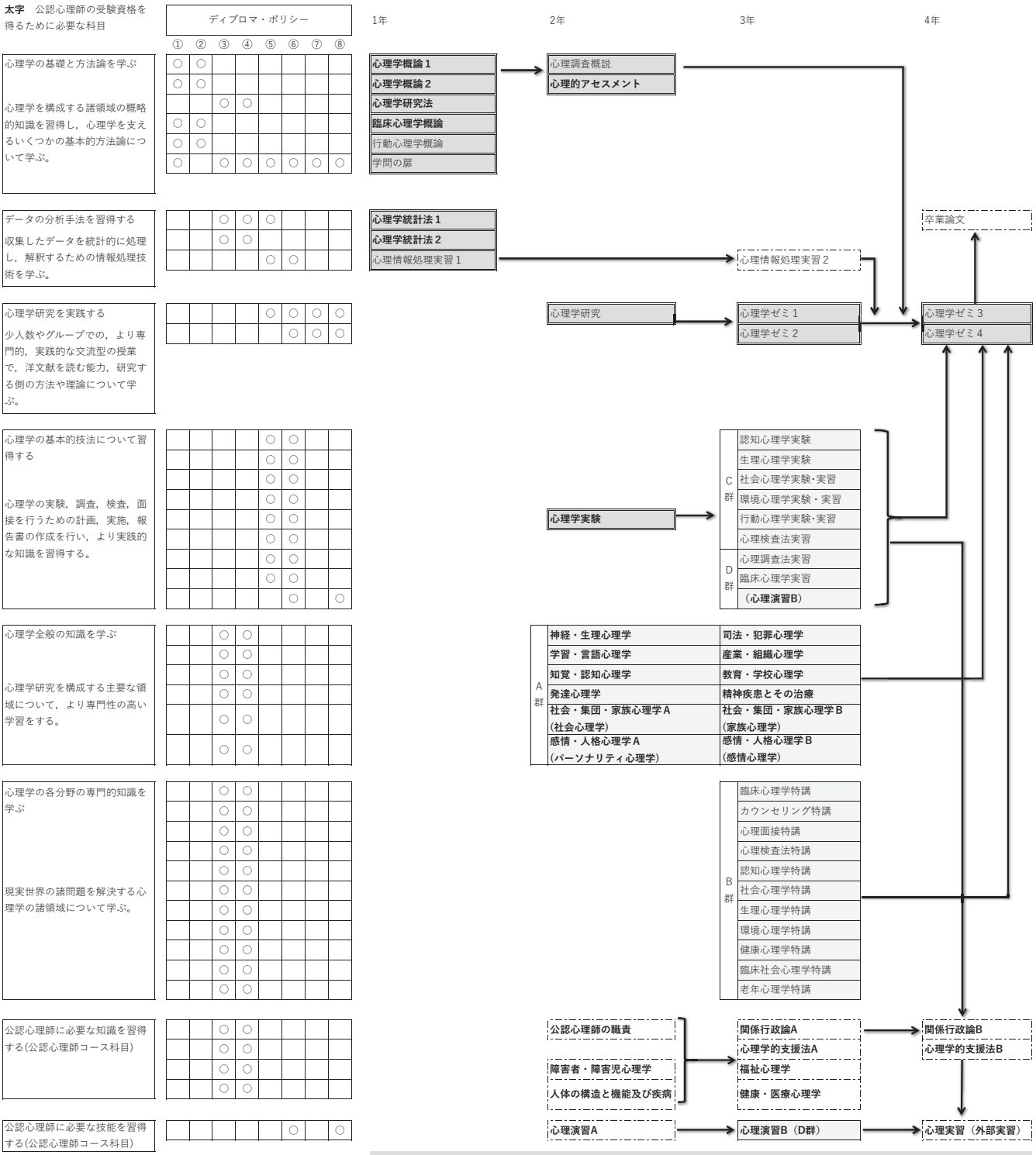
<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="3">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td colspan="2">16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td colspan="2">8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="2">64ページ参照</td><td colspan="4">3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td colspan="2">64ページ参照</td><td colspan="4">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="7">学科専門科目</td><td colspan="2">必修</td><td>心理学概論1②▲
心理学概論2②▲
心理学統計法1②▲
心理学統計法2②▲
心理学研究法②▲
行動心理学概論②
臨床心理学概論②▲
学問の扉②
心理情報処理実習1①</td><td>心理調査概説②
心理的アセスメント②▲
心理学研究②
心理学実験①▲</td><td>心理学ゼミ1②
心理学ゼミ2②</td><td>心理学ゼミ3②
心理学ゼミ4②</td><td>32単位</td><td rowspan="6">66単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">選択必修</td><td>A群</td><td></td><td colspan="3">発達心理学②▲
社会・集団・家族心理学A（社会心理学）②▲
社会・集団・家族心理学B（家族心理学）②▲
感情・人格心理学A（パーソナリティ心理学）②▲
感情・人格心理学B（感情心理学）②▲
知覚・認知心理学②▲
学習・言語心理学②▲
神経・生理心理学②▲
司法・犯罪心理学②▲
産業・組織心理学②▲
教育・学校心理学②▲
精神疾患とその治療②▲</td><td>18単位</td></tr>
<tr><td>B群</td><td></td><td></td><td>臨床心理学特講②
カウンセリング特講②
心理面接特講②
心理検査法特講②
認知心理学特講②
社会心理学特講②
生理心理学特講②
環境心理学特講②
健康心理学特講②
臨床社会心理学特講②
老年心理学特講②</td><td></td><td>14単位</td></tr>
<tr><td>C群</td><td></td><td></td><td>心理検査法実習①
認知心理学実験①
生理心理学実験①
社会心理学実験・実習①
環境心理学実験・実習①
行動心理学実験・実習①</td><td></td><td>1単位</td></tr>
<tr><td>D群</td><td></td><td></td><td>臨床心理学実習①
心理調査法実習①
（心理演習B①▲＊）</td><td></td><td>1単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択</td><td></td><td></td><td>心理情報処理実習2①</td><td>卒業論文⑧</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">公認心理師コース科目</td><td></td><td>公認心理師の職責②▲＊
人体の構造と機能及び疾病②▲＊
障害者・障害児心理学②▲＊
心理演習A①▲＊</td><td>関係行政論A②▲＊
健康・医療心理学②▲＊
福祉心理学②▲＊
心理学的支援法A②▲＊
心理演習B①▲＊</td><td>関係行政論B②▲＊
心理学的支援法B②▲＊
心理実習▲＊</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

▲　公認心理師の受験資格を得るために必要な科目
アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。
公認心理師コース科目は，卒業に必要な単位数に含まれません。ただし「心理演習B」は，D群として卒業に必要な単位数に含まれます。

■学科専門科目等　履修系統図

学科専門科目
必修　2重線
選択必修　1重線
選択　点線

太字　公認心理師の受験資格を得るために必要な科目



【選択科目の必修単位数】
A群から１８単位以上，B群から１４単位以上，C群から１単位，D群から１単位を含め，３４単位以上修得しなければならない。

※心理演習Bは公認心理師コース科目だが，卒業単位に含むことができる。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

地理学科

■教育研究上の目的

自然地理学，地理情報科学，人文地理学，地誌学の 4 つの分野において，実験や野外実習を通じて地域調査の方法を身につけるとともに，GIS やリモートセンシングなどを用いた分析・問題解決能力を養成する。特に，環境保全計画や災害対策，産業立地計画，地域政策，シンクタンク，観光業界，中学・高等学校の教育職などの諸分野で活躍できる人材を育成する。

■教育理念・目標

地理学は，人文・社会・自然科学のあらゆる分野にわたって総合的な見地から資料を収集・分析し，地域固有の実情にも配慮した考察を行って，諸現象に関わる情報を整理して提示するとともに，課題解決に向けた施策への提言を行うことが可能な科学である。したがって，地理学を実践するものは，今日，複合的な要因によってもたらされ，地球規模で進行する環境や社会に関わる諸問題に対して，積極的に取り組み主導的な役割を担うことができる。そこで当学科は，こうした地理学の特性・特長を十分に理解し，その実現に向けて努力・活躍できる人間を育てるために，次の教育目標を掲げる。

- 広く自然から人文にわたる諸分野の知識を教授し，知的好奇心を喚起することによって，自ら学び理解する能力を培う。
- 地図や統計などの地理情報と GIS を駆使するとともに，資料の収集や観測，実験，聞き取りなどによる現地調査を行い，地域の実態を総合的に分析し問題を解決する実践力を養う。
- 知識力・実践力を活用し，環境保全計画や災害対策，産業立地計画，地域政策，シンクタンク，観光業界，中学・高等学校の教育職などの諸分野で活躍する人材を育成する。

■カリキュラムの特徴

地理学科では，地理学の諸分野との関係を理解しながら，専門科目を学ぶために，基礎科目として 1 年次に「自然地理学の基礎」「人文地理学の基礎」「自主創造の基礎」「学問の扉」を配置している。これらの科目は，高等学校までに学んだ地理の基礎知識の確認を行うとともに，大学の「地理学」における知識的，技術的基礎力を培う内容となっている。1 年次での基礎的な能力を踏まえ，2 年次から地理学の系統的専門知識及びそれらの技術を習得し実践するため，各種系統地理学の講義と「野外調査法（含実習）」をはじめとする野外調査を踏まえた授業を配置している。3 年次には，各人の専門領域に応じてゼミナール（「地理学課題研究 1」「地理学課題研究 2」）に所属し，系統的専門知識を深め，地域研究における総合的な調査・分析を実践し，4 年次において，卒業研究に取り組みながら，地理学の実社会における応用を考え，調査に基づく分析・考察・取りまとめ能力を身につけられるようにカリキュラムを構成している。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 74 単位
　必修科目 38 単位，選択科目 36 単位（A 群からの 6 単位を含む）
自由選択区分…… 19 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，地理学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次の「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

先修条件

区分	科目等	設置年次	条件等
必修科目	地理学課題研究1・2	3年次	1年次配当科目のうち，自然地理学の基礎，人文地理学の基礎，自主創造の基礎，学問の扉を修得していること。
	地理学卒業研究1・2	4年次	地理学課題研究1・2を両方修得していること。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■ 3 年次における履修制限

2 年次終了時点で，卒業に必要な 124 単位のうち，修得した単位が 50 単位に満たない学生は，3 年次前学期において地理学科の 3 年次配当科目を履修できません。ただし，3 年次前学期終了時点で 50 単位を満たした場合，後学期からの 3 年次配当科目の履修は認められます。

＊他学部・他大学から編入した学生には適用されません。また，留学した学生が帰国した場合は，別途検討しますので，学科事務室に問い合わせてください。

＊この原則は，3 年次配当科目の履修を制限するものであって，50 単位に満たない場合でも 3 年次進級は認められます。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

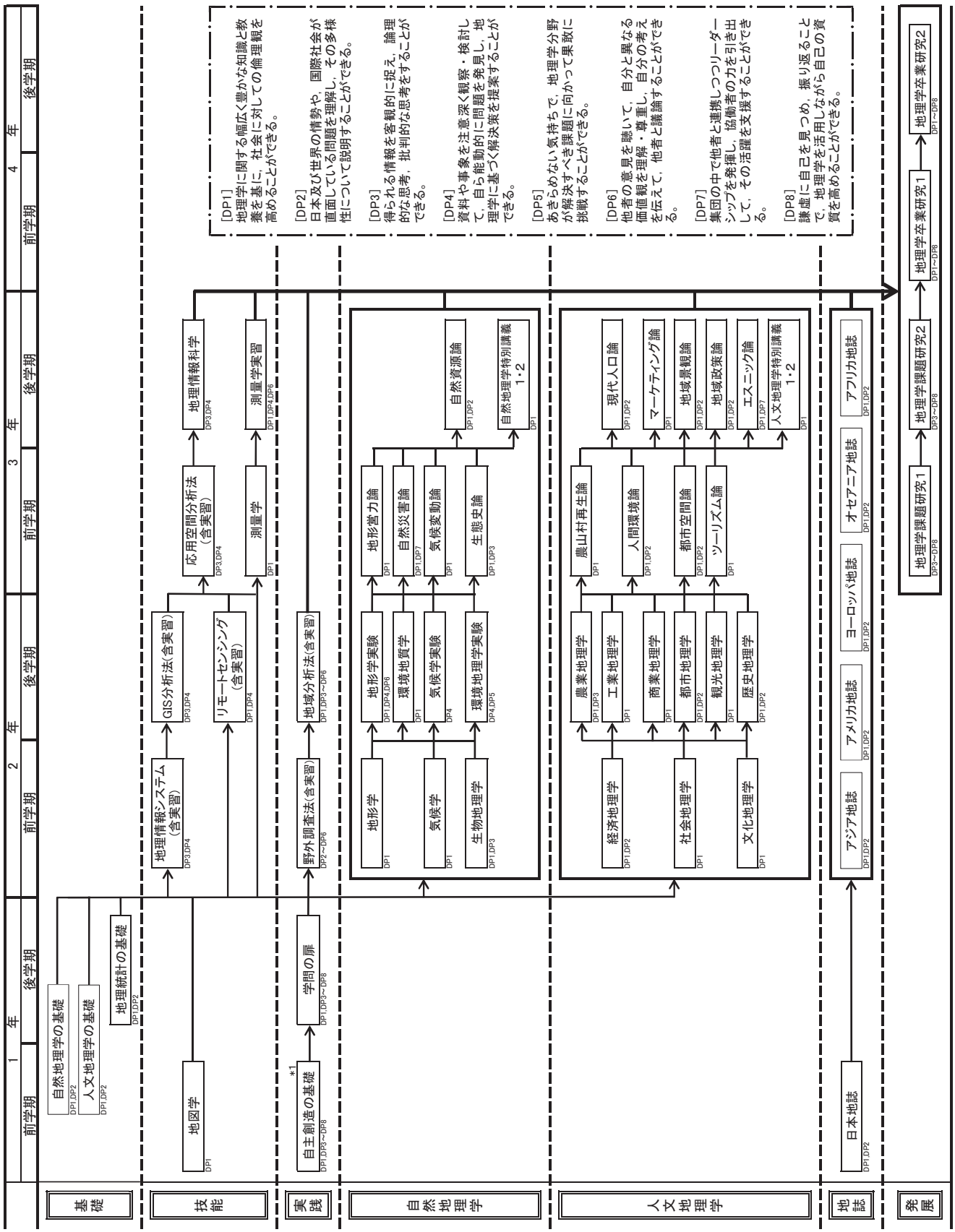
■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次		1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数	
全学共通教育科目		自主創造の基礎②				2単位	
総合教育科目	総合Ⅰ群 総合Ⅱ群 総合Ⅲ群	42ページ参照				16単位	
外国語教育科目		44ページ参照				8単位	
基礎教育科目	健康･スポーツ教育科目	64ページ参照				3単位	
	コンピュータ科目	64ページ参照				2単位	
学科専門科目	必修	学問の扉② 自然地理学の基礎② 人文地理学の基礎② 日本地誌② 地図学②	地形学② 気候学② 経済地理学② 社会地理学② 文化地理学② 地理情報システム（含実習）② 野外調査法（含実習）② 地域分析法（含実習）②	地理学課題研究1② 地理学課題研究2②	地理学卒業研究1④ 地理学卒業研究2④	38単位	74単位
	選択 A群		アジア地誌② アメリカ地誌② ヨーロッパ地誌② オセアニア地誌② アフリカ地誌②			6単位	
	選択	地理統計の基礎②	環境地質学② 生物地理学② GIS分析法（含実習）② 農業地理学② 工業地理学② 商業地理学② 都市地理学② 歴史地理学② 観光地理学② 地形学実験① 気候学実験① 環境地理学実験① リモートセンシング（含実習）②	地形営力論② 気候変動論② 自然資源論② 自然地理学特別講義1②*1 自然地理学特別講義2②*1 応用空間分析法（含実習）② 測量学② 測量学実習① 農山村再生論② 人間環境論② 現代人口論② マーケティング論② 地域景観論② 地域政策論② ツーリズム論② 都市空間論② 人文地理学特別講義1②*2 人文地理学特別講義2②*2 自然災害論② 生態史論② エスニック論② 地理情報科学②			
コース科目		140ページ以下の◆印科目を参照					

＊1　隔年開講
＊2　隔年開講

■学科専門科目等　履修系統図



コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

地球科学科

■教育研究上の目的

気象学，水圏科学，地球化学，地質学，地球物理学などの地球科学的な知識と技術に基づき，自然災害問題や地球環境問題の具体的な課題に対処できる基礎的能力と倫理観をもった人材や，幅広い地球科学的教養を身に付け社会の様々な領域で活躍できる人材を育成する。

■教育理念・目標

1. 教育理念

本学科は，学生に対する個別的指導などを通して，以下の点に重点を置いた教育理念の実現を目指す。

⑴ 岩石圏・水圏・気圏から構成される地球についての多面的な知識を身に付け，それらの相互作用や人間・社会との関わりを理解する能力を養う（多面的理解）。

⑵ 学科の多様な教育科目に関して自ら進んで広く学び，かつ，継続的に学習する姿勢を身に付ける（自己啓発・継続学習）。

⑶ 資料収集，調査・分析などを計画的に進め，成果をまとめて説明し，討論を行い，レポート・論文を作成することなどを通して，自ら進んで実行する能力を身に付ける（実行力）。

⑷ 現場において直接観察・計測などを行うことにより，現場の事実に基づいて考える能力を身に付ける（現場主義）。

2. 学習・教育到達目標

教育理念を実現させるために，教育カリキュラムにおいて以下のような具体的な学習・教育到達目標を設ける。

⑷ 地球及び地球環境について，必要な基礎知識を多面的・統合的に学ぶ。

⑻ 技術者倫理を身に付ける。

⑹ 科学技術の素養を身に付ける。

⑹ デザイン能力を身に付ける。

⑸ コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を身に付ける。

⑴ 地球科学の専門技術を習得する。

⑺ 地球科学の専門知識を習得する。

■カリキュラムの特徴

本学科のカリキュラムは，「デスクワークによる知識の習得」と「トレーニングと体験による技術の習得」を 2 本の柱に構成されている。また，学習・教育到達目標を達成するために，1 年次の初年次教育科目及び導入科目，2 年次の専門基礎科目，3・4 年次の専門応用科目が設けられており，それらを段階的に学習するようになっている。また，3 年次進級に当たり，学習効果を上げるため，習熟度等を考慮したプログラム編成が行われる。さらには 4 年次進級に当たり，卒業テーマ研究に取り組むためには，必要な修得条件が設定されている。このように，ひとつの段階を確実に達成してから次の段階に進むよう工夫がなされている。

■卒業に必要な単位数

「地球環境学総合プログラム」を修了するためには

全学共通教育科目…… 2 単位

総合教育科目…… 16 単位

※地球科学科の学生は，「地球科学」を履修することはできない。

外国語教育科目…… 8 単位

基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位

学科専門科目…… 73 単位

必修科目 24 単位及び講義演習群の選択必修科目から 46 単位，実験群の選択必修科目から 3 単位

自由選択区分…… 20 単位

全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，地球科学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

「地球環境学プログラム」を修了するためには

全学共通教育科目…… 2単位

総合教育科目…… 16単位

※地球科学科の学生は，「地球科学」を履修することはできない。

外国語教育科目…… 8単位

基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修3単位，コンピュータ科目から必修科目2単位 …… 5単位

学科専門科目…… 77単位

必修科目24単位及び講義演習群の選択必修科目から50単位，実験群の選択必修科目から3単位

自由選択区分…… 16単位

全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，地球科学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124単位

■履修計画上の注意

区分	科目等	設置年次	条件等
必修科目	地球科学調査研究法2	3年次	これまでに「地球科学調査研究法1」の履修登録を行ったことがあること。
	卒業テーマ研究1・2 卒業テーマ演習1・2	4年次	①　総修得単位数90単位以上であること。 ②　学科専門科目のうち，1年次の講義演習群・実験群の必修科目を4科目以上修得済であること。 ③　学科専門科目のうち，実験群の3年次実験実習科目を1単位以上修得済であること。 ④　地球科学調査研究法1・2を修得済であること。
	卒業テーマ研究2		「流体地球科学基礎実験2」若しくは「固体地球科学基礎実験2」のいずれか1科目を修得済みであること。

「地球環境学プログラム」を修了するためには，以下の要件を満たす必要がある。

◎1　「地球科学特講1」，「技術者英語1・2」を全て修得すること。

◎2　「地球科学デザイン論1・2」のいずれか1科目を修得すること。

◎3　「地球科学調査研究法1」の履修について

「地球科学調査研究法1」を履修するためには，学科専門科目の講義演習群の「基礎数学」，「基礎物理」，「物理数学」，「基礎化学」のうち，2科目以上を修得済であること。

◎4　「卒業テーマ研究2」の履修について

「卒業テーマ研究2」を履修するためには，「卒業テーマ研究1」を修得済みであること。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■3年次における履修制限

2年次終了時点で，卒業に必要な124単位のうち，修得した単位が50単位に満たない学生は，3年次前学期において地球科学科の3年次配当科目を履修できません。ただし，3年次前学期終了時点で全ての項目を満たした場合，後学期からの3年次配当科目の履修は認められますが，これは他学部・他大学から編入した学生には適用されません。また，留学した学生が帰国した場合は，別途検討しますので，学科事務室に問い合わせてください。

この原則は，3年次配当科目の履修を制限するものであって，50単位に満たない場合でも3年次進級は認められます。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35～36ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（118ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（〇の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次			1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数		
全学共通教育科目			自主創造の基礎②				2単位		
総合教育科目	総合Ⅰ群 総合Ⅱ群 総合Ⅲ群		42ページ参照				16単位		
外国語教育科目			44ページ参照				8単位		
基礎教育科目	健康･スポーツ教育科目		64ページ参照				3単位		
	コンピュータ科目		64ページ参照				2単位		
学科専門科目	講義演習	必修	地球科学概論1② 地球科学概論2② 地球科学概論3② 学問の扉②			卒業テーマ演習1① 卒業テーマ演習2①	10単位		10単位
		選択必修	基礎数学② 基礎物理学② 基礎化学② 物理数学②	気圏科学② 水圏科学② 地圏科学② 環境化学② 地球物理学1② 地球物理学2② 火山学② 岩石･鉱物学② 地球環境統計学② 古生物・古生態学② 環境地球科学② 海洋科学② 技術者英語1② 技術者英語2② 地球科学特講1② 地球科学特講2②	環境気候学② 陸水学② 物質移行科学② 同位体地球科学② 測地学② 地殻力学② 火山地質学② 地殻形成論② 気象力学② 環境生物学② 第四紀学② 恐竜学② 日本列島形成史② 地球史② 地質情報科学② 地震学② 自然災害科学② 堆積学② 地球科学デザイン論1② 地球科学デザイン論2②	フィールド調査法②	50単位	77単位	46単位	73単位
	実験	必修	流体地球科学基礎実験1①＊ 固体地球科学基礎実験1①＊				2単位		2単位
		選択必修		流体地球科学基礎実験2①＊ 固体地球科学基礎実験2①＊	気圏科学実習1①＊ 気圏科学実習2①＊ 水圏科学実験①＊ 環境化学実験①＊ 古環境・古生態学実験①＊ 地圏科学実験1①＊ 地圏科学実験2①＊ 地球物理学実験①＊ 固体地球物質科学実験①＊ 測地学実習①＊		3単位		3単位	
		必修			地球科学調査研究法1② 地球科学調査研究法2②		4単位		4単位	
						卒業テーマ研究1④ 卒業テーマ研究2④	8単位		8単位	
自由選択区分							16単位		20単位
単位数の合計							124単位		
コース科目			140ページ以下の◆印科目を参照				地球環境学		地球環境学総合

本学科のカリキュラムは「地球環境学総合プログラム」及び併行して設置される日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に準拠した教育プログラム「地球環境学プログラム」を構成するものである。
アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。

学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ

＊必修科目

DP	学習・教育到達目標	1年	2年	3年	4年
1	(B)		地球科学特講１		
2	(A)	＊地球科学概論１ ＊地球科学概論２ ＊地球科学概論３			
3	(C)	基礎数学　基礎物理学 基礎化学　物理数学			
3	(G)	＊自主創造の基礎 ＊学問の扉	気圏科学　地球物理学１ 水圏科学　地球物理学２ 地圏科学　地球環境統計学 環境化学　環境地球科学 海洋科学　古生物・古生態学 火山学　岩石・鉱物学 地球科学特講２	環境気候学　物質移行科学 陸水学　同位体地球科学 測地学　火山地質学 地殻力学　地殻形成論 気象力学　環境生物学 第四紀学　日本列島形成史 恐竜学　地質情報科学 地球史　自然災害科学 地震学　堆積学	
4	(F)	＊固体地球科学基礎実験１ ＊流体地球科学基礎実験１	固体地球科学基礎実験２ 流体地球科学基礎実験２	気圏科学実習１　気圏科学実習２ 水圏科学実験　環境化学実験 古環境・古生物学実験　地球物理学実験 地圏科学実験１　地圏科学実験２ 固体地球物質科学実験　測地学実習	フィールド調査法
6	(E)		技術者英語１　技術者英語２		
5	(D)			＊地球科学調査研究法１	＊卒業テーマ研究１　＊卒業テーマ研究２
7	(D)			地球科学デザイン論１	＊卒業テーマ演習１　＊卒業テーマ演習２
8	(D)			＊地球科学調査研究法２ 地球科学デザイン論２	

地球科学科 ディプロマポリシー（DP）

1	社会人として必要な教養を身に着け，科学技術の進歩がもたらす倫理的問題を理解し，自らの役割を説明することができる。
2	現代社会における科学技術の役割を理解し，問題点などを説明することができる。
3	物事を科学的根拠に基づいて批判的，論理的に考察し，既存の知識にとらわれることなく，その物事の本質を捉えることができる。
4	日常生活における諸現象を注意深く考察することにより，科学的問題を発見し，解決策を提案することができる。
5	科学的専門知識を身につけ，諦めない意思を持って，未解決問題に取り組むことができる。
6	社会的・学問的背景の異なる他者の説明・価値観を理解し，自分の考えを分かりやすく伝えることができる。
7	学修活動のみならず，日常生活においても進んでリーダーシップを発揮し，協働者の力を引き出すことができる。
8	他者の評価を謙虚に受け止め，自分の学修活動がもたらす意義を追求し，より良い活動に結びつけることができる。

学習・教育到達目標

(A)	地球及び地球環境について，必要な基礎知識を多面的・統合的に学ぶ。
(B)	技術者倫理を身につける。
(C)	科学技術の素養を身につける。
(D)	デザイン能力を身につける。
(E)	コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を身につける。
(F)	地球科学の専門技術を習得する。
(G)	地球科学の専門知識を習得する。

（注:この目標については改善される場合があります）

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

数学科

■教育研究上の目的

抽象的な数学から実際に役立つ応用数学まで幅広い数学の教育・研究を行っている。抽象的な数学を学ぶことから発想力や，正確な論理を展開する力を習得し，応用数学を学ぶことから直ちに社会に役立つ数学の運用力を習得することで，教員や柔軟性と応用力を備えた即戦力となる人材を養成する。

■教育理念・目標

教育理念

⑴ 抽象数学の理解と論理的思考力の養成：学生自身が自ら学修した内容を他人に対して説明するようなゼミ形式による少人数教育を多く取り入れ，数学の理解にとどまらず，卒業後に社会においても要求される，発表の能力養成に配慮した教育を目指します。

⑵ 学生の学修意欲の保持と数学教育の質の維持：講義においては，社会で通用する高度な専門性を残しつつも，学生自らが努力して達成感を得ることで学修意欲が保たれるような教育を目指します。

⑶ 実社会で必要となる実務能力の育成：数学科卒業生として社会から要請される ICT スキル並びに数学の魅力を分かりやすく伝えることのできるコミュニケーション能力の育成にも配慮した教育を目指します。

目標

［1 年次］高校数学と大学の専門数学の相違点を理解させ，論理的な証明を記述できる能力の育成を目指します。また，コンピュータの基礎を学ぶ科目を設置することで卒業後の進路に幅をもたせることを目指します。

［2 年次］専門数学の導入となる内容を修得することで，3・4 年次に学ぶ専門数学の基礎とすることを目指すだけでなく，代数学，解析学，幾何学，プログラミング技法，数理統計学などの分野に触れることで，次年度に配属となる研究室の選択に役立ててもらうことを目標とします。

［3，4 年次］研究室でのゼミ形式の学修により，1 つの話題についての深い理解を目指すとともに，講義によってその他の数学及び数学教育の知識を幅広く習得してもらうことを目標とします。

■カリキュラムの特徴

特徴は大きく次の 3 点を挙げることができます。

［特徴 1］学生の個性に応じた教育を実現するために，ゼミ形式による少人数教育科目（1 年次前学期，3・4 年次前後学期）を設置しています。

［特徴 2］高校数学から大学数学へのスムーズな移行を可能にするために，1 年次の主要専門科目の再履修科目を設置し，さらに 2 年次には集合と写像など，演習科目を設置して，学生の能力に応じた学修を可能にしています。

［特徴 3］実社会でも役立つ ICT スキルを身につけられる科目及び，実践的な数学教育学を学ぶことができる科目を設置し，卒業後に必要なスキルの習得をサポートしています。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 65 単位
　＞必修科目　30 単位
　＞選択科目　35 単位
自由選択区分…… 28 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，数学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次の「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

区分	科目等	設置年次	条件等
必修科目	数学講究1	3年次	①　前年度までに，1年次設置科目の線形代数1・2（含演習），微分積分学1・2（含演習）より9単位以上修得していなければならない。
			②　2年次設置科目の初等整数論，線形空間論（含演習），微分積分学続論（含演習），多変数微分積分学，集合と写像（含演習），距離と位相，数理統計（含演習）から8単位以上修得していなければならない。
	数学講究2	3年次	数学講究1を修得していなければならない。
	数学研究1	4年次	前年度までに，数学講究2を修得していなければならない。
	数学研究2	4年次	数学研究1を修得していなければならない。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

＊教育職員免許状（数学）取得のための注意

数学（中学 1 種，高等学校 1 種）免許を取得するためには，156 ページの表の科目の中から選択して必要単位数を修得すること。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，数学科においては，授業時間割表の科目名に（再履修）と表記のある「微分積分学 1（含演習）」「微分積分学 2（含演習）」「線形代数 1（含演習）」「線形代数 2（含演習）」の科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限 40 単位には含まれません。

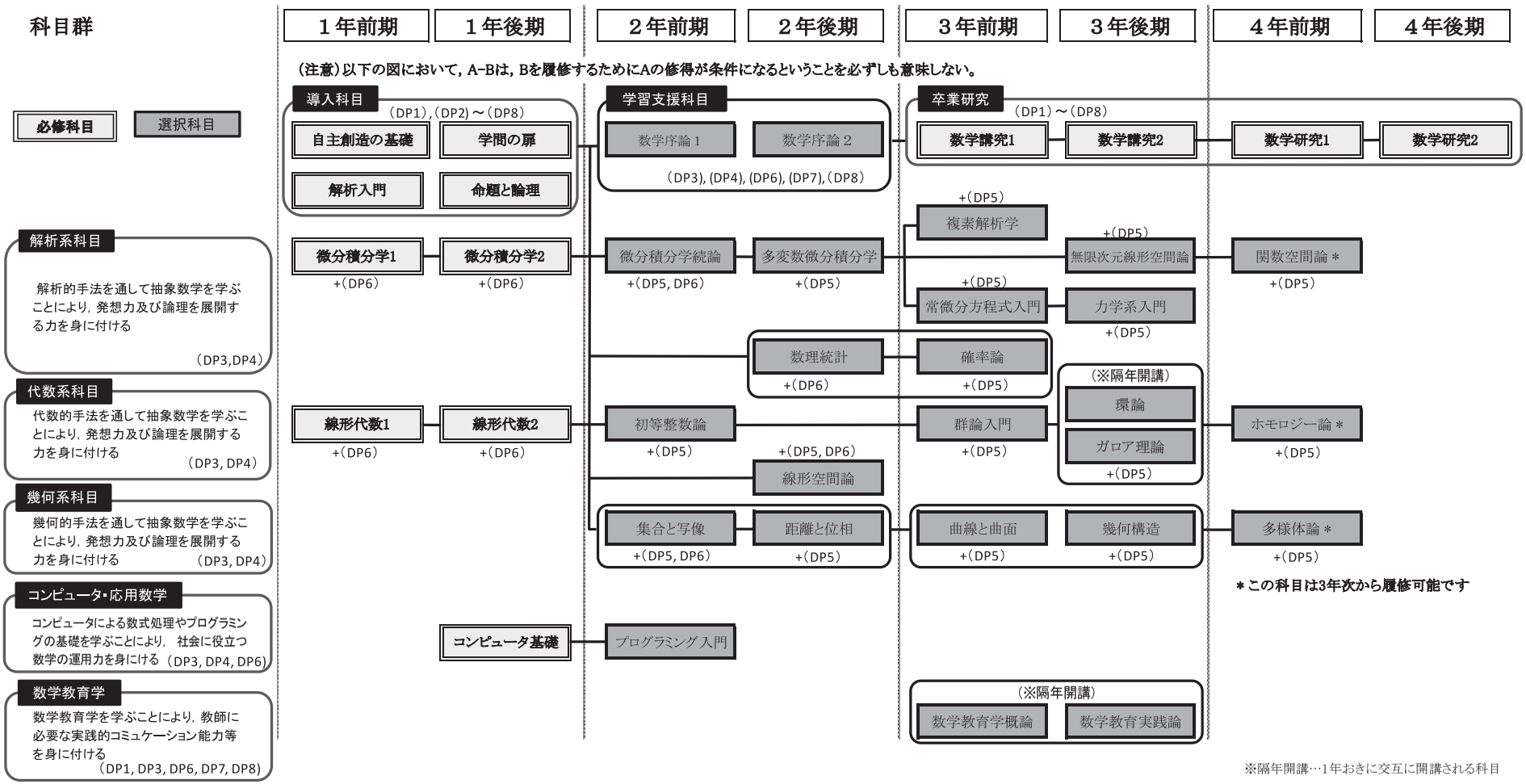
■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="2">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="2">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合教育科目</td><td>総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td colspan="2">16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td colspan="2">8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="2">3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学科専門科目</td><td>必修</td><td>線形代数1（含演習）③＊
線形代数2（含演習）③＊
微分積分学1（含演習）③＊
微分積分学2（含演習）③＊
命題と論理②
コンピュータ基礎②
学問の扉②</td><td></td><td>数学講究1③
数学講究2③</td><td>数学研究1②
数学研究2④</td><td>30単位</td><td rowspan="2">65単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td>解析入門②</td><td>初等整数論②
線形空間論（含演習）③
微分積分学続論（含演習）③
多変数微分積分学②
集合と写像（含演習）③
距離と位相②
数理統計（含演習）③
プログラミング入門②
数学序論1②
数学序論2②</td><td>群論入門②
環論②
ガロア理論②
常微分方程式入門②
無限次元線形空間論②
力学系入門②
複素解析学②
曲線と曲面②
幾何構造②
確率論②
数学教育学概論②
数学教育実践論②</td><td>ホモロジー論②
関数空間論②
多様体論②</td><td>35単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

アンダーラインと＊を付した科目の再履修科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。

科目関連図



（文理学部DP）
文理学部は，日本大学の学則第１条に掲げた「自主創造」を基本理念とし，実社会で活躍する人材の育成を目指します。このため人文系・社会系・理学系の学問を幅広く学び，困難に立ち向かうリベラルアーツ（教養）を身につけるとともに，学科ごとの専門的知識・技術を修得し，教養と知識・技能をともに生かしながら新たな地平を切り開く総合的実践力の獲得を教育目標とします。

(DP1) 豊かな教養・知識に基づく高い倫理観
社会人として必要な教養を身に着け，数理科学の発展がもたらす倫理的問題を理解し，自らの役割を説明することができる。

(DP2) 世界の現状を理解し，説明する力
現代社会における数理科学の役割を理解し，問題点などを説明することができる。

(DP3) 論理的・批判的思考力
物事を数理科学的根拠に基づいて批判的，論理的に考察し，既存の知識にとらわれることなく，その物事の本質を捉えることができる。

(DP4) 問題発見・解決力
日常生活における現象を注意深く考察することにより，数理科学的問題を発見し，解決策を提案することができる。

(DP5) 挑戦力
数理科学の専門的知識を身に着け，あきらめない意思をもって，未解決問題に取り組むことができる。

(DP6) コミュニケーション力
社会的・学問的背景の異なる他者の説明・価値観を理解し，自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

(DP7) リーダーシップ・協働力
学修活動のみならず，日常生活においても自ら進んでリーダーシップを発揮し，協働者の力を引き出すことができる。

(DP8) 省察力
他者の評価を謙虚に受け止め，自分の学修活動がもたらす意義を追求し，より良い活動に結び付けることができる。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

情報科学科

■教育研究上の目的

情報科学に関連する知識・技術を基礎から指導することにより，物事を論理的に分析・理解し，原理的側面から問題解決を行う能力と新しい情報技術に対応できる能力を養う。また，新しい情報技術を創出し，情報社会の発展に寄与できる資質を養成する。

■教育理念・目標

基礎知識の反復学習と専門研究の個人指導を通して実社会で専門的知識を活かせる人材を育成する。1 年次では，プログラミングと数理の基礎を徹底的に学ぶ。2 年次では，3 年次以降の研究室配属（講究・研究）を見据え，しっかりと基礎を固める。3，4 年次では，研究室に配属され，専任教員のもとで少人数ゼミによるきめ細かな研究指導によって，深く高度な知識と技術を身に付けるとともに，自主的にテーマを選び，解決策を模索して研究することを目指す。

■カリキュラムの特徴

カリキュラムは，しっかりと基礎を身に付け，その上で専門的知識を深く掘り下げて学修できるようになっている。1，2 年次に基礎固め，3，4 年次に専門研究という大枠の中で，特に 3 年次以降の専任教員による少人数指導に重点をおいて，カリキュラム全体が構成されている。

具体的には，初年次にコンピュータによる情報処理の仕組みを含む情報科学・情報技術の基礎を学び，情報科学・情報技術を「使う」側から「作る」側になるための意識改革を促す。加えて，1，2 年次にプログラミングと数理の基礎を徹底的に学び，論理的にものを考える力を養う。3，4 年次の教育は，講義中心から研究室に配属されての講究・研究中心へと移行する。研究室では指導教員のもとで卒業研究・卒業演習を行う。ここでは少人数教育によって，教員の指導が行き届き，高度な知識と技術を身に付け，専門性の高い研究に取り組むことができる。また，受け身になりがちな講義とは異なり，「自らテーマを決め，解法を模索し，研究する」という過程を通じて，専門家としての知識や技能を身につけることが期待できる。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 78 単位
（ただし，必修科目 20 単位，選択科目 A 群及び B 群から 26 単位（A 群 10 単位以上を含む），
C 群 24 単位を含むこと。）
自由選択区分…… 15 単位
全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，情報科学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

■履修計画上の注意

1　情報科学講究の履修条件並びに単位の扱いに関する規定

① 情報科学講究 1 を履修するためには，次に示す科目の単位を修得していなければならない。

・自主創造の基礎，学問の扉
・基礎プログラミング 1，2
・情報科学実習 1，2
・選択科目 A 群 6 科目のうち 5 科目以上
・選択科目 A 群と選択科目 B 群，情報科学実習 3，4 の合計 22 科目のうち 15 科目以上

② 情報科学講究 2 を履修するためには，情報科学講究 1 の 2 単位を修得していなければならない。

2　情報科学研究の履修条件並びに単位の扱いに関する規定

① 情報科学研究 1 を履修するためには，以下に示す条件⑴及び⑵を満たさなければならない。

⑴ 情報科学講究 1，2 の 4 単位を修得していなければならない。
⑵ 卒業に必要な単位を 90 単位以上修得していなければならない。

② 情報科学研究 2 を履修するためには，情報科学研究 1 の 2 単位を修得していなければならない。

3　ノートパソコンの用意

本学科の専門科目では，履修者が持参するノートパソコンを用いて講義を実施します。各自ノートパソコンを用意し，講義時に必ず持参してください。ノートパソコンのスペック詳細については，学科から案内済の指示に従ってください。

4　附則

① 以上で述べたこと以外の卒業のために必要な条件並びに各科目の履修に必要な条件については，入学時のガイダンスで配付される履修に関する資料並びに各科目の履修条件に従う。

② 転科，転部，編入学生については履修条件を別途定める。

③ 卒業に必要な外国語教育科目と基礎教育科目の単位を 2 年次までに修得していることが望ましい。

④ 本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（126 ページ）の科目にアンダーラインと＊を示した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限に含まれません。

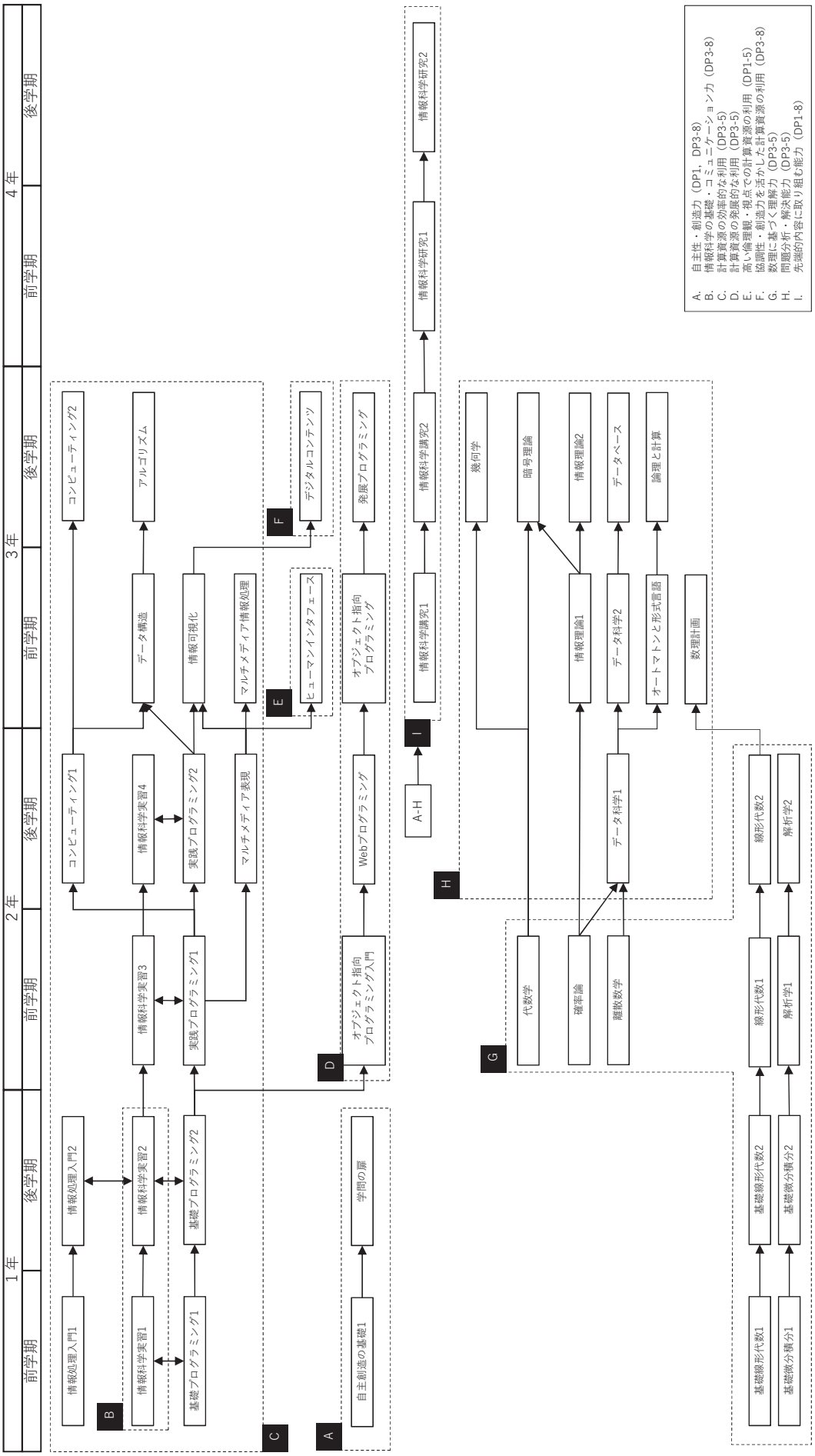
■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数。2単位の科目は講義科目。1単位の科目は演習科目）

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="3">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td>16単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td>8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td colspan="2">健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="8">学科専門科目</td><td colspan="2">必修</td><td>学問の扉②
情報科学実習1①＊
情報科学実習2①＊
基礎プログラミング1②＊
基礎プログラミング2②＊</td><td>情報科学実習3①＊
情報科学実習4①＊</td><td>情報科学講究1②＊
情報科学講究2②＊</td><td>情報科学研究1②＊
情報科学研究2④＊</td><td rowspan="2">20単位</td><td rowspan="8">78単位</td></tr>
<tr><td rowspan="7">選択</td><td>A群</td><td>情報処理入門1②
情報処理入門2②
基礎線形代数1②
基礎線形代数2②
基礎微分積分1②
基礎微分積分2②</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">10単位</td></tr>
<tr><td>B群</td><td></td><td>実践プログラミング1②＊
実践プログラミング2②＊
オブジェクト指向プログラミング入門②
Webプログラミング②
マルチメディア表現②
データ科学1②
コンピューティング1②
線形代数1②
線形代数2②
解析学1②
解析学2②
代数学②
離散数学②
確率論②</td><td></td><td></td><td rowspan="2">26単位</td></tr>
<tr><td>C群</td><td></td><td></td><td>オブジェクト指向プログラミング②
発展プログラミング②
情報可視化②
デジタルコンテンツ②
マルチメディア情報処理②
ヒューマンインタフェース②
データ構造②
アルゴリズム②
オートマトンと形式言語②
論理と計算②
データベース②
データ科学2②
コンピューティング2②
情報理論1②
情報理論2②
数理計画②
幾何学②
暗号理論②</td><td></td><td>24単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td></td></tr>
</table>

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。

■学科専門科目等　履修系統図



コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

物理学科

■教育研究上の目的

現代の先端科学技術の発展に十分対処できる基礎的・専門的な学力・知識を備えた科学技術者を養成し，企業，教育・研究機関，産業界に人材を提供する。科学の基礎である物理学を学ぶことによって，技術力，計算力，思考力及び判断力を養い，未来の科学技術及び産業界の発展に貢献できる能力を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。

■教育理念・目標

現代物理学の体系を理解し，それを様々な分野に応用する能力を身に付けることを目指したカリキュラムを用意している。

1 年次では，大学で学ぶ物理学を理解するために，物理学の基本的な考え方や方法と物理学の理解に必要な微分・積分を中心とした基礎的な数学を学ぶ。2 年次では，力学や電磁気学等の古典物理学の基礎と，物理学全般の理解に必要な数学について講義科目に加えて演習科目も多く設置し，基礎学力とその応用力を時間をかけて養成する。3 年次では，2 年次までに学んだ古典物理学の基礎の上にたって，量子力学や統計力学等のさらに進んだ物理学を学び，専門分野の研究に対応できる能力を習得する。4 年次では，各教員の研究室に所属して専門分野の学習，研究を行うことにより，先端科学技術の発展に対応できる専門能力を養成する。

■カリキュラムの特徴

物理学科では，講義科目に加えて演習科目を多く設置しており，授業で学んだ知識を実際の問題を解くことにより，より理解を深めることができ，計算力も身に付くように配慮されている。また，各学年で充実した実験の授業を行い，実験技術を身に付けるとともに授業で学んだ物理現象の具体的な理解を深める。毎回のレポート提出及びそれに対する指導により論文作成能力を養成する。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目……　2 単位
総合教育科目……　16 単位
　物理学科の学生はⅠ群の「物理学」を履修することはできない。
外国語教育科目……　8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 ……　5 単位
学科専門科目……　78 単位
　必修科目 66 単位，選択科目 12 単位
自由選択区分……　15 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，物理学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

■履修計画上の注意

⑴　3 年次配当科目の履修について

2 年間修学した学生で卒業に必要な 124 単位のうち，修得した単位が 50 単位に満たない学生は，3 年次前学期において 3 年次配当科目を履修できない。ただし，3 年次前学期終了時点で 50 単位に達すれば，後学期からの 3 年次配当科目の履修は認められる。

＊他学部・他大学などから編入した学生には適用されない。また，交換留学など外国の大学に留学した学生が帰国した場合は，別途検討する。

＊この制限は，3 年次配当科目の履修を制限するものであって，3 年次進級を制限するものではない。

⑵　次の科目の履修については，以下の先修条件がある。

発展物理実験 A・B	3 年次	基礎物理実験 A・B を両方修得していること。
特別研究 A	4 年次	①　物理実験 A・B 及び発展物理実験 A・B を全て修得していること。 ②　自主創造の基礎を修得していること。 ③　卒業に必要な 124 単位のうち，上記①②の単位を含め 100 単位以上修得していること。
特別研究 B		特別研究 A を修得していること。

⑶　履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（130 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数。2単位の科目は講義科目。1単位の科目は演習科目）

<table>
<tr><th colspan="2">配当年次
科目区分</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="2">全学共通教育科目</td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">総合教育科目</td><td>総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td colspan="2">16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td colspan="2">8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="2">3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学科専門科目</td><td>必修</td><td>物理学概論1②＊
物理学概論2②＊
微分・積分1②＊
微分・積分2②＊
線形代数1②＊
線形代数2②＊
力学入門②
力学1②
電磁気学入門②
基礎物理実験A①＊
基礎物理実験B①＊</td><td>力学2②
量子力学入門②
電磁気学1②
電磁気学1演習①＊
電磁気学2②
電磁気学2演習①＊
物理数学1②
物理数学2②
物理学演習1②＊
物理学演習2②＊
物性物理学入門②
熱力学②
振動と波動②
物理実験A①＊
物理実験B①＊</td><td>量子力学1②
量子力学1演習①＊
量子力学2②
量子力学2演習①＊
統計力学1②
統計力学1演習①＊
統計力学2②
統計力学2演習①＊
発展物理実験A①＊
発展物理実験B①＊</td><td>特別研究A③
特別研究B③</td><td>66単位</td><td rowspan="2">78単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td>化学概論1②▲
化学概論2②▲
生物学概論1②▲
生物学概論2②▲
地学概論1②▲
地学概論2②▲</td><td>数値計算入門1②
数値計算入門2②</td><td>物性物理学1②
物性物理学2②
解析力学②
電磁気学3②
物理数学3②
連続体力学②
相対性理論②
生物物理学②
計算物理学②</td><td>量子力学3②
原子核と素粒子②
宇宙物理学②
超伝導の科学②
量子光学②</td><td>12単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。
▲化学概論1・2，生物学概論1・2，地学概論1・2は，教職コースを選択していない人は受講人数制限のため履修できない場合があります。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

科目群	概要	1年前学期	1年後学期	2年前学期	2年後学期	3年前学期	3年後学期	4年前学期	4年後学期
入門	大学生活の在り方を学ぶ。(DP1,2,4,5)	自主創造の基礎							
	専門の物理学理解のための基礎を学ぶ。(DP3)	物理学概論1	物理学概論2						
数学	物理学の理解のために必要な実践的な数学を身に付ける。(DP5)	微分・積分1	微分積分2	物理数学1	物理数学2		物理数学3		
		線形代数1	線形代数2						
古典物理学	現代の物理学の理解に必要な古典的な物理学を身に付ける。(DP3,4)	力学入門	力学1	力学2		解析力学			
				物理学演習1	物理学演習2				
				振動と波動		連続体力学			
			電磁気学入門	電磁気学1	電磁気学2	電磁気学3			
				電磁気学1演習	電磁気学2演習				
ミクロ物理学	現代の物理学の理解に必要な原子・分子等を対象とするミクロ物理学を学習する。(DP3,4)				量子力学入門	量子力学1	量子力学2	量子力学3	
						量子力学1演習	量子力学2演習		
					熱力学	統計力学1	統計力学2		
						統計力学1演習	統計力学2演習		
コンピューター物理学	コンピューターを用いた数値計算を通じて，物理学の基礎・応用を理解する。(DP5)			数値計算入門1	数値計算入門2	計算物理学			
様々な分野の物理学	物理学が応用されている先端分野について学習する。(DP3)				物性物理学入門	物性物理学1	物性物理学2		
								量子光学	超伝導の科学
							相対性理論	宇宙物理学	原子核と素粒子
多分野との関連	物理学と化学・生物学・地学の関連を学ぶ。(DP1)	化学概論1	化学概論2						
		生物学概論1	生物学概論2			生物物理学			
		地学概論1	地学概論2						
実験	実験を通じて，物理学を体験的に理解する。(DP6-8)	基礎物理実験A	基礎物理実験B	物理実験A	物理実験B	発展物理実験A	発展物理実験B		
総括	先端の「研究」を通して物理学を理解する。(DP1-8)							特別研究A	特別研究B

必修

選択

履修登録
お役立ちサイト

生命科学科

■教育研究上の目的

人間社会が直面している健康と医療・エネルギー・食糧・環境・自然再生などの問題は，生命科学と密接に関連している。そこで，分子から生態系にいたる様々なレベルで，生物の「生きる」メカニズムを体系的に学ぶことによって，このような諸問題に対応できる人材を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。

■教育理念・目標

健康と医療・エネルギー・食糧・環境・自然再生などの人類の諸問題は，生命科学と密接に関連している。分子から生態系にいたる様々なレベルにおける，生物の「生きる」メカニズムを体系的に学ぶことで，このような問題に対応できる能力を養成する。

1 年次には生命科学，化学，物理学，数学の基礎を，2 年次では，様々な生命科学基礎専門科目を，そして 3 年次では，より進んだ生命科学専門科目を，また，1 年次から 3 年次にかけて実験科目を学ぶことにより，生命科学を論理的，科学的にとらえる能力を養う。4 年次では各教員の研究室に所属して専門分野の学習，研究を行うことにより，課題探求能力，問題解決能力を養成する。

■カリキュラムの特徴

生命科学科では，分子・細胞，組織・器官，個体・生態系の様々な階層の生命現象を理解できるように，各科目をバランスよく配置している。特に，1 年次には高校で履修していない分野があっても対応できるように，基礎科目を設置している。また，各学年で充実した実験科目を履修することにより，授業で学んだ現象の具体的な理解を深めるとともに，実験技術を習得する。2 年次における生命科学特別講義では，生命科学における産業応用分野の例を学ばせる。また，3 年次の選択科目である生命科学専門実験では，4 年次における卒業研究に向けて，各研究室における研究活動を体験できる場を提供することで，総合的な学習能力を身に付けさせる。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 77 単位
　必修科目　　57 単位
　選択 A 群から　18 単位
　選択 B 群から　 2 単位
自由選択区分…… 16 単位
　全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，生命科学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次ページ「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

先修条件

区分	科目等	設置年次	条件等
実験科目	生命科学基礎実験1・2（＊1）	2年次	基礎科学実験1及び基礎科学実験2を修得していること。
	生命科学実験1・2・3（＊1） 生命科学専門実験1・2	3年次	生命科学基礎実験1及び生命科学基礎実験2を修得していること。
	特別研究1・2	4年次	①　「生命科学実験1・2・3」のうち2科目を修得していること。 ②　学科専門科目の1・2・3年次配当必修科目49単位のうち，47単位以上を修得していること。 ③　卒業に必要な124単位のうち，上記①②の単位を含め104単位以上修得していること。

＊1　他学部・他大学から編入した学生や留学から帰国した学生などは別途検討する。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■ 3 年次における履修制限

2 年次終了時点で，卒業に必要な 124 単位のうち，修得した単位が 50 単位に満たない学生は，3 年次前学期において生命科学科の 3 年次配当科目を履修できない。ただし，3 年次前学期終了時点で全ての項目を満たした場合，後学期からの 3 年次配当科目の履修は認められる。

＊他学部・他大学から編入した学生や留学から帰国した学生などは別途検討するので，学科事務室に問い合わせること。

＊この原則は，3 年次配当科目の履修を制限するものであって，50 単位に満たない場合でも 3 年次への進級は認められる。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために**年間に履修登録できる科目の単位数の上限を定めている**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照すること。

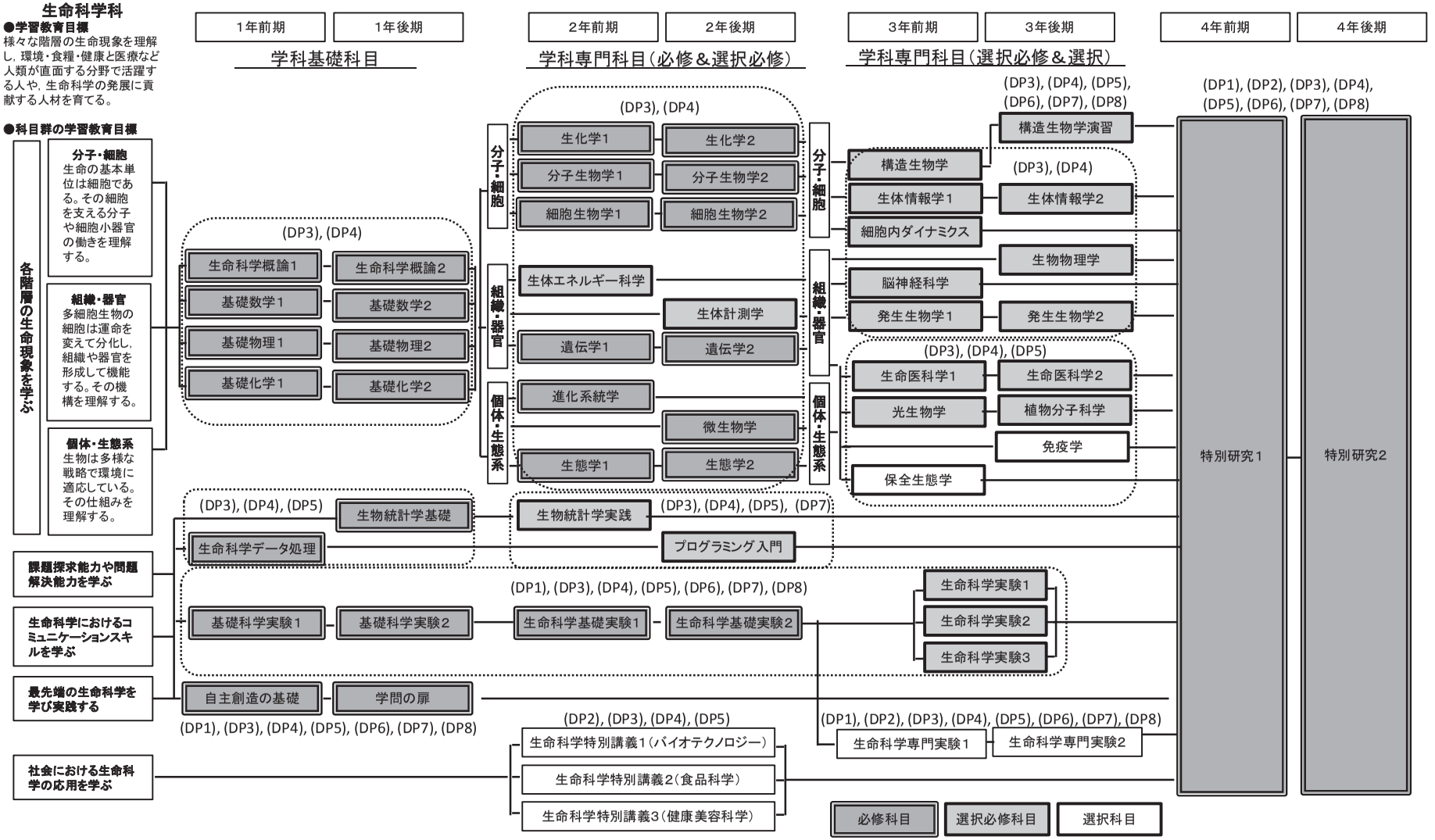
なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（134 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれない。

■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次			1　年	2　年	3　年	4　年	卒業に必要な単位数	
全学共通教育科目			自主創造の基礎②				2単位	
総合教育科目	総合Ⅰ群 総合Ⅱ群 総合Ⅲ群		42ページ参照				16単位	
外国語教育科目			44ページ参照				8単位	
基礎教育科目	健康･スポーツ教育科目		64ページ参照				3単位	
	コンピュータ科目		64ページ参照				2単位	
学科専門科目	基礎科目	必修	学問の扉② 生命科学概論1②＊ 生命科学概論2②＊ 基礎数学1②＊ 基礎数学2②＊ 基礎物理1②＊ 基礎物理2②＊ 基礎化学1②＊ 基礎化学2②＊				18単位	77単位
	専門科目	必修	生物統計学基礎② 生命科学データ処理①	生化学1② 生化学2② 分子生物学1② 分子生物学2② 細胞生物学1② 細胞生物学2② 遺伝学1② 遺伝学2② 微生物学② 進化系統学② 生態学1② 生態学2②			27単位	
		選択A群		生体エネルギー科学② 生体計測学② 生物統計学実践② プログラミング入門①	生体情報学1② 生体情報学2② 細胞内ダイナミクス② 脳神経科学② 生物物理学② 発生生物学1② 発生生物学2② 生命医科学1② 生命医科学2② 光生物学② 植物分子科学② 構造生物学② 構造生物学演習①		18単位	
		選択		生命科学特別講義1(バイオテクノロジー)② 生命科学特別講義2(食品科学)② 生命科学特別講義3(健康美容科学)②	免疫学② 保全生態学②			
	実験科目	必修	基礎科学実験1①＊ 基礎科学実験2①＊	生命科学基礎実験1①＊ 生命科学基礎実験2①＊		特別研究1④ 特別研究2④	12単位	
		選択B群			生命科学実験1①＊ 生命科学実験2①＊ 生命科学実験3①＊		2単位	
		選択			生命科学専門実験1① 生命科学専門実験2①			
コース科目			140ページ以下の◆印科目を参照					

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。



[DP] ディプロマポリシー 日本大学文理学部（学士（理学））は，日本大学教育憲章に基づき，「日本大学の目的及び使命」を理解し，次表に示す「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」・「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力の習得を教育目標とします。 生命科学科では，日本大学の基本理念と文理学部の教育目標を踏まえて，次のようにディプロマポリシーを定めます。	**[DP1] 豊かな教養・知識に基づく高い倫理観** 生命科学分野を中心に，社会人として必要な教養を身に付け，科学技術の進歩がもたらす倫理的問題を理解し，自らの役割を説明することができる。	**[DP2] 世界の現状を理解し，説明する力** 現代社会における科学技術の状況や役割を理解し，国際社会が直面している問題点などを説明することができる。	**[DP3] 論理的・批判的思考力** 物事を科学的根拠に基づいて客観的に捉え，批判的・論理的に考察し，既存の知識にとらわれることなく，物事の本質をとらえることができる。	**[DP4] 問題発見・解決力** 日常生活における現象を注意深く観察・検討し，自ら能動的に考察することにより科学的問題を発見し，生命科学的知識を通して解決策を提案することができる。
	[DP5] 挑戦力 生命科学の専門的知識を身に付け，あきらめない意思を持って，未解決問題に向かって果敢に取り組むことができる。	**[DP6] コミュニケーション力** 社会的・学問的背景の異なる他者の意見を聴いて，自分と異なる価値観を理解・尊重すると共に自分の考え方をわかりやすく伝え，他者と議論することができる。	**[DP7] リーダーシップ・協働力** 学修活動だけでなく日常生活においても他者と連携し，時には自ら進んでリーダーシップを発揮することで協働者の力を引き出すことができる。	**[DP8] 省察力** 他者の評価を謙虚に受け止め，自分の学修生活がもたらす意義を追求し，生命科学分野の知識や経験を活かしながら自己の資質を高めることができる。

コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

履修要項
学部ガイドブック

化学科

■教育研究上の目的

21 世紀における資源やエネルギー源の枯渇，食糧不足，人口問題，環境問題など，人類が繁栄するために解決しなければならない諸問題に対して，化学が果たす役割は大きい。このようなニーズに応えるため，化学のみならず他の分野との境界領域に踏み込める基礎的な知識と力量を身に付け，関連分野でも活躍できる化学技術者・研究者を養成する。また，理科の教員を養成し，次世代の教育に貢献する。

■教育理念・目標

本学科における教育は，基礎から応用までの幅広い化学知識と技術を兼ね備えた人材育成を目的とする。1 年次では化学の基礎を学ぶことを目標とする。2 年次では特定の分野に偏ることなく，化学の専門である有機化学，無機化学，分析化学，物理化学及び生物化学の知識と技術を広く学ぶことを目標とする。3 年次ではより専門的な知識・実験手法の習得を目標とする。4 年次では研究室に所属して一年間かけて化学特別研究 1，2（卒業研究）に取り組み，その成果を卒業論文としてまとめ，発表することを目標とする。

■カリキュラムの特徴

本カリキュラムは，1，2，3 年次と，基礎から専門・応用へと積み重ねていくカリキュラムになっている。1 年次には，全学共通科目「自主創造の基礎」が開講されている他，基礎科目中心のカリキュラムとなっている。2 年次には，化学の専門科目の基礎固めを行うカリキュラムとなっている。3 年次には，化学科の教員がオムニバス形式で現代化学研究を紹介する「最前線の化学」の他，多くの専門・応用科目が開講されている。

■卒業に必要な単位数

全学共通教育科目…… 2 単位
総合教育科目…… 16 単位
外国語教育科目…… 8 単位
基礎教育科目　健康・スポーツ教育科目から必修 3 単位，コンピュータ科目から必修科目 2 単位 …… 5 単位
学科専門科目…… 76 単位
必修科目 52 単位，選択科目 A 群から 4 単位，B 群から 6 単位，C 群から 2 単位を含んで 24 単位
自由選択区分…… 17 単位
全学共通教育科目，総合教育科目，外国語教育科目，基礎教育科目，化学科の学科専門科目などで卒業基準単位数を超えた科目，及び他の学科の専門科目，各コース科目（一部科目を除く）とする。

卒業に必要な単位数　124 単位

次ページの「履修計画上の注意」を熟読し，履修すること。

■履修計画上の注意

先修条件

区分	科目等	設置年次	条件等
必修科目	機器・物理化学実験（含演習） 生物化学実験（含演習）	3年次	基礎化学実験及び化学実験を修得していること。
	化学特別研究1 化学特別研究2	4年次	次の①～④を全て満たすこと。 ① 総合教育科目，外国語科目，基礎教育科目において卒業に必要な単位数を全て充足していること ② 1～3年次の化学科必修科目（全学共通教育科目を含む）において卒業に必要な単位数を全て充足していること。 ③ 化学科の専門選択科目を（A群4単位以上，B群6単位以上を含み）22単位以上修得していること。 ④ 自由選択区分の単位を12単位以上修得していること。

※各学年ガイダンス時に配布される履修に関する資料等を併せて参照すること。

■３年次における履修制限

２年次終了時点で，卒業に必要な 124 単位のうち，修得した単位が 50 単位に満たない学生は，３年次前学期において化学科の３年次配当科目を履修できません。ただし，３年次前学期終了時点で全ての項目を満たした場合，後学期からの３年次配当科目の履修が認められます。

＊他学部・他大学から編入した学生には適用されません。また，留学した学生が帰国した場合は別途検討しますので，学科事務室に問い合わせてください。

＊この原則は，３年次配当科目の履修を制限するものであって，50 単位に満たない場合でも３年次進級は認められます。

■履修科目登録単位数の上限

本学部においては，一人ひとりの学生の学習効果を向上させるために年間に**履修登録できる科目の単位数の上限を定めています**。詳細については，「5　履修科目登録単位数の上限」（35 ～ 36 ページ）を参照してください。

なお，所属学科において，学科専門科目等一覧表（138 ページ）の科目にアンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限には含まれません。

■学科専門科目等一覧表

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th colspan="2">卒業に必要な単位数</th></tr>
<tr><td colspan="2">全学共通教育科目</td><td></td><td>自主創造の基礎②</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">総合教育科目</td><td colspan="2">総合Ⅰ群
総合Ⅱ群
総合Ⅲ群</td><td colspan="4">42ページ参照</td><td colspan="2">16単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語教育科目</td><td colspan="4">44ページ参照</td><td colspan="2">8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目</td><td>健康･スポーツ教育科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="2">3単位</td></tr>
<tr><td>コンピュータ科目</td><td colspan="4">64ページ参照</td><td colspan="2">2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="5">学科専門科目</td><td colspan="2">必修</td><td>基礎化学②＊
物理化学1②
分析化学1②
無機化学1②
無機化学2②
有機化学1②
有機化学2②

基礎化学実験①＊
化学実験①＊</td><td>物理化学2②
物理化学3②
分析化学2②
分析化学3②
生物化学1②
生物化学2②
無機化学3②
有機化学3②

有機化学実験（含演習）②＊
無機・分析化学実験（含演習）②＊</td><td>最前線の化学②

機器・物理化学実験（含演習）④＊
生物化学実験（含演習）②＊</td><td>化学特別研究1④
化学特別研究2④</td><td>52単位</td><td rowspan="4">76単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選択</td><td>A群</td><td>学問の扉②</td><td>化学の情報技術②
化学英語②
化学数学②
機器分析化学②
発展無機化学②
有機反応化学②</td><td></td><td></td><td>4単位</td><td rowspan="3">24単位</td></tr>
<tr><td>B群</td><td></td><td></td><td>分光化学②
量子化学②
固体化学②
資源化学②
無機分析化学②
環境化学②
物質代謝学②
エネルギー代謝学②
周期表の化学②
元素の化学②
応用無機化学②
有機構造化学②
有機合成化学②
有機応用化学②</td><td></td><td>6単位</td></tr>
<tr><td>C群</td><td></td><td></td><td></td><td>発展物理化学特論②
展開物理化学特論②
応用物理化学特論②
基礎分析化学特論②
応用分析化学特論②
生物化学特論②
発展無機化学特論②
展開無機化学特論②
応用無機化学特論②
発展有機化学特論②
展開有機化学特論②
応用有機化学特論②</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">コース科目</td><td colspan="4">140ページ以下の◆印科目を参照</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

アンダーラインと＊を付した科目は，年間に履修登録できる科目の単位数の上限40単位には含まれません。
一部の科目について，科目名称が長いため省略して記載しています。正式な科目名称については，学則又はシラバスで確認してください。

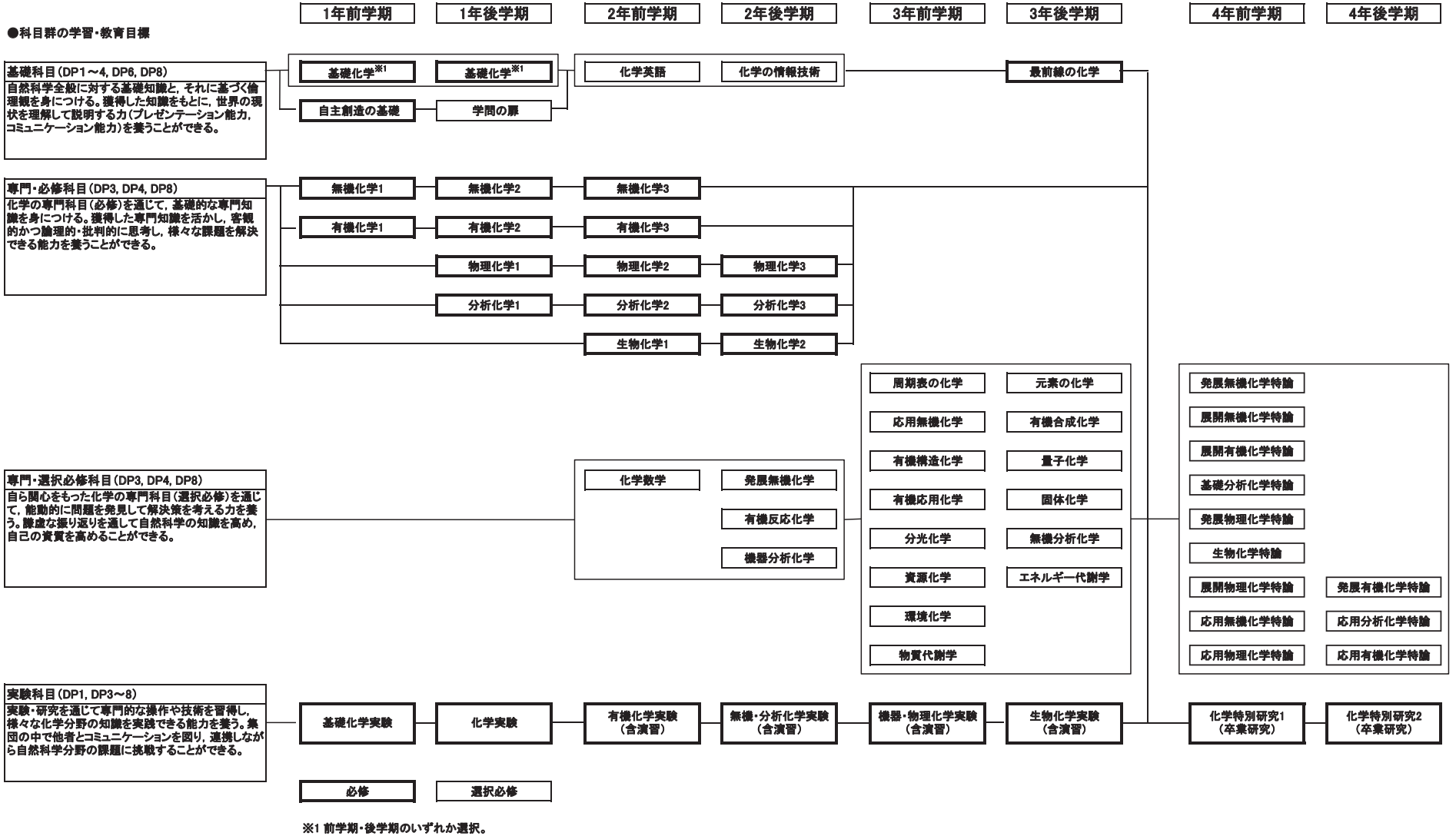
コース科目（◆印科目）の履修系統図は，172ページ以下を参照

化学科

●学習・教育目標

21世紀における資源やエネルギー源の枯渇，食糧不足，人口問題，環境問題など，人類が繁栄するために解決しなければならない諸問題に対して，化学が果たす役割は大きい。このようなニーズに応えるため，化学のみならず他の分野との境界領域に踏み込める基礎的な知識と力量を身に付け，関連分野でも活躍できる化学技術者・研究者を養成する。また，理科教育に携わる教員を養成し，次世代の教育活動に貢献する。

●科目群の学習・教育目標



※1 前学期・後学期のいずれか選択。

コース科目

教職コース

①　中学校・高等学校教諭免許状（全学科共通）

■教員になるためには…

教職コースは，中学校及び高等学校の教育職員免許状取得のために必要な単位を修得するためのコースです。

大学卒業後に教員を志望するものは，大学で教職コース科目を修得し，卒業時に免許状を取得の上，各関係機関において実施される教員採用試験に合格することが必要です。

■本学部で取得できる免許の種類・教科（中学校・高等学校）

本学部で取得できる免許の種類・教科は以下のとおりです。

免許の種類・教科

学　科	取得できる免許（一種） 中学校のみ* 高等学校のみ**	学　科	取得できる免許（一種） 中学校のみ* 高等学校のみ**
哲学科	社会* 公民** 宗教	体育学科	保健体育
史学科	社会* 地理歴史**	地理学科	社会* 地理歴史** 理科
国文学科	国語 書道**	地球科学科	理科
中国語中国文化学科	国語 中国語	数学科	数学
英文学科	英語	情報科学科	数学 情報**
ドイツ文学科	ドイツ語	物理学科	理科
社会学科	社会* 公民**	生命科学科	理科
教育学科	社会* 公民**	化学科	理科

※社会福祉学科，心理学科は「教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程認定」を有していないため，学科で取得できる免許状はありません。なお，社会福祉学科，心理学科の学生は他学科聴講にて，免許状を取得することができますが，別途注意事項がありますので教職センターに御相談ください。

■コース履修届・コース履修費

教育職員免許状の取得を希望しているものは，毎年度，教職コース履修届の提出と教職コース履修費を納めなければなりません。また，「介護等体験費（中学校教諭一種免許状を希望する学生)」・「教育実習費」・「理科実験費（理科の免許状を希望する学生のみ)」については，教職コース履修費とは別に実施年度に納める必要があります。納入金額については，学年の初めのガイダンス時にお知らせします。

■介護等体験

中学校教諭一種免許状を取得しようとするものは，「介護等体験」が必要になります。

具体的には，２年次に「特別支援学校」（２日間），３年次に「社会福祉施設」（５日間）で合計７日間の介護等体験を行い，その学校長，施設長の押印による介護等体験証明書を添付しなければ当該免許状の申請ができません。

詳細については，１年次に実施する「教職コースガイダンス」で説明します。このガイダンスに出席して，所定の手続きを行ってください。手続きを行っていない場合は介護等体験が行えなくなりますので，注意してください。

■他学科聴講について

所属学科では取得することのできない教科の教員免許の取得を希望する場合は，「他学科聴講」の制度を利用しなければなりません。例えば「教育学科の学生が地理歴史の教育職員免許状を取得する」などが該当します。なお，社会福祉学科・心理学科の学生が教職コースを希望する場合は，全て他学科聴講となります。

【履修における注意点】

他学科聴講をしている場合，該当他学科の課程認定に拘束されます。例えば「教育学科の学生が地理歴史の免許状を取得する」とき，地理歴史については，史学科，地理学科と 2 つの学科で取得することができますが，どちらか一つの学科を選択し，選択した学科の課程認定において免許に必要な単位全てを修得してください。

※上記の場合，史学科，地理学科の両学科で単位を修得しても，一つの学科の単位しか免許取得には使えません。

■教育実習事前・事後指導

教育実習の事前・事後指導を行うために設置された「教育実践に関する科目」の必修科目です。

教育実習を行う学生を対象に，3・4 年次にまたがり教育実習に関する基本的・実践的指導を行い，教師への自覚と実践的能力を高めることを目標としています。中でも教科別指導は，実習教科ごとのクラス編成で指導案の作成方法や模擬授業などを行います。教育実習事前・事後指導は，全 15 回全て出席して評価の対象となります。

詳細は，3 年次に実施する「教職コースガイダンス」で説明します。

■教育実習

教育職員免許状を取得するために不可欠な科目で，中学校教諭一種免許状で 5 単位，高等学校教諭一種免許状で 3 単位（教育実習事前・事後指導 1 単位を含む）を修得しなければなりません。中学校や高等学校において，教員として必要な知識や技能を実習先の学校長及び教職員の指導を受けながら，授業実習その他教育活動を通して身に付けることを目的としています。

詳細は，3 年次に実施する「教職コースガイダンス」で説明します。

◎中学校教諭一種免許状取得には 3 週間（実日数 15 日間以上*），高等学校教諭一種免許状取得には 2 週間（実日数 10 日間以上*）の教育実習が必要になります。中高両方の免許状取得の場合は 3 週間（実日数 15 日間以上*）の教育実習が必要になります。

＊ 1 日の勤務を 8 時間以上とする場合。

重要

「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」について

「教育実習事前・事後指導」は「教育実習」の事前・事後の指導のために設けられた科目で，「教育実習」とセットになります。どちらか一方の単位が修得できなかったときは，両方の単位が修得できなくなりますので注意してください。

■教職実践演習（中・高）

教職コースの他の授業科目の履修や教職コースでの様々な活動を通じて，学生が身に付けた資質能力が，教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され，形成されたかについて，最終的に確認することを目的としており，1 年次に配布する「履修カルテ」をもとに授業を実施します。

詳細は，4 年次に実施する「教職コースガイダンス」で説明します。

■履修カルテについて

履修カルテとは，教職の履修について各学年・学期で振り返るためのもので，4 年次に設置されている必修科目「教職実践演習（中・高)」を受講するために必要なものです。1 年次に配布し，大学側の指示に基づき，4 年間かけて完成させます。

【注意事項】

1　教職コース履修届を提出し，教職コース履修費を納入した学生に対してのみ配布します。
2　履修カルテがないと，「教職実践演習（中・高)」を受講することができません。
3　記載に不備等がある場合，「教職実践演習（中・高)」の単位を修得することができなくなる場合があります。
4　汚損・破損による取り替えや，紛失等による再発行はしません。

■公立学校教員採用試験対策科目

教育職員免許状を取得することで，ただちに教員として採用されることにはなりません。教員になるためには，教員採用試験を受験して，合格しなければなりません。

本学部では，その試験対策のために「大学が独自に設定する科目」として，「社会教育論」「教育と福祉」「教育法規論」及び「教職特別講義」の 4 科目を設けています。たとえば「教育法規論」は，教員採用試験においてきわめて出題頻度の高い教職に関する各種法令を扱います。また「教職特別講義」は，試験に出題されやすい学校教育や教育行政に関する最新の話題・動向・事項などを扱います。

■小学校教員養成特別プログラム

玉川大学通信教育部と「小学校教員養成特別プログラム」に関する協定を結び，別に定める推薦基準を満たし，かつ在学中に中学校・高等学校教諭一種免許状（教科は問いません）を取得できる学生に対して，小学校教諭二種免許状取得の機会を設けています。なお，本プログラムは，学部内での選考試験があり，玉川大学通信教育部での履修費等が別途必要になります。また，「小学校教員養成特別プログラム」で小学校教諭二種免許状の取得を目指す場合，特別支援学校教諭免許状の取得を並行して履修することは原則，出来ません。詳細は，教職センターで確認してください。

■その他

⑴　教員採用試験の受験を希望する学生は，出願資格が「中学校教諭一種，高等学校教諭一種の免許を有するもの，または取得見込みのもの」となっていることが多いため（例えば東京都公立学校)，同一教科で中学校・高等学校の免許がある場合，両方取得することを奨めます。なお社会教科（中学）の場合は，地理歴史（高校）と公民（高校）を併せて取得することを奨めます。
⑵　教職に関するガイダンス，事務手続き等の指示については，情報掲示板 COMITS2 で周知するので，定期的に確認を行ってください。
⑶　教員を目指す学生を支援するために，教職センターを設置しています。詳細は 202 ページを参照してください。

重要

■教職コース履修上の注意

以下の条件が充足できていない場合は，教育実習を行えなくなるので注意してください。

「教育実習」を実施するための条件

①　4 年進級時に「卒業見込」であること
②　教科及び教科の指導法に関する科目のうち，取得希望教科（同一教科）の教科教育法 4 単位を含む 24 単位以上修得済みであること
③　教育の基礎的理解に関する科目等（教科及び教科の指導法に関する科目を除く）から合計 19 単位以上修得済みであること
④　第 3 回～第 13 回教育実習事前・事後指導（教育実習直前指導）を受講し合格していること
※②③④は教育実習前年度終了時までに条件を満たすこと

■教育職員免許状取得までの流れ

教育職員免許状を取得するまでには，指定された科目の履修，単位修得はもとより，様々な事務手続き等があります。なお，ここで説明するのは一部であるため，前述のように教職コースガイダンスや情報掲示板 COMITS2 等による指示に従ってください。以下に示すのは，1 年次から履修を始めた場合のケースであり，2 年次・3 年次から履修を始めた場合は，この限りではありません。

1 年次

・教職コースガイダンス（4 月上旬）
・コース届の提出，コース履修費の納入（4 月上旬）
・「履修カルテ」の作成・提出（6 月頃・11 月頃）
・「介護等体験（2 日間）事前レポート」の作成・提出（10 月～ 12 月頃）

2 年次

・教職コースガイダンス（3 月末～ 4 月上旬）
・コース届の提出，コース履修費の納入（4 月上旬）
・介護等体験（2 日間）の申込み（4 月上旬）
・介護等体験のための事前指導（体験の直前に実施）
・介護等体験の実施（特別支援学校）（2 日間）（5 月～ 2 月頃）
・「履修カルテ」の提出（6 月頃・11 月～ 12 月頃）

3 年次

・教職コースガイダンス（3 月末～ 4 月上旬）
・コース届の提出，コース履修費の納入（4 月上旬）
・介護等体験（5 日間）の申込み，介護等体験費の納入（4 月上旬）
・出身学校等における教育実習届（内諾書）の提出（教育実習内諾活動）（4 月～ 6 月）
・介護等体験の実施（社会福祉施設）（5 日間）（8 月～ 2 月頃）
・第 1 回教育実習事前・事後指導（事前指導）の受講（11 月～ 12 月頃）
・第 2 回教育実習事前・事後指導（事前指導）の受講（11 月～ 12 月頃）
・第 3 回～第 13 回教育実習事前・事後指導（教科別指導）（事前指導）の受講（2 月～ 3 月頃）
・「履修カルテ」の提出（6 月頃・11 月～ 12 月頃）

4 年次

・教職コースガイダンス（3 月末～ 4 月上旬）
・コース届の提出，コース履修費の納入（4 月上旬）
・教育実習実施に伴う必要書類等の提出及び実習費の納入（4 月上旬）
・教育実習の実施（5 月～ 11 月頃）
・教員免許状大学一括申請申込書の提出（9 月～ 10 月頃）
・教職実践演習（中・高）の受講（9 月～後学期）
・第 14 回教育実習事前・事後指導（事後指導）の受講（11 月～ 12 月頃）
・第 15 回教育実習事前・事後指導（事後指導）の受講（11 月～ 12 月頃）
・教員免許状大学一括申請・申請手数料納入（11 月頃）
・教員免許状交付（3 月 25 日：卒業式）

教職コース（全学科共通）

（○の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th>配当年次
免許法による区分</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>免許取得に必要な単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="7">免許法施行規則第66条の6に定める科目</td><td>［日本国憲法］</td><td colspan="4">総合教育科目の「憲法②」を必修</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td>［体育］</td><td colspan="4">健康・スポーツ教育科目の「健康・スポーツ教育論②」，「健康・スポーツ教育実習1①」を必修</td><td>3単位</td></tr>
<tr><td rowspan="5">［外国語コミュニケーション］</td><td>英語1①
英語2①
フランス語コミュニカティフ1①
フランス語コミュニカティフ2①
中国語3①
中国語4①</td><td>フランス語コミュニカティフ3①
フランス語コミュニカティフ4①</td><td>フランス語コミュニカティフ5①
フランス語コミュニカティフ6①</td><td></td><td rowspan="5">同一種類言語の外国語2単位選択</td></tr>
<tr><td>中国語7①
中国語8①</td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">中国語スピーキング1①
中国語スピーキング2①</td></tr>
<tr><td>ドイツ語コミュニケーション1①
ドイツ語コミュニケーション2①</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">ドイツ語コミュニケーション3①
ドイツ語コミュニケーション4①</td></tr>
<tr><td>「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」</td><td colspan="4">コンピュータ科目の「情報リテラシー②」を必修</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td rowspan="6">教育の基礎的理解に関する科目等</td><td rowspan="2">教育の基礎的理解に関する科目</td><td>現代教職論②</td><td>教育原論②（教育学科所属学生は，教育の理念と歴史②を履修すること）
発達と学習②（教育学科所属学生は，教育心理学②を履修すること）
特別支援教育概論①
教育課程論②
教育制度論②
教育の社会学②　} 1科目選択</td><td></td><td></td><td rowspan="6">—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目</td><td>教育方法・ICT活用論②（教育学科所属学生は，教授学習論②を履修すること）</td><td>道徳教育の理論と方法②※中学校一種の場合は必修
特別活動・総合的な学習の時間の指導法②
生徒指導・進路指導論②
教育相談②</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育実践に関する科目</td><td></td><td colspan="2">教育実習事前・事後指導①</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>教育実習Ⅰ④
教育実習Ⅱ②
※中学校一種の場合は「教育実習Ⅰ」必修。
教職実践演習（中・高）②</td></tr>
<tr><td colspan="2">教科及び教科の指導法に関する科目
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
必修科目（選択必修科目を含む）（◆印科目）</td><td>国語科教育法Ⅰ②【国語】
国語科教育法Ⅱ②【国語】
社会科・公民科教育法Ⅰ②【社会】【公民】
社会科・公民科教育法Ⅱ②【社会】【公民】
社会科・地理歴史科教育法Ⅰ②【社会】【地理歴史】
社会科・地理歴史科教育法Ⅱ②【社会】【地理歴史】　} ※
数学科教育法Ⅰ②【数学】
数学科教育法Ⅱ②【数学】
理科教育法Ⅰ②【理科】
理科教育法Ⅱ②【理科】
保健体育科教育法Ⅰ②【保健体育】
保健体育科教育法Ⅱ②【保健体育】
英語科教育法Ⅰ②【英語】
英語科教育法Ⅱ②【英語】
中国語科教育法Ⅰ②【中国語】
中国語科教育法Ⅱ②【中国語】
ドイツ語科教育法Ⅰ②【ドイツ語】
ドイツ語科教育法Ⅱ②【ドイツ語】
宗教科教育法Ⅰ②【宗教】
宗教科教育法Ⅱ②【宗教】
書道科教育法Ⅰ②【書道】
書道科教育法Ⅱ②【書道】
情報科教育法Ⅰ②【情報】
情報科教育法Ⅱ②【情報】
※【社会】は8単位必修</td><td>国語科教育法Ⅲ②【国語】
国語科教育法Ⅳ②【国語】　} ※
数学科教育法Ⅲ②【数学】
数学科教育法Ⅳ②【数学】　} ※
理科教育法Ⅲ②【理科】
理科教育法Ⅳ②【理科】　} ※
保健体育科教育法Ⅲ②【保健体育】
保健体育科教育法Ⅳ②【保健体育】　} ※
英語科教育法Ⅲ②【英語】
英語科教育法Ⅳ②【英語】　} ※中高必修
中国語科教育法Ⅲ②【中国語】
中国語科教育法Ⅳ②【中国語】　} ※
ドイツ語科教育法Ⅲ②【ドイツ語】
ドイツ語科教育法Ⅳ②【ドイツ語】　} ※
宗教科教育法Ⅲ②【宗教】
宗教科教育法Ⅳ②【宗教】　} ※
※中学校免許には必修。高等学校免許には選択。（ただし【英語】は中学校一種，高等学校一種ともに英語科教育法Ⅰ～Ⅳ必修）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">その他</td><td></td><td>介護等体験（特別支援学校2日間）</td><td>介護等体験（社会福祉施設5日間）</td><td></td><td>—</td></tr>
</table>

■教職コース科目の修得単位について
教職コース履修届を教職センターに提出し，許可を得て履修した教職コース科目（各教科教育法Ⅰ～Ⅳ，教育実習事前・事後指導，教育実習Ⅰ・Ⅱ，教職実践演習（中・高）を除く）を修得した場合，卒業単位に参入することができます。詳細については，【コース科目の取扱】（33ページ）を参照してください。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

哲学科【社会】

社会（中学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	日本史・外国史	日本史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		日本史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		東洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		東洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		西洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		西洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
	地理学（地誌を含む。）	地理学概論	2			2〜4	◆	教職コース科目
		地理学詳論		2		2〜4	◆	地理学概論に続けて履修推奨 教職コース科目
		地誌学	2			2〜4	◆	教職コース科目
	「法律学、政治学」	法学通論		2	1科目選択必修	2〜4	◆	教職コース科目
		政治学概論		2		2〜4	◆	教職コース科目
	「社会学、経済学」	経済学概論		2	1科目選択必修	2〜4	◆	教職コース科目
		社会学概論		2		1	◆	社会学科専門科目
		社会学各論		2		1	◆	社会学科専門科目
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学基礎講読1		1		1・2		
		哲学基礎講読2		1		1・2		
		宗教学基礎講読1		1		1・2		
		宗教学基礎講読2		1		1・2		
		倫理学基礎講読1		1		1・2		
		倫理学基礎講読2		1		1・2		
		思想史1		2		1・2		
		思想史2		2		1・2		
		思想史3		2		1・2		
		思想史4		2		1・2		
		思想史5		2		1・2		
		思想史6		2		1・2		
		思想史7		2		1・2		
		思想史8		2		1・2		
		哲学概論		2	1科目選択必修	1		
		宗教学概論		2		1		
		倫理学概論		2		1		
		哲学講究		2		1		
		宗教学講究		2		1		
		倫理学講究		2		1		
大学が独自に設定する科目		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

哲学科【公民】

公民（高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学通論		2	A	2〜4	◆	教職コース科目
		国際法		2	A又はBを選択必修	1〜4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
		政治学概論		2	B	2〜4	◆	教職コース科目
		国際情勢		2		1〜4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学概論		2	A	1	◆	社会学科専門科目
		経済学概論		2	A又はBを選択必修	2〜4	◆	教職コース科目
		国際経済論		2	B	1〜4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
		社会学各論		2		1	◆	社会学科専門科目
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学基礎講読1		1		1・2		
		哲学基礎講読2		1		1・2		
		宗教学基礎講読1		1		1・2		
		宗教学基礎講読2		1		1・2		
		倫理学基礎講読1		1		1・2		
		倫理学基礎講読2		1		1・2		
		思想史1		2		1・2		
		思想史2		2		1・2		
		思想史3		2		1・2		
		思想史4		2		1・2		
		思想史5		2		1・2		
		思想史6		2		1・2		
		思想史7		2		1・2		
		思想史8		2		1・2		
		哲学概論		2	1科目選択必修	1		
		宗教学概論		2		1		
		倫理学概論		2		1		
		哲学講究		2		1		
		宗教学講究		2		1		
		倫理学講究		2		1		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

哲学科【宗教】									
宗教（中学校一種，高等学校一種）									
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	宗教学	宗教学基礎講読1		1		1・2		
		宗教学基礎講読2		1		1・2		
		宗教学概論	2			1		
		宗教学講究		2		1		
	宗教史	宗教史1	2			1・2		
		宗教史2	2			1・2		
		宗教史3	2			1・2		
		宗教史4	2			1・2		
	「教理学、哲学」	哲学基礎講読1		1		1・2		
		哲学基礎講読2		1		1・2		
		思想史1		2		1・2		
		思想史2		2		1・2		
		思想史3		2		1・2		
		思想史4		2		1・2		
		思想史5		2		1・2		
		思想史6		2		1・2		
		思想史7		2		1・2		
		思想史8		2		1・2		
		哲学概論	2			1		
		哲学講究		2		1		
		倫理学概論		2		1		
		倫理学講究		2		1		
		教理学1	2			2～4		
		教理学2	2			2～4		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

史学科【社会】

社会（中学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	日本史・外国史	日本史研究法入門		2		1		
		東洋史研究法入門		2		1		
		西洋史研究法入門		2		1		
		考古学研究法入門		2		1		
		日本史概説	2			1		
		日本史講究		2		1		
		東洋史概説	2			1		
		東洋史講究		2		1		
		西洋史概説	2			1		
		西洋史講究		2		1		
		日本考古学概説1，2		各2		1		
		外国考古学概説1，2		各2		1		
		日本史特講1～8		各2		2～4		
		東洋史特講1～8		各2		2～4		
		西洋史特講1～8		各2		2～4		
		考古学特講1～8		各2		2～4		
		歴史民俗学1，2		各2		2～4		
	地理学（地誌を含む。）	地理学概論	2			2～4	◆	教職コース科目
		地理学詳論		2		2～4	◆	地理学概論に続けて履修推奨 教職コース科目
		地誌学	2			2～4	◆	教職コース科目
	「法律学、政治学」	法学通論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		政治学概論		2		2～4	◆	教職コース科目
	「社会学、経済学」	経済学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		社会学概論		2		1	◆	社会学科専門科目
		社会学各論		2		1	◆	社会学科専門科目
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学概論		2		1	◆	哲学科専門科目
		倫理学概論		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		哲学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		倫理学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
大学が独自に設定する科目		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

史学科【地理歴史】

地理歴史（高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	日本史	日本史研究法入門		2		1		
		考古学研究法入門		2		1		
		日本史概説	2			1		
		日本史講究		2		1		
		日本考古学概説1，2		各2		1		
		日本史特講1～8		各2		2～4		
		考古学特講1～8		各2		2～4		
		歴史民俗学1，2		各2		2～4		
	外国史	東洋史研究法入門		2		1		
		西洋史研究法入門		2		1		
		東洋史概説	2			1		
		東洋史講究		2		1		
		西洋史概説	2			1		
		西洋史講究		2		1		
		外国考古学概説1，2		各2		1		
		東洋史特講1～8		各2		2～4		
		西洋史特講1～8		各2		2～4		
	人文地理学・自然地理学	人文地理学概論	2			2～4	◆	教職コース科目
		人文地理学詳論		2		2～4	◆	人文地理学概論に続けて履修推奨 教職コース科目
		自然地理学概論	2			2～4	◆	教職コース科目
		自然地理学詳論		2		2～4	◆	自然地理学概論に続けて履修推奨 教職コース科目
	地誌	地誌学	2			2～4	◆	教職コース科目
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

国文学科【国語】

国語（中学校一種，高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学入門1	2			1		
		日本語学入門2	2			1		
		日本語文法論		2		2～4		
		日本語文法史		2		2～4		
		日本語史1		2		2～4		
		日本語史2		2		2～4		
		日本語音声学	2			2～4		
		現代日本語学講義1		2		2～4		
		現代日本語学講義2		2		2～4		
		文献日本語学講義		2		2～4		
		文章表現法	2			2～4	◆	教職コース科目
	国文学（国文学史を含む。）	日本文学入門1	2			1		
		日本文学入門2	2			1		
		上代文学史		2	1科目選択必修	2～4		
		中古文学史		2		2～4		
		中世文学史		2	1科目選択必修	2～4		
		近世文学史		2		2～4		
		近代文学史		2	1科目選択必修	2～4		
		現代文学史		2		2～4		
		上代文学講義		2		2～4		
		中古文学講義		2		2～4		
		中世文学講義		2		2～4		
		近世文学講義		2		2～4		
		近代文学講義		2		2～4		
		現代文学講義		2		2～4		
	漢文学	漢文学1	2			2～4		
		漢文学2	2			2～4		
	書道（書写を中心とする。）	書学		2	*	2～4		
		文字文化研究		2	*	2～4		
		書法1	1		*	1～4	◆	教職コース科目
		書法2	1		*	1～4	◆	教職コース科目
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。
上表の履修方法欄に「*」付きの4科目は，中学一種の必要単位数のみに含まれ，高校一種の必要単位数には含まれません。

国文学科【書道】

書道（高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	書道（書写を含む。）	書道（漢字）	1			2～4	◆	教職コース科目
		書道（かな）	1			2～4	◆	教職コース科目
		書道（創作）	1			2～4	◆	教職コース科目
		書道（篆刻）	1			2～4	◆	教職コース科目
		書法1	1			1～4	◆	教職コース科目
		書法2	1			1～4	◆	教職コース科目
	書道史	書道史	2			2～4	◆	教職コース科目
	「書論、鑑賞」	書論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		書の鑑賞		2		2～4	◆	教職コース科目
	「国文学、漢文学」	日本文学入門1		2	A	1		
		日本文学入門2		2	A又はBを選択必修	1		
		漢文学1		2	B	2		
		漢文学2		2		2		
		上代文学講義		2		2～4		
		中古文学講義		2		2～4		
		中世文学講義		2		2～4		
		近世文学講義		2		2～4		
		近代文学講義		2		2～4		
		現代文学講義		2		2～4		
		上代文学史		2		2～4		
		中古文学史		2		2～4		
		中世文学史		2		2～4		
		近世文学史		2		2～4		
		近代文学史		2		2～4		
		現代文学史		2		2～4		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

中国語中国文化学科【国語】								
国語（中学校一種，高等学校一種）								
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学入門1	2			1	◆	国文学科専門科目
		日本語学入門2	2			1	◆	国文学科専門科目
		日本語音声学	2			2～4	◆	国文学科専門科目
		文章表現法	2			2	◆	教職コース科目
	国文学（国文学史を含む。）	日本文学入門1	2			1	◆	国文学科専門科目
		日本文学入門2	2			1	◆	国文学科専門科目
		上代文学史		2	1科目選択必修	2～4	◆	国文学科専門科目
		中古文学史		2		2～4	◆	国文学科専門科目
		中世文学史		2	1科目選択必修	2～4	◆	国文学科専門科目
		近世文学史		2		2～4	◆	国文学科専門科目
		近代文学史		2	1科目選択必修	2～4	◆	国文学科専門科目
		現代文学史		2		2～4	◆	国文学科専門科目
	漢文学	中国古典文学概説1		2		2～4		
		中国古典文学概説2		2		2～4		
		中国古典文学研究1	2			2～4		
		中国古典文学研究2	2			2～4		
		中国現代文学研究2		2		2～4		
		中国古典文学演習1		1		3・4		
		中国古典文学演習2		1		3・4		
		中国古典文学演習3		1		3・4		
		中国古典文学演習4		1		3・4		
	書道（書写を中心とする。）	書法1	1		*	1～4	◆	教職コース科目
		書法2	1		*	1～4	◆	教職コース科目
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数	中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位							

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。
上表の履修方法欄に「*」付きの2科目は，中学一種の必要単位数のみに含まれ，高校一種の必要単位数には含まれません。

中国語中国文化学科【中国語】								
中国語（中学校一種，高等学校一種）								
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	中国語学	中国語学概説1	2			2～4		
		中国語学概説2	2			2～4		
		中国語リスニング1		1		2～4		
		中国語リスニング2		1		2～4		
		中国語リスニング3		1		3・4		
		中国語リスニング4		1		3・4		
		中国語学演習1		1		3・4		
		中国語学演習2		1		3・4		
		中国語学演習3		1		3・4		
		中国語学演習4		1		3・4		
	中国文学	中国現代文学概説1	2			2～4		
		中国現代文学概説2	2			2～4		
		中国社会論1		2		2～4		
		中国社会論2		2		2～4		
		中国現代文学研究1		2		2～4		
		中国古代思想概説		2		2～4		
		中国現代思想概説		2		2～4		
		中国現代文学演習1		1		3・4		
		中国現代文学演習2		1		3・4		
		中国現代文学演習3		1		3・4		
		中国現代文学演習4		1		3・4		
	中国語コミュニケーション	中国語ライティング1	1			2～4		
		中国語ライティング2	1			2～4		
		中国語スピーキング1	1			2～4		
		中国語スピーキング2	1			2～4		
	異文化理解	中国学入門1	2			1		
		中国学入門2	2			1		
		中国学入門3		2		1		
		中国学入門4		2		1		
		中国文化論1		2		2～4		
		中国文化論2		2		2～4		
		アジアの表象文化1		2		2～4		
		アジアの表象文化2		2		2～4		
		中国社会文化演習1		1		3・4		
		中国社会文化演習2		1		3・4		
		中国社会文化演習3		1		3・4		
		中国社会文化演習4		1		3・4		
		アジアの文化と社会1	2			2～4		
		アジアの文化と社会2		2		2～4		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数	中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位							

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

英文学科【英語】

英語（中学校一種，高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	英語学	英語学概説1	2			1		
		英語学概説2	2			1		
		英文法1	2			2		
		英文法2	2			2		
		英語音声学1	2			2		
		英語音声学2	2			2		
		英語史1		2		2～4		
		英語史2		2		2～4		
	英語文学	英語文学概説1	2			1		
		英語文学概説2	2			1		
		イギリス文学史1		2		2		
		イギリス文学史2		2		2		
		アメリカ文学史1		2		2		
		アメリカ文学史2		2		2		
		文学・文化批評理論1		2		2～4		
		文学・文化批評理論2		2		2～4		
		イギリス文学史3		2		3		
		イギリス文学史4		2		3		
	英語コミュニケーション	Academic English 1	1			1		
		Academic English 2	1			1		
		Advanced Communication 1	1			3・4		
		Advanced Communication 2	1			3・4		
	異文化理解	異文化間コミュニケーション概論1	2			2～4		
		異文化間コミュニケーション概論2	2			2～4		
		イギリス社会論		2		2～4		
		アメリカ社会論		2		2～4		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

ドイツ文学科【ドイツ語】

ドイツ語（中学校一種，高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	ドイツ語学	ドイツ語学入門1	2			1		
		ドイツ語学入門2	2			1		
		ドイツ語学講義1，2		各2		2		
		ドイツ語学講義3	2			2		
		ドイツ語学講義4	2			2		
		ドイツ語学演習1，2		各1		3		
		ドイツ語学専門講義1	2			3・4		
		ドイツ語学専門講義2	2			3・4		
		ドイツ語学専門講義3，4		各2		3・4		
		ドイツ語学演習3～8		各1		3・4		
	ドイツ文学	ドイツ文学入門1	2			1		
		ドイツ文学入門2	2			1		
		ドイツ文学史講義1		2	A	2		
		ドイツ文学史講義2		2	A又はBを選択必修	2		
		ドイツ文学史講義3		2	B	2		
		ドイツ文学史講義4		2		2		
		ドイツ文化講義1～4		各2		2		
		ドイツ文学演習1，2		各1		3		
		ドイツ文化演習1，2		各1		3		
		ドイツ文学専門講義1～4		各2		3・4		
		ドイツ文化専門講義3，4		各2		3・4		
		ドイツ文学演習3～8		各1		3・4		
		ドイツ文化演習3～8		各1		3・4		
	ドイツ語コミュニケーション	ドイツ語基礎演習1～4		各1		2		
		ドイツ語表現演習1，2		各1		2		
		ドイツ語表現演習3，4		各1		3		
		ドイツ語表現演習5，6		各1		4		
		ドイツ語表現演習インテンシヴ1,2		各1		3		
		ドイツ語表現演習インテンシヴ3,4		各1		4		
		ドイツ語コミュニケーション研究1		2	A	2		
		ドイツ語コミュニケーション研究2		2	A又はBを選択必修	2		
		ドイツ語コミュニケーション研究3		2	B	3・4		
		ドイツ語コミュニケーション研究4		2		3・4		
	異文化理解	ドイツ文化専門講義1	2			3・4		
		ドイツ文化専門講義2	2			3・4		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

社会学科【社会】

社会（中学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	日本史・外国史	日本史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		日本史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		東洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		東洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		西洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		西洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
	地理学（地誌を含む。）	地理学概論	2			2～4	◆	教職コース科目
		地理学詳論		2		2～4	◆	地理学概論に続けて履修推奨 教職コース科目
		地誌学	2			2～4	◆	教職コース科目
	「法律学、政治学」	法学通論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		政治学概論		2		2～4	◆	教職コース科目
	「社会学、経済学」	経済学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		社会学概論		2		1		
		社会学各論		2		1		
		マス・メディア論		2		2・3		
		社会情報論		2		2・3		
		社会学史1		2		2		
		社会学史2		2		2		
		社会史		2		2・3		
		東京と東京人の社会学		2		2・3		
		都市と地域の社会学		2		2・3		
		産業社会学		2		2・3		
		家族社会学		2		3・4		
		福祉社会学		2		2・3		
		日常生活文化論		2		2・3		
		差別の社会学		2		2・3		
		現代家族論		2		2・3		
		マス・コミュニケーション論		2		2・3		
		ジャーナリズム論		2		2・3		
		環境社会学		2		3・4		
		流行の社会学		2		2・3		
		社会病理学		2		2・3		
		社会問題論		2		2・3		
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学概論		2		1	◆	哲学科専門科目
		倫理学概論		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		哲学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		倫理学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
大学が独自に設定する科目		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

社会学科【公民】

公民（高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載		配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学通論		2	A	A又はBを選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		国際法		2			1～4	◆	総合教育科目（総合Ⅱ群）
		政治学概論		2	B		2～4	◆	教職コース科目
		国際情勢		2			1～4	◆	総合教育科目（総合Ⅱ群）
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学概論		2	A	A又はBを選択必修	1		
		経済学概論		2			2～4	◆	教職コース科目
		国際経済論		2	B		1	◆	総合教育科目（総合Ⅱ群）
		社会学各論		2			1		
		マス・メディア論		2			2・3		
		社会情報論		2			2・3		
		東京と東京人の社会学		2			2・3		
		都市と地域の社会学		2			2・3		
		産業社会学		2			2・3		
		家族社会学		2			3・4		
		福祉社会学		2			2・3		
		日常生活文化論		2			2・3		
		差別の社会学		2			2・3		
		現代家族論		2			2・3		
		マス・コミュニケーション論		2			2・3		
		ジャーナリズム論		2			2・3		
		環境社会学		2			3・4		
		流行の社会学		2			2・3		
		社会病理学		2			2・3		
		社会問題論		2			2・3		
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論		2	1科目選択必修		2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学概論		2			1	◆	哲学科専門科目
		倫理学概論		2			2～4	◆	哲学科専門科目
		哲学講究		2			2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学講究		2			2～4	◆	哲学科専門科目
		倫理学講究		2			2～4	◆	哲学科専門科目
		社会心理学		2			3・4		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2			2	◆	
		社会教育論		2			2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2			2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2			3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2			3	◆	教職コース科目
必要単位数		高等学校一種　36単位							

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

教育学科【社会】

社会（中学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	日本史・外国史	日本史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		日本史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		東洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		東洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		西洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		西洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		外国教育史		2		1		
		日本教育史		2		2		
		教育の文化史		2		2		
	地理学（地誌を含む。）	地理学概論	2			2～4	◆	教職コース科目
		地理学詳論		2		2～4	◆	地理学概論に続けて履修推奨 教職コース科目
		地誌学	2			2～4	◆	教職コース科目
	「法律学、政治学」	法学通論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		政治学概論		2		2～4	◆	教職コース科目
		教育行政論		2		2～4		
	「社会学、経済学」	経済学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		社会学概論		2		1	◆	社会学科専門科目
		社会学各論		2		1	◆	社会学科専門科目
		教育経営論		2		2～4		
		中等教育論		2		2～4		
		高等教育論		2		2～4		
		生涯学習論		2		2～4		
		青少年教育論		2		2～4		
		地域教育論		2		2～4		
		比較教育論		2		2～4		
		アジアの教育		2		2～4		
		ヨーロッパの教育思想		2		2～4		
		ヨーロッパの教育制度		2		2～4		
		アメリカの教育		2		2～4		
		教育と産業社会		2		2～4		
		教育と開発		2		2～4		
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学概論		2		1	◆	哲学科専門科目
		倫理学概論		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		哲学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		倫理学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		国際理解教育論		2		2～4		
		環境教育論		2		2～4		
		ジェンダーと教育		2		2～4		
大学が独自に設定する科目		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		障害児教育論		2		2	◆	
		教育法規論		2		2	◆	
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
		社会教育論		2		2	◆	
必要単位数		中学校一種　28単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教育学科【公民】

公民（高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学通論		2	A A又はB選択必修	2～4	◆	教職コース科目
		国際法		2		1～4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
		政治学概論		2	B	2～4	◆	教職コース科目
		国際情勢		2		1～4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
		教育行政論		2		2～4		
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学概論		2	A A又はB選択必修	1	◆	社会学科専門科目
		経済学概論		2	B	2～4	◆	教職コース科目
		国際経済論		2		1～4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
		社会学各論		2		1	◆	社会学科専門科目
		教育経営論		2		2～4		
		中等教育論		2		2～4		
		高等教育論		2		2～4		
		生涯学習論		2		2～4		
		青少年教育論		2		2～4		
		地域教育論		2		2～4		
		比較教育論		2		2～4		
		アジアの教育		2		2～4		
		ヨーロッパの教育思想		2		2～4		
		ヨーロッパの教育制度		2		2～4		
		アメリカの教育		2		2～4		
		教育と産業社会		2		2～4		
		教育と開発		2		2～4		
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学概論		2		1	◆	哲学科専門科目
		倫理学概論		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		哲学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		宗教学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		倫理学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目
		国際理解教育論		2		2～4		
		環境教育論		2		2～4		
		ジェンダーと教育		2		2～4		
		発達と認知		2		2～4		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		障害児教育論		2		2	◆	
		教育法規論		2		2	◆	
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
		社会教育論		2		2	◆	
必要単位数		高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

体育学科【保健体育】								
保健体育（中学校一種，高等学校一種）								
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	体育実技	スポーツ実習（水泳）	1			1		
		スポーツ実習（器械運動）	1			1		
		スポーツ実習（陸上競技）	1			1		
		スポーツ実習（バスケットボール）		1	1科目選択必修	2		
		スポーツ実習（バレーボール）		1		2		
		スポーツ実習（サッカー）		1		2		
		スポーツ実習（テニス）		1		2		
		スポーツ実習（剣道）		1	1科目選択必修	2		
		スポーツ実習（柔道）		1		2		
		スポーツ実習（ダンス）	1			2		
	「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）	体育学概論		2	2科目選択必修	1		
		スポーツ社会学		2		2		
		スポーツ心理学		2		2		
		スポーツメンタルマネジメント		2		2		
		体育・スポーツ制度及び行政		2		3		
		体育経営管理		2		3		
		スポーツ方法論（水泳）		2	2科目選択必修	2		
		スポーツ方法論（体操競技・器械運動）		2		3		
		スポーツ方法論（陸上競技）		2		3		
		スポーツ方法論（バスケットボール）		2		3		
		スポーツ方法論（バレーボール）		2		3		
		スポーツ方法論（サッカー）		2		3		
		スポーツ方法論（テニス）		2		3		
		スポーツ方法論（剣道）		2		3		
		スポーツ方法論（柔道）		2		3		
		スポーツ方法論（ダンス）		2		3		
		スポーツ指導法（水泳）		2		3		
		スポーツ指導法（ダンス）		2		3		
		スポーツ指導法（柔道）		2		3		
		スポーツ指導法（サッカー）		2		3		
		スポーツプロモーション論		2		2		
		体力測定法		2		2		
		測定評価		2		2		
		体育・スポーツ史		2		2		
		トレーニング理論		2		1		
		コーチング論（原論）		2		1		
		スポーツ社会学演習		2		3		
		スポーツ心理学演習		2		3		
		測定評価演習		2		3		
		スポーツバイオメカニクス演習		2		3		
		スポーツ運動学演習		2		3		
		スポーツ栄養学		2		2		
		スポーツ栄養学演習		2		3		
		発育発達論		2		1		
		トレーニング演習		2		2		
		スポーツ運動学	2			1		
		スポーツバイオメカニクス		2		1		
		保健体育科授業実践演習（教材研究）		2		3		
		保健体育科授業実践演習（模擬授業）		2		3		
		スポーツ教育学演習		2		3		
		スポーツ教育学		2		2		
	生理学（運動生理学を含む。）	解剖学		2		1		
		生理学		2		1		
		スポーツ医学（内科）		2		3		
		スポーツ医学（外科）		2		3		
		スポーツ医学演習		2		3		
		スポーツリハビリテーション		2		2		
		運動生理学（基礎）	2			2		
		運動生理学（応用）	2			2		
		運動生理学演習		2		3		
	衛生学・公衆衛生学	衛生学及び公衆衛生学	2			1		
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校保健教育論	2			2		
		学校保健管理論		2		2		
		救急処置	2			2		
		安全教育	2			3		
		学校保健演習		2		3		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

地理学科【社会】									地理学科【地理歴史】								
社会（中学校一種）									地理歴史（高等学校一種）								
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	日本史・外国史	日本史概説	2			1	◆	史学科専門科目	教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	日本史	日本史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		日本史講究		2		1	◆	史学科専門科目			日本史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		東洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目									
		東洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目		外国史	東洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
		西洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目			東洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		西洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目			西洋史概説	2			1	◆	史学科専門科目
	地理学（地誌を含む。）	自然地理学の基礎	2			1					西洋史講究		2		1	◆	史学科専門科目
		人文地理学の基礎	2			1											
		地図学		2		1				人文地理学・自然地理学	自然地理学の基礎	2			1		
		測量学		2		3					人文地理学の基礎	2			1		
		測量学実習		1		3					地図学		2		1		
		農業地理学		2		2					測量学		2		3		
		社会地理学		2		2					測量学実習		1		3		
		文化地理学		2		2					農業地理学		2		2		
		都市空間論		2		3					社会地理学		2		2		
		マーケティング論		2		3					文化地理学		2		2		
		都市地理学		2		2					都市空間論		2		3		
		商業地理学		2		2					マーケティング論		2		3		
		歴史地理学		2		2					都市地理学		2		2		
		経済地理学		2		2					商業地理学		2		2		
		観光地理学		2		2					歴史地理学		2		2		
		工業地理学		2		2					経済地理学		2		2		
		地理情報システム(含実習)		2		2					観光地理学		2		2		
		地理統計の基礎		2		1					工業地理学		2		2		
		農山村再生論		2		3					地理情報システム(含実習)		2		2		
		地域景観論		2		3					地理統計の基礎		2		1		
		ＧＩＳ分析法（含実習）		2		2					農山村再生論		2		3		
		人文地理学特別講義1		2		3					地域景観論		2		3		
		人文地理学特別講義2		2		3					ＧＩＳ分析法（含実習）		2		2		
		日本地誌	2			1					人文地理学特別講義1		2		3		
		アジア地誌		2		2～4					人文地理学特別講義2		2		3		
		ヨーロッパ地誌		2		2～4					野外調査法（含実習）		2		2		
		アメリカ地誌		2		2～4					地域政策論		2		3		
		オセアニア地誌		2		2～4					ツーリズム論		2		3		
		アフリカ地誌		2		2～4					地理情報科学		2		3		
		野外調査法（含実習）		2		2					地域分析法（含実習）		2		2		
		地域政策論		2		3					自然災害論		2		3		
		ツーリズム論		2		3					人間環境論		2		3		
		地理情報科学		2		3					現代人口論		2		3		
		地域分析法（含実習）		2		2					エスニック論		2		3		
		自然災害論		2		3											
		人間環境論		2		3				地誌	日本地誌	2			1		
		現代人口論		2		3					アジア地誌		2		2～4		
		エスニック論		2		3					ヨーロッパ地誌		2		2～4		
	「法律学、政治学」	法学通論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目			アメリカ地誌		2		2～4		
		政治学概論		2		2～4	◆	教職コース科目			オセアニア地誌		2		2～4		
											アフリカ地誌		2		2～4		
	「社会学、経済学」	経済学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	教職コース科目									
		社会学概論		2		1	◆	社会学科専門科目		大学が独自に設定する科目	道徳教育の理論と方法		2		2	◆	
		社会学各論		2		1	◆	社会学科専門科目			社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論		2	1科目選択必修	2～4	◆	哲学科専門科目			教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		宗教学概論		2		1	◆	哲学科専門科目			教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		倫理学概論		2		2～4	◆	哲学科専門科目			教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
		哲学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目									
		宗教学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目									
		倫理学講究		2		2～4	◆	哲学科専門科目									
大学が独自に設定する科目		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目									
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目									
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目									
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目									
必要単位数		中学校一種　28単位							必要単位数		高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

地理学科【理科】

理科（中学校一種，高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	物理学	物理学概論1	2			1〜4	◆	教職コース科目
		物理学概論2	2			1〜4	◆	教職コース科目
	化学	化学概論1	2			1〜4	◆	教職コース科目
		化学概論2	2			1〜4	◆	教職コース科目
	生物学	生物学概論1	2			1〜4	◆	教職コース科目
		生物学概論2	2			1〜4	◆	教職コース科目
	地学	地形学	2			2		
		地形営力論		2		3		
		生態史論		2		3		
		気候学	2			2		
		生物地理学		2		2		
		リモートセンシング（含実習）		2		2		
		自然地理学特別講義1		2		3		
		自然地理学特別講義2		2		3		
		気候変動論		2		3		
		応用空間分析法（含実習）		2		3		
		環境地質学		2		2		
		自然資源論		2		3		
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	理科実験（物理）	1			3	◆	教職コース科目
		理科実験（化学）	1			3	◆	教職コース科目
		理科実験（生物）	1			2	◆	教職コース科目
		環境地理学実験		1	1科目選択必修	2		
		地形学実験		1		2		
		気候学実験		1		2		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

地球科学科【理科】

理科（中学校一種，高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	各科目に含めることが必要な事項	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	物理学	物理学概論1	2			1〜4	◆	教職コース科目
		物理学概論2	2			1〜4	◆	教職コース科目
	化学	化学概論1	2			1〜4	◆	教職コース科目
		化学概論2	2			1〜4	◆	教職コース科目
	生物学	生物学概論1	2			1〜4	◆	教職コース科目
		生物学概論2	2			1〜4	◆	教職コース科目
	地学	地球科学概論1	2			1		
		地球科学概論2	2			1		
		地球科学概論3	2			1		
		岩石・鉱物学		2		2		
		火山学		2		2		
		地球物理学1		2		2		
		地球物理学2		2		2		
		同位体地球科学		2		3		
		気圏科学		2		2		
		地圏科学		2		2		
		水圏科学		2		2		
		古生物・古生態学		2		2		
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	理科実験（物理）	1			3	◆	教職コース科目
		理科実験（化学）	1			3	◆	教職コース科目
		理科実験（生物）	1			2	◆	教職コース科目
		理科実験（地学）	1			3	◆	教職コース科目
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

数学科【数学】									
数学（中学校一種，高等学校一種）									
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	代数学	線形代数1（含演習）	3			1		
		線形代数2（含演習）	3			1		
		初等整数論		2		2		
		群論入門		2		3		
		環論		2		3		
		ガロア理論		2		3		
		ホモロジー論		2		3		
	幾何学	線形空間論（含演習）		3	1科目選択必修	2		
		集合と写像（含演習）		3		2		
		距離と位相		2		2		
		曲線と曲面		2		3		
		幾何構造		2		3		
		多様体論		2		3		
	解析学	微分積分学1（含演習）	3			1		
		微分積分学2（含演習）	3			1		
		微分積分学続論（含演習）		3		2		
		多変数微分積分学		2		2		
		無限次元線形空間論		2		3		
		複素解析学		2		3		
		常微分方程式入門		2		3		
		力学系入門		2		3		
		関数空間論		2		3		
	「確率論、統計学」	数理統計（含演習）		3	1科目選択必修	2		
		確率論		2		3		
	コンピュータ	コンピュータ基礎	2			1		
		プログラミング入門		2		2		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

情報科学科【数学】

数学（中学校一種，高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法※選択科目(網掛け)のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	代数学	基礎線形代数1	2			1		
		基礎線形代数2	2			1		
		代数学		2		2		
		数理計画		2		3		
		線形代数1	2			2		
		線形代数2	2			2		
		暗号理論		2		3		
	幾何学	幾何学	2			3		
	解析学	基礎微分積分1	2			1		
		基礎微分積分2	2			1		
		解析学1	2			2		
		解析学2	2			2		
	「確率論、統計学」	確率論	2			2		
		情報理論1		2		3		
		情報理論2		2		3		
	コンピュータ	実践プログラミング1	2			2		
		実践プログラミング2		2		2		
		オートマトンと形式言語		2		3		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

情報科学科【情報】

情報（高等学校一種）

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法※選択科目(網掛け)のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報とコミュニケーション		2	1科目選択必修	1～4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
		情報と社会		2		1～4	◆	総合教育科目(総合Ⅱ群)
		情報と職業	2			2・3	◆	教職コース科目
	コンピュータ・情報処理	基礎プログラミング1	2			1		
		基礎プログラミング2	2			1		
		情報処理入門1		2		1		
		離散数学		2		2		
		データ科学1		2		2		
		データ科学2		2		3		
		コンピューティング1		2		2		
		コンピューティング2		2		3		
		アルゴリズム		2		3		
		ヒューマンインタフェース		2		3		
		論理と計算		2		3		
	情報システム	データ構造		2	1科目選択必修	3		
		オブジェクト指向プログラミング		2		3		
		発展プログラミング		2		3		
		データベース		2		3～4		
		Windowsサーバー管理の基礎（含演習）		3		2～4	◆	コンピュータ科目
		サーバーの仮想化環境の構築（含演習）		3		2～4	◆	コンピュータ科目
	情報通信ネットワーク	Webプログラミング		2	1科目選択必修	2		
		情報処理入門2		2		1		
		ネットワーク設計基礎（含演習）		3		2～4	◆	コンピュータ科目
	マルチメディア表現・マルチメディア技術	マルチメディア情報処理		2	1科目選択必修	3		
		マルチメディア表現		2		2		
		情報可視化		2		3		
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

物理学科【理科】									生命科学科【理科】								
理科（中学校一種，高等学校一種）									理科（中学校一種，高等学校一種）								
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載	配当年次	◆印	備考
	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択						各科目に含めることが必要な事項		必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	物理学	物理学概論1	2			1			教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	物理学	基礎物理1	2			1		
		物理学概論2	2			1					基礎物理2	2			1		
		力学入門		2		1					生物物理学		2		3		
		力学1		2		1											
		電磁気学入門		2		1				化学	基礎化学1	2			1		
		力学2		2		2					基礎化学2	2			1		
		量子力学入門		2		2											
		物理数学1		2		2				生物学	生命科学概論1	2			1		
		電磁気学1		2		2					生命科学概論2	2			1		
		電磁気学1演習		1		2					細胞生物学1		2		2		
		物理学演習1		2		2					細胞生物学2		2		2		
		物理学演習2		2		2					生化学1		2		2		
		熱力学		2		2					生化学2		2		2		
		物理数学2		2		2					生体情報学1		2		3		
		振動と波動		2		2					生体情報学2		2		3		
		物性物理学入門		2		2					光生物学		2		3		
		統計力学1		2		3					植物分子科学		2		3		
		統計力学1演習		1		3					生体計測学		2		2		
		統計力学2		2		3					生体エネルギー科学		2		2		
		統計力学2演習		1		3					生物統計学基礎		2		1		
		量子力学1		2		3					生物統計学実践		2		2		
		量子力学1演習		1		3					分子生物学1		2		2		
		電磁気学2		2		2					分子生物学2		2		2		
		電磁気学2演習		1		2					遺伝学1		2		2		
		電磁気学3		2		3					遺伝学2		2		2		
		量子力学2		2		3					生態学1		2		2		
		量子力学2演習		1		3					生態学2		2		2		
		量子力学3		2		4					微生物学		2		2		
		計算物理学		2		3					発生生物学1		2		3		
		解析力学		2		3					発生生物学2		2		3		
		相対性理論		2		3					生命医科学1		2		3		
		物性物理学1		2		3					生命医科学2		2		3		
		物性物理学2		2		3					構造生物学		2		3		
		宇宙物理学		2		4					脳神経科学		2		3		
		原子核と素粒子		2		4					進化系統学		2		2		
		生物物理学		2		3					細胞内ダイナミクス		2		3		
	化学	化学概論1	2			1				地学	地学概論1	2			1～4	◆	教職コース科目
		化学概論2	2			1					地学概論2	2			1～4	◆	教職コース科目
	生物学	生物学概論1	2			1				物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	理科実験（物理）	1			3	◆	教職コース科目
		生物学概論2	2			1					理科実験（化学）	1			3	◆	教職コース科目
											理科実験（生物）		1	1科目選択必修	2	◆	教職コース科目
	地学	地学概論1	2			1～4					基礎科学実験1		1		1		
		地学概論2	2			1～4					理科実験（地学）	1			3	◆	教職コース科目
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理実験A	1			2											
		物理実験B	1			2											
		発展物理実験A	1			3											
		発展物理実験B	1			3											
		理科実験（化学）	1			3	◆	教職コース科目									
		理科実験（生物）	1			2	◆	教職コース科目									
		理科実験（地学）	1			3	◆	教職コース科目									
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ	大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2		2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目			社会教育論		2		2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目			教育と福祉		2		2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2		3	◆	教職コース科目			教育法規論		2		3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目			教職特別講義		2		3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位							必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位						

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。

教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）／大学が独自に設定する科目

化学科【理科】									
理科（中学校一種，高等学校一種）									
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数		履修方法 ※選択科目（網掛け）のうち選択必修科目の履修方法について記載		配当年次	◆印	備考
	各科目に含めることが必要な事項		必修	選択					
教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に関する科目）	物理学	物理学概論1	2				1～4	◆	教職コース科目
		物理学概論2	2				1～4	◆	教職コース科目
	化学	化学概論1		2	A	A又はBを選択必修*	1～4	◆	教職コース科目
		化学概論2		2			1～4	◆	教職コース科目
		基礎化学		2	B		1		化学科専門科目
		無機化学1（原子・分子の構造と性質）		2			1		
		無機化学2（金属・イオン固体と酸化還元）		2			1		
		有機化学1（有機分子の基礎と構造）		2			1		
		有機化学2（有機分子の反応性）		2			1		
		分析化学1（データ処理・化学平衡の基礎）		2			1		
		分析化学2（分離・検出の基礎）		2			2		
		物理化学1（量子論入門）		2			1		
		物理化学3（熱力学）		2			2		
		無機化学3(酸塩基と錯体化学)		2			2		
		発展無機化学		2			2		
		有機化学3（有機分子の官能基と変換）		2			2		
		有機反応化学		2			2		
		化学数学		2			2		
		物理化学2（反応速度論）		2			2		
		生物化学1（基礎）		2			2		
		生物化学2(生体分子の構造と機能)		2			2		
		化学の情報技術		2			2		
		分析化学3(バイオ分析・機器分析の基礎)		2			2		
		機器分析化学		2			2		
	生物学	生物学概論1	2				1～4	◆	教職コース科目
		生物学概論2	2				1～4	◆	教職コース科目
	地学	地学概論1	2				1～4	◆	教職コース科目
		地学概論2	2				1～4	◆	教職コース科目
	物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	理科実験（物理）	1				3	◆	教職コース科目
		理科実験（化学）		1	A	A又はBを選択必修*	3	◆	教職コース科目
		基礎化学実験		1	B		1		化学科専門科目
		化学実験		1			1		
		無機･分析化学実験（含演習）		2			2		
		有機化学実験（含演習）		2			2		
		機器･物理化学実験（含演習）		4			3		
		生物化学実験（含演習）		2			3		
		理科実験（生物）	1				2	◆	教職コース科目
		理科実験（地学）	1				3	◆	教職コース科目
大学が独自に設定する科目		道徳教育の理論と方法		2			2	◆	高校一種のみ
		社会教育論		2			2	◆	教育学科専門科目
		教育と福祉		2			2	◆	教職コース科目
		教育法規論		2			3	◆	教職コース科目
		教職特別講義		2			3	◆	教職コース科目
必要単位数		中学校一種　28単位，高等学校一種　36単位							

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の◆印科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です。
上表の選択必修科目の履修方法（*印）について，他学科聴講の学生はA（教職コース科目）を履修すること。

②　特別支援学校教諭免許状（教育学科）

特別支援学校教諭免許状は，「①　中学校・高等学校教諭免許状（全学科共通）」を取得することを前提として，加えて教育学科で開講する学科専門科目（特別支援教育に関する科目）を履修することで取得できる免許状です。ここでは，特別支援学校教諭免許状の取得のための履修方法等について掲載します。

■特別支援学校の教員になるためには…

教職コース（特別支援学校教諭）は，特別支援学校の教育職員免許状取得のために必要な単位を修得するためのコースです。

大学卒業後に特別支援学校の教員になるには，卒業時に中学校教諭免許状又は高等学校教諭免許状（基礎免許状という）に加えて特別支援学校教諭の免許状を取得の上，各都道府県教育委員会等において実施される教員採用試験に合格することが必要です。したがって，基礎免許状である中学校教諭免許状，高等学校教諭免許状の取得に向けた履修と並行して特別支援学校教諭免許状取得に向けた履修を行う必要があります。

■本学部（教育学科）で取得できる特別支援学校教諭免許の種類・特別支援教育領域

本学部（教育学科）で取得できる免許の種類・特別支援学校教育領域は以下のとおりです。

免許の種類・特別支援教育領域

学科	免許の種類	特別支援教育領域
教育学科	特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者　肢体不自由者　病弱者

※教育学科以外の学科の学生は教育学科を他学科聴講することで，特別支援学校教諭の免許状を取得することができる可能性があります。詳細は「教職コースガイダンス」時に説明しますので，御確認ください。

■特別支援学校教諭免許状に係る履修科目

特別支援学校教諭免許状の取得に必要な「特別支援教育に関する科目」の履修方法等は 163 頁のとおりです。

■特別支援学校教諭免許状の課程の履修制限選考試験について

特別支援学校教諭免許状の課程の科目のうち次の科目については履修制限を行います。選考試験の上，履修を許可された者のみ次の全科目の履修が可能となります。

履修許可の必要な科目一覧（選考に合格した学生のみ履修ができる科目）		
特別支援教育演習	教育実習（特別支援学校）事前・事後指導	教育実習（特別支援学校）

履修を希望する学生は，原則として 2 年次前学期終了時に履修志望書を提出し，選考を受けてください。詳細は，教職センターで確認してください。なお，選考を受けるには以下の 2 つの条件を満たす必要があります。

① 2 年次前学期終了の段階で卒業に係る成績の修得単位数が 62 単位以上であり，かつ累積 GPA が 1.5 以上であること。

② 2 年次前学期終了の段階で，「特別支援教育総論」又は「特別ニーズ教育の原理と歴史」を含め，「特別支援教育に関する科目」を 6 単位以上修得していること。また，基礎免許状の取得に必要な「教育の基礎的理解に関する科目等」の 1 年次配当科目の 4 単位を修得していること。

※**履修許可の必要な科目には履修者数の上限があります。**詳細は「教職コースガイダンス」時に説明しますので，御確認ください。

■教育実習（特別支援学校）事前・事後指導

教育実習（特別支援学校）の事前・事後指導を行うために設置された 1 単位の必修科目です。基礎免許状である中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の教育実習のための教育実習事前・事後指導とは別に開講される科目です。

教育実習（特別支援学校）を行う学生を対象に，3・4 年次にまたがり特別支援学校での教育実習に関する基本的・実践

的指導を行い，教師への自覚と実践的能力を高めることを目標としています。授業は全 15 回開講し，原則全て出席して評価の対象となります。

詳細は，3 年次に実施する「教職コースガイダンス」で説明します。

■教育実習（特別支援学校）

特別支援学校教諭一種免許状を取得するために不可欠な科目で，2 単位を修得しなければなりません。特別支援学校において教育実習を実施し，教員として必要な知識や技能を，実習先の学校長及び教職員の指導を受けながら授業実習その他教育活動を通して身に付けることを目的としています。教育実習先は東京都立特別支援学校で実施する場合には，大学側で一括で申請します。帰省先等で実習を希望する場合は，履修希望学生と課程担当教員とで面談の上，履修希望学生が自身で実習希望校に申請します。なお，基礎免許状である中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状での教育実習と同様に最終年次で実施します。原則として基礎免許状に係る教育実習後に行いますので，スケジュール管理等に留意してください。

詳細は，3 年次に実施する「教職コースガイダンス」で説明します。

◎特別支援学校教諭一種免許状取得には 2 週間（実日数 10 日間以上*）の教育実習が必要になります。

＊ 1 日の勤務を 8 時間以上とする場合。

◎教育実習（特別支援学校）を履修するためには教育実習費（謝礼金含む）を別途納める必要があります。

> 「教育実習（特別支援学校）事前・事後指導」と「教育実習（特別支援学校)」について
>
> 「教育実習（特別支援学校）事前・事後指導」は「教育実習（特別支援学校)」の事前・事後の指導のために設けられた科目で，「教育実習（特別支援学校)」とセットになります。どちらか一方の単位が修得できなかったときは，両方の単位が修得できなくなりますので注意してください。

■教育実習（特別支援学校）の履修許可条件について

以下の条件が充足できていない場合は，教育実習（特別支援学校）を行えなくなるので注意してください。

① 4 年最終学年進級時に「卒業見込」であること。

② 4 年最終学年進級時に「基礎免許状」に係る教育実習を実施するための条件を満たしていること。

③ 4 年最終学年進級時に「特別支援教育に関する科目」について合計 26 単位以上修得済みであること。

④ 4 年最終学年進級時に「教育実習（特別支援学校）事前・事後指導」の 3 年次後期実施分を履修し，合格していること。

■履修カルテについて

基礎免許状である中学校教諭免許状，高等学校教諭免許状の教職コースの履修について各学年・学期で振り返り，4 年次に設置されている必修科目「教職実践演習（中・高)」を受講するために必要なものですが，特別支援学校教諭免許状の履修者は，基礎免許状に係る科目の履修・単位取得状況に加えて，特別支援学校教諭免許状に係る科目の履修・単位取得状況についても記入してください。

■その他

⑴ 教職に関するガイダンス，事務手続き等の指示については，情報掲示板 COMITS2 で周知するので，定期的に確認を行ってください。

⑵ 特別支援学校教諭免許状は，法令上，基礎免許状（本学部の場合中学校教諭免許状又は高等学校教諭免許状）を持っていることが必要な免許状であるため，基礎免許状が取得できない場合，特別支援学校教諭免許状を申請することはできません。

⑶ 特別支援学校教諭免許状取得を目指す場合，小学校教員養成プログラムを並行して履修することは，原則できません。

■教育職員免許状（特別支援学校）取得までの流れ

特別支援学校教諭免許状を取得するまでには，「① 中学校・高等学校教諭免許状（全学科共通)」の項の基礎免許状（中学校教諭免許状，高等学校教諭免許状）を取得するために必要な手続きや行事等の他に次の表のとおり独自の手続きや行事

等があります。

学年	時期	手続き・行事等
2年	後学期	履修制限選考試験
3年	（4月～6月）	出身学校等における教育実習届（特別支援学校における内諾書）の提出（教育実習内諾活動）
	後学期	第1回～第13回教育実習（特別支援学校）事前・事後指導の事前指導の受講
4年	（4月上旬）	教育実習（特別支援学校）実施に伴う必要書類等の提出
	（4月上旬）	教育実習（特別支援学校）実施に伴う実習費の納入
	（5月～11月頃）	教育実習（特別支援学校）の実施（基礎免許状に係る実習実施以降）
	（11月～12月頃）	第14回・第15回教育実習（特別支援学校）事前・事後指導の事後指導の受講

特別支援教育に関する科目

教育学科【特支】								
特別支援学校教諭一種免許状（知的障害者，肢体不自由者，病弱者）								
免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数		履修制限の有無	配当年次	備考
				必修	選択			
特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目		特別支援教育総論	2			1	教育学科専門科目
			特別ニーズ教育の原理と歴史	2			1	教育学科専門科目
	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理	2			2	教育学科専門科目
			肢体不自由者の心理・生理・病理	2			2	教育学科専門科目
			病弱者の心理・生理・病理	2			2	教育学科専門科目
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害教育論	2			2	教育学科専門科目
			肢体不自由教育論	2			2	教育学科専門科目
			病弱教育論	2			2	教育学科専門科目
			国際特別ニーズ教育論	2			2	教育学科専門科目
			特別支援教育課程論	2			2	教育学科専門科目
		・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	特別支援教育演習	1		制限有	3	教育学科専門科目
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	発達障害者の心理・生理・病理	2			2	教育学科専門科目
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害教育論	2			1	教育学科専門科目
		・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	視覚障害教育総論	1			2	教育学科専門科目
			聴覚障害教育総論	1			2	教育学科専門科目
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		教育実習（特別支援学校）事前・事後指導	1		制限有	3～4	教育学科専門科目
			教育実習（特別支援学校）	2		制限有	4	教育学科専門科目
必要単位数			30単位					

上表の必修，選択必修及び選択科目の別は，免許を取得するためのものです。
上表の網掛け科目は必修又は選択必修科目を表します。
上表の履修制限の有る科目については，履修制限選考試験に合格したもののみ受講可能です。
上表の科目は教育学科専門科目です（コース科目ではありません）。

司書教諭コース（全学科共通）

司書教諭資格を取得するためのコースです。司書教諭とは，小中学校・高等学校などの学校図書館の専門的職務を担う教員で，学校図書館法で定められた国家資格となります。学校図書館を管理・運営するだけでなく，教員として児童・生徒に読書指導を行います。近年では調べ学習を推進する役割も期待されています。

司書教諭資格を得るには教員免許資格を取得していることが必要となります。したがって，司書教諭コース登録者は教職コースを並行して受講してください。教員免許の種類・教科は問いません。

司書教諭資格は，下表にある 5 科目 10 単位を全て修得し，申請の上，文部科学省から交付される「司書教諭講習修了証書」によって証明されます（別途大学への申請が必要です）。

在学中であっても申請することができますが，大学での修得単位が 62 単位以上の者に限られます。この場合，修了証書の効力は，教育職員免許状を取得した時点から生じることになります。

なお，卒業時に修了証書を受け取る場合は，4 年次の 5 月頃に申請を行う必要があります。その場合，3 年次後学期までに下表の 5 科目 10 単位全ての修得と，大学での修得単位が 62 単位以上である必要があります。4 年次に下表の科目を修得し終えた場合修了証書は，申請を卒業後の 5 月頃に行い，翌年の 3 月頃に交付となります（申請時期は変更となる場合があります）。

申請手続き等については，情報掲示板 COMITS2 及び学部ホームページを確認してください。

（〇の中の数字は単位数）

配当年次 / 科目区分	1　年	2　年	3　年	4　年	資格取得に必要な単位数
必修		学校経営と学校図書館② 学校図書館メディアの構成② 学習指導と学校図書館② 読書と豊かな人間性② 情報メディアの活用②			10単位

※上表の科目は学科専門科目一覧表にあるコース科目です（◆印科目）。

司書コース（全学科共通）

司書資格を取得するためのコースです。司書とは，都道府県や市区町村などが設置する公共図書館における専門職員です。図書館法で定められた国家資格となります。所蔵する資料の選択及び管理，目録システムの管理，レファレンス相談，情報検索や文献収集の代行，児童サービスなどを行います。厳密には資格の適用対象ではありませんが，大学図書館など公共図書館以外の館種でも採用時に司書資格が求められることがあります。

司書資格は，下表にある必修科目 13 科目 22 単位，選択必修科目 2 科目 4 単位を修得することで発行されます。国家試験などはありません。

（〇の中の数字は単位数）

<table>
<tr><th colspan="2">科目区分＼配当年次</th><th>1　年</th><th>2　年</th><th>3　年</th><th>4　年</th><th>資格取得に必要な単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">必修</td><td>教育学科専門科目と共通</td><td></td><td colspan="3">生涯学習論②</td><td rowspan="4">22単位</td></tr>
<tr><td>司書教諭コースと共通</td><td></td><td colspan="3">読書と豊かな人間性②</td></tr>
<tr><td>司書コース科目</td><td></td><td colspan="3">図書館情報学概論②
図書館制度・経営論②
図書館情報技術論②
図書館サービス概論②
図書館情報資源概論②
情報サービス論②
情報資源組織論②
情報サービス演習1①
情報サービス演習2①
情報資源組織演習1①
情報資源組織演習2①</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>司書コース科目</td><td></td><td colspan="3">図書館基礎特論②
図書館サービス特論②
図書館情報資源特論②</td><td>4単位</td></tr>
</table>

※上記カリキュラムは，令和2年度以降の入学者に適用される。
※上表の科目は，学科専門科目一覧表にあるコース科目です。（◆科目）

●履修計画上の注意

科　目　等	単位数	設置年次	条　件　等
情報資源組織演習1 情報資源組織演習2	各1単位	3・4年次	「情報資源組織演習1」・「情報資源組織演習2」を履修する者は，「情報資源組織論」を修得した者でなければならない。
情報サービス演習1 情報サービス演習2	各1単位	3・4年次	「情報サービス演習1」・「情報サービス演習2」を履修する者は，「情報サービス論」を修得した者でなければならない。

学芸員コース（全学科共通）

専門的職員として博物館などの事業に携わるためには，学芸員の資格が必要です。

学芸員とは，博物館資料の収集，保管，展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる専門的職員です（博物館法第４条４項参照）。

学芸員コース科目を修得するには，1・2 年生で「博物館概論」及び「博物館経営論」を修得し，2 年次に行われる「学芸員コース選考試験」を受験し合格する必要があります。

なお，学芸員コースの科目には，実習や見学があるため受講者数を学業成績などによって制限しているものがあるので，受講を希望する学生は，留意してください。

■履修方法

配当年次	履修科目	条件等	備考
1・2年次	博物館概論 博物館経営論	両科目を修得した者の中から，選考の上，「博物館実習1（学内）」「博物館実習2（学内）」「博物館実習3（見学）」の受講許可者を決定します。	
3年次	博物館実習1（学内） 博物館実習2（学内） 博物館実習3（見学）	原則として，1・2年次設置の「博物館概論」「博物館経営論」を修得し，選考により受講を許可された3年生。	再履修は認めません。
4年次	博物館実習4（館務）	3年次設置の「博物館実習1～3」を修得した4年生	再履修は認めません。

■博物館実習申込方法及び実習費

「博物館実習 1」，「博物館実習 2」，「博物館実習 3」，「博物館実習 4」の履修には，以下の実習費がかかります。

履修科目	実習費	備考
博物館実習1（学内）	10,000円	
博物館実習2（学内）	10,000円	
博物館実習3（見学）	実費	20,000円～25,000円程度
博物館実習4（館務）	10,000円	

注）詳細は，COMITS2及び学芸員課程研究室で周知します。

（〇の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次		1　年	2　年	3　年	4　年	資格取得に必要な単位数	
必修	学芸員コース科目	博物館概論②	博物館経営論②	博物館資料論② 博物館資料保存論1② 博物館資料保存論2② 博物館情報・メディア論② 博物館実習1（学内）①[注2] 博物館実習2（学内）①[注2] 博物館実習3（見学）①[注2]	博物館実習4（館務）①[注2]	22単位	38単位
			博物館展示論② 博物館教育論②				
	教育学科専門科目と共通		生涯学習論②				
選択	総合Ⅰ群と共通	科学史②				16単位	
	総合Ⅱ群と共通	人類の進化②　日本の歴史・社会・文化②　地球環境の変動と生命史② 美術史②　アジアの歴史・社会・文化②					
	史学科専門科目と共通	日本考古学概説1②　日本考古学概説2② 日本史概説②　日本史講究②	考古学実地研究1②　考古学実地研究2②　古文書·古記録学1②　古文書·古記録学2②　古文書·古記録学3②　古文書·古記録学4② 歴史民俗学1②　歴史民俗学2②				
	国文学科専門科目と共通		文献資料研究②				
	社会学科専門科目と共通		文化人類学②				
	教育学科専門科目と共通		社会教育論②　社会教育経営論1②　社会教育経営論2②　環境教育論②　教育とメディア②				
	地理学科専門科目と共通		生物地理学②　環境地質学② 歴史地理学②	生態史論②　自然資源論②　ツーリズム論②　エスニック論②			
	地球科学科専門科目と共通		地圏科学②　岩石·鉱物学② 地球物理学1②　古生物·古生態学②	同位体地球科学②　地球史② 環境生物学②			
	教職コース科目と共通	物理学概論1②　物理学概論2②　化学概論1②　化学概論2②		生物学概論1②　生物学概論2②　地学概論1②　地学概論2②			

注1）必修科目は，必ず指定年次に履修してください。
注2）博物館実習1～4の再履修は認められません。
※上表の科目は，学科専門科目一覧表にあるコース科目です。（◆科目）
※博物館実習4（館務）は原則として，全ての必修科目修了済みが望ましい。

社会教育主事コース（全学科共通）

■社会教育主事とは

社会教育主事は，幅広い視野のもと，「社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える」（社会教育法 9 条の 3）ことを職務とする専門的教育職員で，都道府県及び市町村の教育委員会事務局に配置されています。

■資格を取得するには

社会教育主事の資格を得るには，社会教育法第 9 条の 4 に定められたいくつかの方法がありますが，文理学部で開設されている本コースでは，大学に 2 年以上在学し，62 単位以上修得し，かつ，社会教育主事コース科目の単位を修得した場合にその資格（任用資格）を得られることとしています。

なお，国の社会教育主事講習等規程により，社会教育主事コース科目の単位を習得した者は「社会教育士」と称することができます。「社会教育士」は社会教育主事職に就いていない人，たとえば，ボランティアや学校教職員，民間企業・NPO などの職員，個人であっても用いることができる称号です。※ 2020 年度入学生より適用

社会教育主事の職に就くには，各地方自治体で実施している公務員採用試験に合格，採用され，社会教育主事補などの社会教育に関係のある実務を 1 年以上経験するか又は一定期間教職を経ることが必要となります。

大学において社会教育主事講習等規程第 11 条第 1 項に規定する科目（下表の必要単位）の全部を修得した者は，社会教育士（養成課程）と称することができるようになります。

なお，社会教育主事任用資格を取得した者（大学で所定の単位を取得した者）は，「社会教育士」と称することができます。

■社会教育実習を履修するための条件について

2020 年度以降入学者の場合，社会教育実習を履修するためには，以下の条件を全てを満たすこと。（①②は「社会教育実習」履修の前年度終了時までに条件を満たすこと）

① 「生涯学習支援論 1」，「生涯学習支援論 2」，「社会教育経営論 1」，「社会教育経営論 2」のうち 2 科目 4 単位以上を修得済みであること。

② 「社会教育演習 1」，「社会教育演習 2」の 2 科目 2 単位又は「社会教育課題研究 1」，「社会教育課題研究 2」の 2 科目 2 単位以上を修得済みであること。

③ 事前指導を受けていること。

④ 期間内に実習希望届を提出すること。

■社会教育実習費について

「社会教育実習」の履修には，実習費（5,000 円）と交通費がかかります。実習希望者には，別途案内します。

（〇の中の数字は単位数）

科目区分＼配当年次		1　年	2　年	3　年	4　年	資格取得に必要な単位数	
必修	社会教育主事コース科目			社会教育実習①※		17単位	25単位
			生涯学習支援論1② 社会教育演習1① 社会教育課題研究1①	生涯学習支援論2② 社会教育演習2① 社会教育課題研究2①			
	教育学科専門科目と共通		生涯学習論② 社会教育経営論1②	社会教育論② 社会教育経営論2②			
選択必修	教育学科専門科目と共通		幼児教育論② 環境教育論② 教育課程論② 発達と認知② 比較教育論② 野外教育論(含実習)1②	障害児教育論② 教育心理学② 教授学習論② ジェンダーと教育② 国際理解教育論② 野外教育論(含実習)2②	青少年教育論② 教育行政論② 特別活動・総合的な時間の指導法②	地域教育論② 教育と産業社会②	8単位	
	司書コース科目と共通		図書館情報学概論②	図書館サービス概論②				
	学芸員コース科目と共通		博物館概論②					
	総合Ⅰ群と共通	教育学②						
	総合Ⅱ群と共通	身体表現論②						
	哲学科専門科目と共通	宗教学概論② 宗教学講究②						
	史学科専門科目と共通		文化財学1②	文化財学2②	歴史民俗学1②	歴史民俗学2②		
	社会学科専門科目と共通			社会心理学②				
			差別の社会学② ジャーナリズム論②	マス・コミュニケーション論② マス・メディア論②				
	体育学科専門科目と共通	体育学概論② 保健学概論②	スポーツ社会学②	スポーツプロモーション論②				

※168ページの社会教育実習を履修するための条件についてを確認すること。

※上表の科目は，学科専門科目一覧表にあるコース科目です。(◆科目)

日本語教育コース（全学科共通）

「日本語教育コース」では，**日本語を第一言語（母語）としない人に日本語を教えるための基礎的知識やスキルを学ぶ**ことができます。

全学科の学生が 1 年次から履修できます。日本語を第一言語とする学生も，そうでない学生も，自分の専門を深めながら日本語教育学の基礎を学ぶとともに，多様性や国際性についての理解を深めることができます。

■日本語教師とは

日本語教師は，日本語を第一言語（母語）としない人に日本語を教える職業です。いわゆる「国語」を教える教師とは異なり，外国語としての「日本語」を教える専門職です。外国人に日本語を教えるためには，文法，音声等の専門的な知識や指導の技術が必要となります。学習者の日本語学習の目的に合わせて，教育内容や指導法を考える必要があります。

近年は日本で暮らす外国人が増加傾向にあるため，日本語教師の需要は，来日後の日本国内での日本語教育のみならず，来日前の母国での日本語教育の需要が増大しており，その活躍の場は海外にも広がっています。

■日本語教育コースについて

文理学部日本語教育コースは，令和６年度入学者から，「日本語教師【養成】における教育内容（必須の教育内容 50）」を含む内容となるよう大幅に拡充されました。

日本語教育コースの履修に際しては，各学期の初めにコース履修届をグローバル教育研究センターへ提出し，許可を受ける必要があります。171 ページの科目一覧表を参考に，必修科目 11 単位及び選択必修科目２単位を含み，合計 26 単位以上を修得することで，学部卒業時に日本語教育コースの修了証書を交付します。

※　日本語教師にはこれまで公的な資格が存在しませんでしたが，日本語教師を国家資格「登録日本語教員」とすることなどが盛り込まれた「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」が，令和６年４月から施行されます。本学部では，国家資格「登録日本語教員」要件等の詳細がはっきりした段階で新制度への対応を行う予定です。

■「日本語教育実習」を履修するための条件について

「日本語教育実習」を履修するためには，「日本語教育学入門」「日本語教育のための文法」「教材・教具論」「現代日本語学講義 1」の必修 4 科目及び「国際日本学入門 1」「国際日本学入門 2」の選択必修科目から 1 科目を含め，日本語教育コース科目を合計 20 単位以上修得する必要があります。

■日本語教育実習費について

「日本語教育実習」の履修には，実習費がかかります。実習希望者には，別途案内します。

■科目一覧表

（〇の中の数字は単位数）

区分	必須の教育内容		科目区分＼配当年次	1 年	2 年	3 年	4 年	コース修了に必要な単位数	
社会・文化・地域	(1) 世界と日本の社会と文化 (2) 日本の在留外国人施策 (3) 多文化共生（地域社会における共生） (4) 日本語教育史 (5) 言語政策 (6) 日本語の試験 (7) 世界と日本の日本語教育事情	必修	日本語教育関連科目（総合Ⅲ群）	日本語教育学入門②				2単位	26単位
		選択	総合Ⅱ群と共通	日本の歴史・社会・文化②　多文化共生社会を生きる②					
			国文学科専門科目と共通	日本文学入門1② 日本文学入門2②	上代文学史② 近世文学史②	中古文学史② 近代文学史②	中世文学史② 現代文学史②		
			社会学科専門科目と共通		日常生活文化論②				
言語と社会	(8) 社会言語学 (9) 言語政策とことば (10) コミュニケーションストラテジー (11) 待遇・敬意表現 (12) 言語・非言語行動 (13) 多言語・多文化主義	必修	国文学科専門科目と共通		現代日本語学講義1②			2単位	
		選択	国文学科専門科目と共通		現代日本語学講義2②				
			教育学科専門科目と共通		国際理解教育論②				
言語と心理	(14) 談話理解 (15) 言語学習 (16) 習得過程（第一言語・第二言語） (17) 学習ストラテジー (18) 異文化受容・適応 (19) 日本語の学習・教育の情意的側面	選択必修	総合Ⅲ群と共通	国際日本学入門1②　国際日本学入門2②				2単位	
		選択	総合Ⅱ群と共通	異文化間コミュニケーション論②					
			英文学科専門科目と共通			応用言語学演習1①　応用言語学演習2①			
			社会学科専門科目と共通			社会心理学②			
			教育学科専門科目と共通		教育心理学②（教育学科所属学生のみ履修可能）				
					発達と認知②				
			教職コース科目と共通		発達と学習②（教育学科所属学生は，教育心理学②を履修すること）				
言語と教育	(20) 日本語教師の資質・能力 (21) 日本語教育プログラムの理解と実践 (22) 教室・言語環境の設定 (23) コースデザイン (24) 教授法 (25) 教材分析・作成・開発 (26) 評価法 (27) 授業計画 (28) 教育実習 (29) 中間言語分析 (30) 授業分析・自己点検能力 (31) 目的・対象別日本語教育法 (32) 異文化間教育 (33) 異文化コミュニケーション (34) コミュニケーション教育 (35) 日本語教育とICT (36) 著作権	必修	日本語教育関連科目（総合Ⅲ群）	教材･教具論②				5単位	
					日本語教育実習③				
		選択	総合Ⅰ群と共通	教育学②					
			総合Ⅱ群と共通	情報とコミュニケーション②					
			英文学科専門科目と共通		異文化間コミュニケーション概論1② 異文化間コミュニケーション概論2②				
			教育学科専門科目と共通	教育の理念と歴史② 教授学習論② （いずれも教育学科所属学生のみ履修可能）	授業開発論②	比較教育論②			
			教職コース科目と共通	教育方法・ICT活用論②（教育学科所属学生は，教授学習論②を履修すること）	教育原論②（教育学科所属学生は，教育の理念と歴史②を履修すること）				
言語	(37) 一般言語学 (38) 対照言語学 (39) 日本語教育のための日本語分析 (40) 日本語教育のための音韻・音声体系 (41) 日本語教育のための文字と表記 (42) 日本語教育のための形態・語彙体系 (43) 日本語教育のための文法体系 (44) 日本語教育のための意味体系 (45) 日本語教育のための語用論的規範 (46) 受容・理解能力 (47) 言語運用能力 (48) 社会文化能力 (49) 対人関係能力 (50) 異文化調整能力	必修	日本語教育関連科目（総合Ⅲ群）	日本語教育のための文法②				2単位	
		選択	総合Ⅰ群と共通	言語学②					
			総合Ⅱ群と共通	言語学から見た世界②					
			総合Ⅲ群と共通	アカデミック・ライティング（日本語）1②　アカデミック・ライティング（日本語）2②					
			国文学科専門科目と共通	日本語学入門1② 日本語学入門2②	日本語史1② 日本語文法論② 現代日本語学の方法2②	日本語史2② 日本語文法史②	日本語音声学② 現代日本語学の方法1②		

(1) コース修了に必要な単位として，科目一覧表を参考に，必修科目11単位及び選択必修科目2単位を含み，合計26単位以上を修得してください。

(2) 「日本語教育実習」を履修するためには，「日本語教育学入門」「日本語教育のための文法」「教材・教具論」「現代日本語学講義1」の必修4科目及び「国際日本学入門1」「国際日本学入門2」の選択必修科目から1科目を含め，日本語教育コース科目を合計20単位以上修得する必要があります。
また，「日本語教育実習」の履修にあたっては，実習費がかかります。実習希望者には，別途案内します。

(3) 「日常生活文化論」については，履修者数が定員を超過した場合，社会学科の学生の履修を優先します。

(4) 「応用言語学演習1・2」については，履修者数が定員を超過した場合，英文学科の学生の履修を優先します。

(5) 「教育心理学」「教授学習論」「教育の理念と歴史」については，教育学科の学生のみ履修可能です。

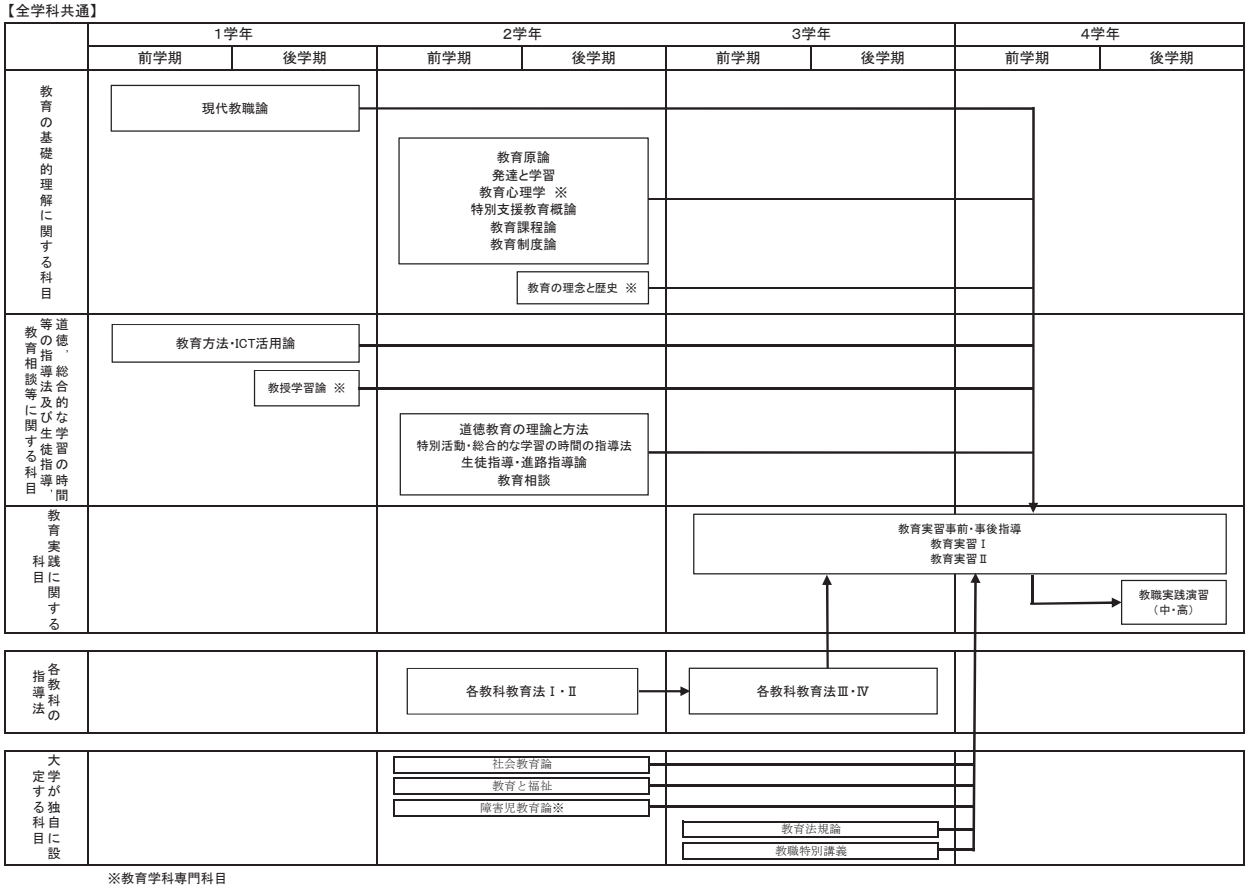
(6) 科目一覧表に記載の科目は，年度により開講しない場合があります。

※ 上表の科目は，学科専門科目一覧表にあるコース科目です。（◆科目）

コース科目履修系統図

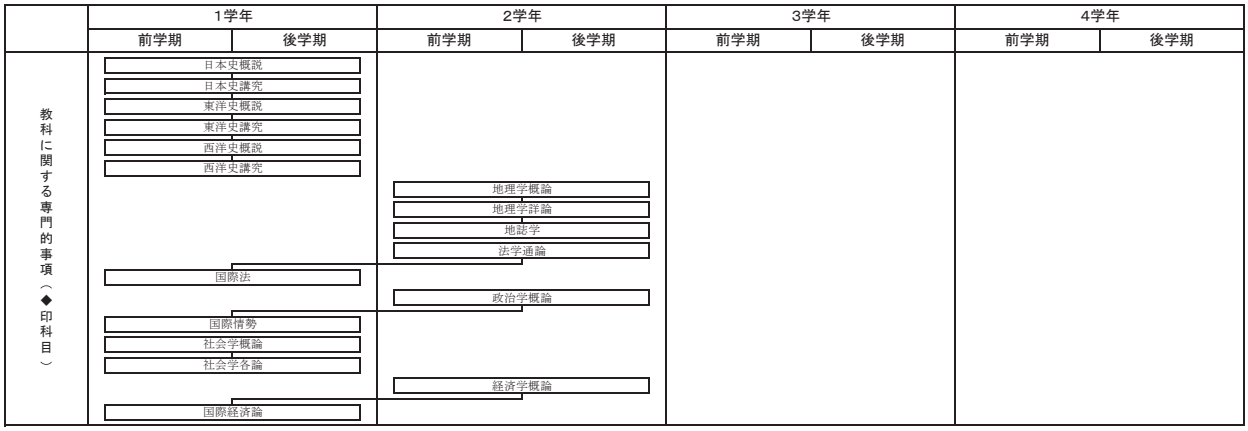
教職コース

【全学科共通】

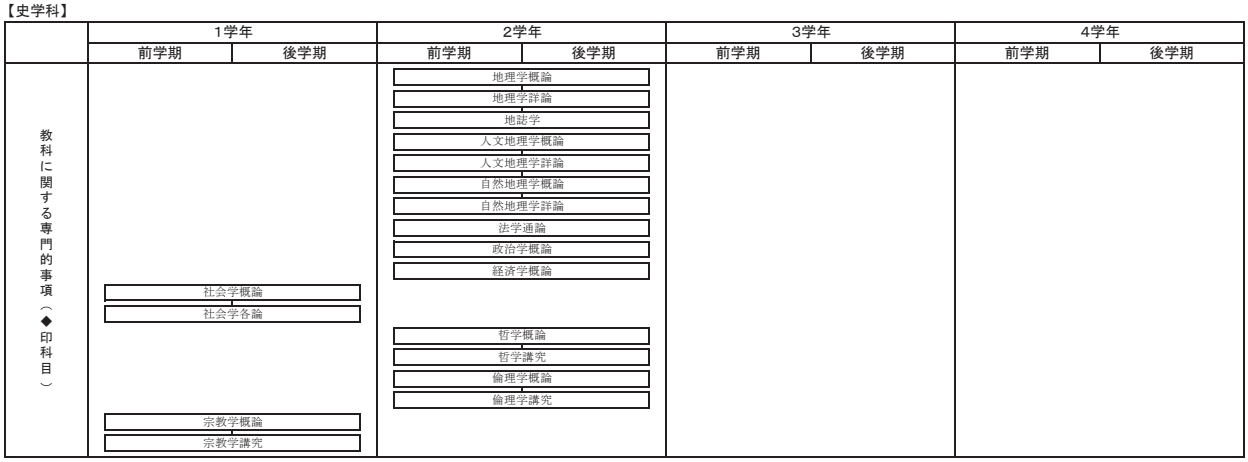


※教育学科専門科目

【哲学科】

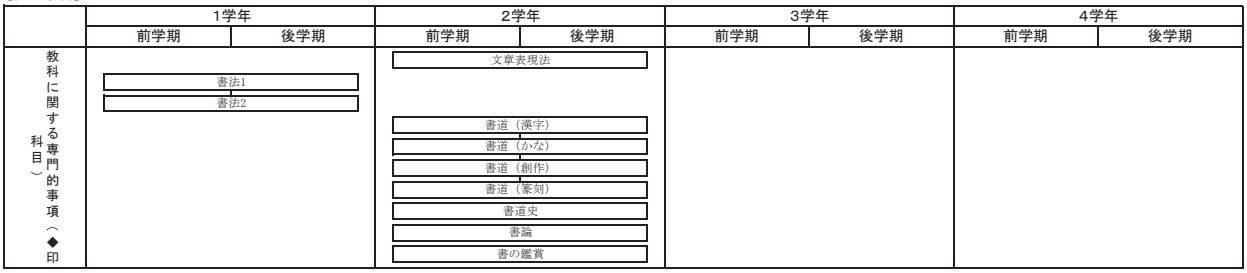


【史学科】

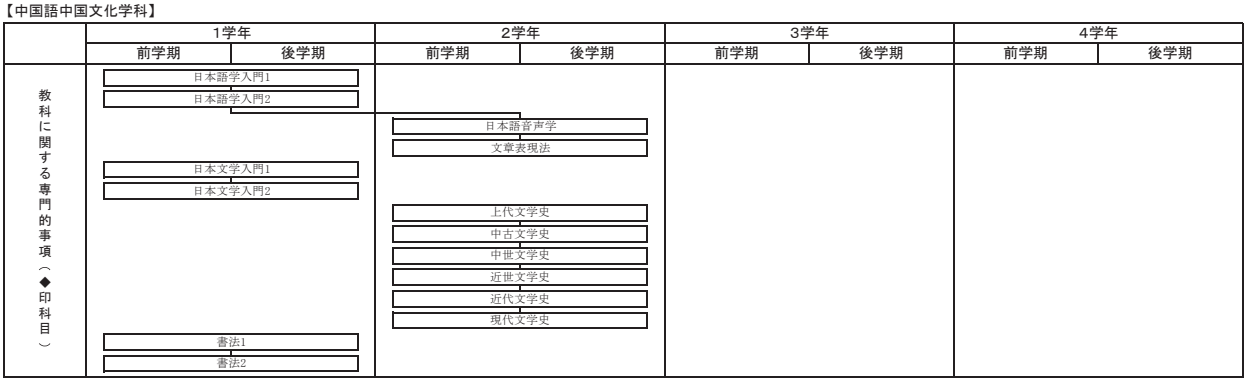


コース科目履修系統図

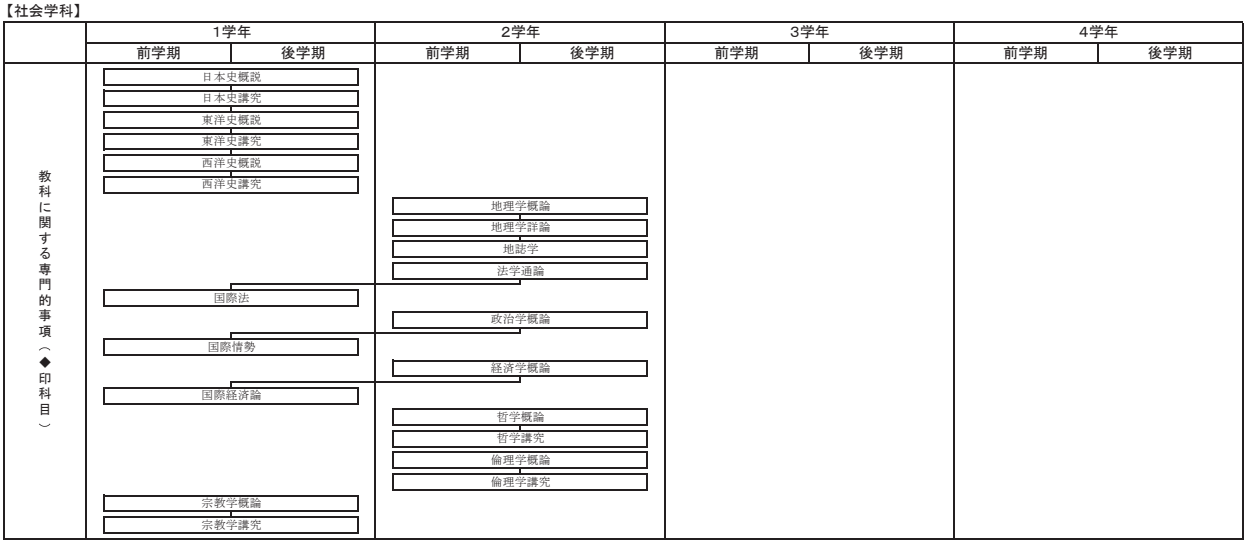
【国文学科】



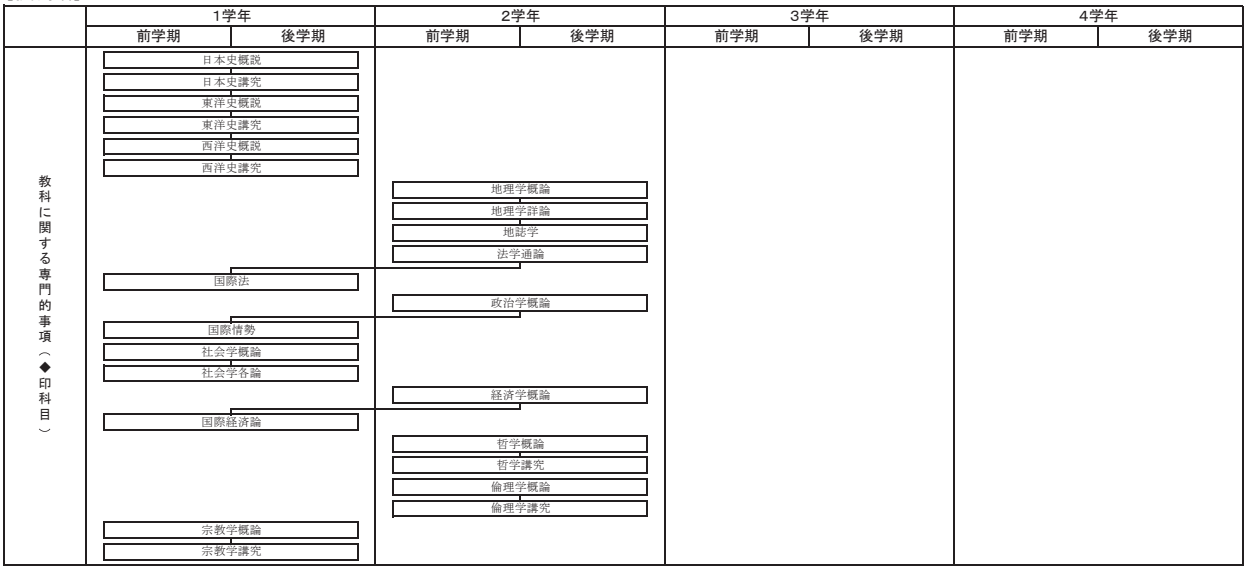
【中国語中国文化学科】



【社会学科】



【教育学科】



コース科目履修系統図

【地理学科】

	1学年		2学年		3学年		4学年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
教科に関する専門的事項（◆印科目）	日本史概説 日本史講究 東洋史概説 東洋史講究 西洋史概説 西洋史講究 社会学概論 社会学各論 宗教学概論 宗教学講究 物理学概論1 物理学概論2 化学概論1 化学概論2 生物学概論1 生物学概論2		法学通論 政治学概論 経済学概論 哲学概論 哲学講究 倫理学概論 倫理学講究 理科実験(生物)		理科実験(物理) 理科実験(化学)			

【地球科学科】

	1学年		2学年		3学年		4学年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
教科に関する専門的事項（◆印科目）	物理学概論1 物理学概論2 化学概論1 化学概論2 生物学概論1 生物学概論2		理科実験(生物)		理科実験(物理) 理科実験(化学) 理科実験(地学)			

【情報科学科】

	1学年		2学年		3学年		4学年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
教科に関する専門的事項（◆印科目）	情報と社会 情報とコミュニケーション		情報と職業 Windowsサーバー管理の基礎（含演習） サーバーの仮想化環境の構築（含演習） ネットワーク設計基礎（含演習）					

【物理学科】

	1学年		2学年		3学年		4学年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
教科に関する専門的事項（◆印科目）			理科実験(生物)		理科実験(化学) 理科実験(地学)			

【生命科学科】

	1学年		2学年		3学年		4学年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
教科に関する専門的事項（◆印科目）	地学概論1 地学概論2		理科実験(生物)		理科実験(物理) 理科実験(化学) 理科実験(地学)			

【化学科】

	1学年		2学年		3学年		4学年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
教科に関する専門的事項（◆印科目）	物理学概論1 物理学概論2 化学概論1 化学概論2 生物学概論1 生物学概論2 地学概論1 地学概論2		理科実験(生物)		理科実験(物理) 理科実験(化学) 理科実験(地学)			

コース科目履修系統図

司書教諭コース

【全学科共通】

	1年生		2年生		3年生		4年生	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
学校経営と学校図書館			学校経営と学校図書館					
学校図書館メディアの構成			学校図書館メディアの構成					
学習指導と学校図書館			学習指導と学校図書館					
読書と豊かな人間性			読書と豊かな人間性					
情報メディアの活用			情報メディアの活用					

司書コース

【全学科共通】

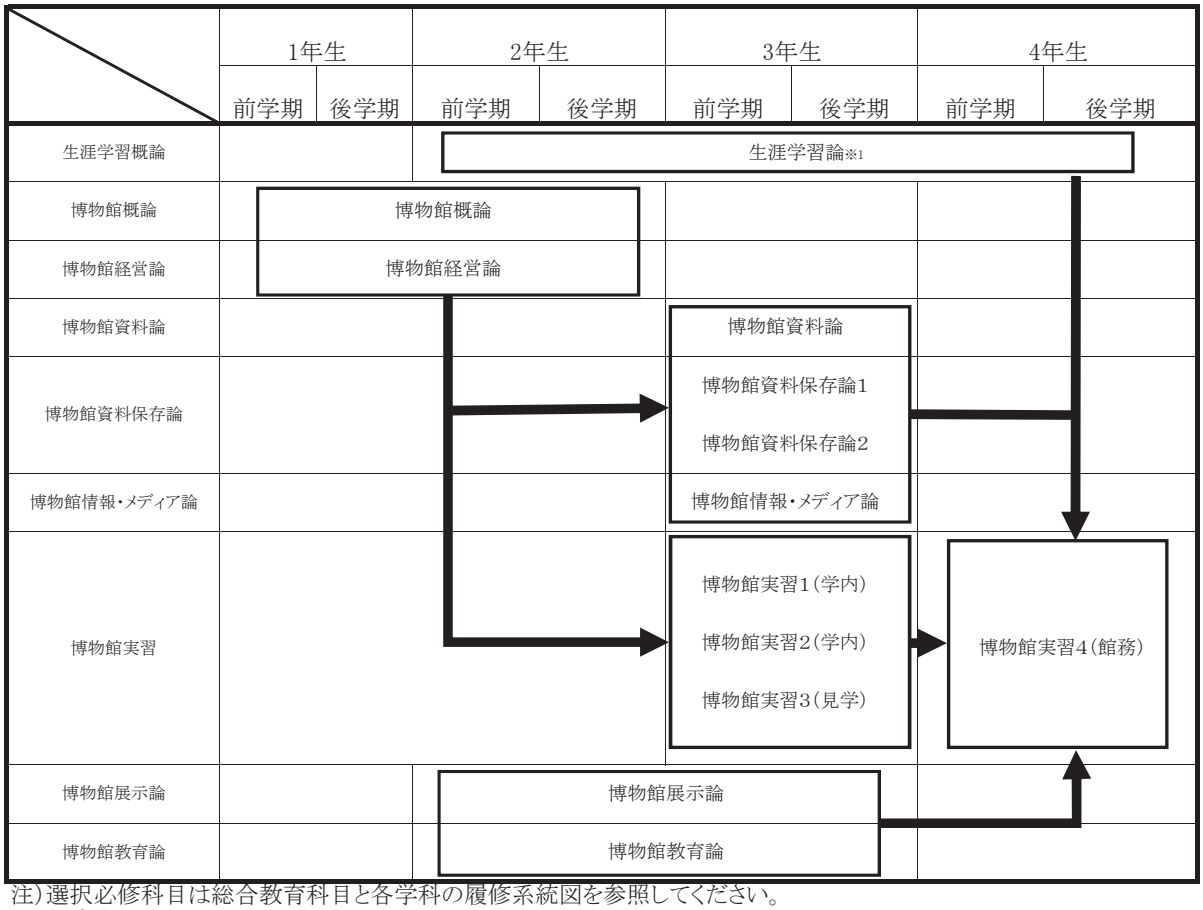
	1年生		2年生		3年生		4年生	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
生涯学習概論			生涯学習論※1					
図書館概論			図書館情報学概論					
図書館制度・経営論			図書館制度・経営論					
図書館情報技術論			図書館情報技術論					
図書館サービス概論			図書館サービス概論					
情報サービス論			情報サービス論					
児童サービス論			読書と豊かな人間性※2					
情報サービス演習					情報サービス演習1 情報サービス演習2			
図書館情報資源概論			図書館情報資源概論					
情報資源組織論			情報資源組織論					
情報資源組織演習					情報資源組織演習1 情報資源組織演習2			
図書館基礎特論			図書館基礎特論					
図書館サービス特論					図書館サービス特論			
図書館情報資源特論					図書館情報資源特論			

※1　教育学科専門科目
※2　司書教諭コース科目

コース科目履修系統図

学芸員コース

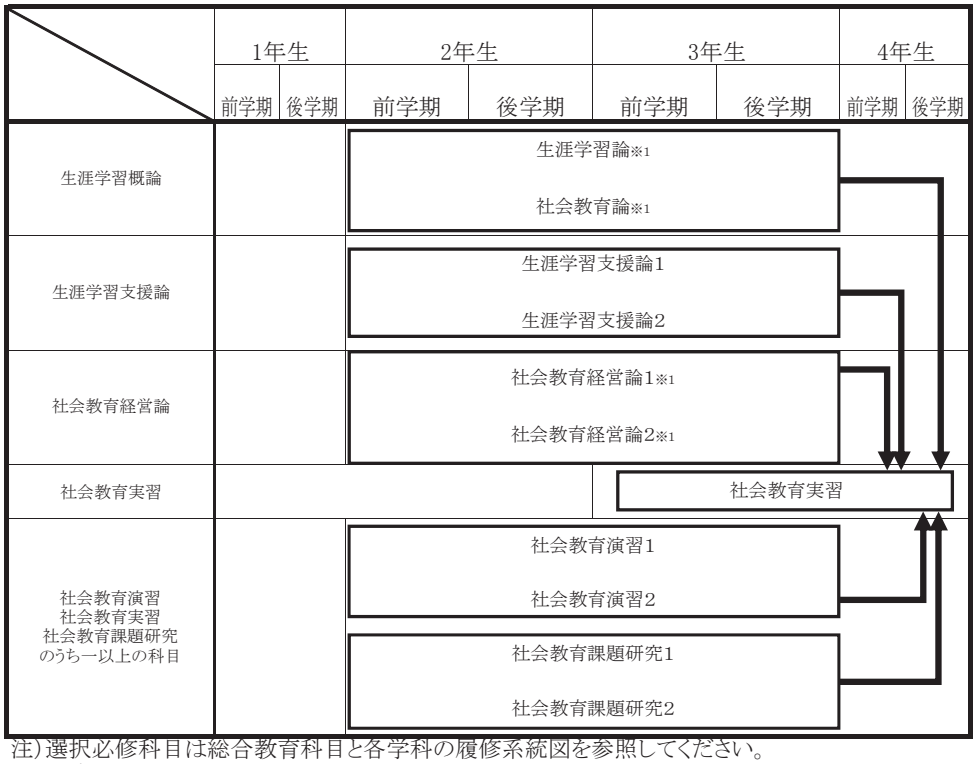
【全学科共通】



注)選択必修科目は総合教育科目と各学科の履修系統図を参照してください。
※1 教育学科専門科目

社会教育主事コース

【全学科共通】

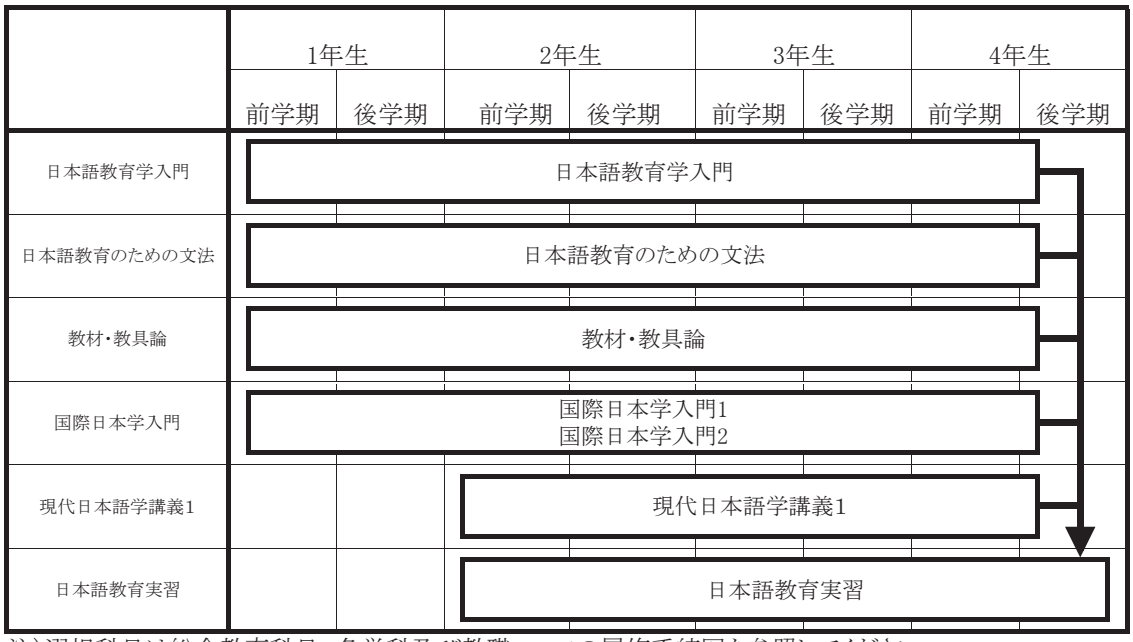


注)選択必修科目は総合教育科目と各学科の履修系統図を参照してください。
※1 教育学科専門科目

コース科目履修系統図

日本語教育コース

【全学科共通】



注）選択科目は総合教育科目，各学科及び教職コースの履修系統図を参照してください。

文理学部で取得できるその他の資格・受験資格・任用資格

各学科で取得可能な受験資格

●社会福祉士（社会福祉学科のみ取得可能）

生活に困難を抱える利用者に対して，福祉に関する相談に応じ，助言・指導を行ったり，福祉サービスや他専門職との調整・連携などを行うソーシャルワーカーの国家資格です。少子高齢化社会において重要な役割を果たします。

なお，社会福祉学科は，『スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業』の認定校であり，資格取得に必要な単位を修得し，日本ソーシャルワーク教育学校連盟に申請（社会福祉士又は精神保健福祉士の資格を有する者のみ）すると，日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定より「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了者」の修了証が交付されます。

●JATI 認定トレーニング指導者

一般人からアスリートまで幅広い目的や対象に応じて，科学的根拠に基づくトレーニング指導を行う専門家の資格です。体育学科専門科目の指定された単位を修得することで，JATI（日本トレーニング指導者協会）による認定試験の受験資格が得られます。

●公認心理師（心理学科公認心理師コースのみ）

公認心理師（国家資格）は，医療・福祉・教育・司法・産業等の領域で心理学的な専門的支援を担う役割が期待されています。心理学科に在籍し，卒業に必要な学科専門科目の中の所定の科目と，公認心理師コース科目の全てを修得し卒業した後，公認心理師養成に対応した大学院を修了する又は一定の条件を備えた施設等で実務経験を積むことで受験資格が得られます。

●甲種危険物取扱者（化学科のみ取得可能）

一定数量以上の危険物を貯蔵し又は取り扱う化学工場，ガソリンスタンドなどの施設には，必ず危険物取扱者を置かなければなりません。甲種危険物取扱者は，全ての類の危険物について，取り扱いと定期点検，保安の監督ができる資格です。化学科を卒業した者又は化学科において化学に関する授業科目を 15 単位以上修得した者は，甲種危険物取扱者試験の受験資格が得られます。

各学科で取得可能な資格（講習や一部の試験が免除される資格）

●キャンプインストラクター

「公益社団法人 日本キャンプ協会」が認める指導者資格で，体育学科専門科目「野外実習（キャンプ）」の単位を修得し，別途申請を行うことで認定試験を受験可能となります。

●日本サッカー協会公認ライセンス（C級コーチ）

体育学科専門科目「スポーツ実習（サッカー）・スポーツ方法論（サッカー）・スポーツ指導法（サッカー）」の単位を修得し，別途資格取得申請を行うことで資格を取得することができます。

●初級障がい者スポーツ指導員

体育学科専門科目「アダプテッドスポーツ論」の単位を修得し，別途資格取得申請を行うことで資格を取得することができます。

●日本スポーツ協会共通科目免除適応

指定の体育学科専門科目を修得することにより，公益財団法人日本スポーツ協会が認める各種資格取得を目指す場合，卒業後に共通科目が免除となります。なお，免除適応申請者は，「アシスタントマネジャー」資格の受験が可能となり，合格した場合は卒業と同時に資格取得となります。

●水泳コーチ 3

日本スポーツ協会共通科目免除適応の申請に加えて，体育学科専門科目「スポーツ実習（水泳）・スポーツ方法論（水泳）・野外実習（オーシャンスポーツ）」の単位を修得し，別途資格取得申請をすることで卒業と同時に資格取得となります。

卒業後，各自が申請をする資格

●社会調査士（社会学科のみ取得可能）

「一般社団法人 社会調査協会」が授与する公的な資格で社会調査の企画・設計・実施・分析・報告を主業務とする調査

機関やシンクタンク，マスコミなどでの活躍が期待できます。

●認定心理士・認定心理士（心理調査）（心理学科のみ取得可能）

心理学科の所定の科目を修得して卒業後，申請することによって，公益社団法人日本心理学会の認定を受けることができます。

●地域調査士（地理学科のみ取得可能）

地域診断，環境評価，地域計画などを実践する能力を有する「地域調査の専門家」として認定されます。

● GIS 学術士（地理学科のみ取得可能）

GIS の学術を持ち，地理情報をコンピューター上で地図化することで表示し，分析・考察できることを証明する資格です。

●技術士補（地球科学科*のみ取得可能）

地球科学科*の所定のプログラムを修了したものは，「公益社団法人 日本技術士会」で登録することによりこの資格が取得できます。　＊令和 2 年 4 月以降 JABEE 認定継続申請

●測量士補

地理学科・地球科学科・数学科・物理学科を卒業したものは国土交通省国土地理院に申請すれば，この資格が取得できます。

●毒物劇物取扱責任者（化学科のみ取得可能）

化学科を卒業したものは，毒物劇物取扱責任者の資格を取得できます。

●スクールソーシャルワーカー（社会福祉学科のみ取得可能）

任用資格

大学等で指定した科目を履修して卒業し，公務員などの採用試験に合格し，実際に業務に就いてはじめて得られる資格です。

●社会福祉主事

行政機関等で社会福祉に関する相談・指導・援助などの専門的な業務を行うための資格です。

●児童福祉司（社会学科，社会福祉学科，教育学科，心理学科）

児童相談所において，子ども，保護者，関係者等から子どもの福祉に関する相談に応じ，必要な支援・指導や関係者等との連絡・調整を行う専門職員です。

●身体障害者福祉司（社会福祉学科）

身体障害者の日常生活他，いろいろな相談に応じ必要な助言指導を専門的に行う職員で，身体障害者更生相談所等に配置されます。

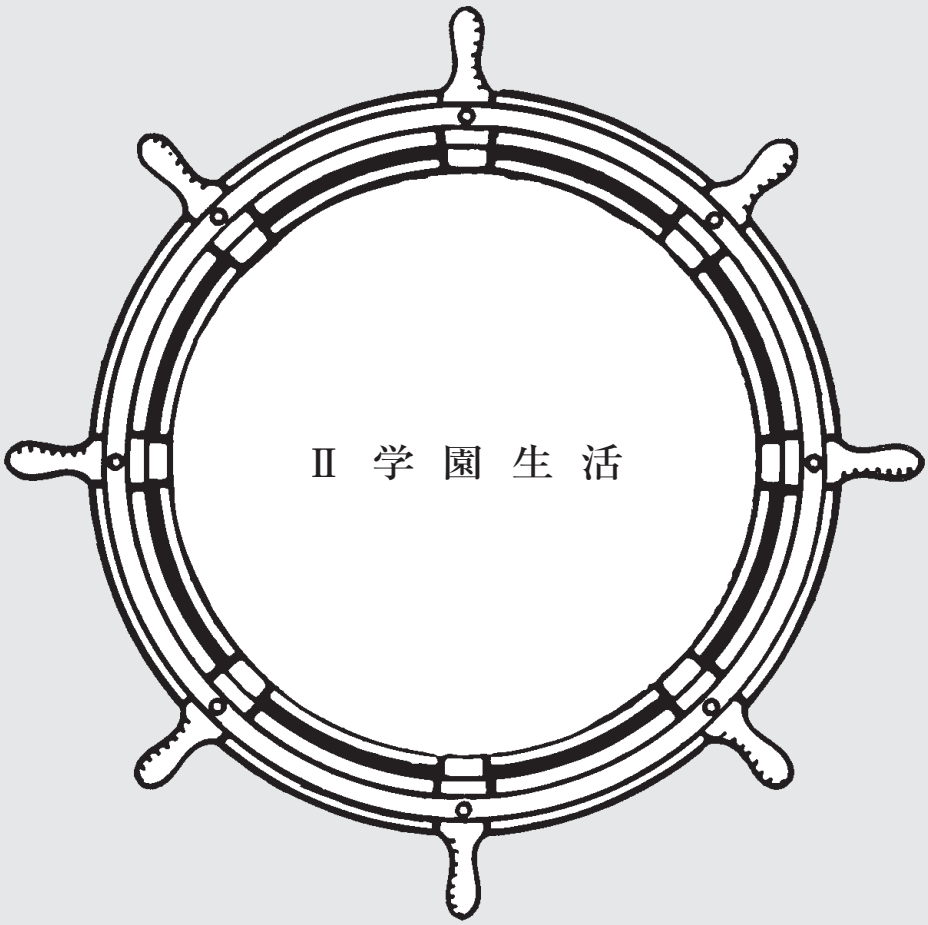
その他

●日本語教師

日本語教師は，日本語を第一言語（母語）としない人に日本語を教える職業です。文理学部では，日本語教師の養成を目指すコースとして「日本語教育コース」を開設しています。詳しくは 170 ページを参照してください。

なお，令和 6 年 4 月から「日本語教育の適性かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」が施行されます。文理学部では，今後，日本語教師の公的資格に関する新制度に対応していきます。

このページは白紙です



Ⅱ 学 園 生 活

教学関係

1　学生証

学生証は，クラス別ガイダンス時に交付されます。在学期間を通じて使用し，本学の学生としての身分を証明する大切なものです。以下の事項に十分注意して取り扱ってください。

① 学生証は常に携帯し，以下に例示のように，本学教職員の求めがあった場合は提示してください。
- ・試験を受験するとき
- ・各種証明書の発行を申し込むとき
- ・キャンパス内の諸施設（図書館等）を利用するとき
- ・その他提示を求められたとき

② 学生証には所属学科，氏名及び生年月日のほか，文理学部の学生番号や日本大学学生としてのＩＤ「学生証台帳番号」等，重要な個人情報が記載されています。他人への貸与や譲渡はできません。

③ 学生証は，プラスチック製の「学生証」の裏面に，毎年４月のガイダンス時に交付される「学生証裏面学籍シール」を貼付して使用します。年度ごとに「学生証裏面学籍シール」を貼り替える（重ね貼り不可）ことで有効となります。「学生証裏面学籍シール」の貼付がない場合や，有効期限切れのものは無効となります。

④ 「学生証裏面学籍シール」の交付を受けたら，必ず自筆で学生番号，氏名，現住所を記入してください。なお，現住所を変更した場合は，直ちに学生課で新たな「学生証裏面学籍シール」の交付を受け，貼り替えてください。

⑤ 学生証は，通学定期券又は学生割引乗車券の購入や乗車の際は必ず携帯し，係員の請求があったときは，いつでも提示しなければなりません。なお，あらかじめ学生課で「学生証裏面学籍シール」に確認印の押印を受ける必要があります。

⑥ 学生証は磁気カードとなっています。磁石（が付いている財布やカバン等も含む）に近づけると，学生証の磁気が消失することがありますので，取り扱いに注意してください。万一，磁気が消失した場合は，教務課へ申し出てください。

⑦ 学生証を紛失したときは，直ちに学生課へ届け出て指示を受けてください。再発行後，紛失していた学生証が発見された場合は，直ちに返還してください。

⑧ 学生証は，卒業・退学等によって学籍を失ったときは直ちに返還してください。

[学生番号]

学生証には各人に７桁の番号が記載されています。大学に提出する書類（含む試験）などの学生番号欄には，この番号をそのまま記入してください。

参考：哲学科に令和6年度（2024年度）入学の137番の学生の場合

学　科		入学年（西暦）		個人番号		
0	1	2	4	1	3	7

＊学科コード

哲	01	社会	07	地球科	52
史	02	社会福祉	11	数	53
国文	03	教育	08	情報科	54
中国語 中国文化	04	体育	09	物理	55
英文	05	心理	10	生命科	56
ドイツ文	06	地理	51	化	57

2　学籍簿・学生証記載事項の変更の届け出

大学への届出事項に変更が生じたときは，直ちに教務課窓口へ申し出て，「身上異動届」を提出してください。

[届け出が必要な主な事項]

① 本人，保証人，学費納入者の住所，電話番号等の変更
② 保証人，学費納入者の変更
③ 氏名，本籍等の変更

3　休学・復学

病気その他やむを得ない事由により３か月以上修学できないときは，許可を得て，その年度あるいは，前・後学期を休学することができます。「休学願」（用紙は教務課にあります）に休学理由の事実を証明する書類を添え，保証人連署で願い出る必要があります。クラス担任又は学科主任との面談を受けた上で，所属の学科事務室に提出してください。

休学期間は１学期又は１年とし，通算して在学年限（８年）の半数（４年）を超えることはできません。

※休学期間は在学年数に算入されます。

※１～３年生の間に半期でも休学した場合，卒業は最低でも１年延期となりますので，ご注意ください。

なお，原則として入学年度の休学はできません。ただし，入学年度の後学期については，修学困難な事由に該当する場合は休学を認めることがあります。

休学理由が解消し復学を希望するときは，「復学願」を提出して許可を得てください。ただし，復学は各学期の始めからとなりますので，９月中旬又は３月中旬までに手続きを済ませてください。該当者には教務課から手続き書類を送付いたします。

なお，休学した期間は，修業年数に算入されないので，原則として休学した学年への復学となります。

※ 24 ページ「日本大学学則」第 25 条参照

なお，休学が許可された場合，授業料は次のように取り扱います。

・「学費の取扱いに関する要項」に基づき，休学を許可された場合の休学期間中の授業料は徴収せず，休学在籍料（学年：12 万円，学期：６万円）のみ徴収となります。

① ５月 31 日までにその学年の休学手続きが完了した者は，当該年度の前学期分及び後学期分を徴収しない。
② ６月１日から 11 月 30 日までの間に，その学年の休学手続きが完了した者は，当該年度の後学期分を徴収しない。
③ ５月 31 日までに前学期の休学手続きが完了した者は，当該年度の前学期分を徴収しない。
④ 11 月 30 日までに後学期の休学手続きが完了した者は，当該年度の後学期分を徴収しない。

学費を徴収されなかった者からは，学費を徴収されない学期ごとに，休学在籍料として６万円を徴収する。

学費納入後に休学を許可された者の上記に該当する超過分については，返還されます。ただし，上記の減額措置を受けた者が，休学期間中に退学等により学籍を失った場合は，納入された休学在籍料は返還されません。

4　退学

病気その他やむを得ない事由により，退学を希望するときは，「退学願」を提出して許可を得なければなりません。「退学願」（用紙は教務課にあります）に必要事項を記入し，クラス担任又は学科主任との面談を受けた上で，所属の学科事務室に提出してください。退学年月日が学期中途の場合，当該学期の成績は認められません。

既納の学費は，いかなる理由があっても返還されません。

なお，退学した者が再入学を志望したときは，選考の上，許可することがあります。

5　転科

現在在籍している学科から，文理学部の他の学科へ転出入することを「転科」といいます。転科を希望する場合は，クラス担任又は学科主任の承認を得て，転科試験を受験し，合格しなくてはなりません。

なお，希望する学科によっては，学生定員等の関係上，受入れ学年が制限されたり，試験自体が実施されない場合がありますので，受験に際しては，募集要項を確認してください。

6　各種証明書

証明書が必要になった場合は，証明書自動発行機を利用してください。**発行の際は学生証が必要です**。

自動発行機 設置場所	本館1階事務課前　3台	自動発行機 稼働時間	月曜日～金曜日　窓口取扱時間と同じ 土曜日　窓口取扱時間と同じ
窓口業務 取扱時間	月曜日～金曜日　9時00分～17時00分 土曜日　9時00分～13時00分		
備　考	休日及び大学休業日は稼働しません。夏季・冬季休業中とその他大学が指定する日は，稼働時間・取扱時間が変更になるので注意してください。		

大学で発行する証明書は次のとおりです。

種　類	適　用	手数料
在学証明書（即日発行）		100円
成績証明書（即日発行）	在学生は申請時の前の学期までのもの。	200円
卒業見込証明書（即日発行）	卒業に必要な単位について，3年次終了までに条件を満たしている者に限り発行します。詳細は「卒業見込証明書の発行条件」を参照してください。	100円
卒業証明書（卒業生のみ）（即日発行）		200円
単位修得証明書（卒業生のみ）（要3日）	学芸員，司書等	200円
学力に関する証明書（卒業生のみ）（要2週間）	教職（教科種別1通につき） 卒業後，個人で教育職員免許状を申請する等で必要です。	100円
教育職員免許状取得見込証明書（要3日）	発行には，教職課程の履修状況，その他の条件があります。詳細は「8　教育職員免許状取得見込証明書の発行条件」を参照してください。	100円
資格単位修得見込証明書（要3日）	学芸員，司書等	100円
英文証明書（要10日）	在学，成績，卒業	600円 2通目から200円
学生証再発行（翌日発行）	紛失，汚損の場合，印鑑が必要です。	1,000円
通学証明書（即日発行）	バス等の通学定期券購入の際必要です。（学生課）	無料
健康診断証明書（即日発行）	当該年度の健康診断を受けていること ※発行可能期間については，別途周知します。	100円

※在学生は，郵送での申し込みはできません。

注1）即日発行以外の証明書は，発行に時間を要するため，所要日数を確認の上，該当する証明書の申込用紙を証明書自動発行機で購入し，教務課窓口に申し込んでください。

注2）厳封（封筒に入れ封印をして提出）を必要とする場合は，発行当日の証明書についてのみ取り扱いますので，教務課窓口に申し出てください。

注3）学年始め，学期始め，就職活動，卒業などの時期は，特に混雑するため，早めに手続きをしてください。

7　卒業見込証明書の発行条件

卒業見込証明書は，卒業に必要な単位について，3年次終了までに次の条件を満たしている者に限り発行します。

①　数学科・物理学科・生命科学科・化学科…… 100単位以上修得していること。

②　上記①以外の各学科…… 90単位以上修得していること。

8　教育職員免許状取得見込証明書の発行条件

中学校・高等学校教育職員免許状は以下の①～④を，特別支援学校教育職員免許状は以下①～⑤の条件をすべて満たしている者に限り発行します。

①　1年次配当の「教育の基礎的理解に関する科目等」から「現代教職論」及び「教育方法・ICT活用論（教育学科学生は「教授学習論」）」の4単位を修得していること。

②　2・3年次配当の「教育の基礎的理解に関する科目等」から15単位以上を修得していること。

③　「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち，「教科に関する専門的事項」から20単位及び「各教科の指導法」から各教科教育法2科目4単位（各教科教育法Ⅰを含む）を含む24単位以上を修得していること。

④　卒業見込条件を充足していること。
⑤　教育実習（特別支援学校）の履修許可条件を充足していること。

9　大学院入学試験

本学大学院文学・総合基礎科学・理工学（地理学専攻）研究科の入学試験に係る手続き等は教務課で受け付けます。不明な点がありましたら教務課で確認してください。

参考：前年度に実施した大学院入学試験

入試区分	該当課程	備　　考
学内選考試験	博士前期課程	7月上旬・9月下旬（専攻によって異なる）
第1期入学試験	博士前期課程	9月下旬（専攻によって異なる）
	博士後期課程	
第2期入学試験	博士前期課程	2月中旬
	博士後期課程	

10　休講

①　担当の教員から事前に連絡があれば，情報掲示板「COMITS2」で周知します。
②　始業時刻から 30 分以上経過しても担当教員が教室に来ない場合は，本館 2 階の講師室に問い合わせ，指示を受けてください。
③　休講した授業科目については，後日，補講等がありますので掲示に注意してください。

11　自然災害等における休校措置

東京都区内の JR 線又は京王線が自然災害等で運行を停止するなど，通学に支障が生じた場合又は生じる恐れがある場合は，安全に配慮し，臨時休校等の措置をとる場合がありますので，必ず情報掲示板「COMITS2」等で確認してください。

12　掲示板

学生に対する連絡等は，情報掲示板「COMITS2」等の掲示によって周知しますので，毎日必ず確認して，見落とし等による不利益が生じないよう十分注意してください。

学生生活関係

1　通学定期券

①　購入方法について

通学定期券の購入を希望する学生は，学生証裏面学籍シール並びに通学証明書発行控に所定の事項を記入し，学生課で確認印を受けた後，定期券取扱駅で購入してください。

②　購入区間について

通学定期券は，「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限り購入できます。

また，実習のために必要な学校最寄駅以外の区間の「実習用通学定期券」購入は，事前に学生課において手続きが必要となります（購入するまでに1か月ほど時間がかかる場合がありますので，早めに申請してください）。

なお，アルバイト及び課外活動（クラブ活動）等，卒業に必要な単位修得以外の目的の場合は，普通乗車券，回数乗車券，通勤定期券を購入してください。

適正でない区間の通学定期券を購入及び使用した際は，鉄道やバス会社の運送約款に基づき多額な旅客運賃・増運賃を請求されるとともに，当該学生は通学定期券の発行停止を受けることになり，さらに本学規程に基づき懲戒処分の対象になりますので十分注意してください。

2　学割証の交付

学割証はJRの鉄道等に片道100キロメートルを超えて乗車するときに使用できます。発行は本館1階に設置されている「証明書自動発行機」で行います。一人当たり1日2枚まで，年間で10枚を上限としています。

3　合宿・試合・発表会など

サークル活動として，学内・学外で合宿，試合，発表会などを行うときは，活動等の3日前までに「団体特別活動届（学内･学外）」に必要事項を記入し，参加者名簿等を添えて学生課窓口に届け出てください。詳しくは，学生課まで問い合わせてください。

4　遺失物・拾得物

学内で落し物や忘れ物をしたり，あるいは拾ったときは，直ちに学生課窓口に届け出てください。

5　案内や連絡の掲示

サークル活動などについての案内や掲示をしたいときは，学生用掲示板，Canvas LMS内コミュニティ「文理学部サークル活動」を使用してください。

なお，学生用掲示板使用に当たっては，学生課窓口に相談し承認を受けてください。

6　下宿・アパート・アルバイト・ボランティアの紹介

下宿・アパートについては，文理学部ホームページより，MENU →学生生活・キャリア→学生支援→学生寮等の紹介ページ学生課に確認についてのページを参考にしてください。

また，学生課窓口には「アルバイト情報」「ボランティア情報」などがありますので利用してください。

7　食堂・売店等の利用

文理学部の食堂及び売店は，業者委託により運営されています。

［食　堂　等］

3号館1階　　食堂コスモス，軽食コーナー
3号館1階　　コンビニエンスストア（ファミリーマート）
3号館前広場　　キッチンカー
本 館 1階　　ラーニングコモンズ喫茶コーナー，お弁当販売
2号館1階　　福松（お弁当）

［売　　店］

3号館1階（書籍，文具，衣料品，その他）

8　学生寮

文理学部生が入寮可能な学生寮があります。いずれも日本大学の直営寮であり，地方から安心して文理学部にて勉学に励めるよう環境を整えています。

①　日本大学バンデリアン町田（男子学生のみ）

(1) 所 在 地　　東京都町田市南大谷 916-2
(2) アクセス　　小田急線「玉川学園前」駅下車　徒歩 15 分
(3) 収容人数　　100 名
(4) 居　　室　　個室　約 7 帖（キッチン・バス・トイレ付き）
(5) 施　　設　　エアコン，テレビ，机，椅子，クローゼット，ベッド，ミニキッチン（IH コンロ，流し台），冷蔵庫，電子レンジ，カーテン，物干し竿（ベランダ用），洗面台，トイレ，バスルーム，インターネット接続端子，シューズボックス等。
※この他に共同で利用できるランドリールーム・多目的室・ラウンジ等あり。
(6) 費　　用　　月額 45,000 円（NHK 受信料，プロバイダ契約料・通信料含む）
※別途寝具レンタル料（希望者のみ）
※個室の光熱水費や生活必需品，食費が個別に発生する。
※希望者には夕食の給食（お弁当）あり（1 食 400 円）。

②　日本大学レガーメリアン赤堤（女子学生のみ）

(1) 所 在 地　　東京都世田谷区赤堤 5-23-1
(2) アクセス　　京王線・東急世田谷線「下高井戸」駅下車　徒歩 8 分
(3) 収容人数　　48 名
(4) 居　　室　　個室　約 5 帖（バス・トイレ付き）
(5) 施　　設　　エアコン，テレビ，机，椅子，クローゼット，可動棚付収納，収納付ベッド，冷蔵庫，電子レンジ，物干し竿（ベランダ用），バスルーム，洗面台，トイレ，インターネット接続端子，シューズボックス等。
※この他に共同で利用できるキッチン・ランドリールーム等あり。
※駐輪場が 1 人 1 台あり。バイク・車は置けません。
(6) 費　　用　　月額 65,000 円（NHK 受信料，プロバイダ契約料・通信料含む）
※別途寝具レンタル料（希望者のみ）
※個室の光熱水費や生活必需品，食費が個別に発生する。

③　日本大学レガーメリアン宮坂（女子学生のみ）

⑴ 所 在 地　東京都世田谷区宮坂 1-30-20

⑵ アクセス　東急世田谷線「宮の坂」駅下車　徒歩 5 分
小田急線「経堂」駅下車　徒歩 8 分

⑶ 収容人数　31 名

⑷ 居　　室　個室　約 5 帖（バス・トイレ付き）

⑸ 施　　設　エアコン，テレビ，机，椅子，クローゼット，可動棚付収納，収納付ベッド，冷蔵庫，電子レンジ，物干し竿（ベランダ用），バスルーム，洗面台，トイレ，インターネット接続端子，シューズボックス等。
※この他に共同で利用できるキッチン・ランドリールーム等あり。
※駐輪場が 1 人 1 台あり。バイク・車は置けません。

⑹ 費　　用　月額　65,000 円（NHK 受信料，プロバイダ契約料・通信料含む）
※別途寝具レンタル料（希望者のみ）
※個室の光熱水費や生活必需品，食費が個別に発生する。

④　日本大学バンデリアン松戸（男子学生のみ）

⑴ 所 在 地　千葉県松戸市松戸 2221-1

⑵ アクセス　JR 常磐線・新京成線「松戸」駅下車　徒歩 7 分

⑶ 収容人数　70 名

⑷ 居　　室　個室　約 6 帖（キッチン・バス・トイレ付き）

⑸ 施　　設　エアコン，テレビ，机，椅子，クローゼット，ベッド，ミニキッチン（IH コンロ，流し台），冷蔵庫，電子レンジ，物干し竿（ベランダ用），バスルーム，洗面台，トイレ，インターネット接続端子，ゴミ箱等。
※この他に共同で利用できるランドリールーム・多目的室・ラウンジ等あり。
※駐輪場が 1 人 1 台あり。バイク・車は置けません。

⑹ 費　　用　月額 55,000 円
※別途寝具レンタル料（希望者のみ）
※個室の光熱水費や生活必需品，食費が個別に発生する。

⑤　日本大学レガーメリアン東が丘（女子学生のみ）

⑴ 所 在 地　東京都目黒区東が丘 1-15-12

⑵ アクセス　東急田園都市線「駒沢大学」駅下車　徒歩 12 分

⑶ 収容人数　150 名

⑷ 居　　室　個室　約 5 帖（キッチン・バス・トイレ付き）

⑸ 施　　設　エアコン，テレビ，机，椅子，クローゼット，可動棚付収納，収納付ベッド，冷蔵庫，電子レンジ，物干し竿（ベランダ用），洗面台，トイレ，バスルーム，シューズボックス，WiFi 対応。
※この他に共同で利用できるキッチン，ランドリールーム等あり。
※駐輪場が 1 人 1 台あり。バイク・車は置けません。

⑹ 費　　用　月額 65,000 円（NHK 受信料・プロバイダ契約料・通信料含む）
※別途寝具レンタル料（希望者のみ）
※個室の光熱水費や生活必需品，食費が個別に発生する。

⑥ 日本大学バンデリアン稲城（男子学生のみ）

⑴ 所 在 地　東京都稲城市大字平尾 4-72-3
⑵ アクセス　京王相模原線「若葉台」駅下車　徒歩 15 分
　　小田急多摩線「栗平」駅下車　徒歩 12 分
⑶ 収容人数　300 名
⑷ 居　　室　シェアハウス型　約 5.2 帖（ロフト含む）
　　共有スペース（キッチン・シャワーブース・脱衣室）
⑸ 施　　設　エアコン，テレビ，机，椅子，クローゼット，ロフト型ベッド，物干し竿（ベランダ用），インターネット接続端子，冷蔵庫，電子レンジ*，洗面台*，シャワーブース*，ミニキッチン（IH コンロ，流し台）*
　　＊は居室共有設備
⑹ 費　　用　月額 35,000 円（個室の光熱水費・NHK 受信料・プロバイダ契約料・通信料含む）
　　※生活必需品，食費が個別に発生する。

※学生寮問い合わせ・申し込み先
日本大学学生部学生課
TEL 03-5275-8425（月～金　10 時 00 分～ 16 時 00 分）ただし祝日，夏期休暇，年末年始は除く。

9 インターネットを利用する際の注意

ホームページ，SNS，個人のブログ等において，自分自身の行為（20 歳未満の飲酒，キセル乗車，不正行為等）の書き込みをしたことで社会的問題や訴訟問題に発展するケースが多くあります。

ホームページ，SNS，個人のブログは不特定多数が閲覧可能であり，書き込みの表現次第では，予想外の誤解を与えたり，さらには違法行為と判断され，本人だけではなく，他人や団体に迷惑を及ぼす可能性があります。

学生の皆さんにおいては，公序良俗に反する行為を絶対にしないよう十分に気をつけてください。

個人が情報を発信する際の注意事項を，以下に記載します。

① 利用については，学則（校則等）・就業規則等の学内規則や法令等を遵守し，各サービスの利用規約を良く読み，内容を理解した上で利用する。
② 情報発信を行う際は，閲覧者に誤解を与えないよう，日本大学の名誉を汚さない良識ある発言・投稿を心がけ，情報発信と対応に責任を持つ。
③ ソーシャルメディアが持つ特性「一度発信された情報は完全には取り消すことができない」ことを留意する。
④ 伝聞や推測に基づく不確かな情報ではなく，正確な情報を発信する。
⑤ 教職員・学生等として，資質を問われかねないような軽率な，または立場を弁えない発言・投稿は控える。
⑥ 発言・投稿内容は，個人のもので，本学の意見を表すものではないことを明記する。
⑦ 著作権の公正な取り扱いには注意する（校章，ロゴマークの無断使用等は禁止する）。

10　ソーシャルメディアをご利用の皆様へ

日本大学文理学部は，公式アカウントのフォローや参加を歓迎しています。

ソーシャルメディアにおける本学関係者からの情報発信のすべてが，公式発表・見解を必ずしも表しているものではありません。

正式な発表に関しては，文理学部ホームページ及びプレスリリースなどで情報発信しております。

本学へのご意見やお問い合わせにつきましては，公式アカウント上でのご返答は致しかねます。予めご了承ください。

ご意見などは，文理学部ホームページ「お問い合わせ」からお願いいたします。

※類似するアカウントも存在しますが，第三者が管理・運営をしている場合がございますので，ご注意ください。下記，本学ソーシャルメディア公式アカウント一覧をご参照ください。

日本大学文理学部公式ソーシャルメディア一覧

1　X（旧 Twitter）

①　名　称　　日本大学文理学部【公式】

②　アカウント名　@bunrigakubu

2　Instagram

①　名　称　　日本大学文理学部【公式】

②　アカウント名　nihonuniversity_chs

3　YouTube

①　名　称　　日本大学文理学部公式チャンネル

②　アカウント名　@nihon-u.chschannel

授業料・奨学金制度関係

1　授業料等に関する相談

授業料等の納入期限は前学期分については 4 月末日，後学期分については 9 月末日となります。納入期限内に納入できない場合や，家庭の経済状況等の問題で学費の納入が困難になった場合は，分納することも可能ですので会計課に相談してください。

2　奨学金制度

大学には，学術研究・教育を助成・育成するための奨学金制度があります。本大学には，日本大学特待生，古田奨学金，ロバート・F・ケネディ奨学金，日本大学創立 100 周年外国人留学生奨学金，日本大学創立 130 周年記念奨学金のほか各種制度があり，本学部には文理学部奨学金，同後援会奨学金，同校友会奨学金の制度があります。また学外では，文部科学省による高等教育の修学支援新制度（授業料等減免），日本学生支援機構，地方公共団体，民間育英団体などによる奨学金制度もあります。

これらの制度による奨学生は，それぞれの設置趣旨に基づいて，学業，人物，健康，家計などが審査され採用が決まります。募集時期等の詳細については，状況の変化により変更する可能性があるため，情報掲示板「COMITS2」，文理学部ホームページ等でお知らせします。

①　日本大学の奨学金制度

⑴　日本大学特待生（教務課）

この制度は，学業成績優秀・品行方正な者のうちから選考の上，奨学金を給付します。2 年生から 4 年生までが対象となります。

ア　種　類

甲種　授業料 1 年分相当額の半額及び図書費 12 万円

乙種　授業料 1 年分相当額の半額

イ　選考方法

選考は，各学科の推薦をもとに教授会で特待生候補者を選出し，学部長会議の議を経て学長が決定します。甲種特待生は，各学年とも学科推薦の特待生候補者のうち，成績上位者 2 名をもって候補者とする。

⑵　日本大学文理学部奨学金（学生課）

第 1 種，第 2 種（外国人留学生）

文理学部 2 年次以上又は大学院文学研究科，理工学研究科（地理学専攻）及び総合基礎科学研究科に在学中の学生で，学業成績・人物が優れている者に対して，奨学金として学部学生には年額 24 万円，大学院生には年額 40 万円が選考の上，給付されます。

第 3 種

文理学部 2 年次以上に在学中の修学意志が堅固な学生で，不測の事態発生等の経済的事由により学費等の支弁が困難な学業成績・人物ともに優れている者に対して，学費相当額を限度として給付されます。

⑶　日本大学文理学部後援会奨学金・校友会奨学金（学生課）

文理学部，大学院文学研究科，理工学研究科（地理学専攻）及び総合基礎科学研究科に在学中の学生で，経済的理由により，学費等の支弁が困難な者に対して，奨学金として年額 24 万円が選考の上，給付されます。

⑷　日本大学創立 130 周年記念奨学金（学生課）

文理学部に在学中の学生で，経済的理由により学費等の支弁が困難であり，修学意志が堅固で優良な資質を持っている者に対して奨学金として年額 30 万円が選考の上，給付されます。

⑸ 日本大学創立 100 周年記念外国人留学生奨学金（学生課）

この制度は，日本大学創立 100 周年記念基金により設置したものです。

選考により，学業成績，人物が優れている大学院・学部の正規課程に在学中の外国人留学生に奨学金が給付されます。ただし，国費外国人留学生及び外国政府派遣留学生は除きます。

⑹ 日本大学校友会（奨学金付教育ローン）奨学金（学生課）

日本大学と提携しているみずほ銀行の教育ローンの融資を受ける者について，在学中の金利（利子）を日本大学校友会が奨学金として給付するものです。

② 日本大学以外の公的奨学金制度

日本大学は，「高等教育の修学支援新制度」対象機関です。本制度は，授業料・入学金の免除または減額（授業料等減免），給付型奨学金の支給の２つの支援により，大学で安心して学んでいただくものです。詳細は学生課に確認してください。

⑴ 日本学生支援機構奨学金

独立行政法人日本学生支援機構は，次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材の育成に資するとともに，国際相互理解の増進に寄与することを目的として設立され，わが国の学生支援の中核機関としての役割を担っています。

高校在学時に申請し，「採用候補者」に決定した方は，手続きの期限を文理学部ホームページで必ず確認してください。

学部学生の奨学金

ア　奨学金の種類

	第一種奨学金	第二種奨学金
利　息	無利子	有利子
貸与額	自宅通学者 月額　2万円・3万円・4万円・5万4千円から選択 自宅外通学者 月額　2万円・3万円・4万円・5万円・6万4千円から選択	月額　2万円・3万円・4万円・5万円・6万円・7万円・8万円・9万円・10万円・11万円・12万円から選択

※貸与月額は，卒業後の返還を考慮して慎重に決定してください。

世帯の所得に基づく区分		給付奨学金		高等教育の修学支援新制度（授業料等減免）	
		自宅通学	自宅外通学	入学金（1年生前期申請者のみ）	授業料（年額）
給付額	第Ⅰ区分	38,300円（42,500円）	75,800円	260,000円	700,000円
	第Ⅱ区分	25,600円（28,400円）	50,600円	173,400円	466,700円
	第Ⅲ区分	12,800円（14,200円）	25,300円	86,700円	233,400円

※（　）内の金額は生活保護世帯の方の場合となります。
※給付奨学金と第一種奨学金を同時に受ける場合，申込時に選択した貸与月額及び貸与中の月額から減額又は増額されることがあるので注意してください。

イ　申込資格（令和６年４月１日予定）

基　準	第一種奨学金	第二種奨学金
学　力	高校3年間の評定平均値3.5以上	出身学校又は在籍する学校における成績が平均水準以上と認められること 学修に意欲があり学業を確実に終了できる見込みがあると認められること
家　計（目安）	給与所得世帯　年収877万円上限 給与所得以外　年収611万円上限	給与所得世帯　年収1,313万円上限 給与所得以外　年収 940万円上限
	（4人世帯・自宅外通学者の例）	

※家計支持者が住民税非課税である者は，上記の学力基準に満たない場合でも推薦されることがあります。

併用貸与
第一種奨学金の貸与を受けることによっても，なお，その修学を維持することが困難であると認められるものは併用貸与（第一種，第二種両方を貸与すること）の申込みができます。
なお，申込資格は，第一種奨学金と同等の学力で，年収は822万円（給与所得），568万円（給与所得以外）が上限の目安となります。（4人世帯・自宅外通学者の例）

家計が急変した時は《緊急・応急採用》
家計支持者の失職・死亡等により家計状況の急変または，災害等により経済的に緊急を要する際は，日本学生支援機構に推薦できる場合があります。出願は随時できますので希望する者は，学生課窓口まで申し出てください

基　準	給付奨学金	高等教育の修学支援新制度（授業料等減免）
学　力	高校3年間の評定平均値3.5以上	給付奨学金の家計基準に準ずる
家　計 （目安）	給与所得世帯　年収461万円上限 給与所得以外　年収348万円上限	給付奨学金の家計基準に準ずる
	（本人，親①（給与所得者）親②（無収入），高校生の4人世帯の第Ⅲ区分の例）	

ウ　案内方法

日本学生支援機構奨学金及び高等教育の修学支援新制度（授業料等減免）に関する募集内容につきましては，文理学部ホームページや情報掲示板「COMITS2」を用いて行います。見逃すことのないように注意してください。

⑵　地方公共団体及び民間育英事業団体奨学金（学生課）

地方公共団体及び民間育英事業団体で，奨学金の給付又は貸与をしているところがあります。

本大学ではそのような機関から依頼があった場合，その機関の指示に従い奨学生を募集しています。詳細は情報掲示板「COMITS2」に掲載します。本大学に募集依頼がないところもあるので，奨学金を希望する者は，各都道府県市町村の教育委員会又は民間諸団体に直接問い合わせてください。

なお，この種の奨学金を受けている者は必ず学生課に届け出てください。

⑶　国の教育ローン（日本政策金融公庫）について

本学への入学者，在学者の保護者の方は，日本政策金融公庫の「国の教育ローン」を利用することができます。「国の教育ローン」は，教育に必要な資金を融資する公的な制度です。

【融 資 額】 学生 1 人当たり 350 万円以内（一定の要件に該当する場合は 450 万円以内）
【利　　率】 年 2.25％（令和 5 年 10 月 2 日時点）
【返済期間】 18 年以内（在学期間内で元金の返済を据置できます）
【使いみち】 入学金，授業料，教科書代，アパートの敷金・家賃など
【返済方法】 元利均等返済（ボーナス月増額返済が可能）
【保　　証】 （公財）教育資金融資保証基金又は連帯保証人

詳しくは，教育ローンコールセンター（TEL 0570-008656）へお問い合わせください。

保健と学生支援関係

1　保健関係

①　定期健康診断

学生定期健康診断は学校保健安全法に基づき毎年学内で実施しています。学生は全員受診してください。(学内で実施する健康診断は，費用はかかりません)。

この診断の結果，精密検査等が必要と認められた場合，必要に応じて付属病院及び各医療機関を紹介します。

②　健康診断証明書の発行

健康診断証明書は，本年度の定期健康診断を受診した学生に限り証明書自動発行機で発行します。

手数料は 1 通 100 円です。指定用紙がある場合は証明書自動発行機で発行した健康診断証明書を持参の上，保健室に申し出てください。

③　保健室の利用

看護師が常駐し，学内におけるケガや発病に対する応急手当を行っています。

［場　　所］　本館 1 階

［開室時間］　9 時 00 分～ 18 時 00 分（ただし土曜日は 9 時 00 分～ 13 時 00 分）

＊夏季休業等により開室時間が変更となることもありますので，保健室に問い合わせてください。

④　学生の傷害及び死亡事故等に関する給付金

本大学には在籍する学生の正課・課外教育中又は課外活動中などに発生した傷害及び死亡事故等に対する給付金制度があります。この制度に該当する事故が発生した場合は，速やかに指導教職員又はサークル顧問に報告し，事故から一週間以内に学生課に申し出てください。ただし，事故発生原因が故意又は重大な過失による場合，法令あるいは本大学の学則・諸規程などに違反した行為の場合は，給付を受けることができません。

⑤　日本大学校友会準会員診療費助成制度

日本大学校友会制度で，準会員（学生）が指定病院（日本大学病院，医学部附属板橋病院，歯学部付属歯科病院，松戸歯学部付属病院，三島中央病院，郡山 寿泉堂総合病院，郡山 星総合病院，共立習志野台病院，千葉県済生会習志野病院，板倉病院，藤沢湘南台病院）で診療を受けた場合，健康保険を適用した保険診療一部負担金（調剤薬局分及び入院食事療養費を除く）のうち，健康保険法高額療養費制度一般所得者自己負担限度額までを校友会が負担します。自費診療分や健康診断費用は助成しません。

なお，受診紹介状が必要となりますので，事前に保健室で作成してもらい，病院受付に提出してください。

診療を受けた準会員の学生は，「準会員診療費助成申請書」（学生課備付け）に領収書（原本）を添付して学生課に提出してください。

⑥　医療機関

⑴　日本大学の付属病院及び日本大学校友会指定病院

病　院　名	〒	所　　在　　地	TEL
日本大学病院	101-8309	千代田区神田駿河台1-6 JR御茶ノ水駅下車徒歩3分	03-3293-1711
日本大学医学部附属板橋病院	173-8610	板橋区大谷口上町30-1 JR池袋駅下車バス日大病院行25分 東武東上線大山駅下車徒歩10分	03-3972-8111
日本大学歯学部付属歯科病院	101-8310	千代田区神田駿河台1-8-13 JR御茶ノ水駅下車徒歩2分	03-3219-8080
日本大学松戸歯学部付属病院	271-8587	松戸市栄町西2-870-1 JR松戸駅下車バス日大歯科病院行15分	047-360-7111

病　院　名	〒	所　　在　　地	TEL
三島中央病院	411-0848	三島市緑町1-3 伊豆箱根鉄道三島広小路駅徒歩2分	055-971-4133
郡山　寿泉堂綜合病院	963-8585	福島県郡山市駅前1-1-17 JR東北新幹線・東北本線　郡山駅より徒歩5分	024-932-6363
郡山　星総合病院	963-8501	福島県郡山市向河原町159-1 JR東北新幹線・東北本線　郡山駅より徒歩12分	024-983-5511
共立習志野台病院	274-0063	千葉県船橋市習志野台4-13-16 新京成線北習志野駅より徒歩6分	047-466-3018
千葉県済生会習志野病院	275-8580	千葉県習志野市泉町1-1-1 JR津田沼駅から京成バス済生会習志野病院行15分	047-473-1281
板倉病院	273-0005	千葉県船橋市本町2-10-1 京成本線京成船橋駅より徒歩5分	047-431-2662
藤沢湘南台病院	252-0802	神奈川県藤沢市高倉2345 小田急江ノ島線長後駅より徒歩8分	0466-44-1451

⑵　学部周辺の医療機関

吉川内科医院	世田谷区松原 3-28-8	TEL 03-3323-0661
桜上水医院（内科・眼科）	世田谷区桜上水 5-13-9	TEL 03-5374-6788
神馬クリニック（内科・外科・整形外科・皮膚科）	杉並区下高井戸 1-1-6	TEL 03-5355-1500
斎藤クリニック（耳鼻科・気管食道科）	世田谷区桜上水 5-20-11	TEL 03-3306-1133

このほかにも医療機関を紹介しています。利用したいときは，保健室に相談してください。

2　学生支援室

学生支援室は，学生の皆さんが充実した，意義のある学生生活が送れるように支援するところです。窓口にはコーディネーターが常駐していて，いつでも来室可能です。また，専門のカウンセラー（臨床心理士）が，皆さんが抱えている様々な問題について，共に考え，支援します。

相談内容としては，学業に関すること（履修方法，転科，休・退学など），学生生活の事（課外活動，アルバイト，下宿，諸手続きなど），進路のこと（将来の方針，就職，教員免許状，資格など），心理的なこと（性格，能力，適性，対人関係，異性，家庭など），あるいは精神的なこと (人生観，メンタルヘルス上の心配) など，どんな相談にも応じています。利用したいときは，気軽に来室ください。相談内容についての個人の秘密は固く守られます。

●学生支援室窓口　　※予約不要

〔時　　間〕 月～金　　9 時 00 分～ 17 時 00 分
　　土（隔週）9 時 00 分～ 13 時 00 分

〔電　　話〕 03-6379-9107（直通電話）

●学生支援室（カウンセリング）　　※予約制

〔受付時間〕 月～金　　10 時 30 分～ 15 時 30 分
　　土　　9 時 30 分～ 12 時 10 分
　　（カウンセリングは 1 回 50 分間です）

〔電　　話〕 03-5317-9290（直通電話）

〔予約方法〕 電話・・・カウンセリング又は，学生支援室窓口に電話予約
　　予約フォーム・・・文理学部ホームページより，MENU →学生生活・キャリア→保健室・学生支援室・障がい学生支援→学生支援室→臨床心理士によるカウンセリング予約フォーム
　　来室・・・学生支援室窓口に来室して予約

●日本大学学生支援センター

文理学部支援室の他に「日本大学学生支援センター」でも相談やカウンセラー（臨床心理士）によるカウンセリングを受けることができます。（利用の場合は二次元コードからアクセスし，案内に従ってください。）

留学関係

派遣交換留学・認定留学・短期海外語学研修（サマースクール，スプリングスクール）

本大学では，海外の大学等と学術交流等に関する協定を締結し，教員の交換，共同研究の計画実行，留学生の交換，学生の短期研修，学術文化の交流，資料の交換等を行っています。海外留学制度には①派遣交換留学，②認定留学，そして③短期海外研修があります。これらの制度による海外留学，あるいはその他の海外の大学に留学を希望する場合は，教務課又はグローバル教育研究センターへ相談してください。

1　派遣交換留学

文理学部又は日本大学協定校への留学です。外国語による面接等の選考を経て派遣留学生に選ばれると，留学先の授業料が免除（一部文理学部負担）されるほか，留学期間中の本学の授業料も留学在籍料（学年：12 万円，学期：6 万円）のみの徴収となります。また，留学先で修得した単位は講義内容・時間数などを勘案の上，日本大学の単位として認定することができます。

なお，英語圏の大学への留学については，TOEFL・IELTS 等のスコア（募集要項で確認のこと）が必要となりますので，希望者はあらかじめ準備しておくことが望ましいです。

2　認定留学

「認定留学」とは，派遣交換留学によらず，学生個人が学位授与権を有する大学（高等教育機関）又はその付属語学学校に出願し，入学許可を取得した上で，本学部へ認定留学を申請し，教育上有益であると認められた場合に派遣交換留学に準じた留学として取り扱う制度です（留学期間は，修業年数に算入します）。

申請手続き，留学期間，学費，単位認定等は，募集要項を参照してください。

なお，留学が 4 年次にかかる場合や，教職コースを履修している学生は，事前に教務課又は教職センターへ御相談ください（卒業の時期が延期になる場合や，教員免許状取得ができなくなる可能性もあります）。

3　短期海外語学研修

文理学部又は日本大学協定校への短期海外語学研修制度（サマースクール，スプリングスクール）です。ケント大学（イギリス），国立台湾師範大学（台湾），国際コミュニケーションインスティテュート（ドイツ）といった文理学部協定校等への短期海外語学研修制度，そして，ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ（イギリス），ニューカッスル大学（オーストラリア）といった日本大学提携校への短期海外語学研修制度があります。詳細については 198 ページを参照してください。

留学中の学費について

「学費の取扱いに関する要項」に基づき，派遣交換留学や認定留学等の留学を許可された場合は，留学期間中の授業料その他所定の学費を徴収せず，留学在籍料（学年：12 万円，学期：6 万円）のみ徴収となります。

① 学年の留学をする者は，当該年度の前学期分及び後学期分を免除する。

② 前学期の留学をする者は，当該年度の前学期分を免除する。

③ 後学期の留学をする者は，当該年度の後学期分を免除する。

学費納入後に留学を許可された者の上記に該当する超過分については，返還されます。ただし，上記の減額措置を受けた者が，留学期間中に退学等により学籍を失った場合は，納入された留学在籍料は返還されません。

〈文理学部派遣交換留学制度による留学先等一覧〉（文理学部海外協定校）

	学校名・所在	留学期間	募集定員	募集時期	選考方法・申込条件等	留学への補助
英語圏	ケント大学（イギリス）	4月～（1年間） ※3年次のみ	2	前年度7～9月ごろ	①筆記試験（英語） ②面接（英語・日本語） ＊IELTS等のスコア条件有り	①ケント大学授業料学部負担 ②文理学部授業料免除
	香港教育大学（中国）	9月～（1年間）	1	前年度7～9月ごろ	①筆記試験（英語） ②面接（英語・日本語） ＊TOEFLのスコア条件有り	①香港教育大学授業料免除 ②文理学部授業料免除
中国語圏	北京大学（中国）	9月～（1年間）	1	前年度7～9月ごろ	①筆記試験（中国語） ②面接（中国語・日本語） ＊本学部で2年間以上中国語を学んだ者	①北京大学授業料等学部負担 ②文理学部授業料免除
	華東師範大学（中国）	長期9月～（6か月又は1年間） 短期（6か月未満） ※短期は大学院生のみ	長期・短期合計2名	前年度7～9月ごろ	①筆記試験（中国語又は英語） ②面接（中国語又は英語・日本語） ＊授業に参加できる程度の中国語又は英語能力を有する者	①華東師範大学授業料免除 ②文理学部授業料免除
	北京聯合大学応用文理学院（中国）	長期9月～（6か月又は1年間） 短期（6か月未満） ※短期は大学院生のみ	長期・短期合計2名	前年度7～9月ごろ	①筆記試験 ②面接（中国語・日本語）	①北京聯合大学応用文理学院授業料免除 ②文理学部授業料免除
	国立台湾師範大学文学院（台湾）	2月～（6か月又は1年間） 9月～（6か月又は1年間）	2	前年度7～9月ごろ	①筆記試験 ②面接（中国語・日本語）	①国立台湾師範大学授業料免除 ②文理学部授業料免除

上記の表は令和6年度の実施予定です。毎年見直しがありますので，詳細は募集要項で確認ください。
※状況に応じて募集・派遣を中止する場合があります。

〈日本大学派遣留学制度による留学先等一覧〉（日本大学海外協定校）

学　校　名	所　在	留学期間	備　考
ワシントン州立大学	アメリカ	8月～（1年間）	英語圏
エリザベスタウン・カレッジ			
ウェスタンミシガン大学			
アラバマ大学バーミングハム			
ケント州立大学			
ウエスト・アラバマ大学			
モンタナ州立大学ビリングス校		9月～（1年間）	
トロント大学	カナダ	9月～（1年間）	
香港教育大学	中　国	9月～（1年間）	
ニューカッスル大学	オーストラリア	2月～（1年間）	
メイヌース大学	アイルランド	9月～（1年間）	
クレムス応用科学大学	オーストリア	9月～（1年間）	
北西スイス応用科学・芸術大学	スイス	9月～（1年間）	
ストックホルム大学	スウェーデン	8月～（1年間）	
LUT大学（旧称：ラッペンランタ大学）	フィンランド	8月～（1年間）	
ヨハネス・グーテンベルク大学	ドイツ	10月～（1年間）	ドイツ語圏
自由ベルリン大学			
アヴィニョン大学	フランス	9月～（1年間）	フランス語圏
国立台湾大学	台　湾	8月～（1年間）	中国語圏
国立中興大学		9月～（1年間）	

学　校　名	所　在	留学期間	備　考
慶熙大学校	韓　国	8月～（1年間）	韓国語圏
延世大学校			
高麗大学校			

上記の表は令和6年度の実施予定です。毎年見直しがありますので，詳細は募集要項で確認してください。
※状況に応じて募集・派遣を中止する場合があります。

〈日本大学文理学部短期海外語学研修〉（文理学部海外協定校）

研　修　先	研修期間	募集定員	対象学年	備　考
英語（イギリス：ケント大学）	8月（24日間）	40名	2～4年	応募者が募集人数を超えた場合に，選考試験を実施。
中国語（台湾：国立台湾師範大学）	8月（21日間）	40名	2～4年	
ドイツ語（ドイツ：国際コミュニケーション インスティテュート）	8月～9月（30日間）	25名	2～4年	

上記の表は令和6年度の実施予定です。毎年見直しがありますので，詳細は募集要項で確認してください。
※状況に応じて募集・派遣を中止する場合があります。

〈日本大学短期海外語学研修〉（サマースクール・スプリングスクール）

研　修　先	研修期間	募集定員	募集時期	選考方法
ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ（イギリス）	8月～9月（24日間）	50名	12月頃	①書類審査 ②面接（日本語及び英語）
ニューカッスル大学（オーストラリア）	2月～3月（25日間）	15名	9月頃	①書類審査 ②面接（日本語）

上記の表は令和6年度の実施予定です。毎年見直しがありますので，詳細は募集要項で確認してください。
※状況に応じて募集・派遣を中止する場合があります。

就職・キャリア関係

皆さんは，文理学部への入学を決めた時から，自分の将来について何かしら考えてきたことと思います。その将来の夢をどのようにして実現するかは，皆さん自身で決めなければなりません。

長い人生には，進学・就職・結婚・退職等の大きな節目があります。これらの節目はゴールではなく，常に新しいスタートです。皆さんに身近な「就職」は，自身の夢を実現し，豊かな人生を送るための重要なスタートラインです。

皆さんが大学でどのようなことを学んで将来につなげるかは皆さん自身で決めていくことになります。社会では「自らを発見し，自ら解決方法を考え，解決するために行動できる人材」を求めています。そのためには，早い時期から将来を考え，自身が何をやりたいのか，何ができるのかを意識することが大事です。また，それを実現するためには何をするべきか考え，新聞などにも目を通し，社会情勢・経済状況にも目を向け，学業だけでなく，サークル活動など学生時代でしかできないことを経験することで充実した学生生活となります。これをキャリアデザインといい，入学から卒業に向けてスムーズに進路選択を描き，進路や職業を選択するための支援を行っているのが就職サポートセンター（就職指導課）です。

就職サポートセンター（就職指導課）では，就職委員会と一体となり，低学年を対象とした「キャリアガイダンス」や「就職ガイダンス」，自己分析や業界・企業研究，面接対策などの実践的な「就職支援講座」，「公務員試験対策講座」，資格取得のための「秘書技能検定講座」などを実施しています。

1　社会に出るための心構え

●大学での４年間は学業に励み，よい成績を修めるようにしてください。

３年終了時に定められた単位（数）を修得しておかないと，就職活動に必要な卒業見込証明書が発行されませんので注意してください。（184 ページ，「7　卒業見込証明書の発行条件」を参照）。

●社会人になるためには，学生生活において，「どのような目的を持ってそれに対してどのように考え行動したのか」が重要です。サークル活動以外にもインターンシップなど様々な実体験を通して社会観・価値観等も養い，人間性を豊かにするよう心掛けてください。また，総合教育科目Ⅲ群のキャリア教育科目を履修することは働くイメージを持つことにも役立ちます。

●グローバル時代に対応できるよう，語学力を求められます。複数の外国語科目の履修や TOEIC® などの検定試験も積極的に受検しましょう。

●公務員を目指す人は，総合教育科目の中から総合Ⅰ群の法学，憲法，政治学，経済学，そして総合Ⅱ群の市民社会と法など法律関連科目を修得しておくとよいでしょう。

2　就職・進路に関する個別相談

就職・進路についての些細な疑問，就職活動に当たっての諸問題，重複内定，教員・公務員と企業との併願の問題などの悩みに対して，的確な相談やアドバイスができる体制を整えています。各学科の就職委員又は就職担当教員，就職サポートセンター職員に気軽に相談してください。

3　資料

就職サポートセンターでは以下のような資料が閲覧できます。

・企業情報

企業からの求人票が閲覧できます。また，説明会及びインターンシップなどの情報を掲示板で確認できます。これらの情報は Canvas LMS でも確認できます。

・U・I・J ターン情報

地方の就職セミナーなどの情報を掲示板で確認できます。また，地方就職に関する交通費補助制度の情報などもあります（地域や自治体によって制度の有無が異なります）。

・就職活動関連書籍

就職活動のマナー，採用選考・書類選考対策，筆記試験対策の関連書籍や，公務員採用試験の過去問題集・参考資料などを閲覧でき，貸出しも行っています。また，新聞やビジネス・経済雑誌の閲覧もできますので，情報収集に役立ててください。

・就職活動体験記など

過去の先輩たちの就職活動体験記や実際に企業・自治体に提出した履歴書・エントリーシートなどが閲覧できます。

・NU 就職ナビ（キャリタス UC）

NU 就職ナビは企業情報や求人情報の検索，各種届出ができる日本大学の学生専用の就職支援サイトです。

一度登録すれば，いつでも，どこからでもアクセス可能です。

NU 就職ナビの特徴は，皆さんが知りたい企業の名称からだけでなく，興味のある業界・職種から求人情報（約 2.8 万件）が随時閲覧できます。

パソコンや携帯メールアドレスを NU 就職ナビに登録することで求人情報を受信することもできます。さらに，企業情報（約 10 万社掲載）や本学部のセミナー情報のほかに他学部のセミナー等の開催情報もその都度，お知らせとして掲載しています。

3 年次に提出する「進路希望の登録」，4 年次に提出する「進路決定届」は，この NU 就職ナビで行うことになりますので，必ず登録してください。

なお，就職活動に必要な大学指定の履歴書は，「進路希望の登録」完了者に対して配布します。

※ NU 就職ナビ　https://uc-student.jp/nihon-u/

4　外国人留学生就職支援

就職サポートセンターでは，日本での就職についての相談をすることができます。また，外国人留学生向けの就職ガイダンスや求人情報・インターンシップ情報の提供も行っています。詳細は就職サポートセンターでご確認ください。

5　障がいのある方への就職支援

就職サポートセンターでは，障がいのある方向けの各種就職相談や，求人等の情報提供も行っています。また，東京新卒応援ハローワークとも協定を締結して支援を行っています。支援等を希望する方は，就職サポートセンターへご相談ください。

6　就職行事

民間企業への就職や公務員の受験対策として，様々な就職支援ガイダンスや講座を開講しています。

就職活動を行う上で，知っておくべき事柄や整理しておくべき課題を分かりやすくタイムリーに解説しますので，積極的に参加してください。

行事日程の詳細は，就職サポートセンターで配布している行事予定表，学内掲示，情報掲示板「COMITS2」などで確認してください。

※教員志望者対象の行事については，202 ページの教職支援関係で確認してください。

7　就職サポートセンター（就職指導課）利用案内

月曜日～金曜日　　9 時 00 分～ 18 時 00 分

土曜日　　9 時 00 分～ 13 時 00 分

※休日及び祝日（授業実施日は除く），日本大学創立記念日（10 月 4 日），年末年始は利用できません。

また，夏季・冬季休業日及び大学が指定する日は時間が変更になることがあります。

公務員試験に向けた準備

■専門試験に向けた科目履修の必要性

公務員試験では，政治学・法学・経済学などから問題が出されます。たとえば，文理学部の中で希望者が多い県庁や市役所などの地方公務員を例にとると，下表のような試験科目から出題されます。

公務員試験に出題される科目

専門試験（多岐選択式）		
行政職	心理職	福祉職
政治学 憲法 行政法 経済学 財政学 行政学 民法 国際関係 労働法 社会政策 経営学	一般心理学 （心理学史，発達心理学，社会心理学を含む） 応用心理学 （教育心理学，産業心理学，臨床心理学） 調査研究法 統計学	社会福祉概論（社会保障を含む） 社会学概論 社会心理学 一般心理学 社会調査

公務員試験の受験を希望する学生は，国家公務員に関しては人事院，地方公務員に関しては各地方自治体のホームページなどで詳細な情報を調べてください。

公務員を希望する学生は，学生生活のできるだけ早い段階で受験先官公庁を決定し，人事院や都道府県が発表する試験科目・範囲などをよく調べ，これに備えて計画的に履修することが必要です。特に近年の公務員試験は，SPI 等の Web テストで受験させるなど，試験内容が変更されることがありますので，受験を希望する学生は注意をしてください。

■コンピュータ科目と就職活動

近年ではインターネットを利用して就職情報が発信され，応募が行われます。また，仕事に直結する Word, Excel, Power Point など情報技術に加え，プログラミング的思考や情報ネットワークに関する一般的知識が求められます。近年では，情報漏えい，コンピュータウィルス，パスワード管理などの問題が起こっているので，使い方に対する正しい知識を持つことが重要です。そのため，コンピュータ科目を履修することを推奨します。

教職支援関係

在学中から卒業後まで，教員を養成することを目的に「教職支援センター」が設立（平成 25 年 11 月 1 日付）されていましたが，同支援センターの業務に教員免許状を取得するための教職課程の運営業務を加えて，教員免許状の取得から教員を養成するという教職の一元管理を目的とした組織へと改組し，名称を「教職センター」に変更しました（平成 30 年 4 月 1 日付）。

1　教職に対する心構え

① 教員免許状を取得する上で必要な単位を把握し，ガイダンスへの出席，各種手続きを必ず行いましょう。

② 自己の教員としての適性を早い段階で見極めよう。
学校ボランティアなど，教育現場に携わることで自分が教員に向いていることを確認しましょう。

③ 教員としての資質や能力を高めよう。
教員を目指す上で必要な「コミュニケーション能力」や「統率力」「忍耐力」「組織貢献力」は，大学生活の様々な場面を通して身に付けることができます。学業のほかに，学校ボランティアやサークル活動等で教員としての資質・能力を高めていきましょう。

2　教職に関する個別相談

教職についての様々な疑問や質問に，元公立学校校長の指導員が丁寧に対応します。教員採用試験に合格するためのアドバイスがいつでも受けられます。履歴書や出願書類，論作文の添削や，個人面接・集団面接・模擬授業などについて実践的な指導が受けられます。

＊「大学を卒業したら，教員になりたいけど何をしたらいいの？」
＊「将来の為に学校でボランティアをしてみたい！」
＊「教員採用試験対策の論作文を添削してほしい！」

このような教職に関しての
相談や悩みは，
教職センターで
解決しよう！！

3　教職支援行事

教職センターでは，「教員に**なる**」・「教員としての**力をつける**」ために文理学部独自の講座や研修会を開催しています。
対象学年に合わせた内容で行事を開催しているので，教員志望の方は積極的に参加してください。
行事の日程の詳細は，情報掲示板「COMITS2」で確認してください。
※教員メールサービスは 4 年生より，登録者を対象として求人配信を行っています。
登録希望者は教職センターまでお越しください。

4　教職センター利用案内

月曜日～金曜日　開室時間　9 時 00 分～ 17 時 00 分
土曜日　開室時間　9 時 00 分～ 13 時 00 分
※休日及び祝日（授業実施日は除く），年末年始は利用できません。夏季・冬季休業日及び大学が指定する日は開室時間が変更になることがあります。

各種施設

1　図書館

図書館は，大学の学習・研究にとって重要な役割を担っています。個々の研究課題をより深く追究したり，また，読書により知識・教養を深め，自己の世界を広げるためにも図書館は欠かせないものです。学生のうちに大学図書館を積極的に活用してください。

蔵書データ検索や開館案内などは，文理学部ホームページより，MENU →学生生活・キャリア→教学支援→図書館から閲覧可能です。

ホームページアドレス　https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/library/

①　蔵書（令和５年３月末日現在。学科・研究室分を含む）

当図書館には，約 889,000 冊の図書，約 8,600 種の逐次刊行物（雑誌・新聞），その他の資料（マイクロフィルム，地図，ビデオ等）約 72,000 点，合計約 960,000 冊・点の蔵書があります。

②　開館時間と休館日

<table>
<tr><td colspan="3">開館時間　9時00分～20時00分（土曜日9時00分～19時00分）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">利用・サービス時間</td><td>貸出・返却受付</td><td>9時00分～19時30分（土曜日9時00分～18時30分）</td></tr>
<tr><td>地階保存書庫A・B・C</td><td>9時00分～19時30分（土曜日9時00分～18時30分）</td></tr>
<tr><td>レファレンスサービス</td><td>9時00分～18時00分（土曜日9時00分～12時00分）</td></tr>
<tr><td colspan="2">※休暇期間中等，臨時に変更するときはその都度掲示します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">休館日</td><td colspan="2">日曜日及び祝日（授業実施日は除く）
本学の創立記念日（授業実施日は除く）
年末年始</td></tr>
<tr><td colspan="2">※臨時休館日はその都度掲示します。</td></tr>
</table>

※開館カレンダーは，図書館ホームページに掲載しています。
※開館時間等は変更となる場合がありますので図書館ホームページをご確認ください。

③　入退館手続き

入退館の際には，学生証のバーコードを入退館ゲートでかざしてください。忘れると図書館の利用が制限されますので，注意してください。

④　図書の閲覧・貸出

館内にある資料は，自由に閲覧することができます。館外貸出を希望するときは，資料を持って貸出・返却カウンターで手続きを行ってください。貸出時には学生証が必要です。

＜資料配置＞

・１階閲覧室：参考図書，実用書，文庫・新書，学術雑誌の最新号
・２階閲覧室：和洋一般学術書（受入が主に平成９年以降）
・地下保存書庫（地下１階・２階）：製本雑誌，和洋一般学術書（受入が主に平成８年以前）
・ブラウジング・コーナー（館外１階）：一般雑誌

＜貸出冊数・期間＞

	冊　数	期　間
学　部　学　生	10冊	2週間
大学院生（前期課程）	15冊	1か月
大学院生（後期課程）	20冊	3か月

ただし，参考図書（辞書・辞典など）や雑誌資料は，館外貸出はできません。

⑤　図書館の各種施設

・グループ閲覧室（館内２階）：図書館内の資料を利用しながらゼミや授業を行ったり，グループで学習することができる個室です（4 室，定員 2 ～ 12 名）。

・ラーニングルーム（館外２階）：少人数のグループで学習・自習ができる部屋です（7 室，定員 2 ～ 4 名）。

・マルチメディア・スペース：DVD や音声教材など視聴覚資料が利用できます。

※これらの施設を利用するときは，図書館のホームページで事前に予約を行ってください（パソコンや携帯端末から接続可能）。

⑥　レファレンスサービス

図書館の利用方法や資料の探し方で困ったときは，レファレンスサービスを利用してください。その他，学外から資料を取寄せたいとき，国立国会図書館デジタル資料送信サービスを利用したいとき，館内のレファレンスカウンターで相談してください。

⑦　館内での注意事項

・図書館内は，飲食禁止です。ただし，蓋のあるペットボトルや水筒については，使用を許可しています。

・携帯電話・スマートフォン等はマナーモードにするか，電源を切ってください。また，閲覧席などのコンセントでの充電行為はノート PC 等以外は禁止です。

・貴重品は必ず身に付けてください。

・学科図書室などで借りた図書を館内に持ち込む場合は，退館の際や地下書庫利用時にゲートのセンサーに反応しますので，あらかじめ申し出てください。

・ゴミは放置しないでゴミ箱に捨ててください。

・館内は静かに利用してください。

◎　図書館の詳細な案内については，「図書館利用案内」又は，図書館のホームページを参照してください。

2　文理学部における自主的学習のための設備について

文理学部では，日本大学の理念である「自主創造」に基づき，学生のみなさんによる自主的，かつ，主体的な学びを支援しています。そのために図書館や教室のほかに，4 つの設備を用意しました。それぞれ利用の目的や方法，規則に違いがありますので，それらを踏まえて，有効に活用してください。

①　本館 1 階　ラーニングコモンズとアカデミックコモンズ

・ラーニングコモンズ

自主的に学ぶ公共的な空間です。ここには予約制の PC 専用席など，様々な形態のテーブルや椅子が配置されています。個人で学ぶのか，グループで学ぶのか，その用途に応じて利用してください。ホワイトボードが用意されており，自由に利用できます。また，固定式の大型プロジェクターや貸出用の小型プロジェクターを用意してあります。機器の使用についてはサポートデスクで申請をしてから利用してください。

・アカデミックコモンズ

学生のみなさんと教職員が談話したり，議論したりする空間です。ラーニングコモンズと同じくホワイトボードを自由に利用できます。ただし，学生のみでの利用はできません。

曜日や時間帯によっては学部内の各部署によるイベントが行われ，大学院生による学習アドバイザー（「LA」（ラーニングアシスタント））が勤務しています。詳細は，サポートデスクで確認の上，利用してください。

カフェが併設されており，少しの飲食ならば可能です。ただし，みんなで利用する空間ですので他の利用者に迷惑のかからないように利用してください。退席する際は，整理整頓，清掃を忘れないようにしてください。

② 図書館棟　インフォメーション・スクウェアとラーニング・スクウェア

図書館棟の１階にはインフォメーション・スクウェア，２階にはラーニング・スクウェアがあります。

・インフォメーション・スクウェア

約 170 台のコンピュータが設置された自習ができる施設です。サポートデスクの前のコーナーで申し込みを行ってから利用します。利用方法等については次頁を参照してください。

・ラーニング・スクウェア

自習室スペースとして130席及び２～４名のグループで利用できるラーニングルーム７室があります。ラーニングルームについては図書館ホームページでWeb予約して利用してください。ラーニング・スクウェアの利用時間は月～土８時00分～ 22 時 00 分（通常時）となっています。

＊なお，これらの場所で飲食することはできません。

③ ３号館　ラーニングホール

３号館１階北側エントランスには，ラーニングホールがあります。

壁で仕切られたホールは，周囲の壁がホワイトボードの役割を果たしています。自由に利用してかまいませんが，利用後の整理整頓，清掃をきちんと行い，公共の場であることを忘れないようにしましょう。このラーニングホールは飲食可能です。

④ ７号館　ラーニングホール

７号館エントランスにもラーニングホールがあります。

こちらも学生のみなさんが自由に談笑し，議論することのできるロビーの役割と，学習できる机椅子を用意していますので，自由に利用してください。飲食可能です。

3　文理学部のコンピュータ施設

① 学生用コンピュータシステムについて

文理学部共通の教育用コンピュータシステムは次のとおりです。

建物名	教室名等	設置台数	備考
図書館棟	メディア・ラボ1	30台	アクティブ・ラーニング対応教室
	メディア・ラボ2	50台	
	メディア・ラボ3	50台	
	メディア・ラボ4	50台	
	メディア・ラボ5	48台	
	メディア・ラボ6	48台	
	インフォメーション・スクウェア	174台	自習で利用可
3号館	3207	48台	
	3208	48台	
	3209	154台	
キャンパスモバイルシステム（CMS）		Wi-Fiを利用して，文理学部LANに接続するもので，上記コンピュータ室とほぼ同等なネットワーク環境が利用できます。詳細は文理学部ホームページより，MENU→学生生活・キャリア→教学支援→コンピュータセンターから確認してください。	

②　アカウントとメールアドレスについて

教育用システムのコンピュータやCHIPS（Web履修システム），情報掲示板「COMITS2」にログインするためにはアカウントが必要です。アカウントとメールアドレスは1年次のクラス別ガイダンスで配布しますので，必ず受け取ってください。

取得したアカウントとメールアドレスは卒業するまで有効です。

③　インフォメーション・スクウェアの利用について

・利用優先順位

① 授業の予習，復習，課題作成と履修登録の確認・修正

② 就職活動

③ 自己学習，サークル活動

混雑時には，優先順位に従い，利用を制限することがあります。またP2P（ファイル共有ソフト）やネットワークゲームなどの利用は禁止します。

・開室時間

開室時間	平日（月～金）9時00分～19時30分，土曜日9時00分～13時50分 ※春季，夏季，冬季休業期間等，時間が変更となる場合は文理学部ホームページ等で掲示します。
閉室日	日曜日及び祝日（授業実施日は除く） 本学創立記念日（10月4日）※学年暦により変更あり 年末年始 ※その他，メンテナンス等で臨時に閉室する場合は，文理学部ホームページ等で掲示します。

④　各学科のコンピュータシステムについて

各学科によって管理されているコンピュータシステムについては，所属学科事務室に問い合わせてください。

⑤　問い合わせ先

文理学部共通のコンピュータシステムについては，コンピュータセンター（図書館棟3階〈chs.center-info@nihon-u.ac.jp〉）に問い合わせてください。詳細は，コンピュータセンターのホームページ（https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/computer-center/）を参照してください。インフォメーション・スクウェアの利用についても，コンピュータセンターのホームページから確認できます。

4　グローバル教育研究センター（GREC）

グローバル教育研究センター（GREC：Global Research and Education Center）では，文理学部への留学生，文理学部生の外国語学習や海外留学などを様々な形でサポート，支援しています。留学生へのサポートとして，履修相談，日本語学習，学生生活等について，教職員や学生サポーターがケアします。また，外国語学習のサポートとして，オフィスアワーを持つ専任教員やGRECアドバイザーが，外国語学習や海外留学に関する質問や相談にも随時対応しています。このほか，国際日本学，アカデミック・ライティング及び日本語教育関連科目で構成される国際教養科目も運営しています。

＜開 室 時 間＞　月曜日～金曜日　9時00分～17時00分
　　土曜日　　9時00分～13時00分
　　※休日，大学休業日及び長期休暇期間中の土曜日は閉室
　　※夏季休暇期間等により開室時間等を変更することがあります。

＜場　　所＞　3号館2階
　　開室時間中は，自習スペースとして自由に利用できます。パソコン，外国語関連図書，語学検定参考書，雑誌，辞書や視聴覚資料などがあります。

利用項目	利　用　案　内	
留学生 サポーター	内容	文理学部生，大学院生による「留学生サポーター」が留学生の生活・学修全般をサポートします。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2を確認し，センターへ来室してください。 ・Canvas LMS「留学生サポート室」より質問事項等を相談することもできます。
GREC アドバイザー	内容	・文理学部生，大学院生による「GRECアドバイザー」が，語学学習や留学に関する相談に乗ります。 ・英語分野，中国語分野，ドイツ語分野の3分野でそれぞれ相談が可能です。 ・予約不要。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2に掲載されている「GRECアドバイザー在室時間表」を確認し，希望する分野のアドバイザーの担当時間帯にセンターへ来室してください。
オフィスアワー	内容	・専任教員による外国語学習や，外国語科目の履修相談，海外留学に関する相談，質問に対する個別アドバイスを行っています。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2に掲載されている「オフィスアワー」を確認し，直接来室してください。予約不要です。
英会話サロン	内容	・ネイティブ教員と設定されたトピックについて英会話をする場です。 ・昼休み12時20分～12時50分。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2で開催日を確認し，センターへ来室してください。 ・予約不要。（※予約が必要な“プライベートチャット”もあります）
Eラウンジ	内容	・文理学部留学生がチャットリーダーとなり，学生同士で英会話を楽しむ場です。 ・昼休み12時20分～12時50分。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2で開催日を確認し，センターへ来室してください。 ・予約不要，参加自由です。
Cラウンジ	内容	・文理学部留学生がチャットリーダーとなり，学生同士で中国語会話を楽しむ場です。 ・昼休み12時20分～12時50分。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2で開催日を確認し，センターへ来室してください。 ・予約不要，参加自由です。
Kラウンジ	内容	・文理学部留学生がチャットリーダーとなり，学生同士で韓国語会話を楽しむ場です。 ・昼休み12時20分～12時50分。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2で開催日を確認し，センターへ来室してください。 ・予約不要，参加自由です。
英語多読の会	内容	・Web上のライブラリーであるXreadingを利用した英語の読解と議論を行う会です。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2で開催日を確認し，センターへ来室してください。 ・予約不要，参加自由です。
中検過去問 WEB学習	内容	・PCを利用した中国語学習システムです。 ・中国語検定試験準4級～1級の過去問題を学習することができます。
	利用 方法	・センター内に設置されたPCで，自由に利用が可能です。 ・利用したい場合は，受付に申し出てください。
日本語／英語 文章チューター	内容	日本語または英語による学術的文章の作成（アカデミック・ライティング）に関するアドバイスを行います。
	利用 方法	・掲示板や文理学部ホームページ，COMITS2に掲載されている「AW 文章チューター在室時間表」を確認し，事前に希望する言語のチューターの担当時間帯を予約してください。
各種説明会	・TOEIC®，TOEFL®などの英語検定試験の概要や，留学，外国語学習に関わる各種説明会を適時開催しています。	

5　体育施設

体育施設は主に正課体育授業で使用していますが，空いている場合は定められた手続により課外活動等に利用することができます。施設としては，総合体育館〔アリーナ・プール・柔道場・剣道場・トレーニング場・ランニングバルコニー・更衣室〕，サクラスポーツ＆ジムナスティックスセンター（SSGC）〔体操場・ダンスルーム・多目的ルーム・更衣室〕，陸上競技場，アメリカンフットボール競技場，テニスコート，ゴルフ練習場，ミニグラウンドがあります。

体育施設の使用方法は，次のとおりです。

	施　設　名	利　用　案　内	申込窓口
体育施設	**総合体育館** アリーナ プール 柔道場 剣道場 トレーニング場 ランニングバルコニー 更衣室（シャワー室）	一部の施設（体操場，陸上競技場，アメリカンフットボール競技場）を除き正課授業で使用していないときには学生（課外活動等）に開放しています。希望者は，右記窓口にお申込みください。 利用時間　平　日9時00分～18時50分 土曜日9時00分～16時50分	体育課
	サクラスポーツ&ジムナスティックスセンター（SSGC） 体操場 ダンスルーム 多目的ルーム 更衣室（シャワー室）		
	陸上競技場		
	アメリカンフットボール競技場		
	テニスコート		
	ゴルフ練習場		
	ミニグラウンド		

6　文理学部資料館

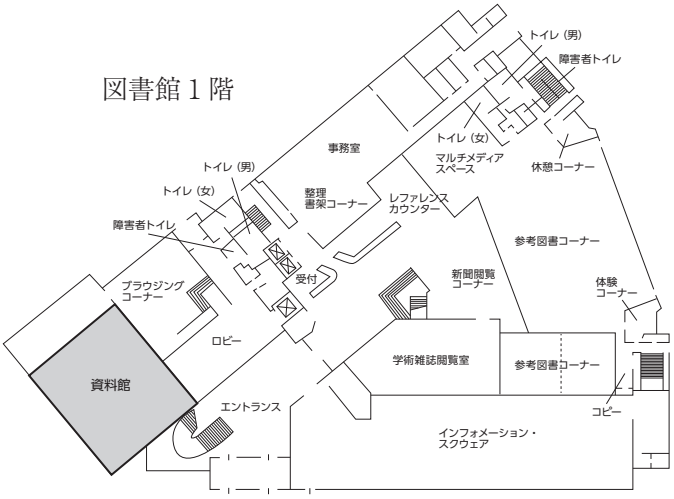
文理学部は 120 年の歴史があり，この間に研究，教育のための資料として，文学，歴史学，考古学，地理学，自然科学に関する膨大な資料の収集をはじめ，その保管，展示及び調査・研究を行ってまいりました。

文理学部資料館は，このような多年にわたって収集された資料を学生，教職員及び一般の利用に供することを目的として設立された施設で，平成 19 年 3 月 29 日付で，東京都教育委員会から博物館相当施設の指定を受けました（『東京都公報』第 13915 号，東京都教育委員会告示第 30 号）。

■開館時間　平日　10 時 00 分～ 17 時 00 分，土曜日　10 時 00 分～ 13 時 00 分

■休 館 日　日曜日，祝祭日，大学の定める休日，館内整理日，夏季・冬季・春季休暇中

■観 覧 料　無　料



7　厚生施設（詳細については，「日本大学厚生施設案内」参照）

本大学には，自然環境に恵まれた研修所とセミナーハウスがあり，ゼミナールやサークルの合宿に利用されています。これらの施設を使用する場合は，内規や使用者心得を守って使用してください。

なお，多くの学生が利用できるように宿泊は３泊４日を限度としています。

本部管理の厚生施設

施　設　名	所　　在　　地	料金（学生）	収容定員	設備・備品等
（本部） 軽井沢研修所	長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢1052-1 TEL 0267-42-2401	1泊2食付 4,200円	256名	ソフトボール場2面， テニスコート4面，講義室など

注）料金は学生使用料金です。

厚生施設使用手続

厚生施設の使用を希望する者は次の要領で手続きをしてください。

1 予約について

予約は，使用月の１か月前の月初めから学生課で受け付けますので，使用者（引率教職員を含む）の男・女別人数，宿泊日数等を明確にして申し込んでください。

2 使用手続きについて

予約後，学生課で所定の書類を受け取り手続きをしてください。

なお，使用料金の支払い方法等詳細については，学生課に問い合わせてください。また，手続き完了後の期間，人数の変更及び返金はできませんので注意してください。

他学部管理の厚生施設

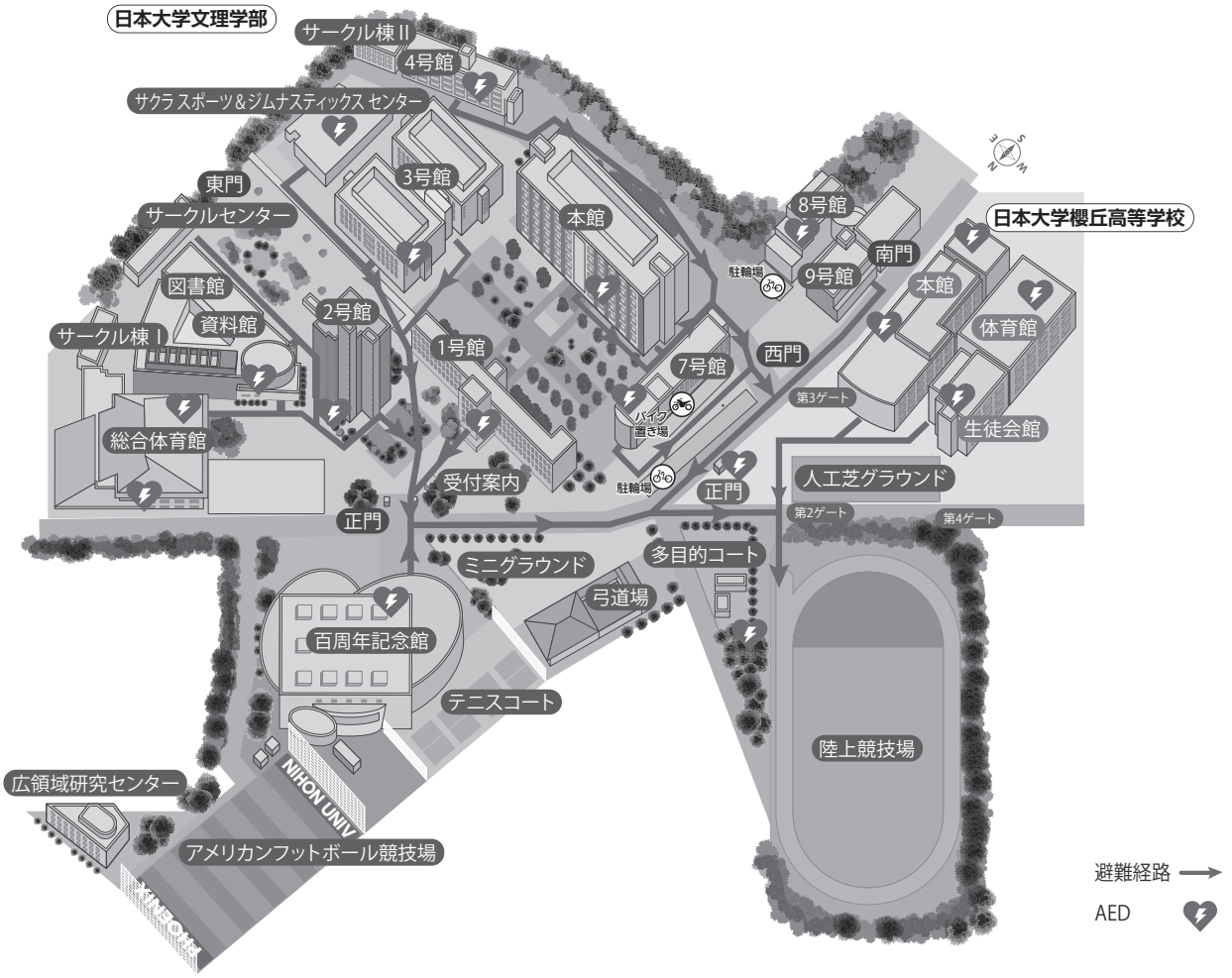
他学部管理厚生施設の使用を希望する者は，文理学部学生課へ申し出てください。

施　設　名	所　　在　　地	料金（学生）	収容定員	設備・備品等
（理工学部） 八海山セミナーハウス	新潟県南魚沼市山口1666 TEL 025-775-3701	1泊2食付 3,500円	98名	天体観測室，談話室3室， 研修室4室，リソースセンター

注1）費用については，令和3年4月現在のものであり，学生使用料金です。
　　なお，施設により冬季暖房費が徴収されます。
注2）収容定員については，学生定員です。

避難場所は陸上競技場

本学部の避難場所とそれぞれの建物からの避難経路は，下図のとおりです。
避難の際は，教職員の指示に従って，落ち着いて避難してください。



AED設置場所

◎本館1Fエレベーターホール・保健室 ◎1号館1F入口左 ◎2号館1F館内案内図横 ◎3号館1Fエスカレーター横
◎4号館1F正面階段横 ◎7号館1Fホール内 ◎8号館1F入口右 ◎図書館1Fエレベーター横
◎総合体育館1F研究室前(8月・9月の野外実習期間中一時使用不可)
◎総合体育館プール(プール事務室内) ◎百周年記念館1F管理室前
◎サクラスポーツ&ジムナスティックスセンター

災害ボランティア

東日本大震災では，多くのボランティア活動が復興の原動力となるとともに，被災者の助けとなりました。本学部でも災害時にボランティアを受け入れます。大学内部に救護所などが設けられた場合には，学生・教職員は進んでボランティア活動に参加しましょう。なお，災害の種類に応じてボランティア活動の内容は異なります。身の安全を守りながら，現地のリーダーにしたがって行動しましょう。



その時,実験室にいたら

実験室では，化学薬品の混合などによって火災が発生する場合があります。揺れがおさまった後，火が小さいうちに備え付けの消火器で消火します。水を使うと火が周囲に広がることがあるので注意してください。実験室には，平日・休日，また時間を問わず大勢の人がいることが多いものです。避難の際はお互いにそれぞれの存在を確認し合い，全員で安全に避難するよう心がけてください。



教室・研究室・図書館などでは,

むやみに外に飛び出さないようにし，揺れがおさまったら，近くにいる教職員の指示に従って安全な場所に避難します。

こんな時はここに

	項　目	参照ページ	所管課等	場　所　※
1	学生証を紛失した	182ページ	学生課	本館1階
2	学生証裏面学籍シールを交換したい	182ページ	学生課	
3	学籍簿・学生証の記載を変更したい	183ページ	教務課	
4	休学・復学・退学	183ページ	教務課	
5	証明書が欲しい	184ページ	証明書自動発行機	
	・通学証明書の場合	184ページ	学生課	
	・健康診断証明書の場合	184ページ，194ページ	証明書自動発行機	
6	学割証が欲しい	186ページ	証明書自動発行機	
7	落とし物をした（拾った）	186ページ	学生課	
8	授業料の納入について相談したい	191ページ	会計課	
9	奨学金のことで相談したい	191ページ～193ページ	学生課	
10	体の調子が悪い	194ページ	保健室	
11	カウンセラーに相談したい	195ページ	学生支援室	
12	就職のことで相談したい	199ページ～201ページ	就職サポートセンター（就職指導課） 各学科就職委員 又は就職担当教員	1号館1階 各学科事務室

※・本館，1号館等の位置は本書巻末CAMPUS MAPを参照。
　・証明書自動発行機は本館1階に3台あります。

●学部要覧　【非売品】

令和６年３月13日　印　刷
令和６年４月１日　発　行
発行者　日本大学文理学部
代表者　岡　　隆
印刷者　正文社印刷株式会社
代表者　川　端　淳　子
発行所　日本大学文理学部
東京都世田谷区桜上水 3-25-40
ホームページアドレス https://chs.nihon-u.ac.jp

CAMPUS MAP


日本大学文理学部
サークル棟Ⅱ
4号館
サクラスポーツ＆ジムナスティックス センター
東門
サークルセンター
3号館
本館
図書館
資料館
2号館
サークル棟Ⅰ
1号館
7号館
総合体育館
受付案内
バイク置き場
駐輪場
正門
西門
8号館
9号館
南門
駐輪場
日本大学櫻丘高等学校
本館
体育館
第3ゲート
生徒会館
人工芝グラウンド
正門
第2ゲート
第4ゲート
ミニグラウンド
多目的コート
弓道場
百周年記念館
テニスコート
陸上競技場
広領域研究センター
NIHON UNIV
アメリカンフットボール競技場
AED

